

ISSN 1340-461X

附属天王寺中・高

# 研究集録

第58集 (平成27年度)

*Bulletin of the  
Tennoji Junior & Senior High School  
Attached to Osaka Kyoiku University  
No.58  
(March, 2016)*

大阪教育大学附属天王寺中学校  
大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

## 研究集録 執筆規定

### 1. 本誌は、研究集録という。

本誌の英語名は、Bulletin of the Tennoji Junior & Senior High School Attached to Osaka Kyoiku Universityとする。

### 2. 本誌の執筆資格者は、附属天王寺中学校、および附属高等学校天王寺校舎の現役教員を原則とする。

### 3. 本誌は年刊とする。発行は毎年3月とし、執筆者には別刷を提供する。

### 4. 本誌の原稿締切は毎年1月中旬とする。

### 5. 本誌の原稿は、40字×40行詰めとし、横書きのみとする。

英文論文の場合は、70字～80字×40行とする。第一頁は16行目から本文を書き始める。論文は25頁以内とする。

和文表題・執筆者→抄録→キーワードの順に書き、その後本文をはじめる。

和文論文の場合は、最終頁の次頁に、英文表題・執筆者・英文要約（さらにキーワードを付加してもよい）をつけることを原則とする（英文論文の場合は、和文表題・執筆者・和文要旨をつける）。

### 6. 本誌の内容は、巻頭言・目次・論文・教科個人研究テーマ一覧・教育研究会概要により構成される。

## 理論と実践を架橋する教育研究

大阪教育大学附属天王寺中学校、同附属高等学校天王寺校舎の教員の、日頃の研究成果を所収した附属天王寺中・高「研究集録」第58集を発刊させていただく運びとなりました。本校の教育・研究に温かくも厳しくご指導、ご支援を頂いている関係各位に、先ずもって、心よりお礼申し上げます。

さて、大阪教育大学は、第3期中期計画・中期目標の円滑な遂行に向けて、第2期中期計画・中期目標の総まとめの段階にさしかかっています。国立大学、とりわけ、教員養成大学や教育学部においては、内・外の激しい環境変化に如何に適応していくかが、厳しく問われる社会状況となっています。大阪教育大学附属校園を取り巻く環境変化も同様に厳しいものと認識しています。今年度の国立大学附属校園長会議においても、国立大学附属校園が、その独自性や特色を如何に打ち出していくかが、これまで以上に重要性を増してくるという認識で一致するところとなっています。

厳しさを増す外部環境に対して、私たち附属天王寺の教員は、先達諸氏が切り拓いてこられた教育・研究に学び、それをよりよく継承し深めていくことが、本校の独自性、特色を打ち出すことの礎であると考えています。本校の教員もそのような思いをもって、本研究収録に研究のあゆみを寄稿したものと確信しています。教育の実践のフィールドを有する私たちは、教育現場と密接不可分な実践的な研究を蓄積することができるという、教育・研究者としての優位性を有しています。そのような優位性を最大限に生かし、教育に関する理論と実践を橋渡しする研究を継続することによって、教育の内実をより確かなものとして深化させていくことができるものと考えています。

明日の授業改善に役立てることができる研究も、もちろん有意味ですが、国内の教員養成基幹大学である大阪教育大学、および、その附属校としては、将来的に目指す方向性を指示す研究や、各教科内容を深く掘り下げた発展的な研究が大切になってくるものと考えます。

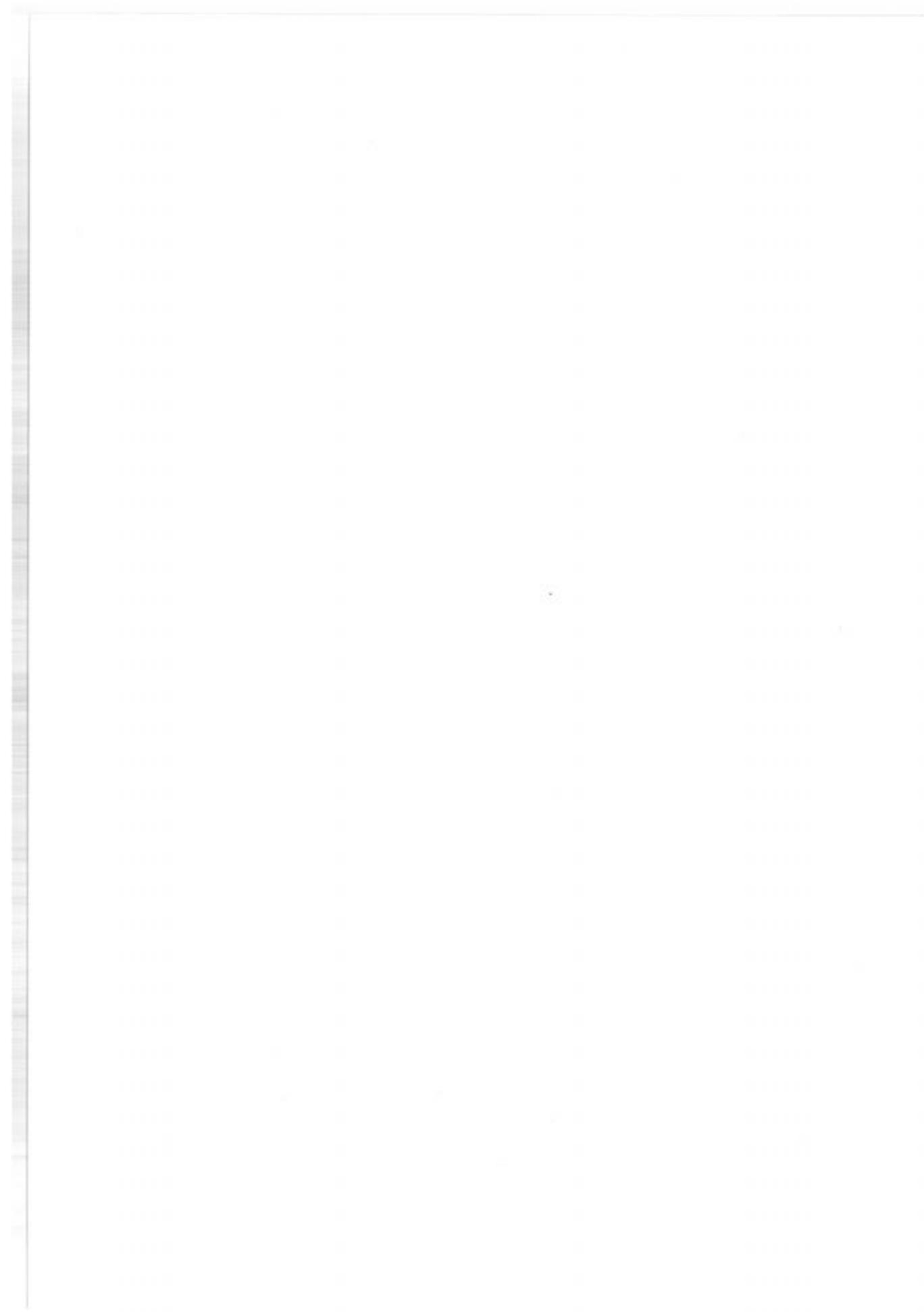
本集録は、研究の取り組みにおける、教育の実践の場との射程のとり方や、教科内容を踏まえたアプローチの違いを最大限尊重したものとなっています。そのような編成になっているからこそ、教科横断的な新たな発見が導き出される、あるいは、教育実践に関わる共通的な課題を発見することに可能性が開けてくるものと考えています。

一つの研究で全てが完結するのではなく、一つの研究の結果から新たな課題が導かれ、研究を積み重ねていく過程で、徐々に結論の地平が見えてくるものであろうと考えています。本校教員は、そのような真摯な態度で日頃より教育・研究に取り組んでいます。研究の次なる一步に大きな力となるご批判、ご指導を今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

大阪教育大学附属中学校 校長

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎 校舎主任

赤松喜久



## 目 次 (Contents)

金井 友厚 (KANAI Tomoatsu) :

充実した P T A活動に向けて —公開講座と学年懇談会を中心に—

(For the Fulfilling PTA Activities

— Concerning Parents Seminars and Meetings —)

1

金井 友厚 (KANAI Tomoatsu) :

教育実習の充実を目指して —P T A保護者と教育実習生の座談会—

(For the Better Teaching Practice

— A Discussion Project between Parents and Student Teachers —)

21

河田 良子 (KAWATA Ryoko) :

〈本質的な問い合わせ〉にせまる —「深く読む」のメタ化—

(Approaching the <essential question> — Meta of "read deeply." —)

45

浦崎 裕太 (URASAKI Yuta) :

歴史とのつながりを意識した高等学校地理の授業

(Lessons of Geography Linked to Historical Background)

59

笹川 裕史 (SASAGAWA Hiroshi) :

複数の「終戦日」 —8・15の虚実—

(August 15, 1945: The Date of the End of World War II)

73

岩瀬 謙一 (IWASE Kenichi) 吉村昇 (YOSHIMURA Noboru) :

結び目の数学の中学生に対する導入

(Introduction to Knot Theory for Junior High School Students)

97

岡本 義雄 (OKAMOTO Yoshio) :

英語で地学の授業を行う試み Part2 —ある火星年代記—

(A Geoscience Class lectured in English Part2 — A New Martian Chronicles —)

..... 117

Fumiya Shinozaki (篠崎 文哉) :

Oral Sentence Building as a Chunk-based Learning:

In Comparison with Shadowing

(チャック型学習としての口頭並べ替え シャドーイングと比較して—)

..... 143

附属天王寺中学校 研究部 :

既成の指導案に「自己認識」発問を加味する効果

(The Effect of Adding "Self-recognition" Questions to the accomplished

Procedures)

..... 151

SSH推進委員会 :

河田良子 (KAWATA Ryoko) 森中敏行 (MORINAKA Toshiyuki)

宮川康 (MIYAGAWA Yasushi) 甲山和美 (KOHYAMA Kazumi) 岩瀬謙一 (IWASE Ken-ichi)

糠野順一 (NUKANO Jun-ichi) 岡本義雄 (OKAMOTO Yoshio)

課題研究におけるルーブリック作成 (2)

(Making the rubric of the task-orientated research [ 2 ])

..... 221

# 充実した P T A 活動に向けて

——公開講座と学年懇談会を中心に——

かな い とも あつ  
金 井 友 厚

抄録：平成 4 年の後期から始まった P T A 公開講座は今年で 117 回を数えることになった。これまで、どのような公開講座が実施されてきたのかを知り、今後一層有意義な公開講座の計画に役立てていただきたい。同様に、毎年実施される P T A 主催の学年保護者懇談会を紹介する。保護者の学校理解、保護者同士の情報交換の場となることを望んでいる。

キーワード：P T A、P T A活動、公開講座、学年懇談会

## I. はじめに

- 本校の P T A 活動の目的は、P T A 規約には次のように記載されている。
1. 保護者と教員の相互理解と協力によって、生徒の全人的な成長と安全確保に務める。
  2. 民主社会、国際社会の一員として自覚を持った生徒の育成を助ける。
  3. 生徒の学習活動が円滑に運ばれるため、適正な支援を行う。
  4. 家庭と学校との関係を一層緊密にし、生徒の教育について、保護者と教師とが聰明に協力できるようにする。
  5. 学校の教育的環境の整備をはかる。
  6. 広報活動を通して、学校と保護者との相互理解を深めるようにつとめる。
  7. 文化的行事、体育的行事を通して、会員相互の親睦をはかる。

以上のように、P T A 活動の目的はいろいろあるが、一番大切なことは家庭、学校および社会における生徒の福祉を増進することにあると考えられる。生徒の心身の健全な発達を図るために、家庭と学校との連携を密にし、生徒を育むよりよい環境を作ることが必要である。さらに、学校が子どもたちにとってよき環境作りの場であると同時に、保護者にとっても生涯教育の場となるように、積極的に関わっていくことも大切である。今回、本校の P T A が上記の目的を達成するために行っている種々の P T A 活動について振り返ってみたい。それと共に P T A 活動記録もまとめてみることにする。

## II. 本校の P T A 活動

本校の P T A 活動は、平成 17 年の規約改定により、一部が変更になった。委員会は役員候補者指名委員会、常任委員会、実行委員会、特別委員会の 4 つがある。実行委員会は、

PTA活動の基盤となる委員会であり、

- ① 年次計画を立案する。
- ② 各委員会によって立案された事業計画を審議検討する。
- ③ 必要に応じて特別委員会を設ける。
- ④ その他会員より委任された事務を処理する。

などの役割を持って活動している。実行委員会は、本会の役員7人、常任委員会の各委員長8人および校長と若干名の教師によって構成されていて、年間2回の定例の委員会を開いている。常任委員会には、次に挙げる6つの委員会がある。各委員会ごとに、次のような役割を主にもち、それぞれの課題意識を持って年間の企画と運営をして、本校のPTA活動の充実と発展を図っている。

学級委員会……各学級4人の委員で構成され、学級会員並びに学級相互の連絡を緊密にし、  
学級担任を後援して学級経営の促進に努める。

文化委員会……諸行事の企画運営にあたる。

施設委員会……学校施設の充実をはかる。

健康安全委員会……生徒および会員の健康の増進と安全確保に努める。

広報委員会……学校ならびにPTA活動の広報を務める。

会計監査委員会……会計を監査し、総会にその結果を報告する。

役員候補者指名委員会は、毎年3月に開かれ、次期役員を指名する。

本校のPTA活動は、年度によって多少の違いはあるが、毎年次のような活動を行っている。対外的な会への参加も含めて紹介する。

#### 平成26年度 PTA活動報告

4月8日（火）中学校入学式（PTA役員）

4月14日（月）PTA監査委員会（会計監査委員）平成25年度会計決算会計監査  
PTA実行委員会 平成25年度会計決算報告・次期役員候補者の報告

平成25年度PTA活動事業報告・4月総会次第等

4月21日（月）PTA総会 平成25年度決算報告・事業報告

平成26年度PTA役員選出・予算案承認

5月2日（金）PTA実行委員会（一次）平成26年度行事計画

PTA分科委員会 各委員意見集約・公開講座テーマ検討

PTA実行委員会（二次）分科委員会の結果報告 学校からの連絡等

5月10日（土）大阪教育大学附属11校園PTA研修会（会場 柏原キャンパス）

講演「これからの大連と附属の展望」

講師 大阪教育大学 学長 栗林 澄夫 先生

PTA役員・実行委員が出席して意見・情報交換

5月18日（日）近畿国立大学学校連盟・PTA連合会合同総会

校園長会・副校園長会・PTA会長会

5月31日（土）第110回PTA公開講座「学校キャンパス見学」（施設委員会）

場所 本校各施設（11：00～12：30）

第1回学びのもり草刈り大会（学びのもり管理部会・活用部会）

場所 学びのもり

6月5日（木）第111回PTA公開講座

「水分補給方法・熱中症予防講習会」（健康安全委員会）

講師 吉岡 弘文 氏 [大塚製薬（株）]

場所 体育館メインアリーナ（10：40～11：30）

6月21日（土）第22回公開セミナー（天附連セミナー委員会）

演題 「真のグローバル人材を育成する教育」

講師 文部科学省大臣官房総務課専門官 併

初等中等教育局国際教育課 課長補佐 河村 裕美 先生

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎卒業生

場所 本校小講堂（14：00～16：00）

7月1日（火）68期生 中1学年保護者懇談会（中1学級委員会主催）

テーマ 「中学校生活の過ごし方」

場所 本校小講堂（10：30～12：30）

7月2日（水）66期生 中3学年保護者懇談会（中3学級委員会主催）

テーマ 「新たな進路に向け、最終学年に悔いなく過ごすために」

場所 本校小講堂（10：30～12：30）

7月3日（木）67期生 中2学年保護者懇談会（中2学級委員会主催）

テーマ 「中2の子供達の今」

場所 本校小講堂（10：10～12：10）

8月23日（土）第2回学びのもり草刈り大会（学びのもり管理部会・活用部会）

場所 学びのもり

9月28日（日）第112回PTA公開講座（PTA役員会企画）

「大坂の陣400年 真田幸村ゆかりの地を訪ねてみよう」

場所 大阪の陣に関わる上町台地～大阪城

10月15日（水）PTA会計監査委員会（会計監査委員）

平成26年度上半期決算の会計監査

10月21日（火）第113回PTA公開講座

劇団如月舎「少女剣士がゆく」観劇（文化委員会）

場所 中・高体育馆（13：30～15：00）

10月25日（土）第3回学びのもり草刈り大会（学びのもり管理部会・活用部会）

懇親会（学びのもり活用部会）

11月9日（日）近畿国立大学附属学校園PTA連合会スポーツ交流会滋賀大会

場所 滋賀大学教育学部附属学校園膳所キャンパス

11月15日（土）第23回公開セミナー（天附連セミナー委員会）

演題「フィンランド教育が目指す“生きる力”

—自立した幸せな成人となるために—

講師 マネージングディレクター ヒルトゥネン 久美子 先生

場所 本校小講堂（14：00～16：00）

1月22日（土）近畿国立大学附属学校連盟・近畿国立大学附属学校園PTA連合会  
実践活動協議会

講演「これからの中等教育に求められる21世紀型学力の育成」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官 田村 学先生  
PTA役員・実行委員が出席してワークショップ・意見交換・発表

3月12日（木）中学校卒業式（PTA役員）

3月17日（火）PTA次期役員候補者指名委員会

（PTA役員・実行委員会・指名委員）次期PTA役員候補者の指名

4月13日（月）PTA監査委員会（会計監査委員）平成26年度会計決算会計監査

PTA実行委員会 平成26年度会計決算報告・次期役員候補者の報告  
平成26年度PTA活動事業報告・平成27年度PTA予算報告

4月総会の際に、1年間のPTA活動報告が会員に報告される。また、PTA活動について学校のホームページに適宜掲載される。

### III. PTA公開講座

#### （1）公開講座のねらい

本校の「公開講座」は、第15代風間副校長（平成4年～平成8年）在任の平成4年度後期に始まった。そして、第16代大仲副校長（平成8年～平成10年）、第17代乾副校長（平成10年～平成15年）、第18代柳本副校長（平成15年～平成17年）、第19代中西副校長（平成17年～平成21年）、第20代金井副校長（平成21年～平成28年）に引き継がれてきた。その間、形を少しずつ変えながらも、脈々と続いている。平成27年度後期には、実に第100回を迎えることとなった。現在、第117回を数えることになったのである。当時、生涯教育ということがよく話題になり、カルチャースクールなど多種多様な成人向けの講座が紹介されていたが、本校もPTA活動としての生涯教育のあり方について検討を続けていた。好ましいPTA活動を志向していくための1つとして、保護者を対象とした公開講座的な企画ができるだろうかと、教員の側からもアイディアが出され、平成4年11月17日に、早川勝廣校長と当時のPTA会長嶋田典之氏との連名で、第1回公開講座の案内がなされたのである。資料1がその案内状である。資料2～資料7は、それぞれ第25回、第50回、第75回、第100回、第105回、第108回の案内状である。

平成10年6月16日  
大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校  
校長 石田惠人  
PTA会長 田嶋和夫

第25回公開講座ご案内  
「絵手紙で心と心のコミュニケーション」

初夏の候、皆様にはご縁めのこととお慶び申し上げます。平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。  
さて、公開講座のご案内をさせていただきます。  
この度、心と繋がる絵手紙を企画いたしました。當日は、絵筆を持たない方でも簡単に見写し状やお絵などが楽しめる「絵手紙づくり」をしませんか?  
なお、講師として、編之内田紀子先生(大阪市生徒学習レストラクター・日本絵手紙協会会員)をお招きいたします。



記

1. 開講日時 7月10日(金)午前10時30分~12時30分

2. 場 所 講習室(座席4階)

3. 特 殊 物 「ペケットティッシュ(1つ)

(材料、用具は学校で準備いたします)

4. 費 用 400円 当日受付にて仮めさせていただきます。

- 食教材…醤油、塩、醤油、半瓶(1枚)

- 教 材…両面紙(はがき3枚)、ミニうちわ1枚

5. 申込み 6月30日(火)までに担任の先生まで

\*先着順で30名様までとさせていただきます。



第25回公開講座「絵手紙」を受講します。

年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

受講者名 \_\_\_\_\_

保護者各位

平成4年11月17日  
大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校  
校長 早川 鶴之  
PTA会長 堀田 典之

## △△開講講座のご案内

向寒の候、皆様にはますますご清榮のこととお慶びいたします。学校では、学芸会に向けて、全員一丸に成って取り組んでいる最中です。  
さて、現在生徒教育ということがよく話題になります。以前のような優やかな指導方をする時代の生涯教育では、学校卒業後の未完成な部分を完成させる完成教育という考え方をしていればよかったです。現在のような急速な進歩をする社会では、一生学習をするという姿勢がなければ遅れるという意味が込められています。更に、本校の授業内容につきまして、日常は授業参観という参加の仕方をして頂き、ご理解を願ければと本校の授業方法、内容に近いもので参加をして頂き、ご理解を願ければとも思います。

そこで、実験的に本校で公開講座を開催していただきたいと思います。本校の先生方に、日常の授業から発展した講座内容を提示していただき、保護者の皆様方にご案内をいたします。内容につきましては、今後予告をし、ご案内をいたしますが、一講座については数回の講義があります。この講義を全て受講していただきたいと思います。第一回の講座といたしましては、技術科の上田先生にご協力をいただき、コンピューター初心者講座を開講していただきます。カタカナアルギーの方もおられることがあります。コンピュータグラフィックスを手段として、時代の寵児としてのコンピューターを易しく、簡単に手引していただけると思いますので、ぜひ積極的にご参加ください。

以上ご案内申し上げます。

中・高 PTA会員の皆様  
平成14年9月4日  
大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校  
大阪教育大学附属高等学校天王寺中学校  
中学校PTA会長 金子武夫  
高等学校PTA会長 五田敏郎  
中学校体育委員会 勝井勝治  
高等学校体育委員会 林 審子  
第50回公開講座ご案内

### 「体ほぐしの運動」(中高合同)

朝夕が勉強過ごしやすい季節になつてしましましたが、皆様にはご健勝のこととお慶び申上げます。平井より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。  
P.T.A.公開講座のご案内をさせていただきます。  
今回は、中学校校長・高等学校校舎主任の三木先生を講師にお招きして、「体ほぐしの運動」を実施させていただきます。日頃、悩まつたストレスを発散させ、心身共に健康な生活を送つてみませんか。  
当日は体育館で活動しますので、運動しやすい服装と体育館シューをご持参下さい。  
また、今回は中高合同のPTA企画ですので、中高の交流も兼ねて、多數のご参加をお待ちしております。

#### 記

1. 開講日時 9月21日(土)午前10時~11時30分頃
2. 場所 大阪教育大学附属天王寺中・高等学校 体育館
3. 申し込み 9月13日(金)までに担任の先生へ

申込書  
中高生用

第50回公開講座「体ほぐしの運動」を受講します。

受講者名 \_\_\_\_\_

公開講座の当初のねらいは次のようにあった。

- ① 学校が生涯教育の発信基地としての機能を果たす。
- ② 学校教育の内容・方法の理解をする場を提供する。(授業参観より授業参加)
- ③ 保護者間の交流・交換の場を提供する。(共同作業等)

現在では、公開講座の内容によっても異なるが、③のねらいの要素が強いように感じられる。いずれにせよ、保護者間の交流の場を提供することにより、学校への理解を深め、保護者と教員が協力して子ども達の教育に大きく関わっていこうとする姿勢に変わりはない。

#### (2) 公開講座のあゆみ

それでは、平成4年に誕生した公開講座がどのように変遷していったかを以下のように、第1回から第117回まで確認してみることにする。公開講座の中には、こんなにも楽しく、ユニークな活動を実施したのかと驚くものも存在していた。

**第1回『クリスマスカード・年賀状を作ろう』平成4年12月5日(土)12月12日(土)  
[コンピュータグラフィックを使った、コンピュータ初心者講座を6回実施]**

講師: 本校教諭 上田学先生

**第2回『生活の中の科学』①平成5年2月27日(土)「水道水の化学」**

②3月6日(土)「洗剤、漂白剤の化学」 講師: 本校教諭 岡博昭先生

**第3回『理科野外実習』平成5年5月27日(木)「磯の生物の観察の仕方(1)」**

5月29日(土)「磯の生物の観察の仕方(2)」

6月6日(日)「磯観察実習(加太海岸)」 講師: 本校教諭 大仲政憲先生

**第4回『戦争と平和を考える』①平成5年6月12日(土)「資料館の高層と思想」**

②6月19日(土)「軍都大阪の歩み」「大阪に残る戦争の傷跡(映画)」

③6月26日（土）「大阪城周辺の戦争遺跡をめぐる（見学）」

講師：本校元教諭 西田光男先生

第5回『雪の故郷を想い 雪の姿を眺める』①平成6年1月22日（土）「日本の風土と雪」②平成6年1月29日「雪の成長」「雪の姿」

講師：本校高等学校副校長 浅野浅春先生

第6回『何もないところに 歴史 地理を発見する』平成6年3月19日（土）

[学校からバスを利用して古市 古墳群、滝谷不動等の巡検]

講師：本校社会科講師 橋本九二男先生 本校教諭 吉水裕也先生

第7回『統計で見る社会ーくらしの中のデータを読むー』平成6年7月12日（火）

講師：大阪女子短期大学教授 平林宏朗先生（元本校高校教諭）

第8回『コンピュータを使って音楽を楽しんでみませんか』①平成6年8月4日（水）

②8月5日（木）③8月6日（金）[計5回の講座が開講されました。]

講師：本校技術科講師：仲西正男先生

第9回『生活と数学』①平成7年3月4日（土）「高越安全の数学ー自動車の内輪差

ー」②3月9日（木）「高層ビルの数学ー展望フロアーより見渡せる距離ー」

講師：本校教諭 柳本哲先生

第10回『奈良の伝統産業（墨づくり）と東大寺を見学する』平成7年3月22日（水）

[古都の春を訪ねる歴史散歩や東大寺の一般非公開の俊乗堂の特別拝観]

講師：本校教諭 吉水裕也先生

第11回『ワープロ講座』①平成7年7月10日（月）②7月11日（火）

③7月12日（水） 講師：本校教諭 上田学先生

第12回『クリスマスケーキを作りましょう』平成7年12月16日（土）[フランスの

クリスマスケーキ「ブッシュ・ド・ノエル」の製作]

講師：本校教諭 良千恵子先生

第13回『ボランティア活動を体験しましょう一段差解消踏み台づくりー』

平成7年12月25日（月）[阪神大震災被災地の仮設住宅での不便さを解消するための踏み台製作] 講師：本校教諭 上田学先生

第14回『切り絵と一緒にしませんか』平成8年3月2日（土）[PTA役員3人の

共同企画の公開講座] 講師：本校PTA役員（井上氏、三崎氏、澤田氏）

第15回『生徒の喜ぶ実物教材ー歴史教材博物館ー』平成8年3月13日（水）

[生徒の授業に参加] 講師：本校教諭 出原真哉先生

第16回『オリジナルの印を彫ろう』平成8年11月2日（土）

[趣味の篆刻、遊びの印彫りを目指し、自由にデザインする企画]

講師：書家 清川祐希先生

第17回『クリスマスケーキを作りませんか』平成8年12月14日（土）

講師：本校教諭 良千恵子先生

第18回『Christmas Decorationークリスマス飾りを作りませんかー』平成8年12月

14日（土）[黄金ひば、姫リンゴ、松ぼっくりなどで作るクリスマス飾り]

講師：PTA役員 阪上氏、山元氏、林氏

第19回『新しい定理の発見』平成9年7月11日（土）

講師：本校教諭 乾東雄先生

第20回『焼菓子3種を作りませんか』平成9年12月13日（土）

【ガレットーCoCo、ルシアンクッキー、和風シフォンケーキの3種類】

講師：本校非常勤講師 林和子先生

第21回『ガラス工芸』平成10年2月21日（土）【サンドブラストという技術を使って、世界でただ一つの“オリジナルグラス”作り】

講師：吉岡三雄先生（ユートピア企画代表）

第22回『「魅惑のお金」和同開珎から現行貨幣まで一生徒も喜ぶ実物教材より一』

平成10年3月11日（水）

講師：本校教諭 出原真哉先生

第23回『春の野山を歩きませんか』平成10年3月14日（土）【大原から鞍馬までの約8kmを歩く一般向きのハイキングコース】

講師：本校教諭 吉水裕也先生

第24回『高齢社会を支える商品を知る』平成10年6月28日（日）【大阪南港ATCエイジレスセンター】

講師：本校教諭 上田学先生

第25回『絵手紙で心と心のコミュニケーション』平成10年7月10日（金）

講師：堀之内由紀子先生（大阪市生涯学習インストラクター・日本絵手紙協会会員）

第26回『ウォーターフロント探訪』平成10年9月3日（木）【大阪市広報戦「夢咲」に乗って、大阪市のウォーターフロント開発を見学】

講師：舟越辰緒氏（大阪市港湾局企画営業部長）

第27回『クリスマスケーキを作りませんか』平成10年12月12日（土）

講師：本校教諭 良千恵子先生

第28回『かわいいひな人形を作りましょう』平成11年3月2日（火）

講師：PTA役員数名

第29回『「細雪」の舞台—芦屋を訪ねて』平成11年3月17日（水）【阪急芦屋川からヨドコウ迎賓館、谷崎潤一郎記念館、倚松庵見学】

講師：本校教諭 中西一彦先生

第30回『車いすの体験走行と簡単ホームページの作成』平成11年7月10日（土）

講師：本校教諭 上田学先生

第31回『ペインティング』平成11年9月2日（木）【キッチンボードにマーガレットを描くペインティングの講座】

講師：井上みつよ先生（PTA会員）

第32回『旧福知山線廃線トレッキング』平成11年10月4日（月）【生瀬～武田尾】

講師：本校教諭 吉水裕也先生（野外活動部顧問）

第33回『クリスマスケーキを作りませんか』平成11年12月11日（土）

講師：本校教諭 良千恵子先生

第34回『オリジナルの印を彫ろう』平成11年12月18日（土）

講師：書家 清川祐希先生

第35回『ファッション裏話』平成12年3月4日（土）【どのように洋服が企画・製造・販売されるのか、流行はどのようにして作られるのか？】

講師：PTA副会長 松本暁枝先生

第36回『障害者と共に走ろう！8時間耐久「共生・共走リレーマラソン」の参加者

（生徒及び保護者）募集】（役員会・実行委員会）平成12年5月28日（日）

- [鶴見緑地内花博記念公園水の館ホール] 講師：本校教諭 上田学先生  
第37回『学校キャンパス見学』(施設委員会) 平成12年6月17日(土)  
講師：PTA施設委員長 山本氏 PTA係 柳本哲先生
- 第38回『テニス初心者教室(テニスを楽しもう)』(体育委員会)  
平成12年6月24日(土) 講師：本校PTA 井上良行氏
- 第39回『源氏物語ゆかりの宇治方面トレッキング』(役員会・実行委員会)  
平成12年10月28日(土) 講師：本校教諭 柳本哲先生 中西一彦先生
- 第40回『救急救命方法を体験しよう』(保健委員会) 平成12年12月9日  
講師：天王寺消防署救急救命隊員 案内：柳本哲先生
- 第41回『親子で餅つきをしよう』(教育委員会) 平成13年2月24日(土)  
[本校学園ホール] 講師：副校長 乾東雄先生
- 第42回『障害者と共に走ろう！8時間耐久「共生・共走リレーマラソン』(役員会)  
平成13年5月27日(日) 講師：本校教諭 上田学先生
- 第43回『学校キャンパス見学会』(施設委員会) 平成13年6月16日(土)  
講師：柳本哲先生
- 第44回『スポーツ医学とクラブ見学』(体育委員会) 平成13年9月21日(金)  
[スポーツ活動における健康管理上の様々な問題を考える企画]  
講師：土井 龍雄 先生(ダイナミックスポーツ描く研究所副所長)
- 第45回『飛鳥の秋を楽しもう。中高合同トレッキング』(保健委員会)  
講師：高副校長 井野口先生 中副校長 乾先生
- 第46回『韓国料理を作ろう』(監査委員会) 平成13年12月15日(土)  
[李先生の著書『野菜いっぱい韓国ご飯』を販売] 講師：李映林先生
- 第47回『近世日本の国際交流—知られざる朝鮮通信使—』(教育委員会)  
平成14年2月23日(土) 講師：本校OB教官 西田光男先生
- 第48回『学校キャンパス見学』(施設委員会) 平成14年6月1日(土)  
講師：PTA施設委員長 宝迫氏 柳本哲先生
- 第49回『親子で夜空観測』(夜間)(監査委員会) 平成14年8月31日(土)  
[大学の天王寺キャンパス中央館屋上にある天文台より]  
講師：高等学校長 横尾武夫先生
- 第50回『体ほぐしの運動』(中高合同体育委員会) 平成14年9月21日(土)  
講師：中学校校長・高等学校校舎主任 三木四郎先生
- 第51回『秋の奈良を訪ねて—トレッキング』(保健委員会) 平成14年10月26日(土)  
[奈良公園、春日山、東大寺] 講師：上司永承照僧侶 乾東雄副校長先生
- 第52回『文化遺産見学』(教育委員会) 平成15年2月8日(土)  
[大阪歴史博物館見学] 講師：PTA会員・大阪市文化財協会 積山洋氏
- 第53回『楽しい数学』(教育委員会) 平成15年3月1日(土)  
第1時間目「数学との対話(普段着の数、正装の式)」  
第2時間目「図形との語らい(新しい定理の発見)」 講師：乾東雄副校長先生
- 第54回『学校キャンパス見学』(施設委員会) 平成15年5月31日(土)  
講師：PTA施設委員長 津田氏 PTA係 金井友厚先生

- 第55回『親子で料理教室』(教育委員会) 平成15年7月5日(土)  
[親子で作るおもてなし料理一ワンプレート 和風一というテーマ]  
講師:井田和子先生
- 第56回『親子で夜空観測』(夜間)(役員会) 平成15年8月30日(土)  
講師:高等学校長 横尾武夫先生
- 第57回『文化遺産見学と講演』(監査委員会) 平成15年9月27日(土)  
[「大阪なにわ今昔」の講演後、大阪歴史博物館の館内見学]  
講師:本校PTA会員・大阪市文化財協会 積山洋氏
- 第58回『体ほぐし運動でリフレッシュしよう』(体育委員会)  
平成15年10月18日(土) 講師:三木四郎校長先生
- 第59回『京都伏見の散策』(保健委員会) 平成15年11月16日(日)  
[月桂冠大蔵記念館、寺田屋、十石舟、御香宮] 講師:柳本哲副校長先生
- 第60回『親子で社会科シミュレーションゲームに挑戦』(教官)  
平成15年12月13日(土) [貿易ゲームを大人チームと子どもチームで実施]  
講師:本校OB教官 吉水裕也先生
- 第61回『天王寺舞楽鑑賞講座』(厚生委員会) 平成16年2月7日  
[第一部 管弦 平調 越天楽 第二部 登天楽 万歳楽]  
講師:小野功龍氏(天王寺楽所・雅亮会理事長・本校中学校3期生)  
園淵和夫氏(同会理事・元本校PTA会長)
- 第62回『英会話を通した国際理解』(教官) 平成16年2月7日(土) 14日(土)  
21日(土) 3月6日(土) [道案内、買い物、電話、日本文化を伝える]  
講師:Byard James先生(ニュージーランド) Rebecca Jane先生(イギリス)
- 第63回『学校キャンパス見学』(施設委員会) 平成16年5月29日(土)  
講師:楠井啓之先生
- 第64回『奈良靈山寺の散策』(役員会) 平成16年6月5日(土) [1200坪の庭園に  
咲き誇る薔薇の寺で有名な靈山寺の散策とその歴史や仏教美術に思いを馳せる]  
講師:靈山寺上院 東山光秀師
- 第65回『劇団四季「アイーダ」観劇』(厚生委員会) 平成16年6月16日(水)  
[古代エジプトを舞台に若き将軍ラダメスとその婚約者である王女アムネリス、  
敵国の王女アイーダの3人を巡る悲劇の物語]
- 第66回『体ほぐし運動でリフレッシュしよう』(体育委員会)  
平成16年11月13日 講師:三木四郎校長先生
- 第67回『国立国際美術館見学』(教育委員会) 平成16年12月11日(土)  
[マルセル・デュシャンと20世紀美術] 講師:国立国際美術館学芸員
- 第68回『こころと体に響くアロマテラピー』(保健委員会) 平成17年2月17日(木)  
講師:英国IFA認定主任講師(テラピスト) 川崎正子先生
- 第69回『難波宮見学と大阪歴史博物館』平成17年2月26日(土) [難波宮史跡公園  
(発掘現場を含む)と大阪歴史博物館の見学]  
講師:積山洋(本校PTA役員・大阪市文化財協会)
- 第70回『学校キャンパス見学』(施設委員会) 平成17年6月4日(土)

- 講師：PTA施設委員長 柴田氏 PTA係教員  
第71回『救急救命方法を体験しよう』(健康安全委員会) (平成17年7月6日(水))  
講師：天王寺消防署救急救命隊員
- 第72回『ヨーロッパドイツの香りに触れる～即興ジャズ入門』(文化委員会)  
平成17年10月12日(水)【秋の夜長に相応しいジャズ入門のワークショップ】  
講師：アンドレア・マルセリ氏 (ベルリン在住のジャズ演奏家)
- 第73回『世界遺産見て歩き～吉野散策』(役員会) 平成17年10月22日(土)  
[竹林院群芳園、金峯山寺藏王堂見学]
- 第74回『鈴木校長の大人の数学教室』(教官) 平成17年11月19日(土)  
[数学の文化史に想いを馳せながら、文化の探索] 講師：鈴木正彦校長先生
- 第75回『中西副校長のNIEファミリーフォーカス&新聞記者さんのお話』(教官)  
平成17年12月10日(土) [新聞を活用した親子でのゲーム形式の授業と講演  
(新聞は学力を高める)]  
講師：副校長 中西一彦先生 福田徹氏 (読売新聞編集委員)
- 第76回『学校キャンパス見学』(施設委員会) 平成18年6月24日(土)  
講師：PTA施設委員長 畑中氏 本校教員数名
- 第77回『大塚国際美術館「ダ・ヴィンチ・コードツアーア」』(役員会)  
平成18年7月9日 [本でも映画でも今話題の「ダ・ヴィンチ・コード」にちなんだ美術見学ツアー]
- 第78回『学校ニューキャンパス見学』(施設委員会) 平成18年9月18日(月) 中止
- 第79回『マリンバ演奏会』(文化委員会) 平成18年10月12日(木)  
[道化師のギャロップ、コンドルは飛んで行く、情熱大陸などの演奏]  
講師：マリンバ奏者・奈良県教育委員長 松本真理子先生
- 第80回『パワーヨガ講習会』(健康安全委員会) 平成18年12月8日(金)  
講師：本校卒業生・元タカラジェンヌ 伊央里直央加氏
- 第81回『鈴木校長の大人の数学教室II』(教官) 平成18年3月
- 第82回『劇団四季「オペラ座の怪人」観劇』(文化委員会) 平成19年5月31日(木)  
[大阪四季劇場にて子どもと一緒にミュージカル「オペラ座の怪人」の観劇]  
講師：中西一彦副校長先生
- 第83回『学校キャンパス見学』(施設委員会) 平成19年6月30日(土)  
講師：PTA施設委員長 川植氏 本校係 廣瀬先生
- 第84回『教急救命方法(AEDを含む)を体験しよう!』(健康安全委員会)  
平成19年7月19日(木) 講師：天王寺消防署救急救命隊員
- 第85回『落語家と行く なにわ探検ナイトクルーズ』(役員会)  
平成19年9月7日(金) (川の環状線コース 道頓堀川→木津川→堂島川→  
土佐堀川→東横堀川→道頓堀川) 講師：中西一彦副校長先生
- 第86回『学校キャンパス見学』(施設委員会) 平成20年7月6日(日)  
[校舎耐震補強工事終了後の校舎見学] 講師：吉村昇先生
- 第87回『天満天神繁昌亭で笑いを堪能しましょう』(役員会) 平成20年9月21日(日)  
[帝国ホテルで昼食後天満天神繁昌亭での落語鑑賞] 講師：中西一彦副校長先生

- 第88回『パンクマイム観劇』(文化委員会) 平成20年10月20日(月)
- 第89回『車椅子バスケットボール体験』(健康安全委員会) 平成20年11月29日(土)  
講師:女子車椅子バスケットボールチーム「カクテル」
- 第90回『学校キャンパス見学・福井食堂の弁当試食』(施設委員会) 平成21年6月
- 第91回『AEDを使った救急救命法を体験しよう』(健康安全委員会)  
平成21年7月4日(土)【東京国際マラソンでタレントの松村邦洋さんが競技中に倒れたが、AEDによる救命措置により一命を取り留めた事例あり】  
講師:天王寺消防署救急救命隊員
- 第92回『スポーツの秋—プロ野球を観戦しよう!』(役員会) 平成21年9月20日(日)  
【京セラドームでオリックスバファローズ対北海道日本ハムファイターズの試合観戦、日ハムのダルビッシュ投手が登板】
- 第93回『親子で観劇しよう!』(文化委員会) 平成21年10月21日(水)  
【劇団キオが演じる「ぞうの休日」を体育館で生徒と一緒に観劇する】  
講師:劇団キオ
- 第94回『学校キャンパス見学(学園ホールの弁当試食)』(施設委員会)  
平成22年5月21日(土) 講師:PTA施設委員長 岩崎氏 本校教員数名
- 第95回『応急処置・救急救命法(AED)講習』(健康安全委員会)  
平成22年7月17日(土) 講師:天王寺消防署救急救命隊員
- 第96回『13歳で大西洋横断!! 最年少記録樹立者に聞く in なにわの海の時空館』(役員会) 平成22年9月26日(日)【名誉館長の講演と実際に航海した復元された菱垣廻船など展示しているなにわの海の時空館の見学】  
講師:なにわの海の時空館名誉館長 石浜紅子氏
- 第97回『劇団四季「ウィッキッド」観劇』(文化委員会) 平成22年10月6日(水)  
【ブロードウェイミュージカル「ウィッキッド」をこどもたちと一緒に観劇する】  
講師:副校长 金井友厚先生 PTA係教員
- 第98回『気象予報士による熱中症予防講習会』(健康安全委員会)  
平成23年6月17日(金)【この公開講座は大塚製薬とNPO法人WCN(気象キャスターネットワーク)の合同事業で生徒の総合的な学習の時間の企画にPTAが参加】  
講師:南利幸氏(気象予報士)
- 第99回『学校キャンパス見学』(施設委員会) 平成23年6月18日(土)  
講師:PTA施設委員長 西原氏 吉村・住田・前枝先生
- 第100回記念『美術館アートキャンパス2011—鎌倉・室町・桃山一と茶の湯体験 in KYOTO』(役員会) 平成23年9月18日(日)【細見美術館見学と茶室「古香庵」での茶の湯体験】  
講師:細見館長
- 第101回『演劇鑑賞会』(文化委員会) 平成23年10月24日(月)  
【イギリスの有名な劇作家シェークスピアの「ベニスの商人」の鑑賞と演劇教室】  
講師:め組
- 第102回『学校キャンパス見学』(施設委員会企画) 平成24年6月16日(土)  
講師:PTA施設委員長 石田氏 寺井・住田・山川・前枝先生
- 第103回『コーラスのひととき』(文化委員会) 平成24年6月23日(土)

- 講師：指揮 R.F. 音楽教育研究所主宰 濱脇良子先生 ピアニスト 山口彩菜先生  
 第104回『スポーツ外傷・傷害時の応急処置について』(健康安全委員会)  
 平成24年6月29日（金）【①RICE処置②テーピング理論の実習】  
 講師：杉本拓也氏（ダイナミックスポーツ医学研究所）
- 第105回『京都へ…島津製作所創業記念資料館&高瀬川源流庭園』(役員会)  
 平成24年9月9日（日）【島津製作所創業記念資料館見学の後、がんこ高瀬  
 川二条苑で昼食】  
 第106回『学校キャンパス見学』(施設委員会) 平成25年6月15日（土）  
 講師：PTA施設委員長 林氏 荊木・吉田・住田先生
- 第107回『救急救命講座』(健康安全委員会) 平成25年7月6日（土）  
 講師：天王寺消防署救急救命隊員
- 第108回『劇団四季「ライオンキング」観劇』(文化委員会)  
 平成25年10月18日（金）【「ミュージカルの王様」と言われる「ライオンキ  
 ング」を大阪四季劇場で生徒と一緒に観劇する】  
 講師：副校長 金井友厚先生 PTA係教員
- 第109回『水都・大阪体感ツアー』(役員会) 平成25年11月10日（日）  
 【津波・高潮ステーション見学、リーガロイヤルホテル「リモネ」で昼食、遊  
 覧船「ホタル号」でクルーズ】 講師：(有)ハートビートプラン 泉氏
- 第110回『学校キャンパス見学』(施設委員会) 平成26年5月31日（土）  
 講師：PTA施設委員長 川崎氏 吉田・浅田・山川先生
- 第111回『水分補給方法・熱中症予防講習会』(健康安全委員会)  
 平成26年6月5日（木） 講師：大塚製薬 吉岡弘文氏
- 第112回『大阪の陣400年・真田幸村ゆかりの地を訪ねてみよう』(PTA役員  
 会企画) 平成26年9月28日（日）(役員会)【玉造駅→三光神社→心眼寺→  
 大阪城→ダイニングレストラン燐（OBPツインタワー38F）】  
 講師：てんのうじ観光ボランティア協会 山口茂樹先生、北田実規子先生
- 第113回『演劇鑑賞会』(文化委員会) 平成26年10月21日（火）【原作「武士道  
 シックスティーン」を「少女剣士がゆく」という劇に】講師：劇団「如月舎」
- 第114回『救急救命講習会』(健康安全委員会) 平成27年6月8日（月）  
 【学校安全の日に全学年生徒と保護者を対象に中高体育馆メインアリーナで】  
 講師：天王寺消防署救急救命隊員
- 第115回『PTA学校キャンパス見学会』(施設委員会) 平成27年6月13日（土）  
 講師：PTA施設委員長 北井氏 浅田・印南・藤田先生
- 第116回『島津製作所創業記念資料館・がんこ高瀬川二条苑』(役員会)  
 平成27年9月27日（日）【森鷗外の小説でも有名な「高瀬川」源流付近にあ  
 る「島津製作所創業記念資料館」と高瀬川源流庭園の見学】
- 第117回『宝塚歌劇団花組「新源氏物語」観劇会』(文化委員会)  
 平成27年10月15日（木）【第一部：田辺聖子作花組トップ明日海りおさん主  
 演の「新源氏物語」、第二部 Melodea—熱く美しき旋律— 豪華で華やかな和洋  
 の舞台を観劇】 講師：宝塚歌劇団

平成23年6月30日

大阪教育大学附属天王寺中学校  
校長 宇野 駿 沙  
PTA会長 杉山 和義

## 第100回公開講座ご案内

## 「美術館アートキャンバス2011—鎌倉・嵐山—と本の展示会 in KYOTO」

保護にはお忙がおどる事務となりましたが、御座にはいかがお過ごしでしょうか。平素より  
本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
さて、今回は役員企画として、本校の学生が前芸能人をしておられる、京都の絵見美術館  
と、お茶室へ皆様をご案内します。記念すべき第100回記念となるこの企画は、美術館をキ  
ャンパスに見て、絵見聞展真っ二つで説明していただきながら、日本美術の魅力を感じ  
てください。

当日は、美術館の最も上位にあり、嵐山の峰々が一望できる有名な庭「古香庵」での講  
話にてなじみのある体験もしていただけます。  
その前に初秋の京都で美味しいお料理を楽しむから観劇を貰めたあと、少しだけ日本の  
美を堪能しましょう。

1. 講壇日時 9月18日(日) 午後1時30分～午後4時頃
2. 集合・解散 墓ノ内駅前 入口前
3. 費用 4,000円 (当日現金支払)
4. 参加人数 30名  
(先着順を案内していただく場合と食事場所の予約の都合上先着順とさせていただきます)
5. 申し込み 必ず7月8日(金)までに申込書を担任の先生までご提出ください。  
詳細は申込者に9月はじめにご案内申し上げます。

PTA会長 杉山和義  
第100回公開講座「美術館アートキャンバス2011」の参加を申し込みます。

申込書

年 月 日 参加者名

年 月 日

参加保護者名

参加生徒名

平成17年11月21日  
大阪教育大学附属天王寺中学校  
校長 鈴木正彦  
PTA会長 杉山 和義

第75回公開講座ご案内  
「中西副校長のNIEアマリークーパス＆新聞記者さんのお話」

寒くなっています。学校では学生会の練習に取り組む子どもたちの寒さを吹き飛ばすかのような意欲的な服装しがここからして見受けられます。皆様は本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。  
さて、12月の公開講座についてご案内させていただきます。今期は、中西副校長先生による新聞を活用した親子でのゲーム形式の授業と歴史新聞編集委員の塩田恵氏による講演との二本立てです。奮ってご参加ください。

記

1. 講壇日時 12月10日(土) 午後2時から4時頃まで。

- ① 2:00~2:50 「靴子でNIE」 本校副校長 中西一郎 先生  
10組の親子によるゲーム形式の授業です。
- ② 3:00~4:00 講演『新聞は力を持める』 認定新聞編集委員 福田巖 氏

2. 場 所 本校小講堂(座席3階)

3. 申し込み 11月30日(木)までに担任の先生へご提出ください。

第75回公開講座「中西副校長のNIEアマリークーパス＆新聞記者さんのお話」  
に参加します。  
\*「靴子でNIE」に参加していただける親子は、生徒名と保護者名をお書きください。  
\*\*上記の①②とも保護者の方のみの参加も大歓迎です。

## 「京都へ…島津製作所創業記念資料館を高瀬川源流底辺」

PTA会員の皆様

平成25年9月17日  
大阪教育大学附属天王寺中学校長 宇野 駿 樹  
PTA会長 小川 開  
PTA文化委員長 火間 久  
PTA会員長 久留哲昌第108回公開講座ご案内  
劇団四季「ライオ・キンシング」観劇

9月に入つても厳しい暑さが続きますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。平素より本校の教習活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、第108回PTA公開講座は大阪四季劇場で開催いたします。『ライオ・キンシング』を子どもたちと一緒に鑑賞したいと存じます。「ライオ・キンシング」はプロドヴィエイでの開幕以来、圧倒的な反響を巻き起こしました。『ライオ・キンシング』は日本国外のアカデミー賞とされるトロフィーを獲得し続け、アメリア・リカ演劇賞の受賞者を始め10カ国以上で上演され、全世界を魅了する大作です。田中耕一氏のノーベル賞受賞に寄せて多くの人々から賞賛されています。『ライオ・キンシング』は年齢、性別全くを問わず楽しむことができます。熱狂的に支持され、「ミュージカルの王様」と言わわれているそらすけ。この機会にお子様と共に楽しむ時間をお過ごしください。当日は、保護者席として200席を確保いたしますが、ご都合が悪くなるので、下記のような形でお申し込みください。

記 9月17日(金) 午後1時開場

1. 日 時 平成25年10月18日(金) 午後1時開場  
(上演時間は約2時間50分です)

2. 場 所 大阪四季劇場(大阪梅田ホールピースENT内)

3. 申込み方法 9月25日(木) 午前8時10分～午前8時30分  
9月26日(金) 午前8時10分～午前8時30分

両日とも小会議室にて申込みを受け付けてます。  
一室収容2名まで申込みできます。(お子様に持たせて  
いたいだけで結構ですが、200名になります)

4. 代金支払い方法: 参加決定の方は、10月1日(火)午前8時10分  
～午前8時30分に小会議室へ代金￥5,500を封筒  
に入れ、ご持参下さい。  
代金と引き換えにチケットをお渡しします。  
(これもお子様に持たせていただいて結構です)

申込書 年 組 係 係  
係長者氏名 \_\_\_\_\_ ( )  
第108回公開講座「劇団四季『ライオ・キンシング』観劇」を申し込みます。

## IV. 学年保護者懇談会のテーマ

PTA保護者主催の学年保護者懇談会も長く続いているPTA活動の一つである。私が赴任した昭和57年にはすでにPTA活動として定着しており、1学期の終わりの頃に毎年開催されている。学年が上がるに従って、保護者の関心事も変化し、テーマも子どもの発達段階に応じたものとなっている。中1では、小学校生活と異なる中学校生活について

梅雨空の候、複雑なことがお過ぎでしょうか。平素よりPTA活動にご理解とご協力を頂き、ありがとうございます。さて、本年度最後の公開講座いたしまして下記の企画をご案内いたします。今回は昨年度ご好評をいただいた京都での公開講座を、高瀬川源流(木屋町二条)に場所を移して実施したいと思います。

高瀬川の西側を流れる高瀬川の小説でも有名な「高瀬川」、その源流付近にある「高瀬製作所製造販売部」は、今日様々な分野でグローバルに事業を展開する企業や会社、田中耕一氏のノーベル賞受賞に寄せて多くの人々から賞賛されています。詳しく述べをしていただきながら見学する予定をしております。

子ども達には、ワークシートを配り、簡単な実験をしたりするプランを考えております。見張は、江戸時代の豪商、角倉了以の別邸跡「ほんこん古瓦窯(二条窑)」にて、施設らしいお食事を楽しみながら懇談を深める時間を過ごしたいと存じます。

ぜひ皆様お説いて下さる所の上、ご参加くださいようお願い申し上げます。

の戸惑いや疑問が多く、保護者同士で情報交換をすることが多いようである。中2では学校生活にも慣れてきて、中だるみの時期になってくる。それと共にそろそろ反抗期が始まり、親として我が子への接し方に不安を感じる頃になる。兄や姉を持つ先輩の保護者からアドバイスを得ることも。中3になるとやはり進路が気になる。進路に関する情報交換が多いようである。どの学年もテーマだけでなく、アンケートをしたり、講演を依頼したり、工夫されたプログラムが計画されている。次に、中学校のPTA会誌『天王寺茶論』創刊号～11号から主なテーマを紹介したい。

- ・51期生 中3学年保護者懇談会 平成11年7月2日（金）10：30～12：30  
「新たな進路に向け、最終学年を悔いなく過ごすために」  
一思春期の親と子供のかかわりー 講演「中・高校生活を振りかえって」
- ・52期生 中2学年保護者懇談会 平成11年7月3日（土）13：30～15：00  
「コミュニケーションを図ろう！PART II」クラス別テーマ  
A組「親と子のコミュニケーション」B組「わかってほしい、親の気持ち子の気持ち」C組「最近の子供達の様子」D組「1年間 親子でどう成長したか？」
- ・53期生 中1学年保護者懇談会 平成11年7月3日（土）11：00～12：40  
「中学生になった子供との接し方」
- ・52期生 中3学年保護者懇談会 平成12年7月3日（月）11：00～13：00  
「コミュニケーションを図ろう！PART III」  
一思春期の子供と親のかかわり、みんなで話し合いましょうー  
講演「私流のコミュニケーション」
- ・53期生 中2学年保護者懇談会 平成12年7月3日（月）14：00～16：00  
「親と子のかかわり」（子供の学校での様子を20分のビデオを視聴、グループ別クラス別討論会）
- ・54期生 中1学年保護者懇談会 平成12年7月1日（月）13：30～15：30  
「思春期の子供との接し方」（親子のあり方）
- ・53期生 中3学年保護者懇談会 平成13年6月30日（土）11：00～13：00  
講演「子どもの心を聴く」大阪教育大学教授 安福純子先生
- ・54期生 中2学年保護者懇談会 平成13年7月7日（土）14：00～16：00  
ディベート「塾に行くことの良い点・悪い点」
- ・55期生 中1学年保護者懇談会 平成13年6月30日（土）14：00～16：00  
「親のかかわり」～家庭生活と学校生活
- ・54期生 中3学年保護者懇談会 平成14年6月28日（金）10：00～12：00  
講演「住まいと住み方に見る親子関係」大阪教育大学 田中恒子先生
- ・55期生 中2学年保護者懇談会 平成14年6月28日（金）13：00～15：00  
「親が子どもにできること」～週5日制が始まつて～
- ・56期生 中1学年保護者懇談会 平成14年7月1日（月）  
「学校五日制のなかで子どもとどう向きあうか」
- ・55期生 中3学年保護者懇談会 平成15年6月27日（金）13：00～15：00  
講演「親と子の自尊心教育」中本幹子先生（エイム・イングリッシュ・スタジオ主宰）  
1. 附属の教育について 2. 英語教育について 3. 自尊心教育

- ・ 5 6期生 中2学年保護者懇談会 平成15年6月30日（月）13：00～16：00  
講演「附高生生活について」「反抗期をむかえる子どもとの接し方」
- ・ 5 7期生 中1学年保護者懇談会 平成15年6月27日（月）9：50～12：00  
「中高6年間一貫教育を踏まえての中学校生活の過ごし方」
- ・ 5 6期生 中3学年保護者懇談会 平成16年6月28日（月）10：00～12：30  
講演「『同じ』って？」 安井義和先生 大阪教育大学附属高等学校長  
「中3になって子供と親はどうかわったか？」
- ・ 5 7期生 中2学年保護者懇談会 平成16年6月30日（水）13：00～15：30  
講演「中2になった5 7期生」「いまどきの親子関係」
- ・ 5 8期生 中1学年保護者懇談会 平成16年6月29日（火）9：50～12：00  
平田主任の講演「中高6年一貫教育をふまえての学校生活のすごし方とグループ別懇談会」
- ・ 6 2期生 中3学年保護者懇談会 平成22年6月11日（金）15：00～16：00  
「附高生活はどんな感じ？」「子どもたちの今の様子」
- ・ 6 3期生 中2学年保護者懇談会 平成22年6月24日（月）14：30～  
「思春期の子ども達にどう向き合うのか」
- ・ 6 4期生 中1学年保護者懇談会 平成22年6月28日（月）10：30～12：00  
「中学校生活の過ごし方～子どもが中学生になっての親の素朴な疑問～」
- ・ 6 3期生 中3学年保護者懇談会 平成23年6月30日（木）10：30～12：30  
「進路選択に際する保護者の関わり方」
- ・ 6 4期生 中2学年保護者懇談会 平成23年6月29日（水）10：30～12：00  
「反抗期の子供と上手に向き合うには」保護者の講演とグループ別懇談会
- ・ 6 5期生 中1学年保護者懇談会 平成23年6月28日（火）10：00～12：00  
『子供の状況「友達同士のつきあい方」「家庭学習」「持ち物」など』
- ・ 6 4期生 中3学年保護者懇談会 平成24年6月7日（水）10：30～12：30  
「進路選択に際しての家庭の役割とは」
- ・ 6 5期生 中2学年保護者懇談会 平成24年6月29日（金）14：00～16：00  
「思春期の子供たちとどのように接したら良いか？」  
講演「思春期の子どもとのつきあい方」講師：兵庫教育大学准教授 吉水裕也先生
- ・ 6 6期生 中1学年保護者懇談会 平成24年6月28日（木）10：30～12：00  
「子どもの理解と成長のために」
- ・ 6 5期生 中3学年保護者懇談会 平成25年6月28日（金）10：30～12：30  
「進路全般に関する保護者の関わり方は？」
- ・ 6 6期生 中2学年保護者懇談会 平成25年6月27日（木）10：30～12：20  
「思春期の子どもとの向き合い方」
- ・ 6 7期生 中1学年保護者懇談会 平成25年6月26日（水）10：30～12：30  
「中学校生活全体に対して」
- ・ 6 6期生 中3学年保護者懇談会 平成26年7月2日（水）10：30～12：20  
「新たな進路に向け、最終学年を悔いなく過ごすために～成長した子供に対する親の関わり方～」

・ 67期生 中2学年保護者懇談会 平成26年7月3日(木) 10:10~12:10  
「中2の子供達の今」生活アンケートの実施

前半:「子供達の様子や今気になっていること」

後半:「携帯電話とどう共存するか」

68期生 中1学年保護者懇談会 平成26年7月1日(火) 10:30~12:30

「中学校生活の過ごし方~子供が中学生になっての親の素朴な疑問~」



写真1



写真2

#### V. PTA活動の課題と今後

今回PTA活動の中から、公開講座と学年懇談会の2つを取り上げて紹介した。今回取り上げなかつたけれども、他にも多種多様な活動を行っている。テニスの施設開放や制服のリサイクル活動等は保護者からも人気の高い活動であった。対外的には、11校園PTA研修会は3年毎に担当校がやってくる。また、近附連スポーツ交流会にも毎年参加してきた。さらに、天附連主催の公開セミナーも年に2回計画・実施され、今年度で第25回を修了した。また、学びのもりの活動においては、施設委員会を中心に中高の保護者、生徒、教員が協力して草刈り大会を年に3回~4回実施している。また、道草館活動もPTA文化委員会を中心に中学校図書委員会、保護者のボランティアが協力して行っている。ただ、計画されているから参加するというだけでなく、活動の意味を考えながら、その趣旨に沿った活動となるように工夫していく必要がある。本校のPTA役員、委員は原則として、毎年変わっていくので、活動が停滞したり、廃止になったりすることのないように次の係に引き継ぎをうまくしていかねばならない。今後、一層やり甲斐のある、また無理をしきれないPTA活動を発展させていかねばならないと考える。最後になりましたが、歴代のPTA役員、実行委員長の皆様に熱心に支えていただいたことに敬意を表すると共に深く感謝申し上げます。

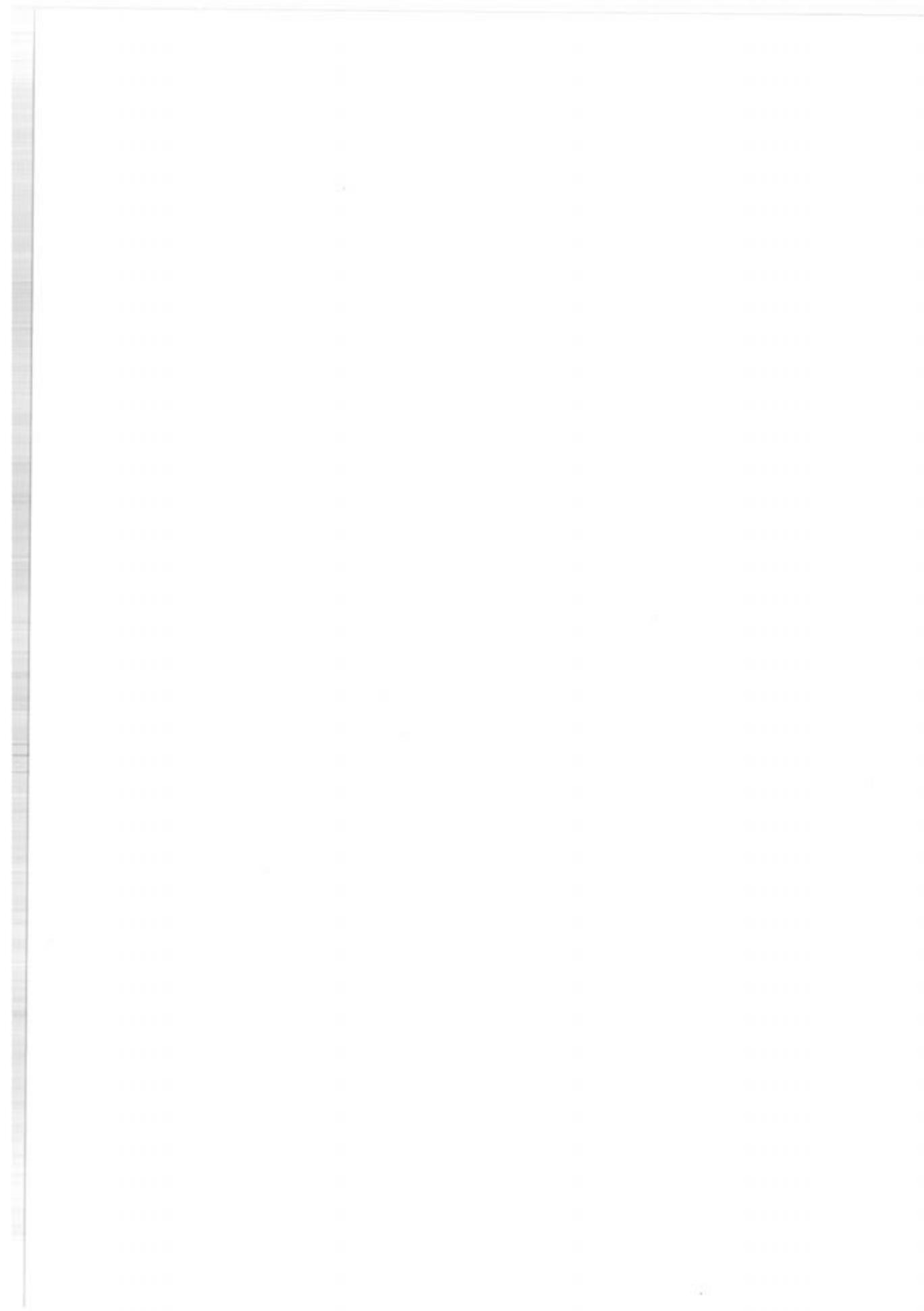
## For the Fulfilling PTA Activities

—Concerning Parents Seminars and Meetings—

KANAI Tomoatsu

One hundred and seventeen Parents Seminars have been held since the 1st Seminar began in the second half of Heise 4. You should know what kind of parents seminars were held before, and I'd like you to make a better plan for parents seminars. In the same way, I would like to introduce parents meetings held by PTA every summer. I hope that parents can understand the school itself and make a chance to exchange their information.

Key Words: PTA, PTA activities, Parents Seminar, Grade Meeting



# 教育実習の充実を目指して

## —— P T A 保護者と教育実習生の座談会 ——

かな い とも あつ  
金 井 友 厚

抄録：附属中学校の使命の一つである教育実習を一層充実させるために、教育実習生の指導講話の中に P T A 役員の保護者の協力を得て、教育実習生との座談会を企画した。その企画の実際の記録を紹介する。

キーワード：教育実習、指導講話、保護者、教育実習生、座談会

### 1. はじめに

本校は、大阪教育大学に附属する中学校で、教育実習を実施するという大学から特別の任務を担っている。また、教員の資質向上が求められている昨今、教員養成の充実も大学や附属にとって重要な課題となっている。そこで、本校では、教育実習の充実に向けて、実習期間の前に事前指導を行い、実習に入ってから教科指導や生徒指導・学校生活に関する種々の指導講話を実施している。さらに、教育実習生に新たな観点を与え、実習の幅を広げ、より教育現場にマッチした実習とするために、平成 22 年度の教育実習（いわゆる基本実習）から保護者が教育実習生に講話する企画を設定した。さらに、平成 25 年度からは、保護者の講話だけでなく、保護者と実習生が情報交換できる座談会の場も設定した。これから、そのプロジェクトの様子を紹介したい。

### 2. P T A 保護者の講話（平成 22 年度の教育実習～平成 24 年度）の誕生

例年、教育実習の初日に、オリエンテーションとして実習係から諸注意・諸連絡と共に道德、特活、総合、学級経営、健康教育などの講義を行っている。そして、副校长から本校の使命についても講義することになっている。あるとき、大学を卒業した新任の先生が赴任した直後に、保護者対応で学校をやめるという新聞記事を目にした。その時に、大学でも実施できない、附属のメリット（生徒がいる、保護者がいる）を活かした実習をしなくてはいけないと強く思った。そこで、教育実習中に保護者と触れあう機会を作りたいと考え、保護者から貴重な話を聞く機会を設定するに至った。保護者に協力を依頼するために、次のような内容の手紙を作成し、送った。

#### 【保護者への趣旨説明】

大学では教科教育を中心とした学習を行っている。教育実習は大学で学んだ知識

や理論を実際の学校場面で実践する貴重な機会である。教育実習を終えて、教員になり現場の学校へ出て行くが、そこで初めて保護者や地域と接することになる。保護者にとっては、いくら新任とは言え、一人前の教員として接することになる。そこで、懇談や教育相談を一つとっても、保護者への対応に戸惑いうまくいかないことが多い。そこで、近い将来教員になる大学生に対し、保護者からお話しのくだくことはとても意義深いことと考えられる。

#### 講話と質疑応答

テーマ「私が考える望ましい教師像（新任教員に期待すること）」  
お一人5分程度お願ひします。

### 3. 教育実習PTA講話「理想の教師像とは」

（1）平成22年度教育実習（基本）PTA講話 平成22年9月2日（木）

#### 【PTA副会長】

安心できる学校、先生

子どものことをどれだけ理解してくれているのか

子どもが見える→子どもが先生に心を開いている

人間的な魅力のある先生

授業についていける→楽しい授業

#### 【PTA書記】

大勢の前で話すこと要求されているので、自己確立をしてほしい

子どもは国の宝 家庭の宝として育てている 本物の先生になってほしい

情熱を待った先生に 新任は失敗しても大丈夫

困ったときに問題を1人で抱え込まないように 相談できる人を作る

目に見える現象の裏にあるものに思いをはせることができる先生に

ほめて育てることと 我慢ができる子に育てるこ

インターネットから

理想の先生とは いじめない 盗まない 生徒の質問に答えられる

理想の生徒（児童）とは いじめない 盗まない 九九ができる

思いを伝えることができる教師に

#### 【PTA会計】

「理想の先生というタイトルだが今日は対極にある先生のことを話します。」

① 自分の体験で、小学校の1年生の時に帰国子女で、横型のランドセルを持って行って、いじめの標的にあった。友達からいじめにあい、とうとう泣いてしまい、担任の先生に訴えに行ったときの先生の言葉にショックを受けた。その言葉は「私は泣く子は嫌いよ。」だった。

② 娘が小学校で受けたひどい体験談。ある男の子に注意をしたら、逆ギレされて、首を絞められたり、どつかれたりめがねを壊されたが、親もひどいモンスターべアレントで、めがねの弁償もしなければ、謝罪もしなかった。その子は、ちょっとしたことで切れるということで有名だった。先生も間に入って問題の解決を図ろうとはしなかったし、「被害にあったのがAさんでよかった。」と言っているくらいだった。

警察に相談したが、小学生のため、動いてはくれなかった。結局泣き寝入りの形になつた。

先生は子どもの人生に影響を与える。モンスター・ペアレントは増えている。

一本筋の通った先生になってほしい。

## (2) 平成23年度教育実習(基本) PTA講話 平成23年9月5日(月)

### 【PTA副会長】

ご主人のお父様は長らく教鞭をとっておられ、教養豊かで経験豊富で尊敬できる方であり、その方から「理想の先生」像を考えてみた。

いい先生とは

- ① 教科の指導力を持った人 知識、経験があり、指導力のある人  
生徒は勉強だけでなくいろいろなことを学びに学校へ来ている。
- ② 人格者であってほしい 生徒から信頼される先生  
友達の様な先生は気持ちちは考えられるが、同じレベルで接してはいけない  
人間の幅がある  
仕事としてではなく人間として本気で接すること  
子どもは先生が本気かどうかは見抜く力がある。  
ひいきをする先生は嫌だ 個性を大切にする先生に  
実習生であっても、先生として責任を持って接してもらいたい  
学力だけを上げる先生ではなく、温かい先生であってほしい。

### 【PTA会計】

理想の教師像は各家庭によって捉え方が違う

二人の娘に大きな影響を与えた先生を紹介します

・妹の先生 生徒に対して細やかな対応をしてくれる先生

ぎりぎりに学校に登校していた娘に「Bさん、今日は何でこんなに早いの?」と声をかけてくれた。「今日は朝食で好きなものが出ていたので、早く食べることができた」

・小さな変化にも反応(気付いてくれる)してくれる先生

5年生では内弁慶で学校では消極的だったが、この先生のお陰で、6年生では積極的になれた

・姉の先生 中2・3年のクラスが良かった 娘を通じてクラスの様子を知ることができた。本人の頑張ったことを具体的に褒める一親も安心する

クラスの友達の前でもうまく褒めてくれる→生徒も認め合うことができた

○二人の先生の共通点 見る力と発信する力を持っている先生

・クラス作りに尽力してくれる先生

### 【PTA書記】

「自分の生徒がこんな生徒だったらいいなと思う姿は?」

自分自身ができるかどうかを振り返ってほしい

親が自分の子にこんな風になってほしいと願うことは、先生が生徒にこんな生徒になつてほしいと願うことと似ている

親の言ふことはなかなか反発して聞かないが、先生や他人に言われて気付くことも多

い。（例）高校へ行かないと言っていた子がコンビニでバイト先のおばちゃんに「高校ぐらいは出とかないとダメだよ」と言われて、高校へ行きたいと言い出した。

### （3）平成24年度教育実習（基本）PTA講話 平成24年9月3日（月）

#### 【PTA会計】

子どもの6年生の時の素晴らしい担任の先生の紹介

40代半ばの女性の先生で、子どもに人生の先輩として、生きていく上で何を大切にすればよいかを教えて下さった。その先生は小学校でいじめを受けていたが、中学校でそれを克服した。大学入試にも失敗したが、頑張って先生になられた。

そんな経験を元に、生徒には失敗してもいい、チャレンジをすることの大切さを教えておられた。また、いじめは決して許さない、視線やちょっとした言葉も見逃さない。叱るべき時は、いじめがあった時は、思い切り叱り飛ばす。逆に褒める時は思い切り褒めておられた。スポーツも盛んで、スポーツの苦手な児童も参加させ、クラスが一致団結していい成績を収めることができた。学校行事にはそれぞれの児童に相応しい役を与えて、自信を持たせたり、クラスでの帰属意識を高めることができていた。児童は何事にも全力投球できる子になっていた。総合学習でも自分で勉強する力を付けて、自主勉強として出したノートが先生との交換日記になり、児童全員と心のやりとりを行い、悩みの相談を先生にすることとなった。

教員の世界だけに留まらず、学校外の人とも交流の場を持ち、多様な価値観を持つ事が大切です。なぜなら、先生が子どもに与える影響がとても大きいからです。

#### 【PTA書記】

附属での子どもの経験から

- ・教師は親よりも専門家として、子どもの真の心の声や変化を見逃さない
- ・保護者との密接な連絡 ・コミュニケーションをしっかり取る
- ・保護者は協力してくれる。
- ・姉の時に、学校に行きたくないと思う時期があったが、親は気付かず、毎日学校に連れて行っていた。学校では保健室に行っていた。先生が気付いてくれて、状況を教えてくれた。
- ・子どもを多方面から多角的に見るとその子の個性が見えてくる。
- ・親も教師も時として間違うことがある。その時には素直な気持ちになって過ちを認めること
- ・子どもはきちんと見ているものである。

#### 【PTA副会長】

金子みすゞさんの詩を引用して、みんな違っていい。恩師の先生方のお話から、女性の地位や家庭教育のあり方について話していただいた。

周りのことは見えてきているが自分のことが分からぬ子ども

爆発的な反抗心を持っている中学時代親も子も不安な時期である。こんな時に教師からの些細な言葉が大切、そして影響力がある。

機会を逃さず、声をかける。附高生になんでも見守る。

これが正に「天王寺中高学びのもり」



PTA 役員の基調講演



基調講演を真剣に聞く教育実習生



PTA 役員の基調講座



保護者と教育実習生のグループディスカッション

#### 4. 平成27年度の教育実習（基本実習）

平成27(2015)年度 基本実習 実施要項																	
① 実習期間 平成27年9月3日(水)～9月30日(火)																	
② 実習計画																	
(1) 事前打ち合わせ 平成27年7月2日(木) 10:00～ 佐藤・茅ヶ崎部長…会議室(会議室) 16:45～ 在籍打ち合わせ——各教科担当教員(各研究会等) (2) 会場点検 平成27年 10月5日(火) 17:30 (3) 開始式程																	
③ 施設講師 9月3日(水) 業務会議室																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>時 間</th> <th>内 容</th> <th>料 球 費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3, 4</td> <td>本校の理念、PTAとの交流</td> <td>無料</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>実習会期の説明会・説明会 講師・会員・平野貴重</td> <td>無料</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>被服教育</td> <td>無料</td> </tr> </tbody> </table>						時 間	内 容	料 球 費	3, 4	本校の理念、PTAとの交流	無料	5	実習会期の説明会・説明会 講師・会員・平野貴重	無料	6	被服教育	無料
時 間	内 容	料 球 費															
3, 4	本校の理念、PTAとの交流	無料															
5	実習会期の説明会・説明会 講師・会員・平野貴重	無料															
6	被服教育	無料															
④ 会場は、配当会議室で各自同窓会発表会を見学 12:40～終了																	
⑤ 教育実習分担																	
(1)受け入れ部署……………中島 研究部 (2)受け入れ部署-被片付時……………西田・吉村・山根・道加・宮川 朝・猪子(次回会議)、(次回会議)、(次回会議)、(次回会議)、 (次回会議)、(次回会議)、(次回会議)、(次回会議)、(次回会議) 丁度ロッカ一棟(びきり), 実習支用室もしくは廊下、待合室 自由昇降、他課間廊、指導課員が必要な部分を除く、学校敷地 (3)総会式-運動式……………伊藤・三輪・藤原 (4)公開授業 被片付……………武井・松尾・鶴 (5)評議会の作成……………笠原・河野 (6)評議会審査……………中・西・各教科教員 (7)被服教育……………高木・尾崎 (8)保育会……………別所 																	
⑥ その他																	
対面実習授業……………(1)報告の時間で跳躍 他 社 8時20分……………(2)報告の時間で跳躍 対面実習審査……………N2, N3																	

基本実習実施要項

## 5. P T A保護者と教育実習生の座談会

教育実習生と保護者との一層のコミュニケーションを図るために、平成25年度の指導講話より、グループディスカッションを取り入れることにした。そうすることで、保護者の講話は基調講演となり、その講話が話し合いのきっかけとなった。また、より積極的にディスカッションするために、1ヶ月以上前の教育実習事前指導の時に、保護者から聞きたい話や保護者と話し合いたい話題についてアンケートを取ることにした。実際にいろいろな項目があがってきた。

### (1) 実習生の事前アンケート

教育実習指導講話について P T A保護者から聞きたい話・話し合いたい話題

#### [聞きたい話]

- ・実習生だからこそ学校でして欲しいこと　・家庭での過ごし方
- ・家庭での学習時間はどのくらいとれているか　・保護者からみた求める教師像
- ・保護者からみた実習生　・自宅での学習について、部活動について
- ・附属に通うことの良さ　・平日・休日の生徒の過ごし方（家族で、友達と、その他）
- ・附属の学校の良いところ　・実習生に対しての不安などについて
- ・生徒の生活課題、どの程度の割合の生徒が塾通いしているのか
- ・生徒達の学校外での活動は、どんなことをしているか
- ・P T Aは学校と年間を通してどういう活動で学校と関わっているか
- ・特別な支援を要する子どもがいる場合、P T Aではどのように支えているのですか
- ・なぜお子さんを附属天王寺中に通わせようと思われたのか
- ・P T Aは主にどのような活動を行っているか　・教師にして欲しいと思うこと
- ・学校教員にどのようなことを求めるか　・教師に求めるものは何ですか
- ・附属天王寺中学校についてどのような学校であると考えておられますか
- ・どのような指導をして欲しいか　・生徒が家でどんな学校の話しをすることが多いか
- ・学校側に求めること（期待していること）
- ・保護者にとっての「学校」とはどのような存在なのか（大学進学のための機関であるか、集団生活での人格形成か）　・どのような教師を求めるか
- ・今の子ども達はどのような問題を抱えているか
- ・附属天王寺中学校には、毎年、実習生が来ますが、P T Aの方と関わる機会はありますか、どのような機会ですか
- ・天王寺中学校に子どもを通わせていて、良いところ、もっと良くして欲しいところ
- ・教育実習生に求めるもの、こと　・保護者からみたこの学校の様子、生徒の様子
- ・P T Aの業務内容、立場　・保護者側からみた学校の姿勢
- ・自分の子どもの教員に求めるとは何ですか　・学習塾には通っておられますか
- ・休日の過ごし方について　・「国語の授業」をどう思っているか
- ・学校の保健の授業で教えて欲しいこと　・家庭学習の様子
- ・教育実習生に求めること、不安な点は何ですか　・公立中学校との違い
- ・生活習慣（睡眠時間や朝食の有無）
- ・公立中学校ではなく、附属の中学校を選んだ理由は何ですか
- ・どれくらい密接に生徒と関われば良いのか（生徒との距離感）

- ・子ども達がどのように学校生活を送ることを望んでいるか

#### [話し合いたい話題]

- ・親として学校に求めること
- ・夏休みの生徒の様子
- ・休みの日の子どもの過ごし方
- ・技術に対する価値観（技術科）
- ・授業時間外（休み時間等）どのように生徒と関わるべきか
- ・生徒達の家の過ごし方
- ・子どもの生活指導について
- ・子ども達に必要な授業
- ・生徒達が英語の授業についてどう話しているのか聞いて、話し合いたいです。
- ・教職員とPTAとの連携について
- ・中学生を持つ親御さんが教員に望むこと
- ・理想の学校教員の姿とは
- ・部活と成績
- ・中3ということもあるので、進路や学習状況の話
- ・どのような面で学校を信頼しているか
- ・子どもの成長と学校の理念と一致しない場合、どちらを優先することが大切か
- ・学校生活を充実させるための保護者からの目線が欲しい
- ・これから必要とされる『教師像』について、保護者の方々と話し合いたいです。
- ・子ども達の様子
- ・学校との連携について
- ・学校に求めていることは

#### (2) PTA保護者と教育実習生の座談会の実際要項

保護者や教育実習生には次のような実施要項を作成し、本番に臨むことにした。

「理想の教師像についてーこんな先生になって欲しい！」

##### I. 目的

- ・保護者の話を聞き、求められる教師像を知ることができる。
- ・保護者と直接話し合うことができる。
- ・学校・教員に対する保護者の思いや願いを知り、子どもたちの教育を中心に据えた学校と保護者の連携を考えることができる。
- ・教育実習期間中の自分の目標を持つことができる。
- ・教員として身につけるべき資質について知ることができ、実習後に大学で学ぶべき新たな課題を見つけ、より深い学びに繋げることができる。

##### II. 日時・場所

平成27年9月3日（木）午前11：00～午後12：15

大阪教育大学附属天王寺中高 小講堂（南館3階）

##### III. 内容

1. PTA保護者の講話
2. PTA保護者と教育実習生とのグループ・ディスカッション

##### IV. 進め方 [総合司会は副校長]

1. 趣旨説明と進行説明〔副校長〕（2分）
2. PTA講話（10分）  
テーマ「理想の教師像とは？ こんな先生になって欲しい！」  
①PTA会計 ②PTA書記 ③PTA副会長
3. グループ討論（40分）〔司会は各グループから〕

- ①自己紹介 クラス、教科、名前、もう一つ情報を入れて
  - ②PTAの自己紹介と講演の補足や自分の意見を言って座談会を始める
  - ③教育実習生からの質問と保護者の回答、保護者から質問と実習生の回答
  - ④その他
4. 発表（12分）  
各班、1分程度でまとめる
5. 実習生代表挨拶（1分）  
座談会の感想とPTA保護者へのお礼の挨拶をする
6. 感想文（10分）  
「保護者との交流を終えて」を記入し、学年代表が回収し副校长まで提出する

### （3）PTA保護者の基調講演

- ① 平成25年度教育実習（基本）PTA講話 平成25年9月3日（火）

#### 【PTA会計】

- 二人の子どもとも「どんな先生がいい先生か」話して会ってみると、
- ・自分達の話を真剣に聞いてくれる先生
- ・自分達と対等に接してくれる先生—大人として扱ってくれる
- ・たくさんの子どもがいるが、自分のことも気にかけてくれ先生  
　例えば、テスト返却の時に、短いけれども一人ひとりにコメントを言ってくれる。
- ・子どもだけれども、一人の人間として、愛情を持って大切にしてくれる先生になってもらいたい。

#### 【PTA書記】

- ・小学校の先生になるつもりであった。それは、自分自身の小学校、中学校で、いい先生との出会いがあったからである。
- ・授業の上手なベテランの先生がいた。参観授業で、テンポのいい授業展開をしていた。次々に子どもに発言させるだけでなく、後ろで見ている親もあたるから油断できない授業であった。緊張感のある指導を目指してほしい。
- ・中学生は生意気で反抗心が旺盛な時期。冷めている生徒も多く、態度もふてぶてしく腹が立つことが多いかも。私は母親の立場として、少々感情的になって子どもと接していますが、皆さんは、そんな生徒に接しても子ども達に勝る強い精神力、忍耐力と体力をもち、決してキレることのない先生になってほしい。
- ・将来どういう道に進もうか迷っている子ども達も多いと思うので、自分が見たり聞いたり、経験したことをアドバイスできる先生になって欲しい。親の言うことは聞かないけれども、皆さんと生徒は年も近いので、真剣さは伝わります。
- ・教師になるか迷っている方もいるかもしれません、まず、自分のことを好きになり、自信を持ち、子どものことを好きになってほしい。
- ・教師になっても、他の仕事に就かれても、どれだけ辛抱できるかが大事である気がします。辛抱するのも才能の一つ。

#### 【PTA副会長】

- ・二人の娘の経験をもとに話します。自分から質問したりするのが苦手な生徒だったのが、

先生の優しい声かけのおかげで、積極的に質問できるようになった。小さなきっかけが彼女を大きく成長させてくれた。

- ・三者面談の時に勉強以外の学校生活に目を向けて、娘が気になっていたことをうまくアドバイスしてくれた先生がいた。より積極的に学校生活が送れるように、娘の小さなことにも気を配ってくださっていた。
- ・新任教員になったとは言え、一般社会人の常識を持っていることが大切である。座ったまま、目を合わせず挨拶したりするのはよくない。
- ・先生という立場上、いろんな人から見られていることを常に意識しておいて欲しい。

## ② 平成26年度教育実習（基本）PTA講話 平成26年9月3日（水）

### 【PTA会計】

- ・この春に我が子が入学しましたが、小学生の時と比べて、心と体の成長の著しさに親も戸惑っている。体もどんどん大きく大人並みになっていくし、心の面も大人の事情を理解しつつもそれに反発してみたり、頼りないくせに干渉されたくない、そんな子達に向き合っていく先生って大変な職業だなと思います。
- ・人生に於いていろいろな経験をして欲しいと思います。学生時代にできること、社会人になってできること、スポーツ、ボランティア、アルバイトなど、何でもいいです。自分で引き出しを増やしていき、子ども達から投げられるいろんなボールをうまく返すことができる、投げられた感情をうまく受け止めるができるように。豊かな心、人間としての奥深さはいろいろな経験から得られるものです。
- ・子ども達には夢を与えて欲しい。夢を与えられる存在であって欲しい。そのためには、先生方自身がどんな小さくてもいいから夢を持ち、それに向かって努力している姿を見せて欲しい。子ども達が夢を語るときにそれを受け止めて、背中を押してあげられる存在であって欲しい。
- ・実は保護者は先生の字のきれいさを厳しくチェックしています。先生の字がきれいだと嬉しいし、先生に対する印象が良くなります。先生を目指す皆さんは是非字を丁寧に、きれいに書くことを心がけてください。この夏休みに家族で鹿児島県の知覧にある特攻隊の平和記念会館に行きました。特攻隊員の遺品や遺書が展示されていました。内容もさることながら、書かれた字が本当にびっくりするぐらいみんなきれいでした。昭和の日本人の文化の高さ、意識の高さを感じました。そんな人たちが今の日本を作り上げたのだと思うと本当に感動しました。字をきれいに書くことは先生としてのプライドの表れでもあると思います。ぜひ、皆さんは、丁寧にきれいな字で書くことを心がけてください。

### 【PTA書記】

- ・今日はここに来るのをすごく楽しみにしていました。それは、私もここで教育実習をしたからです。残念ながら教師にはなりませんでしたが、ここで、過ごした時間は今でもとても大事なものだったと思っています。ものすごく楽しかった。
- ・ところで、皆さんはアルバイトをしたことがありますか。全員ですね。私も家庭教師やあんみつ屋さんのアルバイトをしました。当時は教授からお勧めされたアルバイトもありました。でも、それは結局、お金を貯めて、旅行したりするためのものでしたね。

これから教育実習を受けますね。社会人としての働き方は全然違います。何かをして役に立てるぞ。そういうことを何週間かしたときに覚えることになると思います。

・終わりに一つ保護者としてお願ひがあります。子ども達は、皆さんを専門教育を受けている教師の卵と思って見ます。お兄ちゃん、お姉ちゃんではありません。先生です。実際のところは、皆さんは、生徒との年齢は7つ8つしか違いません。でも、皆さんは先生で、大人で、子ども達は皆さんに近い未来の自分を投影します。だから、卵でも未熟でもプライドを持って過ごしてください。子ども達はしっかりとあなたたちを見ています。よろしくお願ひします。うちの子は2Bです。(教育実習生の笑い声)

#### 【PTA副会長】

・二人の後に話しますので、かぶる内容も多くなり、私の方は話すことが少なくなっています。今回、教育実習の先生方とこのような会に、私たち保護者も参加させていただき、とても嬉しい思っています。我が家の中学生は1年生と3年生です。附属天王寺小学校からずっとお世話になっています。附属小学校でも毎年教育実習を経験しています。毎年、教育実習の先生が来るという時期になると、子ども達はすごく嬉しそうにしていました。どんな先生が来るのだろうかと期待しているようです。ですから、特に低学年の時は、実習が終わり実習生の先生が去られるときに、泣いてお別れを惜しんだことを覚えています。でも、毎年、見ていましたら、だんだん年齢が近くなってきてているせいか、冷静に教育実習を受けているなという感じがしています。特に中学校になってからは、先生の教え方が上手だったとか、そういうことを教えてくれるので。先生方にとても関心を持って見ているのです。短い期間ですが、子ども達は、先生方と、とてもよく関わってもらっているなど、親としても感じています。子ども達は自然に振る舞っているように見えるのですが、皆さんが思っている以上にどんな先生かなと期待感をもって、想像していますので、教師になられる第一歩として、この教育実習の期間を頑張って過ごされて、これから未来の子ども達にとって素晴らしい先生になってくださいことを期待しております。

#### ③ 平成27年度教育実習（基本）PTA講話 平成27年9月3日（木）

##### 【PTA会計】

「理想の先生とは」という夏休みの課題をいただきました。子ども達の協力も得て考えてみました。

子ども達の意見から

公立小学校で4人の担任の先生にお世話になった中1の娘

担任の先生の良かったところ

字がきれい、どんなときもいつも笑顔でいてくれる、優しい、生徒目線で考えてくれる

良くなかったところ

字が汚い、機嫌が悪いときに顔や声に出てしまう、ひいきする

附属小・中で9人の担任の先生にお世話になった高1の娘

小学校の先生で良かったところ

字がきれい、授業がおもしろい（とても印象に残っている）、話がうまい、感情

に流されない

良くなかったところ

厳しい、怖い、喜怒哀楽が激しい

中学校の先生で良かったところ

注意の仕方がとてもうまかった、行事の時に積極的に応援してくれる、明るい、  
楽しい

人柄がとても大事だと思う、上から目線ではなく生徒目線の先生が理想かなと言っていた。

私が挙げる理想の先生

1. 優しさと厳しさをあわせもった先生でいて欲しい

いろんなお子さんがいるので、優しさだけでは対応できないと思う。

悪いことをしたときに、しっかりしかって欲しい。

叱るときは、感情ではなく愛情をもって、そのこのために本気で向き合ってください。

2. 尊敬できる先生になってもらいたい。完璧ということではなく、生徒が「この先生  
すごいなー」と思える何か一つでもいいので持っていて欲しい。

例えば、字がきれい、授業がうまい、バスケがうまい、サッカーがうまい

言うだけでなく何か実践ができているのが、子ども達から一目置かれる、存在感  
がある先生が尊敬できる先生になるのではないしょうか。

「ネットでの理想の先生は？」のベストアンサーで私が特に共感できるところ

先生になったらゴールではありません。なってからの方が修業の道です。先生だから偉いのでも、人格的に優れているのでもありません。常に学ぶ謙虚な気持ちが必要になります。

教育実習が有意義なものになることを祈っています。

#### 【PTA書記】

娘が中2と高1にいます。残念ながら教師になりたいと思ったことは一度もなかったので、大変なお話をいただいたと思ったのですが、自分の担任の先生や自分の娘の先生のことを思い起こしながら、理想の先生について考えてみました。

理想というのは、たぶんみんな違うし、一つではないということを皆さんに知りたいと思います。生徒も好きなことを言うし、保護者も「ああしてほしい」、「こうしてほしい」と仰るので、全部を吸収しようとすると、一杯一杯になって、教師という仕事が続けにくいくらい思います。

まず、先生としてはいい意味で自分をしっかり持って頂きたい。みんなの思いを満たすのは、一人の人間なので難しいと思います。みんなのいろんな言葉は受け止めつつ、自分が最初に先生になりたいと思った気持ちを思い起こしながら、「私はこうしていきたい、僕はこうしていきたい」という思いをもってください。その日その日も大切なのですが、1ヶ月、1年、自分が担任を終わった後も、生徒達はずっと大人としてみていくので、自分が伝えたいことをよく考えて教師という道に入っていって欲しいと思います。先生というものを、大人というものを「樹」に例えて考えてみました。

「幹」として自分の思いをしっかり持つ。今は学生で部活、授業、アルバイト等で大人

と触れあう機会がたくさんあるので、自分をしっかり育ててください。生徒や保護者、諸先輩方の声をたくさん聞いて、それを栄養として、一人一人生徒に合ったような花や葉をつけて、一人一人に指導して頂ければ、生徒がみんな付いてくれるのではないかと思います。自分をしっかりもっている先生に共感をしていくと強く感じました。みんなに好かれる先生が求められていると思いますが、それだけに拘るのではなく自分がこうしたいという思いを持っている人がいともいい先生になると思います。

折角、中学校の先生を希望していらっしゃると思うのですが、中学生はすごくいろんなことを吸収する年代だと思いますので、「あの先生こんなことを言ってたな」ということを与えてあげられる先生になって欲しいです。

今後の皆さんの活躍を期待しています。

#### 【PTA副会長】

卒業した高3の息子、中3と中1息子3人お世話になりました。

子どもの意見の方が、これから約1ヶ月、皆さんに有効かなと思い聞いてみました。

##### 1. 字がきれいな先生は取っつきがいい。

ノートを書くときに字がきれいでないと自分が苦労するらしい。なおかつ理解度も変わってくる。3人とも附属小学校の低学年からそれは意識していた。ノートだけでなく特に板書に注意してください。まっすぐ書けるか、わかりやすい配分で書けるかということも子ども達は結構厳しめに見ています。そこも練習された方がいいと思います。放課後練習していた先生もいたよということも聞きました。

##### 2. 授業のおもしろさ。

ひとつと教えてもらうよりは、授業を楽しく、この単元について何か残ったわという楽しい授業をしてもらった先生は、ああやっぱりいい先生やとの印象がつくようです。厳しい話ですが、実習生の教え方で、テストの成績に響く時もあると聞きます。中学生の頃を思い出して、生徒の興味を引く工夫をして頂けたらと思います。取っつきのいい先生は、授業もおもしろいし、授業内容もよくわかるということです。

保護者からお話しできることは、

大人との接し方で悩んで、折角の志を曲げて、横にそれてしまうということがあります。それは社会的な問題としても取り上げられている。確かに、保護者自体も変わってきたということもあるが、昔のように先生を奉っていたとか、先生は素晴らしい何でも言うことを聞くということではなく、保護者もやはり変わってきたので、先生方悩まれることが多いと思います。でも、自分の1本通ったものをしっかりと持っている先生というのは強いと思う。子どもが好きで学校の先生になるのであれば、人間自体が好きでないとこの仕事は続かないと思います。人間が好きだということを芯に持つて、万人に好かれなくてもいいですから、自分はこんな風に考えて、生きてきたということを言える先生は、子ども達に何らかの形で伝わると思います。その1本通った道をどこで身につけるかですが、やっぱり人間とつきあっていく中でしか身につけられないと思う。残された大学生活の期間で、一番自由がきくチャンスなので、できるだけいろんな人とつきあう、できるだけいろんな所に行く、本当にいろんな経験を

してから社会人になっていただきたい。それがいろんな場面で、智恵や力が湧く源になると思う。対人間、対いろんな状況に対しての経験の多い先生は強いと思う。そこをこの1ヶ月の実習や残りの学生生活の中で築きあげてください。社会人になった時に、そこから積み上げられるような人間のベースを作ってきて欲しい。すべての保護者と対応するのは難しいが、対応できなかつたときには、他の人の力を借りる、その時もやはりその人とのコミュニケーションになるので、コミュニケーションを取れるようになるためにもいろんな経験を積んでほしい。勉強だけでなく人間として厚みのある人間になって、学校の先生を選ぶにせよ他の職種を選ぶにせよ、人間を作ってきてもらえればと思います。あとは、ディスカッションの中で、他のお母様からいろんな意見を吸収して帰ってください。1ヶ月間頑張ってください。期待しています。

#### (4) P T Aとの座談会（グループディスカッション）〔平成25年度、平成27年度〕

##### ①「理想の教師像について—こんな先生になって欲しい！」記録

平成25年度 P T A保護者と教育実習生の座談会 平成25年9月3日（火）実施  
「理想の教師像について—こんな先生になって欲しい！」記録

##### 1班（実習生からの質問と保護者の回答）

###### ・P T Aの集まりでどんな内容を話し合うのか？

具体的な先生の話や学校生活等をP T Aの集まりで話すことはないが、役員をすると先生とお会いする機会が多くなるので、普段お話しできないようなことをお話しできる。中学校は保護者と先生が接する機会が少ない。P T A活動とは関係なく保護者同士で、先生の名前を出して話すこともある。

###### ・子どもの学習時間は？

ご飯、お風呂、TV後、21：30～机に向かう。 1：00まで起きることも  
塾は英語のみ子どもがやりたいと言ったから行かせている。

・勉強について 勉強しなさいと言いますか、子どもが自分から進んで勉強しますか？

上の子の場合、中学受験をしたいといい、進んで勉強した。やらなければいけないとをしなければならないという意識を持っている。

下の子は、上の子が学校が楽しいと言っているのを聞き、自分も同じ学校に入学したいと思ったようだ。

###### ・ネット社会の中での問題は？

ライン上で友達の悪口を言ったことが原因で不登校になることもある。先生の悪口を言ったことで、問題になったこともあると聞いた。生徒の意識として、ラインをやつていなかつたら、友達の話題に乗り遅れるという不安からラインをやらせて欲しいと言われる親が多い。

###### ・夏休みの宿題について、自由研究とかを手伝うのか？

実験は自分でやるが、まとめ方などは少し手伝った。上は3年目だから、自分で行った。50ページの研究ノートを作ったり、発表のために1年生は模造紙3枚用意する。2年生はパワーポイントを使って発表する。

###### ・学校行事について→生徒主体で取り組む、生徒が役割を決める。朝練をしたりもする。

・部活動について→あまり熱心ではないクラブが多いように感じられる。

2班 (Q=実習生の質問 A=保護者の回答)

Q: 参観ではどこを見ている?

A: 授業が分かりやすいか、興味を持って子どもは聞いているかを見ているが、先生に求めてることはそれだけではない。授業が下手でも、教え方の技術は経験と共にいくつくると思うので、まずは、子どもと一生懸命に関わってくれることが親にとっては嬉しい。

Q: 理想の教師像は?

A: 一人ひとりの何でも良いから良いところを見つけ、親にもそれを伝えて欲しい。若い先生へは基本的に先生を見守っているため、一人の保護者の厳しい言葉に弱気にならなくていいと伝えたい。

Q: 部活動について

A: 勉強の足かせになるとを考えている人は少なく、それよりも友達との絆を深めて欲しい。

Q: 携帯については?

A: 保護者も悩んでいる。

Q: 学校安全については?

A: 救急措置等には安心している。子どもには危険からすぐ逃げるよう指示。

Q: イジメについて

A: 特にイジメということではなく、ふざけて眼鏡を破損されたことがあった。本人がいいと言ったため、学校には伝えなかった。

近年「モンスターべアレント」という言葉がクローズアップされており、理不尽なことを言う保護者も一部いるかもしれないが、教師のことを見守っている保護者の方が多い。指導力は勿論必要だが、一人ひとりをきちんと見て、良いところを見つけ、誠実に向き合ってくれることの方が保護者も子どもも嬉しい。

3班 (実=実習生 保=保護者)

実: 保護者の方々から暖かく見守っていただける→教師側としては安心

保: 自分のやりたいことを一生懸命チャレンジすることが大切

実: 副教科に対する保護者の方の認識・求めるのは?

保: 生活で役に立つような指導をその教科を楽しく学べるようにすること

実: 生徒と先生の関係は?

保: 適度な距離が大切

保: 先生になりたいと思ったのはなぜ?

実: 小学校・中学校の頃の先生に憧れて。人に教える事のおもしろさ、楽しさ、嫌いだったもの(部活動)を好きにかえてくれる影響力、私もそうなりたいと思ったから。

保: 物わかりのいい子(優秀な子)ばかり見るんじやなくて、難しい子、おとなしい子などいろいろな子を見て欲しい。

実: 部活動に対する認識は?

保: 何かしらでも、部活動はやっていた方がいいと思う。

実：部活動に入ってないことでレッテルを張られることは？

保：この学校は割り切ってる人が多いのでそう気にならない。

#### 4班（保=保護者 実=実習生）

保Q：どうして先生になろうと思うのか？

実1：文学部などは興味が無く、唯一学校の先生に興味があった。

実2：小～高時代、学校、塾などで先生と仲良くて、好きだった。教科を教えたいという理由で中学校の先生になりたいと思った。

実3：体育の先生になりたい。大学でイジメなど学び中学校より小学校かなと思っている。

実4：中学の時英語が好きだった。

実5：小中の時、サラリーマンがしんどそうに思った。ゲームを作りたい時期があつた。中学の時、荒れた学校でその時の先生を良いと思った。

実6：数学がすごく苦手。ずっと教えてくれていた先生みたいになりたい。自分が受けた恩を還元したい。

実Q：どんな先生がいいか？

保A：子どもに聞いた回答として、優しい先生 公平な先生 一人ひとりをしっかり見てくれている先生

事実を見てくれている先生 明るい、元気などよりも、しっかり見てくれている先生

保：親から見て“地味”な人でも子どもには好かれる先生がいる。

実：引きつけられるような授業をすることは必要か？

保：必要。時には雑談も必要。でもウケを狙って自分をつくる必要はない。子どもは全てを見抜いている。

実Q：中学生の難しいところは？

保：反抗期。親にはあまり話さない。母親同士から情報を得る。

スクールカウンセラーの話では、男子はほっとく、女子はしっかり見てあげる。

実6：私の家では、ドアがなかった。秘密の持ちようがなく反抗期もなかった。男の子は外で発散できた。（この話に一同びっくりした。）

#### 5班

- ・内気な生徒の心を開くために、不特定多数の生徒に声をかけることが良い。
- ・専門教科はもちろんだが、日常生活をよく見て欲しい。
- ・家庭でどんな話をしているか、学校でどんな活動をしているか、懇談でよく話をしたい。
- ・生徒が嫌がる教師（教育実習生）[子どもたちの聞き取りから]
- ・ひいきをする ・化粧が濃い ・必要以上に内面に入ってくる
- ・なれ合いすぎで、ケジメをつけない ・中学生は外面も内面も見ている。
- ・心身に対応すれば伝わる。 ・先生の個性を出して欲しい。
- ・若いのでスキルやテクニックより元気を一番に頑張って欲しい。

#### 6班

- ・教師に求めること…真剣に生徒に向き合って欲しい。（生徒の声に耳を傾ける）

×…ほんの一場面を見ただけで、“いじめだ”と判断する。誤解だと訴える生徒の話を聞かなかった。その後、誤解だと分かり生徒に謝るが、それに対しての保護者への報告・連絡をしなかった。

○…普段は生徒をしっかり褒め、時に保護者へ生徒の悪いところも伝える（信頼できる先生だ！）“ルールブック”本から基本的なルールを生徒に教えてくれる。

・教師の保護者への声かけ “何かあればいつでも”などで安心できた。

・“愛情を持って叱ってくれた”ということがわかると保護者も生徒も嬉しい。

・“インターネット依存”親はついて行けないので、“若い先生だからこそ”そういったLINEやネットなどの使用についての指導に期待。

・生徒（子ども）は“夢をもっていない”わけではなく、たくさんあって1つに絞れないだけ。あと、どんな職業があるのかを知らない。たくさんの人と会うことで将来を考えるきっかけになる。

## ②平成27年度 P T A保護者と教育実習生の座談会 平成27年9月3日（木）実施 1班

P T A保護者から聞きたい話。

### ・生徒の様子や雰囲気

学校であったことを言わないうが、雰囲気や顔で分かる。また、楽しい時は、登校時間が早くなる等の変化が見られる。分陰気が悪い時は、保護者の方から楽しい雰囲気にしようともっていく。

### ・実習生に求めること

実習生同士の仲が良くあってほしい。⇒話しやすい。接したいという気持ちはあるが、かたい雰囲気では話しくい。掃除等、リラックスしているタイミングが話しかけるチャンス。思いきった行動力を持ち、積極的に生徒と関わってほしい。

### ・家庭での食育について

朝食は必ず食べる。中学生は塾通いで夕食の栄養が偏る。⇒野菜が摂れるように注意する。夏バテ対策もしっかりとを行い、食べる時間や食材毎に食べやすい方法も考える。

### ・子どもが学校生活を送る上で、心配に思うこと、不安に感じること。

仲間外れや孤立をしていないか。休み時間や登下校時の様子や過ごし方。親同士の情報共有で見えないところを、ちょっとしたことでもすぐに対応して知らせてくれるとありがたい。

## 2班

保護者：先生になろうと思っていることや気持ちがすごい。また、なんで先生になりたいと思ったか、ということを一番聞きたかった。

教育学部の学生は、先生と生徒の間にいて、子ども達に近く、よく見ることができるので、生徒達に何かを伝えることができるような特別な存在である。

実習生：生徒は学校外では、どの程度勉強しているか？

保護者：課題によって変わる。高校受験がないから、ガリ勉のような勉強はしていない、のんびりしている方が多い。家庭での学習については、自立の精神で勉強するようにと先生に指導された。

実習生：学校との情報共有はどのような方法で図られているのでしょうか。

保護者：小学校に比べて、先生と多く接することがない。問題がなければ、子どもから聞く。一般的な話を先生から聞く。

実習生：先生と保護者の連絡について。

保護者：中高では先生が直接話す。学年集会や学年懇談会で先生から行事の様子などをはなす。

実習生：中学校と高校のつながりについては？

保護者：いろんな小学校から入学してくるが、中高の6年間ずっと変わらないことが多い。池田、平野など他の学校とは違うのは、受験のしくみ。平野、池田も中学校から高校に受験して落ちることもある。中学生は高校生を見ながら上がっていく。高校生になれば食堂で食事ができるようになる。

実習生：附属中に入学させるときに不安に思ったことは。

保護者：不安はなかった。上の子がちょっとマイ・ペースで、小学校では問題と考える先生もいたが、中学校では、あまり問題とは考えないで、ゆっくりできるかなと思った。

実習生：塾と学校は違う。教師とは違う。塾は経営が第一で知識を生徒に注入する場であり、学校は人を育てる場である。学校は勉強もあるけれど、楽しめるところでもあると思う。

### 3班

- ・普段はクラブの他に夢中になっていることが多い。（ピアノ、コンクール、お稽古事）・宿題では文章を書くことが多い。そのことで発言もしっかりとし、筋が通っていることが多い。
- ・中高一貫であり、切れ目がなく友情も続く。慣れ親しんだ環境である。
- ・中学入試では音楽、図工、家庭、体育もあり、五教科だけでなく、家庭などの副教科も大切にしている。
- ・家庭の中での楽しみはテレビ、音楽（ピアノ、バンド）、ラジオ、絵画
- ・附中で満足していること、生徒に求めるところは、文章を書かせることである、嫌でも書くことになれていく。自分の思いを書かせることも多い。
- ・躊躇したときの解決策。自主性を大切にしている。やる子はやってくる。塾にいく子もいる。質問できる先生には聞きに行くが、聞きにくい先生には質問に行かず、友達に聞いたり、ほったらかしにしてしまうこともある。
- ・クラブ活動は緩い。勝つより楽しんだり、人間性を育むことが主である。
- ・将来について。自分のことは自分で。将来の為の訓練にはなる。文理選択がない。何になりたいか考える機会があまりない。
- ・交友関係について。女子は自分から話してくれるが、男子はやはりうすい。

### 4班

- ・中学生を子ども扱いしない。
- ・教育実習での目標
- ・しかし方を学びたい。（ルールを守れなかつたときにどうするのか）
- ・教師の楽しさを実感したい。

- ・クラス全員の子と1回は話したい。
- ・先生の動きを見たい。
- ・静かな子の意見の引き出し方を学びたい。
- ・学級経営をどうしていくのかを見ていきたい。

Q. 実習生が授業することについて不満は？

A. 子どもにとてても社会経験となる。不満はない。教育実習生しかできないことを。文字にまとめる。3学期に一丸となるかは、先生次第。

Q. 家庭で進路についてどのように話をしているか。

A. 生きる力と幸せを感じる力を持って欲しい。この2つを中心に物事を考えて欲しい。あらゆる道を示してあげている。“好き”という気持ちは強い。その“好き”を見てあげる。→判断の手助けをしてあげる。子どもはよく見ている。子どもだが、子ども扱いしないようにしている。“楽しむ”ということは大切なこと。これが正解というものはない。“すきだからできる”を大切に。

Q. 学校の安全対策について感じること

A. ここ(天中)の意識は高い。Kさんは、3.11を機に大阪へ。家で命の話をよくされる。今の自分たちがあるのは、周りの人々のお陰。バーチャルの世界だけで生きず、現実だと言うことを理解する。学校が安全だと信じきらない。

1学期、バラバラだったクラスでも、担任の先生の熱意と関わり方によって、クラスのムードが変わり、3学期にはクラスが一丸となり、先生も子どもも素晴らしい成長を遂げられる。という実例を保護者としていろいろと見てきました。また、逆の場合もあります。その場合はぜひ、ぜひ保護者や家庭の力も借り、良い方向へと導いて行ける指導者となって頂きたいと思います。

## 5班

失敗を恐れないでほしい。子ども達に年齢が近い分、コミュニケーションを取って、いろいろな部分を引き出してほしい。

Q. 国語教育について、教員と実習生の違いから求めるもの

A. 物語文が苦手、性別が違うと感情がわかりにくい。おすすめの本などがあれば教えて欲しい。生徒達が実習生に対して別れたくないと思えるように実習を過ごして欲しい。本気でぶつかって欲しい。印象に残るような先生であって欲しい。

Q. 副教科で育めれば良いと思う力

A. 有名な曲、絵などに取りあえず触れてみる。普段目立たない子が目立ったりする。学校でそういう機会が与えられるのは良いと思う。

Q. 実習生と生徒の関係性

A. SNSでのつながり、法的な縛りはないが不快。生徒の意を汲んで欲しい。入り込みすぎないことも大切。

Q. 体育へのモチベーション

A. 体育は好き。教員の気持ちに応えるはず。

Q. 保護者に対して

A. あくまで人と人なのでコミュニケーションをしっかりとる。

## 6班 (保=保護者 実=実習生)

・家庭での子ども達の生活は？

—レベルの高い発表などはしていたが、普段は何気ない中高生。わざわざ気に入られようとするのではなく、何か自分らしく伝わるものあればいい。

・塾の利用具合は？

—学校の勉強をメインでさせたいため行かせない方針。

・子どもが学校で学んで欲しいことは？

—友達、先生との関係や倫理的なものを学んで欲しい。トラブルなどをふみながらの人間関係。

・PTAの仕事は面倒なことでは。どんな気持ちなのか？

—やると決まった以上、子ども達が快適な学校生活のため周りの保護者のために尽力したい。はじめは不安にもなるが、やってみれば楽しかったりということもある。

・先生になろうと思ったきっかけは？

—予備校の先生の授業が上手だった。当時の担任の先生がとても良かった。いずれ役立つことを学んでほしいから。

・日本社会、保護者との関係にめげずに未来を作ると思ってこれからの人達を育てられるように、今の自分を忘れずに頑張ってほしい。自分の考えをもって、突き進んでほしい。

・実習生に任せるのは不安では？

—特に不安はないが、字をきれいに書いたり、一方的な授業にならないように。中高になると、目線も厳しくなるので、分かりやすい授業や余裕を持った授業計画が良い。



保護者と実習生の座談会



各グループの発表

## (5) 教育実習生の感想

### ①【実習生女子A】

保護者の方々との交流は、私にとって非常に貴重な機会となりました。教師は、保護者の方々の大切なお子様を守り、育んでいくという使命があり、保護者の方の意見や想いを理解し、共に子供達を育てていこうといった姿勢は大変重要であると考えます。交流の中で、保護者の方々は子供達のちょっとした変化などの気付きをとても大切に思っておられるということがわかりました。教師は日頃から保護者の方々との関わり合いを大切にし、連絡体制を作り上げていく必要があることを改めて感じました。また、教師になるにあたって、人間的に成長しなければならない、と強く感じました。「一本筋の通った」教師となるために、様々な経験を通して自分を高めていく努力を継続していきたいと思います。子供達

は、私達が思っている以上に、私達の言動をよく観察しているのだ、ということを保護者の方々からのお話からも窺うことが出来ました。一人の「大人」として「教師」としての自覚をしっかりと持ち、実習に取り組みたいと思います。

②【実習生女子B】

中学生という発達段階においても敏感な年齢の子供達に対して、保護者の方がどのように考え方供達に接しているのかを聞くことができて、非常に良い経験になりました。私自身、進路のことで両親に大きな心配をかけたので、親の立場、保護者の立場から生徒の進路をどのように考えているかをお伺いしました。保護者の思い、生徒の思いを受け止め、役割にもなり得るのだと気づきました。また生徒にとって“学級”が非常の大きな意味を持っていることから、本実習では、学級経営について学びたいと思っています。生徒らの家庭での会話でも、学級のこと、行事のことが多いようです。保護者、教師、生徒という様々な立場から学校というものを考え、実習に活かしていきたいと感じました。最後に、保護者の方から、「子どもを好きになるということは、人を好きになること。たくさんの人と関わりを持ち、経験を積んで教師になって欲しい。」とお話ししていただきました。生きしていくことすべてを学びにし、理想の教師像を追いかけたいと思いました。

③【実習生男子A】

保護者とディスカッションをするのが初めてでしたが、想像していたよりもはるかに優しく、また厳しい方ばかりでした。学校に求めるものとして、「大人のモデル」として、先生また実習生に規律のある態度でいてほしいとのことでした。自由研究の発表を見て、本当にレベルの高い生徒達だなあと実感しましたが、家では普通の子どもであることに変わりないと保護者の話を聞いて、交流がたくさんできれば良いと思いました。授業に関しては、何事も「全力」で、実習生らしいactivityなどを工夫を凝らしてみたいと思いました。失敗を恐れるなど保護者から言われたのもすごく力になりました。

④【実習生男子B】

PTA保護者の方へお話をいただき、「理想の教師像」など、まだまだ自分は力不足で、不安になってしまう内容かとも思ったが、「しっかりと自分を持つこと」や「常に学び続けて欲しい」など、信念を教えていただき、すごく前向きな気持ちにさせていただきました。正直、「実習は失敗するもの」だということがわかつても、失敗を恐れている自分がいます。失敗を恐れないと言うよりも、何事にも積極的かつ、挑戦的な姿勢でのぞみたいです。教師の使命である、「子ども達の生きる力を育てる」ことを大変難しく重要なことであると共に、やりがいのある素晴らしい仕事であるととらえていこうと思いました。学校という場ではもちろん学習面も大切だが、人間関係や倫理的思考・行動を養うことが大切であると、保護者の方々におっしゃっていました。実習生という生徒と年齢の近い分、コミュニケーションをとり、生徒の持っているものを引き出していきたいです。生徒が大人のモデルとして、理想像を抱けるよう、一生懸命本気でぶつかっていきたいと思いました。

⑤【実習生女子C】

保護者の方々の理想の教師像についてお話をいただき、教師という仕事を信頼してくれている、期待して下さっていると実感しました。また、色々な経験をして引き出しをたくさん作って欲しいというお言葉に強く心に残りました。教師になるまで、色々なことに勇

気を振り絞って挑戦していきたいです。そして、子ども達にとって、魅力的で刺激的な存在を目指します。グループ討論では教師になるまでの不安をグループで共有し、保護者の方の意見を頂いたことで、少しばかりその不安が自信に繋がったのではないかと思います。短い時間でしたが、とても貴重な時間でした。学校現場において、このような現職の先生方と保護者の交流の場はあまりないと思いますが、このような場を作ることでさらに学校と家庭が協力してやっていけるのではないかと考えます。

#### ⑥【実習生男子C】

保護者との交流というのは、教育実習生としてなかなかできない経験なので、学んだことがとても多かった。学校行事にPTAとして、積極的に参加してくれることを考えると、教育熱があるという風に感じた。子どものために一生懸命になれる方々であると思った。その分、学校に対して要求することが多くなってくるのではないかと思う。学級通信や学校の様子を映したビデオなどは保護者と学校を繋げるツールになることを実感した。教育実習生に対しても、親の世代にはわかりにくいスマホやインターネットの問題について指導して欲しいという期待を寄せてくれたことが嬉しかった。実習生として、頑張ろうという気持ちにさせてくれた。また、教師を目指しているという前に、社会人として行動してほしいという想いも語って下さった。人としての成長が子どもへ影響するのだろうと思った。

#### ⑦【実習生男子D】

今回PTAの方々のお話を聞くことが出来て、とても良かったです。教職現場に就く前に実際の保護者の方とお話しができる機会なんてそうそう無いので、とても貴重な体験ができ、勉強になりました。保護者の方の話を聞き、生徒一人一人をしっかりと見て、教科指導だけでなく人間性の成長についても指導できる先生が良い先生であると感じました。その為に教師自身いろいろな経験をすること、同時に生徒達にいろいろな経験をさせてあげられるような力が必要であると感じました。保護者の方と生徒から信頼を得られるような先生になるために誠実に関係性を築いていきたいと思いました。もう少しお話しを聞きたかったと思いましたが、貴重な体験が出来たと思います。

#### ⑧【実習生女子D】

保護者の方のお話を聞いて、保護者の方々は学校を温かく見守り、支えて下さっているということがよくわかった。色々な人生経験を積んでほしいというお言葉を頂き、残りの大学生活においても、教員になった時に為になるような経験をしていきたいと思った。中学生になると家族よりも友達を優先し始めたというお話を聞いて、学校、教師と家庭が繋がる機会を多く持つことが大切だと思った。家庭で学校の話をすることが少なくなる分、学校から伝えることが出来れば、保護者の方が安心できるということがわかった。養護教諭としては、担任の先生よりも保護者の方と関わる機会が少ないが、命に関わることを扱うこともあるため、報告、連絡、相談が必要であると改めて感じた。

### (6) 保護者から実習生への手紙

#### 【保護者A】

実習生の皆様へ

先日は座談会にて学生さん達とお話しができ、とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。また私もたくさんのこと学ばせて頂きました。ありがとうございました。

将来の目標が決まり、それに向って進んでいる皆様はとても生き生きとされていてすてきだと思いました。

実習が始まり一週間が過ぎましたが、附属天王寺中の雰囲気に慣れましたか。子どもに学生さんとのことを聞いてみました。(男子なので口数が少ないのですが...) 授業は科目にも寄るけれど楽しい。板書は丁寧に書こうと心掛けている様子がよく分かる。授業以外でも話しかけてくれるので嬉しいと申しております。中学生にとってもよい刺激になっていると思いますし、将来就きたい職業の一つの選択肢になってくれているのではと思います。

将来の日本を担う子どもたちを育てる大切なお仕事です。失敗を恐れず(失敗は若いうちにたくさん経験しておいた方がよいと思います。) 色んな事にチャレンジしてすてきな教師になってくださいね。応援しています。

#### 【保護者B】

拝啓

初秋の候、

(中略)

さて、先日は教育実習生の感想文のコピーを届けて頂きました、誠にありがとうございました。とても短い時間ではございましたが、実習生の皆様の真摯なお姿を拝見し、又短い会話のなかからも、皆様の誠実なお人柄に触れることができ、嬉しく思っております。保護者からの質問の場面で、「なぜ教師になろうと思ったのですか?」という問にも本当に正直に答えて下さいました。ご自分の思っていた道とは違う選択をしなければならず、第二の「教師」という道を選ばれた方も、「やはりこの道を選んで良かった」と思える人生を歩んで頂きたいと心から願っております。

本気で向き合って頂ければ、必ずその本気は、生徒にも、保護者にも伝わります。これから社会はいろいろと問題の多い難しい社会になると思いますが、若い皆様には希望と勇気をもってまっすぐ進んでいいって欲しいと思います。

貴重なお時間を戴き、ありがとうございました。

末筆ながら、今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

まずは 書中にて、御礼申し上げます。 かしこ

#### 6. おわりに

近年、世界がどんどん狭くなり、日本でもグローバル人材育成の必要性が高まっています。それに伴って、ICT教育、アクティブラーニング等々新しい教育方法の必要性が叫ばれています。一方では、経済的格差による子どもの貧困化やインターネットやSNSを

使ったいじめの問題も複雑に絡み合って、私達にとってもとても大きな課題となっています。そこで何よりも大切なことは、子どもを中心に据えて、大人が力を合わせてよりよい教育システムや教育環境を整えていくことです。そのためには、子どもに関わる一人一人の教員の資質向上が欠かせないのです。また、教員養成のあり方が一層大切なことと思われます。今回の教育実習における企画は、よりよい教員養成を志向しておられる文部科学省の方からも、PTA保護者の協力を得た有意義な活動であると好評価を頂戴しています。この企画がよりよい教員を輩出することに少しでもお役に立っているのであれば幸いです。最後に、この企画に快くご協力いただいたPTA保護者の皆様方に厚く御礼を申し上げたいと存じます。

## For the Better Teaching Practice

—A Discussion Project between Parents and Student Teachers —

KANAI Tomoatsu

For these past six years, a discussion project has been made in order to make a teaching practice which is one of the duties attached schools should improve with PTA's cooperation every year. Student teachers taking part in the discussion seem to listen to the precious stories from parents directly, get many kinds of information and develop themselves. I would like to leave the real record of the project in this paper.

**Key Words:** teaching practice, guidance lecture, parents, student teacher, discussion meeting

# 〈本質的な問い〉にせまる

## ——「深く読む」のメタ化——

かわ た りょう こ  
河 田 良 子

抄録：「習得・活用・探究」という学びの段階を踏みつつ、生徒たち自身の、文学作品を〈深く読む〉行為と、「〈深く読む〉とはどのようなことか?」という、本質的な問いの追究を関連付けた単元を行った。生徒の書いた批評文を生徒たちが相互評価するなかで「〈深く読む〉とはどのようなことか?」という問い合わせにせまり、〈深く読む〉ということをメタ化することをめざした。

キーワード：国語科教育、文学教育、読むこと、評価

### 1. はじめに

指導要領の改訂に先立ち、「思考力・判断力・表現力等」の育成について、「習得と活用・探究」が「相互に関連しあって力を伸ばしていく」学習の重要性が指摘されている。<sup>1</sup>

また、知識偏重型の「従来型の学力」に対して、新しい学力は、「基礎的な知識及び技能」「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」「主体的に学習に取り組む態度」をその「三要素」とするもので、高等学校において必要な学びについては、次のように説明されている。

- (i) これから時代に社会で生きていくために必要な、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を養うこと
- (ii) その基盤となる「知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」を育むこと
- (iii) さらにその基礎となる「知識・技能」を習得させること<sup>2</sup>

このように、学習における「習得・活用・探究」という段階が意識されるようになってはいるが、国語科、特に文学を扱った授業において「探究」とはいったいどのような営みで、どのような力をつけることを期するものなのだろうか。

<sup>1</sup> 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」平成26年9月

<sup>2</sup> 中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」(答申) 平成26年12月

## 2. 実践の概要

高校1年国語総合において、「習得・活用・探究」という学びの段階を踏みつつ、生徒たち自身の、文学作品を〈深く読む〉む行為と、「〈深く読む〉とはどのようなことか?」という、本質的な問いの追究を関連付けた単元を行う。使用教材は、中島敦「名人伝」および、井伏鱒二「山椒魚」である。

生徒は、中島敦「名人伝」においては、講義を中心とした授業の中で、〈深く読む〉ための着眼点やアプローチを獲得し、ひとつの作品にいくつもの「読み」が存在するのだということを学ぶ。井伏鱒二「山椒魚」では、「名人伝」で学んだ着眼点やアプローチを用いながら、議論を中心とした授業の中で各自の読みを構築し、小論文で表現する。書かれた作品を相互評価する中で、「〈深く読む〉とはどのようなことか?」という問い合わせまり、それまでさほど意識することのなかった／感覚としてはつかんでいた〈深く読む〉ことをメタ化する。

## 3. 教材観

中心教材は、中島敦「名人伝」および井伏鱒二「山椒魚」である。これらの作品はいずれも、ストーリーをつかみやすく、しかも、多様な解釈が成り立つ。

「名人伝」は、(①主人公の紀昌が『天下第一の弓の名人』を志す ②弓の名手である飛衛のもとで修行を積む ③目的を達成するために師である飛衛を除こうとする ④企ては失敗し、飛衛はさらなる弓の名人である甘蠅老師の存在を紀昌に教える ⑤紀昌は、甘蠅老師の『不射之射』に感銘を受け、師のもとで修行する ⑥都に帰った紀昌は弓に触れることがなく、にもかかわらず、高まる名声の中で老いて、死を迎える ⑦老境の紀昌は弓という名もその使い途も忘れており、それを知った楽人や工匠は自らの道具を捨てた)という内容の小説である。

この共通認識をもとに、授業では、〈ストーリーとプロット〉(枠)〈コード〉(語り手)〈構成〉(象徴)〈描写〉等の批評用語を用いつつ、「紀昌が、技量や精神力を獲得することではなく捨て去ることで、老荘思想における理想的人物になった物語」、「語り手や飛衛、都の人々が、理解を超えた存在になってしまった紀昌を『名人』に祭り上げる物語」、「紀昌に弓で敗れた飛衛が、紀昌を故意に甘蠅老師のもとへ送り、弓を忘れさせた物語」「中島敦が、挫折の多い自らの人生の対極にある生の姿として描いた物語」という四通りの解釈を示し、「〈深く読む〉とはテクストの空所を一つの軸に沿って解釈し、新たな『物語』として自分の中に位置づけることである」ということを生徒が感じられるようにした。

「山椒魚」は、(①岩屋から出られなくなった山椒魚が嘆く ②杉苔や錢苔を疎んじ、小魚を「不自由千万」だと断じる ③産卵する小えびを馬鹿にする ④脱出を試みるものの失敗し、再び嘆く ⑤蛙を閉じ込める ⑥蛙を出してやろうとするものの、蛙は衰弱していた ⑦死を目前にした蛙から「今でもべつにおまえのことを怒ってはいないんだ」と聞く)という内容の小説である。

この共通認識をもとに、初発の疑問について班で議論することをとおして、各自が「自分の読み」をつくる機会を設定する。特に、「場面ごとに山椒魚とかかわる事物が、それぞれ何を象徴しているのか」、「なぜこの物語には〈発端〉や〈終息〉、〈結

び〉がないのか」、「語り手はなぜ、ここまで徹底的に山椒魚に寄り添うのか」、などは、生徒から多く出てきた視点である。

話し合いをふまえて書かれた小論文を分析する場面では、生徒たちは、他の生徒の小論文をとおして、さらにさまざまな読みに触れる。自分と同じ視点からより洗練された読みや、自分とはまったく異なるアプローチをしている読みと、内在する自分の読みをかかわらせ、より豊かな読みにつなげる一方で、読むためには、ストーリーの内容や語り手の言葉を大まかにつかむだけでなく、細部にこだわって読んだり、作品の背景となる社会状況や、作家についての知識、現代社会とのつながりをつかむ俯瞰的な視点をもったりするなど、多用な思考の枠組みが必要であることに思い至らせたい。

#### 4. 目標

従来の領域のほか、「習得・活用・探究」いずれの段階にあたるかということも示す。

- ア. 「名人伝」「山椒魚」を読み、積極的におもしろさや疑問点、解釈を見つけるとする。(関心・意欲・態度)
- イ. 読むためのさまざまな視点やアプローチ、および、視点やアプローチの違いにより多様な解釈が生まれるのだということを知る。(読むこと／習得)
- ウ. 議論をとおして自分の読みをつくったり、より説得力のある読みにしたりすることができる。(読むこと／活用)
- エ. 自分の考えを話したり、他人の考えを聞いて自分の考えに反映させたりすることができる。(話すこと・聞くこと／活用)
- オ. 自分の読みを小論文という形に書き表すことができる。(書くこと／探究)
- カ. 「深く読む」ことについての自分なりの観点を意識して、小論文を評価することができる。(読むこと／活用～習得)
- キ. 小論文の評価をとおして、「深く読む」ことについて自分なりの観点をもつたり、広げたり深めたりすることができる。(話すこと・聞くこと／習得～活用)
- ク. 「深く読むとはどのようなことか」という本質的な問いに対し、より高い水準での理解を獲得する。(読むこと／探究)

#### 5. 単元構成

第一次 「〈深く読む〉とは何かを考える」

第一時（前半） 〈深く読む〉を自分なりにことばにする

第二次 〈深く読む〉ための方法を獲得する

第一時（後半） 「名人伝」を読み、初発の感想をもつ

第二～六時 「名人伝」のさまざまな読みを知る

第三次 獲得した方法を用いて 〈深く読む〉

第七時 「山椒魚」を読み、初発の感想をもつ

第八～十時 自分なりの「山椒魚」の読みをつくる

第十一時 「山椒魚」の小論文を書く

第四次 再度「〈深く読む〉とは何かを考える」

第十二時 小論文を相互評価する

第十三、十四時 小論文の分析をとおして、〈深く読む〉をメタ化する

## 6. 実践

第一次 「〈深く読む〉とは何かを考える」

第一時（前半）〈深く読む〉を自分なりにことばにする

オンライン学習システム moodle を用いて「深く読むとはどのようなことか」という問い合わせに答えさせた。

当初は単元の到達点を「〈深く読む〉とは〈ストーリーの空所を、一つの軸に沿って解釈し、新たな『物語』として自分の中に位置づけること〉だと認識させる」ことにおいていたが、この時点で既に「読む=再話行為」という認識に基づく回答が多く見られた。

第二次 〈深く読む〉ための方法を獲得する

第一時（後半）「名人伝」を読み、初発の感想をもつ

moodle を用いて『『名人伝』をひとことで表すと『何の物語』だといえるか』、「疑問」、「感想」を答えさせた。「名人伝」を「紀昌が名人になる（ことに成功した）物語」だとする意見と「名人になろうとしたが、なりきれなかった物語」だとする意見の両方が見られた。

第二時 紀昌がめざした「名人」とはどのようなものか読みとる

第一時の意見を集約したものを配布し、「名人伝」の読みについて「紀昌は名人になったのか」という疑問が一つの論点になりそうだと告げた。また、作品冒頭を読み、弓の象徴するものから紀昌が目指したのは武力や強さであったこと、時代設定から紀昌が弓による立身出世を望んでいた可能性があること、「師となるべき人物」を「物色」し、「名手」である飛衛を選んだことから、やはり紀昌が技や名声に強く固執していたことを確認した。

第三時 飛衛のもとでの修行について、飛衛と紀昌のかかわりを読みとる

自宅での修行と飛衛のもとでの修行の様子から、飛衛と紀昌の関係について、①飛衛は紀昌を熱心に指導し、紀昌は飛衛の期待どおりの成長を遂げた、②飛衛は紀昌を指導し、紀昌は飛衛の期待以上の成長を遂げた、③飛衛は紀昌をほとんど指導しておらず、紀昌はもともと飛衛に匹敵する技術を身につけていた という 3通りの読みを示した。

第四時 甘蠅老師について、『列子』や老荘思想から考える

甘蠅老師について、その描写や修行前後での紀昌の変化を確認したのち、『列子』第三章および五章、十四章を示し、甘蠅老師が老荘思想における理想的人物で、紀昌は修行により忘我の境地に至ったという読みができるることを示した。一方で、「そうとは限らない」ことについても言及した。

第五時 紀昌は本当に「名人」になったのかを議論する

「紀昌は名人になったのか」という議題で、クラス全体による指名なし討論

を行った。特に議論になったのは、「名人の定義」「当初の目的と異なる結果をどのようにとらえるか」「尊の信憑性」「木偶のようになつたのか、木偶になつたのか」等である。



議論の様子



板書

#### 第六時 「名人伝」の様々な読みの可能性を提示する

ワークシートを配布し、前時の議論について、なぜ意見が分かれたのかということを〈ストーリーとプロット〉〈空所〉という言葉を用いて説明した。さらに、批評用語を示しながら、それぞれの〈空所〉を補って成立しうる3つの読みについて説明した。

一つめの読みは「紀昌=名人」という読みである。これは、「弓の名人を志していた紀昌が、飛衛のもとでの修行を終え、より高みをめざすべく甘蠅老師のもとに向かうが、そこで『不射之射』が象徴する老莊思想における『至人』像を体現する老師に感銘をうけ、自らもまた『至人』となった物語」という読みで、題名や主人公、構成や語り手が示す〈コード〉に即した読みにより成立するということを告げた。

二つめの読みは、「紀昌≠名人」とする読み方のひとつで、「優れた弟子に命を狙われた飛衛が、その復讐として、謎の老人である甘蠅老師のことを教え、紀昌が弓を忘れるよう、故意に仕向けた物語」であるというものである。これは、先ほどの〈コード〉を疑う読みであること、また、『列子』では師弟関係があつた甘蠅と紀昌について「名人伝」では言及されていないことや、飛衛と紀昌の和解について過度に擁護的に語る語り手などに着目することにより成立しうる読みだということを説明した。

三つめの読みは、これも「紀昌≠名人」とするもので、「木偶に成り下がつた男を、『名人』として祭り上げる人々の愚かさを描いた物語」だという読みである。これは、紀昌や甘蠅老師の人物像というよりは、むしろ都の人々の様子や語り手に着目した読みで、弓の名手→知識人→商人……というように、権威的な人物から順に尊が広がっていることや、紀昌の名人性に対する一抹の疑いをもち、それを打ち消すように、紀昌が弓を忘れた挿話に加えて「画家は絵筆を隠し、楽人は瑟の弦を断ち、工匠は規矩を手にするのを恥じたということである」とまとめている語り手の迷いに着目することで可能になるものだと説明した。

さらに、読みの方法として「作家論」、「作品論」、「テクスト論」の3つを示し、たとえば「作家論」的立場からは、「『名人伝』は中島敦が、挫折の多い自らの人生の対極にある生の姿として描いた物語」という読みが可能になること、「作品論」としては、「紀昌=名人」の読みが妥当だと考えやすいことも補足した。

### 第三次 獲得した方法を用いて〈深く読む〉

#### 第七時 「山椒魚」を読み、初発の感想をもつ

「名人伝」の学習と同様に、moodle を用いて『山椒魚』のあらすじのほか、「ひとことで表すと『何の物語』だといえるか」、「疑問」、「感想」を答えさせた。「孤獨な山椒魚の物語」だととらえる読みと、「山椒魚と蛙の友情物語」だととらえる読みが多く見られた。

#### 第八～十時 自分なりの「山椒魚」の読みをつくる

第八時は、各自が moodle に入力した内容を反映したワークシート（資料5）および「初読の問い合わせリスト」（資料6）を配布し、5～6人の班で追究する疑問を決める時間をもった。このとき、ストーリーの共通認識をもたせるために、それぞれの班で複数人が「あらすじ」の読みあげをすること、班で追究する3つの疑問のうち、〈人物〉〈語り手〉〈象徴〉などの「項目」が2種類以上あるようにすることを指示した。加えて、自分が初読で感じたことと関連する疑問や、読みが変わるような疑問を選ぶよいことも伝えた。

第九時、十時は、班ごとにひとつの疑問について2人および1人が資料を作って発表し、それをもとに議論する時間とした。自分の活動については記録用紙に記録し、振り返りができるようにした。資料づくりに書籍やインターネット資料を参考にすることは許可したが、引用の仕方の指導不足があったことは否めない。また、資料にあたると「自分の力で



第九時の様子

「読む」ことを阻害しているのではないかと感じる一方、課題について調べてきた生徒がいる班では話し合いが深まったことも事実であり、発表形式の授業についてはその目的に応じてさらに細かく活動の姿を描き、指示をしてゆく必要性を痛感した。

#### 第十一時 「山椒魚」の小論文を書く

考査ごとに課している40分間の「小論文」において、次のように小論文を書かせた。

課題：小説「山椒魚」について問い合わせを設定し、その答えについて考察するとともに、問い合わせにより明らかになったことを800字以上1000字以内で述べよ。

条件：内容のまとめで分かれた、複数の形式段落がある文章にすること。生徒には、条件の体裁、まとめ、言語事項、全体の印象、本文の引用につい

て評価することを事前に予告した。

#### 第四次 再度「(深く読む)とは何かを考える」

##### 第十二時 小論文を分類する

ひとりあたり10枚程度ずつ他のクラスの生徒が書いた小論文を読ませながら、「非常に深く読めているもの」については作品の裏に赤ペンで自分の出席番号、「深く読めているもの」については青ペンで自分の出席番号を記入させた。



第十二時の様子

##### 第十三・十四時 小論文の分析をとおして、(深く読む)をメタ化する

第十三時は、「深く読めている」と判断した生徒が多い3作品を載せたプリントを配布し、それぞれの作品を指名音読により確認したあと、各作品について「よい点」「改善点」を考え、緑の紙に「よい点」、黄色の紙に「改善点」を作品番号とともに記入するよう指示した。また、班ごとに自分の考えが書いてある紙を見せ合い、「よい点」「改善点」で似たものがあればまとめて封筒に入れさせた。

第十四時までの課題として、こんどは「非常に深く読めている」と判断した生徒が多い3作品を載せたプリント（資料を配布し、緑の紙と黄色の紙に、それぞれ「よい点」「改善点」を番号とともに書いてくるよう指示した。そして、第十四時は本校教育研究会の公開授業として行った。

##### （第十四時本時案）

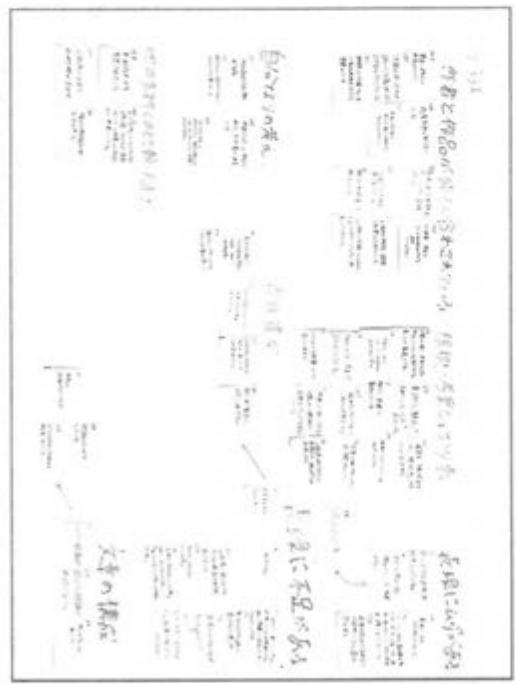
	生徒の活動	授業者の支援
1. 前 時 の 振 り 返 り と、 本 時 の 内 容 の 確 認 を す る。	<ul style="list-style-type: none"><li>○前時に扱った小論文の内容を確認しながら、前時の内容を確認する。</li><li>○本時の見通しをもつ。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○前時に扱った「深く読めている」小論文（111, 129, 136）の内容に触れながら、前時の学習を振り返る。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「深く読めている」小論文の「よい点」と「改善点」を色のついた紙に書き出し、班でおおまかにカテゴライズした。</li></ul></li><li>○本時は「非常に深く読めている」小論文についても分析することを告げる。</li></ul>

2.「非常に深く読めている」小論文の要素を書き出す。	<p>○自分が考えてきた「よい点」「改善点」を確認したり、新たな発見をメモしたりしながら音読を聞く。</p> <p>○自分が書いてきた項目の確認と、新たな発見の書き出しをする。</p>	<p>○三人を指名し、「非常に深く読めている」小論文三作品（12, 24, 103）を音読させる。その際、課題として考えてきた「よい点」「改善点」の確認をしたり、新たな発見についてメモしたりするように言う。</p> <p>○新たな発見について書き出す時間をとる。</p>
3.書き出した要素を前回のものと合わせて分類する。	<p>○指示を聞く。</p> <p>○活動を行う。</p>	<p>○以下のように班で話し合いをするよう指示する。また、話し合いののち、2回のポスターーションを行うことを予告しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品ごとに書き出した「良い点」「改善点」を出し合う</li> <li>・ 前回書き出したものと合わせて分類し、模造紙に貼る</li> <li>・ 分類が分かるよう、模造紙に書き込みをしたり、「非常に深く読むための条件」という観点で気づいたことを書いたりする。</li> <li>・ 時間は20分間。</li> <li>・ 司会、タイムキーパー、書記係を決めさせる。</li> </ul> <p>○以下の点に留意して机間指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「すごい」「独自の視点」などの表現については、「どのようにすごいのか」「どのような点に独自性を感じるのか」と声かけをし、観点を言語化できるようにする。</li> <li>・ 以下に挙げる観点については、全班が気づけるよう助言する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→考察や解釈の根拠に本文の内容が不可欠であること。</li> <li>→小論文で「読みの深さ」を示す際に、「書く技術」gs必要だということ。</li> </ul> </li> <li>・ 以下に挙げる観点については、少なくとも一つの班からは出てくるよう助言する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→本文と考察がずれている場合や、考察の根拠が不十分で考察が独りよがりになっている場合があるということ。</li> <li>→本文のテーマ（孤独、成長、許し、など）を自分なりに解釈しているものがあるということ。</li> <li>→問い合わせの追究を本文全体の解釈や自分の読み方に還元しているものがあるということ。</li> <li>→「対比」「象徴」などの文学的アプローチをしているものがあるということ。</li> </ul> </li> </ul>

4. ポスター セッション	○ポスター セッションを行う。	<p>○以下のように指示をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班に一人説明係を残して、任意の他班のところに行く。</li> <li>・ 説明係は班での話し合いや気づいた点を話す。質問があれば受ける。</li> <li>・ 聞き手は、自分たちとの共通点や相違点、新しい観点を探しながら聞く。</li> <li>・ 時間は三分程度で、二回行う。</li> </ul>
5. 本時のまとめ	<p>○本時の内容を振り返る。</p> <p>○課題の指示をし、授業を終える。</p>	<p>○何人かを指名して、印象的だったものや感想、気づきを聞く。</p> <p>○活動の様子に触れながら、以下のようにまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日、特に多くの班で挙がっていたのは、「本文に根拠のある考察」と「ととのった文章構成」の大切さだ。</li> <li>・ △△班では「……」という面白い観点も見つかったようだ。</li> <li>・ この学習は、言うまでもなく自分の読みに生かすために行った。今日見つけた観点を、ぜひ今後の自分の読みに生かしてほしい。</li> </ul> <p>○これまでの学習を振り返って、moodle 課題に取り組むよう指示し、授業を終える。</p>



(各班による「非常に深く読む」ための観点)



第9

根柢 (根本) 着眼点(拠地)

考察 (考察)

根柢	着眼点(拠地)
著者	著者
作者	著者
其他	著者
其他	著者

統計や  
資料

[問] いと  
答え

その他の  
資料

著者

著者	著者
著者	著者

5班  
考察

作者

根柢

統計や  
資料

その他

7班

その他

問い合わせ

作者の生き立ち

言過ぎ

不確定

観点

著者	著者
著者	著者

著者	著者
著者	著者

## 7. 成果と課題

### 〈成果〉

- ・ 高校国語科における探究的な課題の実践ができた。読み方や作品の価値を講義で教わるのではなく、自分で設定した切り口から作品を読むこと、話し合うこと、考えを文章にまとめるここと、という多様な活動を組み合わせた自由度の高い単元は、時数などの制約もあり、高校現場ではなかなか難しいが、今後も積極的に取り組みたい。
- ・ 「深く読む」という、授業者も生徒も「わかった気になって」使っている言葉について、言語化する体験と、「深く読む」という言葉の示すものについて今後も考え続けるためのきっかけをつくることができた。
- ・ 生徒を評価参加者にすることができた。これまで文章の評価、しかも「深さ」という観点では、授業者が一方的に行うことが多かったが、生徒の視点からの「深さ」を顕在化させることができた。

### 〈課題〉

- ・ 「習得・活用」と、今回の探求的な学習のつながりが弱い。今後、探求的な学習を保障する「習得・活用」の段階をさらに明確にし、質の高い探究学習を行うための、質の高い「習得・活用」学習を実践したい。
- ・ 「深く読む」ということの評価を、小論文で行ったため、「文章のうまさ」が「深さ」と混同されてしまったおそれがある。「深く読む」ことを評価する場合、それ以外の要素（たとえば文章の構成等）を統一して、「深さ」だけが生徒の議論の俎上に載るような工夫が必要であった。
- ・ 自身の課題だが、そもそも「文学作品を読む力」というものをきちんととらえられていなかったと痛感している。国語科、とくに文学を扱う授業においては、指導内容が曖昧なものになる傾向があるが、「どのような力が文学作品の読みを支えるのか」という授業者自身の強い信念のもとで行うべき実践であったと感じている。

## 8. おわりに

今回、「習得・活用・探究」という学びの段階を意識し、「深く読む」ことのメタ化をはかる実践を行った。課題ばかりが残ったが、生徒につけるべき力もその学習形態や評価方法も大きく変わりつつある中で、国語科においてもこのような試みは不可欠だと感じている。次の実践は、今回発見した課題を生かして行いたい。

## 9. 謝辞

教育研究会に向けてご指導ご助言いただきました、大阪教育大学の住田勝先生に感謝申し上げます。

## Approaching the <essential question>

—Meta of "read deeply."—

KATWATA Ryoko

**Abstract:** What is “ Read deeply ” ? And how we can evaluate it ? It seems an essential question. I try to find it in Japanese class with students.

**Keywords:** language arts education, literary education, Reading, evaluation

# 歴史とのつながりを意識した高等学校地理の授業

浦崎 裕太  
うらさき ゆうた

抄録：地理を学ぶ過程で歴史的背景と関連付けることが重要視されている。本稿では、これまでにおこなった歴史とのつながりを意識した授業の概要と課題となった事柄をまとめた。

キーワード：地理教育 歴史的背景 知識のつながり

## 1 はじめに

文部科学省の高等学校学習指導要領の地理歴史科の地理2科目の目標をみると、地理Aでは「現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し」、地理Bでは「現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し」と歴史的背景を意識することが記されている。

2011年に日本学術会議が行った新しい高校地理・歴史教育の創造に関する提言の中では、現行の科目の中で地歴融合の単元を設定することなど世界史、日本史、地理の3科目の相互関連の重視を提案するとともに、必修科目を現行の世界史から新設される歴史基礎と地理基礎の2科目に変更することを提案している。また、文部科学省の研究開発学校として日本橋女学館高校(平成23～25年度)と神戸大附属中等教育学校(平成25～28年度)が歴史基礎・地理基礎の研究を、京都府立西乙訓高校(平成22～24年度)が世界史、日本史、地理の3分野からなる新しい必履修総合科目「世界の風土と文化」の研究を行っている。人文地理学会の第33回地理教育研究部会・第138回歴史地理研究部会合同研究部会(開催日：2015年5月23日)のテーマが「地理教育における「歴史的背景」と歴史教育における「地理的条件」－教育に生きる歴史地理学の視座－」、第20回地理教育研究部会・第124回歴史地理研究部会(開催日：2011年5月15日)合同部会のテーマが「地理教育と歴史教育の連携」である。これ以外の研究会や報告書などでも、地理と歴史の相互連携に関する話題はよく取り上げられている。

ここにあげた以外にも歴史と地理の連携は様々なところで話題としてとりあげられている。学際化が進む状況において、日本史・世界史・地理の枠組みをこえてものごとを捉えることは重要なことである。筆者が大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎(以下、本校)で地理の授業を担当するにあたっても、歴史との関連を意識することに問題意識をもつてきただ。筆者が本校で行ってきた授業について概要を報告し、授業を行っての課題点などについてまとめていく。

## 2 系統地理の単元における授業

### (1) 様々な時代や種類の世界地図の読図

「地図とその利用」の単元の導入として、1時間授業を行っている。教科書や資料集にも多く掲載されており、定評のある題材といえる。地図について体験と結びつけて思考でき、歴史科目で習う事項との関連性も高く、知識同士がつながることを実感できるのもこの題材の特色であろう。バビロニアの地図、エラトステネスの世界図、プトレマイオスの世界図、TO図、マルティン=ペハイムの地球儀、メルカトルの世界図、オルテリウスの地図を資料として提示している。資料を掲載したプリントを配布する前に、何も見ずに世界地図を描かせ、国名を書かせる作業をさせた年もある。よく知っている近くほど詳しく描け、あまりその地域の情報を耳にすることがない地域などはあいまいになる地図から自分自身の世界のとらえ方に気付いた上で、かつての科学性の低い世界地図をみることで、なぜそのような地図になるのか考えやすくすることを意図している。エラトステネスやプトレマイオスの地図に表れている当時の測量技術の高さ、TOマップに表れているキリスト教の世界観、大航海時代を背景に精度を高めていく地図などは世界史の学習事項と大きくつながっている点である。日本で描かれた地図についても、奈良時代の行基図や伊能忠敬の地図をもりこむことを検討したが、時代背景と結びつけることがうまくいかず、検討課題となっている。

### (2) 地形

地形が形成されてきた過程などは、時間軸に視点を向けた学習内容である。しかし、史料の数が少ないはるか昔のことがらも多く、この内容で歴史の科目の学習事項と結びついでと思うことはほとんどないだろう。歴史とのつながりを意識できることを目指して作成した2つの教材を紹介したい。

#### A 日本人の風景観の変遷

地形の単元の導入として、最初の授業で取り扱った内容である。注目されている風景の中には特殊な地形が含まれていることが少なくないため、地形との関連性が現れるのではないかという期待のもとに教材化を試みた。内容の大部分は小泉(2002)の論文をもとに構成した。

授業に先立って次の2つの課題を出した。

- ① これまで見た(写真等も可)自然(を含む)景観で特に印象に残っているものを3つあげよう。→場所の名前と風景の特徴を3つ記録させる。
- ② 日本三景、近江八景などのように「…○景」とつくものをいくつか調べてみよう。

→名称と含まれる景色を記入させる。

これらの内容をグループやクラスで共有した後、奈良時代からさかのぼって記録に残っている日本人の風景観に触れていった。以下に、板書事項(口頭で説明した箇所など一部加筆している)と資料の一部を掲載することで授業の流れを示したい。

### 【1】 万葉集

植物に関するものが多い。

風景を詠んだものも自然を神とみなすアニミズムの影響が表れる。

資料として取り上げた歌は以下の2首である。

・ 山部赤人

天地の分かれし時ゆ 神さびて高く貴き 駿河なる布士の高嶺を 天の原ふりさけ見れば  
渡る日の影も隠らひ 照る月の光も見えず 白雲もい行きはばかり 時じくぞ雪は降りける  
語りつぎ言ひ継ぎ行かむ 不尽の高嶺は

反歌 田子の浦ゆうち出でてみれば真白（ましろ）にそ不尽の高嶺に雪は降りける

・ 立山に降り置ける雪を常夏に 見れども飽かず神からならし 大伴家持

### 【2】 平安時代

（細かな変化に注目するなど）繊細なものが多い。

例として次の歌をあげた。

・ 秋来ぬと目にはさやかに見えねども 風の音にぞおどろかれぬる 藤原敏行

### 【3】 中国の影響

山岳や岩場の風景、水辺の風景が美しいとされる。→山水画

こじんまりとした美しさ

資料は遠浦帰帆図と桂林（タワーカルスト）を描いた山水画

### 【4】 鎌倉～室町時代

仏教の影響 枯れの美 →枯山水

### 【5】 江戸時代

海や川、渓谷、滝などにも美しさを感じるようになる。

→旅行が盛んになる。

後期になると海景に加え、山岳も美しいものとされる。

提示資料は近江八景と本朝十二景の一覧。

### 【6】 明治期後半から

日本の丸みを帯びた火山、森に覆われ、霞のかかる日本の山との差

スイス 切り立った峰や岩壁、氷河が白く輝く

（資料：岩倉使節団がスイスの山岳風景を初めて見たときの記事の一部）

自然の風景そのものを美しいと感じるようになる。

- 1 自然研究の進展
- 2 巡礼、名所旧跡めぐりから観光旅行へ
- 3 西洋的風景観の紹介 ただの雑木林も美しいものに。
- 4 信仰登山から自然を楽しむ登山へ。

(資料: 東京日日新聞、大阪毎日新聞主催 新日本八景 1926年選定)

和歌の細部の解釈や収集は専門外のものにとって難しいものであるが、古代の当時の様子を知ることができる数少ない資料である。また、国語科での学習内容と知識をつなげる上でも有用といえる。しかし、扱う自然も山や海など大きな規模のものが多く、地形の知識と直接結びついたという実感を生徒はもちにくい。教科書の内容では日本史になるが、アニミズムなどの古代の思想を実例として読み取れる素材とはいえる。

中世以降になると、中国の桂林のタワーカルスト、日本三景では天橋立の砂州、松島の多島海など教科書や資料集等にも出てくる地形が景勝地として認識されていたことを確認できる。

類似の研究が多くなされているとは言い切れず、かつての資料など地理の教員が扱いに慣れていないものも多いため教材の精度を上げるには負担が大きいが、学習事項を総合して扱うことのできる素材であるといえる。

## B 大阪平野の地形の変化

池田(2005)に掲載されている大阪平野の成り立ちの図を資料として使用している。現在の河内平野にあたる部分が、河内湾であった五千数百年前、河内潟であった約3500年前、河内湖であった約2000年前の復元図が描かれている。現在の上町台地に当たる部分が砂州として発達し湾がふさがれていく過程、淀川や大和川が運んだ土砂により三角州が形成されている様子、遠浅の海が陸化していくとともに、大阪湾の埋め立てが進み、西側の方へ陸地が広がっていく様子などを確認できる。今は、海から離れた場所に広がる平野が、昔は水域であったことも印象深い内容になるだろう。本校周辺を扱った題材であり、身近な地域として感じられることが大きな強みになっているが、教科書や資料集に取り上げられている地形が多く描かれていることから、大阪が身近ではない地域の学校でも使える性格のものである。

### (3) 工業

繊維工業を取り上げるときに事例としてイギリスのランカシャー地方とヨークシャー地方を取り上げている。偏西風とペニン山脈によって生じる東西での気候の違いが綿織物か毛織物かを決定し、古期造山帯からとれる石炭が動力となっている点をとらえるためには、地理で学習したことを総合的に扱う必要がある。産業革命期という時代にさかのぼって考えていることからも時間軸も意識することになる。さらに、京都府立西乙訓高等学校(2013)に掲載されている川北稔大阪大学名誉教授の講演の内容の一部を用い、毛織物ではなく、綿織物で産業革命がおきた理由を考えていくようにした。狭いイギリスの国土を使うことなく、広大な植民地で原料の綿花を生産できること、綿が毛織物と比べ、軽く、安価で、洗濯が可能であり、世界商品となった点などに言及した。洗濯できる衣料による衛生面の改善により人口が増加した点も他の知識とつなげることができる。

#### (4) 村落・都市

特に集落の発達では、環濠集落、市場町、寺内町、城下町、新田集落、屯田兵村などは日本史でも語句として使用され、集落の性格をとらえるにはその時代の特徴をとらえる必要がある。世界史に関する限り、古代の城郭都市、都市国家ポリス、植民都市、中世の商業都市や自治都市、産業革命以後の工業都市の誕生などで同様のことがいえる。集落をとらえるにあたって時間軸をさかのぼっていく必要があることから、歴史的背景を必然的に意識して学ぶ単元となっている。

#### (5) 人口

人口の単元の初回で取り上げたのが、日本の人口変遷である。内容は、鬼頭(2000)と古厩(1997)から構成した。

最初に提示しているのが、鬼頭(2000)の縄文早期～2100年までの日本列島の地域人口に関する統計表である。明治初頭までは北陸が人口の多い地域であったこと、南関東の人口も明治初頭までは現在ほどとび抜けたものでなかったことなど現在の状況とは異なり意外性をもった部分が多く見つかる表である。次に総人口の部分に注目させ、人口が急に増えた4つの時期について説明を行った。以下の板書事項(下線部は口頭による説明)でこの部分の授業の過程を示す。

#### 【1】 4つの人口支持力の拡大

##### ① 縄文時代

- ・縄文文化の発展 (土器の使用など)
- ・温暖化→樹林帯→木の実 (カロリー供給源)

##### ② 弥生時代

- 農業革命 (稻作の普及)

##### ③ 14,15世紀から始まる波

- ・世帯構造の縮小 (傍系親族と隸属農民の分離独立、消滅)

→婚姻革命 → 出生率向上

##### ・経済社会化

- 貨幣による年貢納入 名主經營 (莊園・隸属民) から家族經營へ

都市的集落 (城下町、寺内町、港町) →消費需要

- ・死亡率の低下 (衣食住全般における生活水準の向上)

一日三食、木綿栽培、疊敷

##### ④ 19世紀～

- 産業革命以後の工業化の進展

次に、古厩(1997)や国勢調査のデータから作成した1876年、1893年、1920年、1947年、1970年、1995年、2010年の人口の上位30都市とその人口を示した表も提示した。表から意外に感じた部分を中心に意見を聞いた後、次のような板書(下線部は口頭)をまとめた。

1876年ではと北陸や山陰の都市が上位となっている。1920年、1947年では横須賀、呉、佐

世保などの軍の拠点となった都市が、1970年には東大阪、西宮、豊中、川口、船橋、吹田など大都市の周辺部の都市が上位30位に入っていることからは時代背景が見えてくる。

### 【2】 上位都市の変遷 注：市町村合併による増加もあり

1876年 多くの日本海側の都市

(金沢5位、富山12位、新潟18位、福井21位、松江23位、鳥取30位)

1920年～ 軍事都市 吳、横須賀、佐世保

工業都市 八幡、豊橋

開港地 神戸、横浜、長崎、函館、新潟

1970年 ベッドタウン 東大阪、西宮、豊中、船橋、吹田

1995年 地価高騰→東京減

2010年 都心回帰（東京増）、東京一極集中（大阪減）

最後に、北陸地方の人口の変化とその背景について考えた。提示した資料の一つは、江戸時代の航路である。北前船の航路が日本海の各都市を結んでいることがわかる。古厩(1997)掲載の1906年3月末の鉄道路線図も資料とした。太平洋ベルトで都市相互間を結ぶ路線が発達しているのに対し、日本海側の鉄道網は太平洋側との連絡を基本に形成され、都市間相互の鉄道網という印象は薄い。1920年の国勢調査から作成した新潟・富山・石川・福井の4県出生者の1920年の居住地別の人口と北海道在住者の出生地別人口を示した表も提示した。北海道居住者の出生地は1位青森、3位秋田、4位宮城、7位山形、8位岩手9位福島と距離の近い東北の県が上位であるが、上位10都道府県の残りは2位富山、5位新潟、6位石川、10位福井と北陸の県である。主に農民として北陸から北海道へ入植する事例がみられた。一方、北陸を出生地とする人々の1920年の居住地をみると、次の表のようになる。

出生地	1位	2位	3位	4位	5位
新潟県	東京	北海道	長野	群馬	福島
富山県	北海道	東京	大阪	石川	京都
石川県	北海道	東京	大阪	京都	兵庫
福井県	北海道	大阪	東京	京都	兵庫

先述の北海道以外では、東京か近畿地方の府県か隣接する県が上位となっている。これらの読みとりを行った後、次の板書(下線部は口頭)でまとめた。

### 【3】 北陸地方の人口変化

明治初期まで南関東と人口が同程度、上位都市にも含まれる。

日本海、中国・朝鮮から文物。

江戸時代～明治初期

北前船（北海道～大坂） 陸路よりも海路が物流の中心

加賀の一一向一揆、越前朝倉・越後上杉など有力国主

箔、加賀友禅、九谷焼、漆器などの工芸品

太平洋ベルト中心の鉄道網の整備・工業化→人口増

#### 北陸の人口流出 農家の次男三男が中心

- ・関東・関西型
- ・北海道型（主として農民として入植）

弥生時代の稻作の普及、産業革命による工業化、北前船による日本海都市の繁栄など日本史で学習する際には人口の視点からみることが少ないとと思われる事柄が出てくることで印象も強くなると考えられる。

### 3 地域や都市を素材とした授業の例

京都府立西乙訓高等学校(2013)の「世界の風土と文化」の科目の中でも「世界の歴史都市」は大きな柱となっている。都市学習は時代の流れと空間の広がりの両方を生徒がとらえやすい題材であるといえる。筆者の授業では、本編とは独立した形で学校行事で行く場所に対しての理解を深めたり、本編の授業で習った知識を確認したりという目的で都市を題材とした教材を扱うことがある。取り上げたことのある地域や都市について、その内容をまとめていく。

#### （1）比叡山

遠足の行き先ということで設定した。したがって、村落と都市の内容を授業で扱っていない状態で授業を行った。高校日本史の古代の内容とも関わりが大きいが、この授業を行った高校1年10月の段階で、本校では日本史を履修していない。

まず、比叡山周辺に関わる歴史について、概要を確認した。中学校社会科の歴史的分野で習ったことと結びつけられるようにということを意図したが、なかなか難しかった。説明と同時に次のような板書をまとめた。

日吉神社 日枝の山の神を祀る。

667年 中大兄皇子が飛鳥から近江へ遷都

翌668年 鎮護のため三輪山から神を勅請

788年 最澄により根本中堂が建てられる。

794年 平安京遷都 鬼門の位置に比叡山。

796年 一条止観院が国家鎮護道場に。

805年 天台宗開祖

日枝神社の2神が天台宗、延暦寺の守護神に。

823年 延暦寺の名を与えられる。

1571年 織田信長により比叡山が焼き討ちに。

明治期 神仏分離により日吉神社が仏教色を廃する。

この内容から入ったため生徒からは歴史の授業のようだという声があがった。

歴史的な背景を確認した後は、新旧地形図の読み取りへと移っていく。1909年(図1)、1951年(図2)、1969年(図3)の地形図を提示した。京都側からの入口となる八瀬周辺の地

地形図も1922年と1947年のものを資料プリントに掲載した。地形図の読み取りを各自で行い、何名かに発表させた後、次のように板書(図の番号は上の年代のものと一致する)をまとめた。扱う内容は山口ほか(1973)の内容も取り入れた。

図1 徒歩交通時代→ 図2 鉄道交通時代→ 図3 自動車交通時代

登山道のみ 滋賀峠越

図2

1921年 江若鉄道が叡山駅まで。

1925年 叡山ケーブル開通

1927年 坂本ケーブル開通 →避暑地としての性格が加わる。

京阪電車が坂本まで通じる。

1937年 山中越ドライブウェイ

1961年 尾根を縦断するドライブウェイが完成

1969年 江若鉄道廃止。国鉄湖西線へ。

レジャー地化、住宅地化が進む。

1994年 古都京都の文化財として世界文化遺産に。

(坂本) 山坊に対する里坊が並ぶ。→門前町。港町

(洛北) 國際会議場(1966年) 地下鉄延伸(1997年)

敦賀街道 山間の集落 八瀬 レジャー地化

修学院離宮 1653-55 後水尾上皇の指示で造営

開発されていく過程は地形図からもはっきりとわかる。この比叡山の開発による変化について、各自の意見を書かせて授業自体は終わった。その後、遠足で現地を見て気づいたこと、授業では取り扱っていないが「交通」の内容に関わらせて自分が集合場所までに使用した交通機関とそれを選んだ理由、高野山との共通点と相違点について小レポートをまとめさせた。

この授業では扱う内容のさらなる精選と授業日の段階で未習事項が多いことが、課題となつたが、地理・歴史の双方を学ぶ場所として、比叡山は適する素材が多いことが確認できた。

(2) 神戸市

ここも遠足の訪問地として、教材化を図った。こちらは高校3年の1学期に扱つたため、高校2年で世界史・日本史を履修している点が異なつてゐる。地形図や市街地の変遷図などを資料として提示し、次のような板書をまとめた。

奈良時代以降 大輪田泊、日宋貿易 外港的性格

1867年に神戸港開港により都市建設が本格化。

神戸と兵庫の双子都市

重心は兵庫→神戸駅付近(兵庫との接点)→元町(百貨店の開業)→三宮と東方へ移動。  
工業についても東方の埋め立て地へと移動。

山を海へ。西部内陸のニュータウンを建設した残土で人工島を造成。  
海の見えない神戸の街も。

北区の鈴蘭台は1928年より造成され、戦前は避暑地、高級住宅地として栄え、「関西の軽井沢」とうたわれた。昭和30代から大型団地化

都市の発達について確認した後は、新旧地形図により生田川と湊川の付け替え、天井川となっていた旧湊川、旧生田川に沿って分布していた水車小屋、新神戸駅の構造と布引断層について取りあげた。

#### (3) 滋賀県草津市

地形図から東海道と中山道の分岐する地点の宿場町として栄え、街道に沿った街村の集落形態がみられること、古代の条里制の跡が確認できることなどを確認した。浮世絵や新旧地形図の比較から、草津川を越える方法の変化を読み取った。かつては堤防を上り、水量の少ない川床を歩いて越えていたが、河床の下にトンネルを掘って越えるようになった。国道や鉄道にも川の下を通るトンネルが確認できる。分水路の完成により、旧流路が河川としての役割を終えた後は、堤防ごと切り壠して、平坦な道路を通すところも出てきている。南側の丘陵地帯の開発も新旧地形図の比較により確認できる。高速道路のインターチェンジができ工業団地となったり、大学ができたり、住宅地が拡大したりという変化がある。草津駅や南草津駅の利用者数は滋賀県の駅の中でも上位であり、鉄道や高速道路を利用することで京都や大阪などの都市へ通勤・通学がしやすい状況も取り上げた。滋賀県は日本の都道府県の中でも人口増加率が上位の県であることにもふれた。

#### (4) 大阪市大正区

渡船をテーマにした希望者対象の野外実習の授業で訪問した地域である。運河などが整備され、鉄工所などの工場も見られ、現在以上に工業が盛んだった頃の面影が感じられる地域である。沖縄出身者の割合が高く、沖縄料理店や物産店も見られ、雇用を求めて移住があったことを今に伝えている。中央を走る大正通はかつては路面電車の軌道があったが、今はなく、広い道路となり、多くのバス路線が設定されている。時間軸では現代を中心になってくるが、地理の各分野については多くの素材がある地域である。

#### (5) イスタンブール、サンクトペテルブルク

ともに歴史上名前が変わった都市としてとりあげた。イスタンブールについては、ヨーロッパとアジアの境界に位置するトルコという国も意識した。授業の概要を以下に板書事項を中心に示す。

### 【1】 イスタンブール

ビザンティオン (ビザンティウム)	前7世紀半ば頃 ギリシャ人が植民都市として建設。
コンスタンティノープル	330年、コンスタンティヌス帝が「第二のローマ」として遷都 その後の東ローマ帝国(ビザンツ帝国)の都として続く。
イスタンブール	1453年、オスマン帝国のメフメト2世によって陥落。 オスマン帝国の都として改造を受ける。 1922年、オスマン帝国滅亡。 翌年、トルコ共和国成立。首都はアンカラへ。

立地：ボスポラス海峡をまたぎ、アジアとヨーロッパにまたがる。

アジアとヨーロッパの中継点。シルクロードの拠点。

水上交通でも要衝。ドナウ川、ドニエブル川を通じて、地中海と北極海などが結ばれる。

### アヤソフィア

正教会（537年 - 1453年）（1204年 - 1261年はカトリック教会）

カトリック系ラテン帝国の支配下

イスラム教 モスク（1453年 - 1931年）

ミナレット（尖塔）がつけられる

1935年からは博物館。宗教行事での利用禁止。

並んで建っているブルーモスクは1616年完成。

### ハマム（公衆浴場）

ローマ帝国時代の公衆浴場文化を継承

モスク、神学校（マドラサ）に次いで重要

蒸気風呂 腰巻着用 ケセジ（アカスリ師） 観光地化。

トルコ…国土のほとんどがアジアに位置するが、政府はヨーロッパの国とみなす。

（EUへの加盟申請中）

政教分離の原則に基づく世俗主義、様々な西欧化を図る。

イスラム教国。

## 【2】 サンクトペテルブルク

サンクトペテルブルク	1703年、ロシア帝国のピョートル大帝によって築かれた人工都市 1712年、モスクワから帝都がうつる。 1914年ペトログラードに解消（ドイツと戦争） 1917年ロシア革命。翌年、首都はモスクワへ。
レニングラード	ソ連成立後の1924年、レーニン死去。革命の始まった都市の名を指導者の名前を冠して変更。
サンクトペテルブルク	ソ連崩壊後、1991年に住民投票により改称。

立地 港湾都市 ネヴァ川河口

運河が発達。水の都とよばれる。大阪市の姉妹都市。

モスクワまで約600 km。国境付近のため他国の都市が近い。

## 4 地域調査における「歴史」の項目

地域調査の課題を出す際に指定する観点の一つの歴史を入れている。情報収集自体は難しいものではなく、よくまとめられている。その地域がどのような歴史をたどってきたかわかることで雰囲気をつかむことに役立っている。歴史が産業などに結びついているような都市であれば、歴史的背景を意識したうえで地理的事象を考察することができるが、結びつかないか結びつけにくい場合も少なくない。また、既習事項と結び付けにくい情報が並ぶ地域もあり、そのような場合、ただ調べただけで終始してしまう場合もある。

実際に行った次の2つの市の例をあげ、歴史としてあげられる項目と地理に関わる内容とをどのようにつなげることができるかまとめたい。

### 例1 滋賀県高島市

#### ・近江国高島郡の設置

古代の国・郡・里の制度と現在の地名の結びつき

#### ・交通の要衝としての発達

京都と北陸を結ぶ位置にあり、かつての街道が、現在は国道となっている。

#### ・安曇川・石田川の水運

琵琶湖を経由して、京都や大阪に材木が運ばれた。山間部での林業の形成。

#### ・中世に栄えた高島氏

高島氏自体は高校日本史の学習内容でも目にすることがほぼない内容と考えられるが、源氏や明智光秀などとの関わりでみることはできなくない。居城を構えた地に注目すると城に適する立地条件を考えることができるかもしれない。

### 例2 福岡県北九州市（関門海峡を含む）

#### ・小倉城下町の形成

外様大名が多かった九州に譜代大名である小笠原忠真が配置されたことは、江戸幕府の戦略や九州の入り口にあたる豊前の位置的特徴にもつながられる。地形図などに残された街路や地名などの城下町の形跡を読み取ることも可能である。

・壇ノ浦の戦い

下関側の地名になるが、関門海峡でのできごとである。中学校の社会科でも取り上げられるできごとであるが、地理的な条件や他のできごとの関連づけるのは難しい。

・交通の要衝地

街道の宿場町として発展した町は、その形成要因や街村の形態の確認を試みることができる。東アジアの近接地であるが、製鉄業のための鉄鉱を中国から輸入しやすいということ以外は教科書に載るような歴史上のできごととむすびつけることが難しい。

・八幡製鉄所の設置

その後の都市の発展と人口増加や筑豊炭田の繁栄にもつなげて考えることができる。

## 5 おわりに

ここにあげた例を中心に地理と歴史の連携についていろいろ試行錯誤してきた。また、大学生のときから、卒業論文のテーマとも関わり、時間軸も意識した地理学の研究にふれる機会が多くあった。このようなことから歴史と地理のつながりを考える経験を教員となる前からしてきた。しかし、一方で歴史の授業を考える機会は、大学の授業や教育実習でしか行っていない。したがって、ここにあげた授業実践の中でも歴史の内容が濃く出てくる部分では教授方法にぎこちなさを感じつつ授業を行っていた。教授方法に違いがあることに加え、教材研究においても歴史の部分においては経験が少なく、情報の取捨選択に戸惑うことがあった。特に史料の取り扱いについては時代がさかのぼればさかのぼるほど解釈が困難になる。他人の研究成果に頼って授業内容を組み立てることになるが、その内容を自分のものとして説明できるようになるには結構な時間を要した。情報の裏づけもなかなか困難であった。このような点において、専門外の分野で教材を作り、授業することの難しさを実感した。その一方で、専門外だから気づく視点があることもあり、その必要性も実感している。歴史の教員と共同で授業作成を行うことでよりよいものにできるというのは紛れもない事実であるのだが、共同研究のための時間の調整を多忙な校務の中でしていくのは容易ではない。地理歴史科という一つの教科ではあるが、地理歴史両者の性格は大きく離れているところもある。大学で専門としなかった領域に関して、教員という立場でどのように学んでいくか考えていきたい。

歴史とつながるということについては、まずは時間軸を意識して考えるということでいいのではないかという考えに至っている。教科書や資料集に出てくる事柄が結びついたというのが最もつながったという実感がもてる形態ではあるが、全ての地域でそれができるわけではない。

これらの実践を通して、地理の理解にも歴史が不可欠であるということを再認識することとなった。歴史を意識しながら教材研究することで時間軸への意識も必然的に強くなる。その視点を授業で伝えることで生徒も歴史的背景を意識することができるようになると考える。

## 文献 等

- 古厩忠夫(1997)『裏日本—近代日本を問い合わせなおす—』岩波新書
- 池田頴編著(2005)『地形と人間』古今書院
- 鬼頭宏(2000)『人口から読む日本の歴史』講談社学術文庫
- 小泉武栄(2002)「日本人の風景観と美的感覚の変遷一万葉集の時代から現代までー」東京  
学芸大学紀要第3部門 53 pp. 137-156
- 京都府立西乙訓高等学校(2013)『平成22~24年度 文部科学省指定研究開発学校 高等学  
校 地理歴史科総合科目「世界の風土と文化」研究報告書(vol. 3)』
- 文部科学省(2009) 高等学校学習指導要領
- 日本学術会議(2011) 「新しい高校地理・歴史教育の創造 ーグローバル化に対応した時  
空間認識の育成ー」
- 山口恵一郎 佐藤恍 沢田清 清水靖夫 中島義一編集(1973)『日本図誌大系近畿Ⅱ』  
朝倉書店

## Lessons of Geography Linked to Historical Background

URASAKI Yuta

Abstract:Linking to historical background is important in studying geography. I've tried to make some lessons of geography linked to historical background. This report records these lessons.

Key Words : Education of Geography, Historical Background, Link of Knowledge

# 複数の「終戦日」

## —8・15の虚実—

ささ がわ ひろ し  
笹川 裕史

抄録：大半の日本人は、8月15日をアジア・太平洋戦争（第二次世界大戦）の終戦日だと信じて疑わない。しかし海外では、日本政府と軍が降伏文書に署名した9月2日（あるいは、それ以後）を終戦日とみなすところが大半である。終戦日という公的な日付をめぐり、なぜ日本国内と海外との間でこのような相違が生じたのだろうか。本稿は、終戦日をめぐる日本内外の状況、および終戦日に対する集団心性を高校生に考察させた授業の報告である。

キーワード：終戦日、授業実践、世界史教育、第二次世界大戦、8月15日、無条件降伏

### 1. はじめに

世界史の授業とは、3つの歴史がせめぎあう場である。1つめは、教科書に代表される（政府の公式見解でもある）オフィシャル＝ヒストリー。2つめは、生徒の個人史・家族史に代表されるプライベート＝ヒストリーである。これらは、ときには重なり合い、ときには鋭く衝突する。その一例として、アジア・太平洋戦争末期の沖縄における日本軍の行動をあげることができるだろう。沖縄戦における日本軍の行動に対しては、日本政府と沖縄県民との評価はかなり異なっている<sup>(註1)</sup>。ならば、対立関係にあるこの2つの歴史（認識）を放置するのではなく、両者を橋渡しすることが重要となる。これが3つめの歴史、すなわちパブリック＝ヒストリーである。

パブリック＝ヒストリーの目的は、対立する2つの意見を足して2で割るという安易な妥協案を出すことではない。異なる考えをもつ当事者たちが、ときには第三者も交えて意見交換をし、互いの立場を冷静に理解しようと試みる「場」を開くことである。結論を急がず、根気よく対話を続けていく「関係」を築くことである。生徒たちと教師が、歴史を学びあう／語りあう教室が、そのようなパブリック＝ヒストリーの小さな「場」となることを私は望んでいる。

さて現在の日本では、国民の大多数が「1945年8月15日」を第二次世界大戦（アジア・太平洋戦争）の終戦日と考えている。しかし海外では、日本政府と軍が降伏文書に署名した9月2日（あるいは、それ以後）を終戦日とみなす国が大半である<sup>(註2)</sup>。終戦日という公的な日付に関して、なぜ国内と海外とでこのような食い違いが生じたのだろうか。またなぜ多くの日本人は、この相違に気づこうとせず、結果として疑問を持たないのだろうか。

本稿は、終戦をめぐる日本内外の状況、および終戦日に対する集団心性を高校生に考察

させた授業「複数の終戦日」の報告である。なお授業の構想と内容は、佐藤卓己氏の研究にかなりの部分を依拠していることを、謝意とともに記しておく<sup>(註3)</sup>。

## 2. 「8月15日の神話」とは？

以下の項目は、佐藤卓己氏の『八月十五日の神話』から、授業の枠組みとなった部分を、筆者の責任で簡潔にまとめたものである。

### （1）複数の「終戦日」

現在の日本では、国民の大多数が、1945年8月15日をアジア・太平洋戦争の終戦日と考えている。日本国民が、そのように考える理由を述べるまえに、まず日本の終戦をめぐる出来事を時系列にそってあげておく。

1945年8月10日の午前に日本政府は、中立国スイス政府とスウェーデン政府を通じて連合国側にポツダム宣言の受諾を通告する。さらに10日午後には日本放送協会の海外放送が宣言の受諾を海外向けに発信した。しかし、日本政府が「国家統治における天皇主権」という条件を付けていたため、連合国は12日に事実上これを拒否する。連合国側の態度を知り、ポツダム宣言の最終的な受諾を延期した日本政府は、その後アメリカ政府との間で「天皇制」をめぐり水面下での交渉を行なう。そして「天皇制」の維持が確かめられた8月14日、日本政府はポツダム宣言の受諾を正式に確定した。14日の夜、天皇が終戦詔書に署名し、その深夜、日本政府は、スイス政府とスウェーデン政府に向けて連合国側への宣言受諾の回答公電を発信した。

翌8月15日の正午、「玉音放送」によって日本国民は、日本の敗戦を知る。もちろんこのとき天皇が朗読した終戦詔書の日付は8月14日である。そして半月後の9月2日、東京湾上の戦艦ミズーリ号の艦上で日本政府と軍の代表が降伏文書に署名した<sup>(註4)</sup>。

日本国外での、アジア・太平洋戦争の終戦日は様ざまである。韓国と北朝鮮では、8月15日が光復節＝「解放日」と位置づけられている。中国（中華人民共和国）でも、建国当初は8月15日が抗日戦争勝利記念日であったが（そして現在でも、かなり意識されているが）、現在の公式な記念日は（旧ソ連の対日戦争勝利記念日にあわせた）9月3日である。アメリカとフランス、そして現在のロシアは、降伏文書の正式署名がなされた9月2日をVJデイとしている。欧米の多くの国々も同様である。東南アジア諸国はどうであろうか。フィリピンは9月3日、ミャンマーが6日、シンガポールとマレーシアが9月12日、タイが9月13日、そして台湾が10月25日であり、現地の日本軍の降伏もしくは武装解除の日付となっている。

### （2）創られた記憶…「玉音放送」と「玉音写真」

8月14日の夜と翌8月15日の朝の2回、ラジオを通じて国民に、15日正午に重大な放送が行なわれる所以必ず謹聴するようにという通知がなされている。そして15日正午の時報のあと、起立等のアナウンス、「君が代」の奏楽に続いて4分37秒の「玉音放送」が流れた。その後、再度「君が代」の奏楽がなされ、さらにアナウンサーによる終戦詔書の再朗読と解説、ポツダム宣言受諾までの経緯が解説されている。

終戦に関する写真集や資料集等には、「玉音放送」を聞いて泣き崩れる人びとの写真が

数種類、掲載されている。それらは、敗戦の衝撃を示す「玉音写真」と信じられ、日本国民の「8月15日のイメージ」を再生産してきた。しかし現在では、これらは15日当日のものではなく、さまざまな機会に撮影された写真が「玉音写真」として後に「転用」されていたことが明らかになっている。

### (3) 「9月2日」から「8月15日」への変更

アメリカ軍の占領下にあった1945~51年の日本では、終戦日は9月2日とされていた。GHQの管理下では、アメリカのVJデイ（日本の降伏文書調印日）が当然のように終戦日となっていたのである。そして日本政府やマスメディアも9月2日を終戦日として、終戦の周年行事や特集等を行なっていた。

しかし日本がサンフランシスコ講和条約を締結し、1952年に独立を回復すると、状況は急速に変化した。9月2日の終戦関連の行事・記事は姿を消し、代わりに8月15日が浮上してくる。そして終戦10年目の1955年には、8月15日が日本の終戦日として、戦後日本の“回顧と展望”がマスコミで大々的に特集されたのである。

では、なぜ8月15日なのか。「玉音放送」のあった8月15日が、日本国民にとって特別の日だったことは、言うまでもない。そしてもう一つ重要なことは（偶然でもあったが）、日本の伝統的な行事のお盆だったことである。とくに日中15年戦争の経緯と軌を一にするかのように、1930年代初めより始まった「盂蘭盆会法要」のラジオ放送が、やがて30年代末には「戦没者英靈盂蘭盆会法要」へと発展していったことは、日本人のメンタリティに大きな影響を与えたはずである。

つまるところ降伏文書調印という屈辱的な日付（9月2日）よりも、玉音放送とお盆という情緒的な日付（8月15日）が、日本政府と国民には受け容れやすかったのであろう。そして終戦10年目の1955年には、8月15日が日本の終戦日として、マスコミで大きくとりあげられ、以後それが定例となっていく。こういった流れのなか、日本政府は1963年に、8月15日の「全国戦没者追悼式」を制度化する。そして1982年に8月15日が「戦没者を追悼し平和を祈念する日」として閣議決定されたのである。

## 3. “終戦日をめぐる歴史”的授業

本校の世界史のカリキュラムは、2年次に必修2単位、3年次に選択4単位となっている。筆者は、2年生の授業では基本的に近現代史を対象とし、選択の3年生ではその他の時代を扱っている。2014年度は、産業革命（工業化の始まり）から始め、学年末には第二次世界大戦の終わりまで授業が進むように心がけた。

3学期末に予定した“終戦日をめぐる授業”的準備として、筆者は、高校2年生（164人）に、複数のアンケートによる予備調査を行ない、彼らの知識や考えを探ってみた。以下、その概要を記しておく。

### (1) 「終戦日」をめぐるアンケート調査

最初の〈アンケート1〉では、アジア・太平洋戦争（第二次世界大戦）の終戦の日付を問うた。「ミュンヘン会談からポーランド侵攻」を範囲とする2月9日の授業の開始前に5分ほど時間をとって実施した。なお〈アンケート1〉に関しては、附属中高の社会科・

地歴科の同僚の協力を得て、附属中学1～3年生、および高校1年生にも行なった（ただし高校2年生は記名だが、附属中学1年～高校1年は無記名で3月上旬に実施した）。

〈アンケート1〉

- ・第二次世界大戦（アジア・太平洋戦争）の終戦日（戦争が終わった日）を、あなたは、いつだと考へていますか？

1945年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日

- ・またそのように考へる理由を記してください。（自由記述）

〈アンケート1〉の結果

	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	総計
8月14日	5人 (3.2%)	2人 (1.3%)	12人 (7.8%)	7人 (4.4%)	11人 (7.0%)	37人 (4.8%)
8月15日	123人 (78.8%)	108人 (72.0%)	111人 (72.1%)	123人 (77.4%)	90人 (57.3%)	555人 (71.5%)
玉音放送 天皇の通知	19人 +19人	12人 +13人	11人 +26人	10人 +20人	23人 +22人	75人 +100人
8月	12人 (7.7%)	14人 (9.3%)	15人 (9.7%)	9人 (5.7%)	26人 (16.6%)	76人 (9.8%)
9月2日	1人 (0.6%)	1人 (0.7%)	3人 (1.9%)	0人 (0%)	7人 (4.5%)	12人 (1.5%)
わからない ・その他	15人 (9.6%)	25人 (16.7%)	13人 (8.4%)	20人 (12.6%)	23人 (14.6%)	96人 (12.4%)
合計	156人	150人	154人	159人	157人	776人

\* 8月15日の下欄の上段は、「玉音放送」を終戦の理由にあげた生徒数。「玉音放送」という言葉を用いなかつたが、「天皇の通知」という主旨を記した生徒数は下段に示した。

終戦日を「8月15日」と回答した高校2年生が60%未満であったことには、正直などろ困惑した。8割ほどは「8月15日」と回答すると予想していたからである。日付にこだわらずひろく「8月」と回答した者を含めれば8割となるが、その中には「8月6日」「8月10日頃」「8月末」という記述もある…。「わからない」と回答した生徒は数人で、「その他」に集約した生徒の中には、開戦日の「12月8日」を記した者が数人。まったく見当がつかなかったのであろうか「6月」「2月」と記した生徒も散見された。一方で、終戦日を「8月14日」とした生徒が11人、「9月2日」とした者が7名いた。2年生は、2学期末～3学期初めの日本史の授業で終戦前後の時期を学習する。そういういた関わりのなかで終戦日を「8月14日」や「9月2日」と理解した生徒であろうか。

さらに中学1年生から高校2年生までを概観して、ふたたび困惑した。「8月15日」と回答した生徒の割合が、学年が進行するにつれて減少していくからである。母集団が小さ

いので偶然かもしれないが、中学入試（あるいは高校入試）で覚えた時が頂点であとは忘れていくだけなのだろうか。なお「8月15日」を終戦日と考える中学1年生の1割ほどが、「またそのように考える理由を記してください」という項目に対して（質問の意図を取り違えているのだが）、「塾でそのように教わったから」と記述しており、その数は「学校でそのように教わった」という記述よりも多数であった。色々と考える材料を与えてくれるアンケート結果であった。

とまれ〈アンケート1〉の結果を簡単に紹介するかたちで、2月25日、「原爆投下と日本の降伏」の授業を始める直前に〈アンケート2〉を実施した。

#### 〈アンケート2〉

- 第二次世界大戦（アジア・太平洋戦争）の終戦日（戦争が終わった日）に関するアンケート結果は、以下の通りでした（2年生157人）。

8月14日…………11人（7.0%） 8月15日…………90人（57.3%）  
8月のいつか…………26人（16.6%） 9月 2日………… 7人（4.5%）  
わからない・その他………23人（14.6%）

\*「8／14」の主な理由：ポツダム宣言を正式に日本が受諾した日が8月14日であると知ったから。対外的には玉音放送とか、ほとんど関係ないから。／玉音放送の前日だったと聞いたことがある気がする。／日本がポツダム宣言を受け入れた日だから。／国民に知らされたのは15日だったと思うけど、政府が戦争と終えることを決定したのは、14日だと聞いたことがあるから。

\*「9／2」の主な理由：今日の日本史の授業で、ポツダム宣言の日本の署名がその日だったと教わったような気がするから。／たぶんこの日に日本が降伏文書にサインしたから。／公式的な降伏文書があったのは9月2日だったと思うから。

Q1：「終戦というものは、外交事項なので、相手国への通告（8月14日）より自国民向けの告知（8月15日）を優先することはグローバル・スタンダードではありえない」という考えがあります。この意見についてどう考えますか。

（自由記述）

Q2：現在の日本では「8月15日」が“終戦日”となっています。それは何故だと考えますか。（自由記述）

Q3：Q1・Q2をふまえ、あなたなら、“終戦日”を、何月何日に定めますか。  
（自由記述）

〈アンケート2〉の回答者は153人であった。Q1で紹介した佐藤卓己氏の指摘に対する賛否とQ3の回答との組み合わせを次のように分類してみた。

a : Q 1 「反対」 & Q 3 「8月15日」	54人 (35.3%)
b : Q 1 「賛成」 & Q 3 「8月15日」	30人 (19.6%)
c : Q 1 「賛成」 & Q 3 「8月14日 or 9月2日」	31人 (20.1%)
d : Q 1 「判断保留」	38人 (24.8%)

aは、佐藤氏の指摘に反対しあくまでも日本国民の終戦日として8月15日が相応しいと考える生徒である。cは、佐藤氏に賛成し外交関係を踏まえれば終戦日は8月14日もしくは9月2日が相応しいと考える者である。aとcは、それぞれの考えにおいて筋が通っている。これに対してbのように、佐藤氏の指摘に賛成しているにもかかわらず日本国民の終戦日が8月15日であると考えるのは矛盾している。ところがこの矛盾している者が決して少なくない。また、dの判断保留者あるいは、8月14日・8月15日・9月2日の他の日付が好ましいと考える生徒も考慮すると、佐藤氏の指摘に対する生徒の反応は、当然のことながら実に多様なものであった。

a～dの代表的な生徒の意見を紹介しておく。

#### aの意見

- ①いちいちグローバル・スタンダードに合わせないといけないことに疑問を感じます。とある本いわく「アメリカナイゼーション」ですし。でも他国ではどの日が終戦日だと感じているのかを知るのも重要だと思います。
- ②終戦は気持ちの問題でもあると考えると、国ごとに違っても良いと思う。なので日本人の気持ちでは8月15日が終戦だと考える。
- ③どちらだとしてもたった1日であるため、大した差ではないと思う。
- ④8月14日にも日本はアメリカからの空襲を受けていた。本当の意味で両者が攻撃をやめたのは8月15日なので、私は間違っていると思う。日本以外に8月14日でない日を終戦日としている国はないのでしょうか？
- ⑤僕はあまり納得いかないです。なぜなら自国の国民も含めた全ての人が知った状態で敗戦というものは決まるものだと思うからです。戦っているのは軍や政府だけでなく国民も同じ。
- ⑥国民・自国内で知った上で、国民総意の降伏こそ終戦だと思うので、15日が終戦日だと思う。外交官だけが降伏しても意味がない。
- ⑦国というものは、国民を含めての存在であるがゆえに、国内での意志統一をしてから対外に正式に申し入れるという点で、何ら不自然ではないのでは？ どちらも極力素早く行なうべきだとは思うけど…。

#### bの意見

- ①14日に国民に発表すればすべて丸くおさまったと思うが、「国民」に発表したのが15日で広く一般に15日という認識が広まっている以上、もう変えるべきではないと思う。
- ②國の中で言う分には8月15日でいいと思う。
- ③外交的には14日かもしれないけど、日本人的には15日でしょう。

④私は、終戦日は8月15日だと思います。もちろんこの戦争は、対外的なものであるけれども、何よりも日本国民に大きな傷痕を残した戦争であると思うので、国内のことを優先しても構わないと思う。

#### c の意見

- ①私たちが習う『世界史』が国民の目線から示されているのであれば、あまり問題はないと思うが、外交という観点から国際的に終戦を定義する場合は、はっきり8月14日とすべきである。『世界史』という科目や私たちが、そういった歴史を学ぶ場では厳密さが必要とされるのであれば別だが、私は8月15日と言う。先生はたぶん8月14日にすべきだと考えていらっしゃるのだろうけれども…。
- ②相手へ通告して、それを相手国が確認した時点でその通告は有効となると思うので、世界との外交を考えるのならば、国内よりもさきに對外的な通告を先にして、すべてが完了したあとに自国民に告知すべきだと思う。
- ③戦争を始めたのは政府であり、また終わらせるのも政府。国民が「戦争をしよう」と言ったとしても政府・軍隊が動かなければ、戦争は始まらない。逆に国民が「戦争を終わらせよう」と言っても戦争は終わらない。だから国民が知った15日でなく、政府が受諾した14日が終戦日だとすべきである。
- ④たしかに世界的な標準（水準）での事柄（出来事）なので、8月14日にしておかないと、世界的にはおかしいと思います。日本の中では構わないかもしれません、国際的には14日にしておくべきです。
- ⑤他の国が、相手国への通告で統一しているなら、そちらがいいと思う。／9月2日。他の国の方がよく分からないので、はっきり言えないが、通知した日よりも調印した日の方が重要な気がする。
- ⑥私たちは戦争を客観的に見た方がいいから、14日がいいと思う。でも、戦争の時代を生きた人たちは、15日と言うと思う。
- ⑦変な言い方だが、「相手がいるから戦争ができる」ので、相手国へ告げ、相手国が戦争をやめることにより本当の意味で終戦したと言えるんだと思う。

#### d の意見

- ①そのような考え方もいいと思います。敗者は、この負けをずるずると引っ張って終戦日を決めるよりも勝者が終戦日を決める方がいいと思います。
- ②8月15日以降も、戦場に取り残された人々や満洲に残された人々が何十年も日本に帰れなかつたことを考えると、終戦日は1945年ではないと思う。
- ③それはどちらの立場で考えるかによると思います。「世界」での終戦日を考えるなら、この意見はまっとうだと思うし、「日本」での終戦日を考えるなら、玉音放送によって国民が納得した8月15日をその日とするのがよいのではないかという反対意見があると思う。
- ④世界的に、日本の終戦を8月15日と定めることに反対の声が強くなれば、8月15日がいいと思う。なぜなら日本人が戦争のことを振りかえって反省する日として伝統的に8月15日を終戦記念日としているからだ。

誤解や知識不足も含め、生徒たちの意見が多岐に渡るのは当然だが、とくに気になったのはc-①である。ときとして生徒のなかに、「日本史」では日本向けに、だが「世界史」では海外向けにものごとを判断しなければならない…という「態度の切り替え」、いうならばダブル=スタンダードを感じるからである。このような視点のブレをどのように克服すればよいのだろうか。日本史と世界史という歴史科目的二本立てゆえに見えてくる課題である。

いずれにせよ、生徒たちの意見をふまえて、授業では次の2点に留意したいと考えた。

①：「終戦日」に対する個人の心情とは別に、公的な「終戦日」が存在するということ。

そしてその日付が「公的であることの根拠」について生徒たちに考えさせること。

②：戦争終結という政治行為の具体的な経緯を生徒に示すこと。

〈アンケート2〉のQ2の代表的な回答を記しておく。

- ①天皇が玉音放送を行なった日だったから。負けた国のトップが国民に負けを伝えた  
その日こそが終戦日だ。
- ②日本が負けは負けでも、相手に負けを認めるサインをするよりか、自分たちで負け  
たと認めるというちょっとした反抗。
- ③「国民にとっての」終戦日だから。日本政府は記録より記憶を大事にしたのだと思う。
- ④それほど日本国民にとって玉音放送というものがショックな出来事だったとい  
うことだと思う。実際に終わった日付ではなく、日本国民として、戦争が終わった日が  
8月15日だったからなのでは。
- ⑤天皇制であるため、天皇の玉音放送に重きを置いていたため。また学校の授業で8  
月15日が終戦日であるように教えるから。
- ⑥玉音放送（8月15日）の時のビデオを小学6年生、そして中学3年生の頃に見せて  
頂いたことがあったが、ラジオを前に皇居の方を向きつつ、涙を流している映像が  
とても心に残っている。その日から70年以上経った今においても、そこが心に残る  
自分のような人が居るのだから、当時を実際に体験した人たちにとっては、忘れら  
れない終戦の日＝天皇の声がラジオになった日＝8月15日なんだと思うから。
- ⑦終戦日を決めたのがいつかは分かりませんが、天皇制である以上、政府が受諾した  
日でなく、天皇が明言された日で設定したのではないかと思う。
- ⑧記念日は日本国内のみで通用することなので、日本国民の意識を主体として考  
えるのであれば、その日でいいと思う。
- ⑨日本の場合では、民衆の前に普段ほとんど姿を見せなかつた天皇が玉音放送をした  
ことが特別だという事が現在まで残っているからだと思う。あとキリが良い数字  
という意味も、もしかしたら含まれるかもしれない。
- ⑩当時は天皇制維持が敗戦国日本の唯一のプライドのよりどころで、天皇が敗戦を認  
めた8月15日こそが日本国敗戦日と決めることにより、国民の天皇崇拜の心を  
守った。

⑪終戦日に戦死者をいたむにあたって、玉音放送のあった日の方が国民感情として受け入れやすいから。

ほとんどの生徒が「玉音放送」の重要性を指摘していた。しかし当然のことながら、占領下の日本において「9月2日」が「終戦日」とされていたことは知らない。授業では、「9月2日」から「8月15日」への変更の意味を生徒たちに考えさせたいと思った。

## (2) “終戦日をめぐる授業”の実際

“終戦日をめぐる授業”は、終戦日にかかわる複数の質問に対する回答（意見）を生徒各自が記述していく形式で進めた（2015年3月16日：4クラスの参加者合計147人）。

以下、授業の展開と生徒たちの意見を紹介していく。資料として当日の「指導案（概略）」と「授業プリント」・「ワークノート」も掲載しておく。授業プリントの実物はB4版横向きで、右半分には図表や史料などを載せ、左半分はサブノート形式で空欄に世界史用語などを書き込ませている（本稿では、右側を省略し、左側の空欄への記入語句には太下線を施した）。授業プリント中の授業の窓は、授業のキャッチフレーズで、今回は「複数の「終戦日」」とした。またA4版の「ワークノート」はB5版に縮小している（記入語句には太下線を施した）。授業前に配布した教科通信（B4版横向き）は、本稿では省略した。

### 【授業の導入】…グローバル・スタンダードの観点から終戦日を定めることは非

まず〈アンケート2〉のQ1とQ3の結果を紹介し、「終戦というのは、外交事項なので、相手国への通告より自国民向けの告知を優先することはグローバル・スタンダードではありえない」という佐藤氏の指摘をどのように受け止めるべきか、再度、生徒に問いかけた。その際、終戦日の日付というのは「説明責任」をともなうものであると強調し、「ワークノート」（1）に自分の考えを書かせた。

結果としては、佐藤氏の指摘に対する賛否の数は、ほぼ同数であった。しかし「国内面と対外面の二本立てを」というコメントが新しく見られる点が、今回の大きな変化である。具体的な人数と、生徒たちの代表的な意見は以下の通りである。

A：積極的に賛成（43人）	B：どちらかといえば賛成（7人）
C：どちらかといえば反対（15人）	D：積極的に反対（41人）
E：国内面と対外面の二本立てを（15人）	F：保留（26人）

### Aの意見

- ①日本の問題だ、と言っても、日本だけの問題ではないから、グローバル・スタンダードに合わせるべきだと考える。
- ②「グローバル・スタンダード」を極力尊重すべき。自らの考えは1回目からのアンケートから変化はないが、やはり日本が降伏を連合国に申し込んだその日が、日本人への通告よりも優先されるべきだと思うので、8月14日だと考える。

資料1

## 地理歴史科（世界史）指導案

指導者 笹川裕史

1. 日時 2015年3月16日（月）

2. 場所 大阪教育大学附属天王寺中・高等学校 視聴覚教室

3. 学級 第1限 高II年D組 第2限 高II年C組  
第3限 高II年B組 第4限 高II年A組

4. 主題 第二次世界大戦

5. 目標 ヨーロッパで始まった第二次世界大戦が、日中戦争とリンクすることで、文字通りの「世界大戦」となった経緯を理解させる。また原爆投下の背景と日本の「終戦日」に関する様々な視点を生徒に紹介し、考察させる。

6. 指導計画

学習内容		時間配当
ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ		2時間
1920年代のアジア		2時間
世界恐慌と1930年代の世界		4時間
第二次世界大戦	大戦の発端（ミュンヘン会談～ポーランド侵攻）	1時間
	大戦の拡大（西欧作戦～独ソ戦～米国参戦）	1時間
	大戦の転機（ミッドウェー海戦～ドイツ降伏）	1時間
	大戦の終結（原爆投下と日本の降伏）	1時間
	「終戦日」をめぐる歴史	1時間（本時）

7. 本時の指導

①主題 複数の「終戦日」

②目標

i : 何をもって「終戦日」とするのか。その根拠を考察させる。

ii : 「玉音放送」をめぐる「創られた記憶」について理解させる。

iii : 日本社会における「終戦日」変更の意味を考察させる。

③展開

・「終戦日」に関する生徒のアンケート結果にコメントしながら、授業を展開する。

・上述の3つの目標に関するポイントを中心に、生徒に考察を深めさせる。

資料2

14・58・2年 世界史ノート-38 「終戦日」をめぐる歴史

授業の窓…複数の「終戦日」

(1) 8月中旬以降の日本政府の動向

- ・1945年8月10日：日本放送協会の海外放送が「宣言」受諾を発信
- 8月12日：日本の「宣言」受諾通告に対する連合国回答
- 8月14日：日本は「宣言」の受諾を確定し、終戦詔書作成
- 8月15日：玉音放送（ただし終戦詔書の日付は8月14日）
- 9月2日：降伏文書調印

(2) 日本内外での「終戦日」

6月25日… <u>沖縄戦終了</u>	8月末～9月上旬…「 <u>北方領土</u> 」
8月15日… <u>韓国・北朝鮮・(中国)</u>	<u>9月2日</u> …米・仏・露
<u>9月3日</u> …中国・フィリピン・(ソ連)	<u>9月6日</u> …ミャンマー
<u>9月12日</u> …シンガポール・マレーシア	<u>9月13日</u> …タイ
<u>10月25日</u> …台湾	

(3) 日本の「終戦日」

- ・1945～1951年と1952年以降の相違…9月2日から8月15日へ
- ・1963年8月15日の「全国戦没者追悼式」の制度化
  - cf: 1930年代より、ラジオでの戦没者慰靈行事
- ・1982年「戦没者を追悼し平和を祈念する日」の決定

(4) 佐藤卓己氏の提案…終戦日の“政教分離”

- ・8月15日の心理（民族的伝統のお盆）…戦没者追悼の日
- ・9月2日の論理（政治的記憶の終戦）…平和祈念の日

資料 3

ワークノート 複数の「終戦日」 II年\_\_組\_\_番\_\_\_\_\_

(1) 「グローバル・スタンダード」、あるいは「説明責任」について

---

---

---

(2) 「正しい」「終戦日」とは何か？

オフィシャル=ヒストリー と プライベート=ヒストリー と パブリック=ヒストリー

---

---

---

---

---

(3) 「玉音放送」をめぐる「記憶」について

---

---

---

---

---

(4) 「9月2日」から「8月15日」への変更について

---

---

---

---

---

(5) 「佐藤提案」について

---

---

---

---

---

(6) 本日の授業の感想

---

---

---

---

---

#### Bの意見

- ①日本の国内のことなので、日本の国で決まったものがいいと思ってたんですが、いろいろ考えると、対外的なことについては国内がどうこうとかよりも、対外的な規準で決めたりした方がいいのかなと思ったりした。
- ②「世界史」は世界を平等に見るべきイメージがあるので、グローバル・スタンダードでよいと思う。

#### Cの意見

- ①他国にあわせる必要があるとはいえないが、外国にはちゃんと説明する義務があると思う。
- ②私は外交的なことよりも日本国を優先してほしいと思ったけど、国によって考え方はそれだと思うので、そういうことにこだわる必要はないと思います。

#### Dの意見

- ①日本の終戦日というのは、日本国民にとってのものなので国民全員に負けが伝わった8月15日とするべきであると思う。
- ②戦争は相手のことより、自国民を犠牲にしてしまったことの方を考えてほしいので、私はグローバル・スタンダードに合わせず、国民の感覚での終戦記念日を設定してほしい。

#### Eの意見

- ①グローバル・スタンダードは尊重すべき考え方だと思いますが、国による違い、立場による違いはあって当然だと思います。その為、グローバル・スタンダードでは表向き、諸国の多数派に合わせ、国内での国民の認識としての終戦は8月15日にするということはできるのではないかと思います。
- ②“日本”的終戦日は日本で決めていいものだと思う（国民の心理に基づいて）。しかし、やはり戦争は1つの国で行なわれるわけではないから、国際的に終戦日は一つであるかを国同士で話しあう必要があると思う（国際的な終戦日・日本国民としての終戦日の2つを考える）。

#### Fの意見

- ①国際的な終戦日を決める場合は、グローバル・スタンダードに合う日（8月14日あたりかな）にすべき。戦争は相手がいるのだから、敗戦国の一つの判断で通用することはないだろう。日本の世界史が日本を中心に取り巻く世界情勢を学ぶ場であるのなら、それに合わせる必要はないだろう。
- ②話を聞けば聞くほど「グローバル・スタンダード」に合わせるべき（略）と思ってきたが、どちらがいいか判断しかねる。でも、国によって違っても別にいいと思う。

### 【授業の展開 1】…「正しい終戦日」とは何か？

授業では、終戦日を考えるための材料として、日本の終戦にかかわる出来事をあげていった。

1945年8月6日、合衆国は原子爆弾を広島に、9日には長崎に投下した。日本はこの原爆投下によって戦意を失い降伏したという「原爆神話」が後に形成される。しかし実際に日本政府に大きな衝撃を与えたのは、8月8日のソ連の対日宣戦布告と9日未明からのソ連軍の侵攻であった。米英との講和の仲介をソ連に依頼するという日本政府の目論みが破綻し、日本国内に革命の危険性すら生じたからである。

8月10日の午前に日本政府は、中立国のスイスとスウェーデン政府を通じて連合国側（米・中・英・ソ）にポツダム宣言の受諾を通告した。さらに10日午後には日本放送協会の海外放送が宣言の受諾を海外向けに発信した。しかしこの時点では、日本政府が「国家統治における天皇主権」という条件を付けていたため、連合国は12日にこれを拒否する。そこで日本政府は、アメリカ政府との間で水面下での交渉をすすめ、「天皇制」の維持が確かめられた8月14日にポツダム宣言の受諾を正式に確定した。14日の夜、天皇が終戦詔書に署名し、深夜に日本政府は、連合国側に対し宣言受諾を発信した。

翌8月15日の正午、「玉音放送」によって日本国民は、日本の敗戦を知った。そして半月後の9月2日、東京湾上の戦艦ミズーリ号の艦上で日本政府と軍の代表が降伏文書に署名した。

生徒には、日本軍の動向についても簡潔に紹介した。ほとんどの生徒が、8月15日の「玉音放送」の直後に戦争（戦闘行為）が瞬時で終決したと思い込んでいるからである。

大本営は、8月15日の「玉音放送」の後に積極的な進攻作戦を禁じた。そして16日には自衛戦闘をのぞく即時停戦が発令され、さらに全面的な停戦の実施予告が17日に海軍で、18日に陸軍で発せられた。そして内地部隊の全面的な戦闘停止が19日に発令され、22日に実施。北海道と外地部隊の全面的な戦闘停止が22日に発令され、25日に実施された（ただし中国大陆は除外）。

ところで日本国内では、3月末からの沖縄戦は、多数の県民を戦闘に巻き込み、6月25日に沖縄守備隊の組織的抵抗が終了していた。一方、ソ連軍が侵攻した千島列島では8月15日以降に本格化した戦闘が9月上旬まで続いた。沖縄や千島列島の人びとにとて8月15日という日付には、どのような意味があったのだろうかと、生徒たちには問いかけた。

海外では、アジア・太平洋戦争の終戦日はどうなっているだろうか。朝鮮半島の韓国と北朝鮮では、8月15日が光復節＝「解放日」と位置づけられている。中国（中華人民共和国）でも、建国当初は8月15日が抗日戦争勝利記念日だったが、現在の公式記念日は9月3日である。アメリカとフランス、そして現在のロシアは、降伏文書の正式署名がなされた9月2日をVJデイとし、欧米の多くの国々も同様となっている。東南アジアのフィリピンは9月3日、ミャンマーが6日、シンガポールとマレーシアが9月12日、タイが9月13日、そして台湾が10月25日である。いずれも現地の日本軍の降伏もしくは武装解除の日に当たっている。

日本国内での「終戦日のズレ」、あるいは海外での「複数の終戦日」を紹介したあと、授業では、筆者の考える3つの歴史…「オフィシャル＝ヒストリー」「プライベート＝ヒストリー」「パブリック＝ヒストリー」について紹介した。そして生徒たちに「正しい終戦日は存在するのだろうか。存在するとすれば、どのような根拠によってそれを正当化できるだろうか」と問い合わせ、「ワークノート」(2)に自分の意見を記述させた。

以下がその結果である。

A: 「正しい終戦日」はある (19人)

(その内訳) 8月14日 (2人) 8月15日 (4人) 9月2日 (1人)

(1952年) 4月28日 (1人) それぞれ (1人)

「正しい終戦日」を定める必要がある (6人)

B: 「正しい終戦日」はない (116人)

(その内訳) しかし「終戦日」を定めておくことは必要 (71人)

→ 8月14日 (2人) 8月15日 (8人)

9月2日 (4人) それぞれに (19人)

「正しい終戦日」を定めるのは不必要・不可能 (35人)

C: そもそも「終戦日」を定めることは不要・無意味 (3人)

D: 保留 (9人)

8割近くの生徒は、「正しい終戦日はない」と答えている。しかしその半数以上が「はじめをつけるために終戦日を定めておくことは必要だ」と考えていた。生徒たちの代表的な意見を紹介しておく。

#### Aの意見

①「正しい」ことは人によって違い、それは仕方のないことであり、「正しくない」と責めることはできない。勝者が歴史をつくると聞いたことがある。自分にとって都合よく歴史を作るのだろう。それがオフィシャルヒストリーであり、負けた者、力の無いものが語り継ぐプライベートヒストリーにこそ重要なことが隠されているだろう。しかしそれは被害者意識というか、片寄った考えも多く入るだろう。なのでパブリックヒストリーは必要なのだと思う。しかし人間の共通意識が必要となつた場合、何かを「正しい」と定めねば不便である。民主主義の世の中ではそれが多数決で決められるのか、または力のある者が「正しい」と勝手に決めてしまうのであろう。

②終戦日というのは、確かに人によって感覚としては違うものであるかもしれないが、1つの日を決めることにより、皆で戦争のことを再認識したり、戦没者を追悼したりして、平和を願うという機会が生まれると思う。その上で、日本では一番多くの人が終戦を実感したであろう8月15日を終戦日にするのが良いのではないかと考える。

### Bの意見

- ①正しい終戦日を決めるることはできないと思う。（略）私は「日本国民の」終戦日は8月15日だと思う。「日本政府の」終戦日は8月14日or9月2日だと思う。それぞれの国で定められている終戦日は「その国の政府の」終戦日だと思う。「世界で統一する歴史として外交的に判断する」終戦日は9月2日だと考える。
- ②正しい終戦日はつくれないと思う。場所によって戦いが終わった時期も違うし（略）どの立場で見ても納得のいく終戦日というのは存在しないと思う。けれども区切りをつけるためにも終戦日は必要だと思うので、8月14日か9月2日が終戦日としてふさわしいと思う。

### Cの意見

- ①「終戦日」を決める意味がわからない。日にちまでこだわって何がしたいのかわからない。「終戦日」と決めたら、その日に毎年戦争について考えるようになるという利点があるのかもしれないことしかわからない。
- ②「終戦日」を決める必要はなく、1945年下半期、とか大きな枠組みでいいと思う。

### **【授業の展開2】…創られた記憶…「玉音放送」と「玉音写真」**

ついで授業では、8月15日の「玉音放送」とそれをめぐる記録／記憶について簡潔に説明をした。

戦後世代にとっても、「玉音放送」は、映画やテレビドラマを通じて、ある意味「お馴染み」である。しかし実際はどのような状況だったのか。まず8月14日の夜と翌8月15日の朝の2回、ラジオを通じて国民に、15日正午に重大な放送が行なわれると通知がなされた。そして15日正午の時報のあと、起立等のアナウンス、「君が代」の奏楽に続いて「玉音放送」が流された。その後、再度「君が代」の奏楽、アナウンサーによる終戦詔書の再朗読と解説（昭和天皇の発音が聞き取りにくく、詔書の文言が難しかったため）、ボツダム宣言受諾までの経緯の解説と続き、全体としては37分30秒の放送であった。

さらに授業では、筆者の82歳の父と82歳の母（2014年当時）が、「玉音放送」をリアルタイムで聞いていたことを生徒たちに紹介した。旧制中学1年生だった父は徳島市郊外の疎開先で、小学校5年生だった母は徳島県阿南市の実家で。「ラジオの雑音が大きく、何が述べられているのか、さっぱり分からなかった」父は、放送後しばらくして周囲の人が「日本が戦争に負けた」と言っているのを聞き、ようやく日本の敗戦を知ったと語っている。「終戦詔書の言葉遣いが難しく、やはり意味が分からなかった」母は、当時村役場の助役であった祖父（母の父）から敗戦を知らされたと言う（なお母は、祖父が日本の敗戦を事前に知っていたのではないかと思っている）。だが両親とも「玉音放送」後のアナウンサーによる解説等は覚えていない。

これまで終戦に関する写真集や資料集等には「玉音放送」を聞いて泣き崩れる人びとの写真などが掲載されてきた。それらは、8月15日の衝撃を示す「玉音写真」として、日本国民の「8月15日のイメージ」を生み出し、補強してきた。そこで、生徒たちには、「玉音放送直後の混乱時に、このような写真を撮影し、すぐに記事を書き、新聞を発行するこ

とができたのだろうか」と問いかけてみた。そして現在では、これらは15日当日の写真ではなく、さまざまな機会に撮影された写真をマスコミが「玉音写真」に相応しいと判断し、転用したことが明らかになっていると説明をした。

残念ながら、授業時間が大幅に超過する恐れが生じたので、この項目に関しては、説明をするにとどめ、「ワークノート」（3）の作業はさせていない。

#### 【授業の展開3】…「9月2日」から「8月15日」への変更

現在の日本では、8月15日が終戦日となっているが、かつてはそうではなかった。その変更の経緯について簡潔に説明した。

アメリカ軍に占領されていた時代、日本の終戦日は9月2日であった。GHQの管理下では、アメリカのVJデイ（日本の降伏文書調印日）が終戦日となっていたのである。そして日本政府やマスメディアも9月2日に、終戦の周年行事や特集等を行なっていた。

しかし日本がサンフランシスコ講和条約を締結し、1952年に独立を回復すると、状況が変化する。9月2日の終戦関連の行事は姿を消し、代わりに8月15日が浮上した。

では、なぜ8月15日なのか。「玉音放送」のあった8月15日が、日本国民にとって特別の日だったことは言うまでもない。そしてもう一つ重要なことは、日本の伝統的な行事の盂蘭盆会（お盆）であり、1930年代よりラジオ放送で戦没者慰靈法事が始まっていたことも逃せない。なお授業では、「8月15日は、どのような日だろうか」と各クラス数名に質問をしたが、すぐに「お盆」と答えられる生徒はあまりいなかった。

つまりところ、対外的な降伏文書調印という屈辱的な日付（9月2日）よりも、玉音放送とお盆という情緒的な日付（8月15日）の方が、日本社会にとって受け容れやすかったということである。日本政府は1963年に、8月15日の「全国戦没者追悼式」を制度化し、1982年には、8月15日を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」として閣議決定した。

授業では言及しなかったが、筆者の両親は、占領時代に9月2日が終戦日とされていたことは記憶に残っていないと語っていた。

この説明の後、生徒たちに「“9月2日”から“8月15日”への変更の理由について。またそれに関する自分の考え」を問いかけた。「ワークノート」（4）に記された生徒たちの代表的な意見をあげておく。

- ①8月15日は終戦日ではなく、戦没者追悼日として扱われるべきだった。終戦日は9月2日のままでよかった。
- ②9月2日はアメリカでVJデイと勝戦祝いをしているのに対し、9月2日に終戦日になると、「敗戦日」という敗戦したことが強く印象に残るのもあると思うから、お盆で戦没者慰靈行事にかぶせたのは、政府のすごく都合のいいようにしているなと思った。
- ③祖母が8月15日は特別だと言っていた。先祖も戦死した者も一緒に思い出し、弔えることはいいことなのでは？ 結果論ではあるが、盆に実家（田舎）に帰る人は多

い。夏休みに家族・親戚の集まつた場は、歴史について語らういい機会となつていいと思う。

- ④（終戦日の変更は—引用者）必要なかったと思う。戦争の犠牲者を弔う日としてお盆がちょうどいいと考えるのは日本人だけだし、それは終戦ではない。日本の考え方で終戦日を変えるのもおかしい。
- ⑤「9月2日」は（略）連合国側の記念日であり、占領が解除された後に、占領解除を象徴する意味合いで8月15日という国民からみた終戦日、なおかつ天皇による放送が流れた日に変えられたのではないかと思います。9月2日のミズーリ号での調印は国民にとって「発表の後の事後処理」というような感覚あまりなじみもなかったのでは…。
- ⑥その変更は正しかったと思う。それまではアメリカに占領されていたから9月2日から8月15日に変えたのだと思った。それは私には少しのアメリカへの抵抗のように思えた。
- ⑦国民にしてみれば、自分たちにはほとんど関係のない、政治的な記念日であった9月2日から、大きなインパクトとショックを与えた玉音放送とお盆が重なった8月15日に変化させるのは、意味が大きく、何もわざわざないことの伴わない自然な変化なのかな…と思う。

#### 【授業の整理】…「佐藤提案」について

佐藤卓己氏は、「終戦というのは、外交事項なので、相手国への通告（8月14日）より自国民向けの告知（8月15日）を優先することはグローバル・スタンダードではありえない」と述べている。しかし「8月15日」に対する日本国民の思いを否定し、終戦日をいまさら動かすことは現実的には非常に困難であろう。だが時には、それがあまりにも内向きの、他者を顧みない終戦日となってしまう危険性は免れない。日本の300万人の死者（兵士および民間人）と同時に、アジア各地での2000万人の死を悼むために、どのような方策があるだろうか。この難問に対して、佐藤氏は、終戦日を2つに分割することを提案している。すなわち8月15日を「戦没者追悼の日」、9月2日を「平和祈念の日」とする案である。前者は、お盆という日本人の心理（民族的伝統）に配慮したものであり、後者は、国際社会における政治的記憶（終戦の論理）を尊重したものである。

授業のまとめとして、佐藤氏の提案に対する賛否を生徒たちに聞いてみた。「ワークノート」（5）の記述をおおまかに分類すると、以下のようになつた。

A : 積極的に賛成（41人）	B : どちらかといえば賛成（31人）
C : 賛成だが可能なのか？（17人）	D : 反対（34人）

（アンケート2）の「Q1で紹介した佐藤卓己氏の指摘に対する賛否とQ3の回答結果の組み合わせ」の結果では、「終戦日の決定は外交事項なのでグローバル・スタンダードに基づかなければならぬと考えつつ、その一方で8月15日にこだわっていた」生徒たち（b）や、「判断保留」の生徒たち（d）が半数近くいた。彼らの多数が「佐藤提案」に「積極的に賛成」もしくは「どちらかといえば賛成」したのではないかと推測される。一

方で、アジア・太平洋戦争の終戦日を定めるという困難な課題への手頃な解決策として、生徒たちが安直に「佐藤提案」に飛びついたということでもなさそうである。「佐藤提案」の意図は分かるが、その実現に対して「賛成だが可能なのか？」と疑問を抱く生徒が一定数いるし、「佐藤提案」への反対者や保留者も、合わせると4割近くとなるからである。

ただ、いずれにせよ「佐藤提案」は、生徒たちに対して、ある種の閉塞感を破るインパクトを与えたと言えそうである。生徒たちの代表的な意見を紹介しておく。

#### Aの意見

- ①賛成です。どうして今こうなっていないのかが、分からぬくらいです。お盆と重なっていることや、今までの慣習のことを考えると8月15日というのは、残しておいた方がよいし、その反面、戦争は一国で完結するものではないので、政治的記録の残っている日を終戦日とする方が、世界的にみて混乱が少ない。佐藤提案は両方に焦点をあてていて、良いと思う。
- ②意味合いを分けて考え、日を定めると言う方針に「パブリックヒストリー」の考えを感じるし、納得できる。終戦というのを色んな観点・意味に分けて考えることで、より多くの人が納得できる日に近づくと思う。
- ③とても素直に、なるほどと思った。（略）私は、やっぱり日本が受けた被害にばかり目をやってしまうので、日本軍の活動によって命を落とした人に対し弔う日を設けるというのが、個人的には良いと思った。終戦日を1つに絞る事はやっぱり難しい事だと思うので、こういた根拠がしっかりしたもののが広まれば、終戦の意味を知ってもらうのにも良いのではないかと思った。

#### Bの意見

- ①2つに分けるという考えはいいと思う。それぞれの考えの人が完全に納得することはなくとも、妥協案としては間違っていないのではないか。
- ②他国のこととも考えれば、その提案に合わせるのが、最も合理的であるように感じた。また日本国内においては8月15日が終戦日であるべきだとあらためて感じた。
- ③大枠には賛成する。ただ9月2日には納得しない。9月2日以降も現地ではまだ戦闘が行なわれていたため、完全に終戦したとは言えないと思うので、もっと後にすべき。
- ④正直、1つの事柄について2つも特別な日があることはどうしても納得出来ない。だが、1つの事柄と見ずに「人々」と「国」という別のものとして考えれば至極まっとうな意見だと思う。

#### Cの意見

- ①とても賛成する。国民の意識としての終戦日も大切だけど、政治的・対外的な終戦日も大切だと思う。ただ、もう15日で定着てしまっているから、この考えを広めるのはなかなか難しいと思う。

②理解しましたが、9月2日を今さら復活させるのもどうかなと思う。

③日本人がアジアにしたことを二の次に考えていることは否めない。その点では良い提案に思えるが、戦争経験者が減るなかで国民や世界に今さら広まるとは思えない。

#### Dの意見

①心理面と論理面で分けるというのは、確かに納得できるが賛成はできない。なぜなら、終戦日を2つに分けることによって「終戦日」という存在への意識が薄らいでしまうかもしれない殻だ。

②今さら終戦日を分ける必要はないと思う。日本国内で8月15日は戦没者を追悼し、平和について考える日だという認識が広まっているから、分けるとややこしい…。

③彼の考え方はとても面白いと思ったが、庶民的ではないと思った。庶民はこの2日を「～の日」であると考えるかどうか分からぬ。だから終戦日をどちらかに示す方がいいと思った。

④記念日を増やすのはあまりよくない。

#### Eの意見

①特に反対はないが、終戦日を定めることはそんなに大切なかと思う。1年に一度、戦没者を追悼し、平和を祈念する日を定めることは大切だと思うが。

②二つに分けるというのはよい案だと思う。様々な人の気持ちも尊重されるので。しかし、二つにすると終戦の日というものの価値が下がるのではないかと思われる。

#### 4. おわりに

今回の「終戦日をめぐる授業」において、筆者は次の3点を目標としていた。

i : 何をもって「終戦日」とするのか。その根拠を考察させる。

ii : 「玉音放送」をめぐる「創られた記憶」について理解させる。

iii : 日本社会における「終戦日」変更の意味を考察させる。

授業では、「終戦日＝8月15日」という生徒の常識（知らない生徒／忘れていた生徒も少なからず存在したが）に楔を打ち込むことができた。「ワークノート」(6)の授業全体に対する生徒の感想を読んでみると、授業の目的のうちiとiiiに関しては、なんとか目的を達したと言えそうである。生徒たちの代表的な感想を紹介しておく。

①終戦についてたくさん知っていくほど、自分の考えがどんどん変わっていった。これは戦争に関わった国として、知っておくべきだと思う。正しい答がどうとかではなくて、終戦日について考えることが大事だと思う。そしたら戦争についての関心も深まると思う。

②様々な視点からの「終戦」にふれることができたと思う。玉音放送の写真・放送のことは全然知らなかった。聞いたときはショックだったが、知ることができてよかったですし、知らなければいけないことだとも思った。

③アンケートとてまで、どんな授業するかと思ったけど、今まで一番興味深かった。先生の親御さんの話はプライベートヒストリーですね！

もちろん反省点は多々ある。授業回数の制約とはいえ、本当ならば2回分に相当する内容を1回の授業で行なった。授業の猛烈なスピードに生徒たちはかなり苦労しただろう。教師からの問い合わせに対する考察時間を生徒たちに十分保障できなかつたし、予定していた生徒間での意見交換・議論の時間もとれなかつた。とくに授業目標のⅡに関しては、教師側の一方的な説明だけで済ませてしまった。今後の課題である。

また少数だが、授業テーマに無関心／反感を抱いた生徒もいた。こういった生徒たちの感想も紹介しておこう。

- ④出来るならもう少し時間をかけて書きたかった。私の祖父母は4人とも戦争経験者で、少し話を聞いたこともあったが、祖父母の父母が戦死したこともあり聞きづらかった。
- ⑤正直どうでもいいと思った。世界的な終戦日は世界で決めて、個々の終戦日は個々で決めればよいと思った。
- ⑥ちょっといろいろ難しかつたし、大変だった。

しかしながら、総じて今回の授業は、大半の生徒たちに好評であったと言えそうである。

- ⑦このような受験に必要のないことでも、日本や世界を学び、生き方やワールドワイドな考え方を使う授業は、今後の人生に役立つと思って楽しかつた。終戦は8月15日だと思い込んでいたけれど、もっと視野を広くして他の国や他の地域、他の人の考え方や成り立ちを含めてたくさんのことを考えようと思った。
- ⑧今までテレビなどの終戦特集などを見て「ああ今日、終戦記念日か」って思うくらいだったので、この授業を通して「戦争が終わるって何だろう？」と考えるようになりました。戦争は国と国との戦いである前に、戦う人がいてこそその戦争なので、犠牲となった人々（自国だけでなく）のことを追悼し、戦争について考える日だということをしっかりと認識しないといけないと思いました。
- ⑨やはり国や人によって戦争のとらえ方が異なるということをあらためて認識した。そこには個人や国の思いがあるので当然だと思う。その上で、この「終戦日」が形だけのもので終わるのではなく、各自がしっかりと戦争のひどさ、むごさを終戦日を通して理解しておくことが大事だと思う。
- ⑩今までの授業の中でもかなり濃くて密な授業でしたね（量の多さが、唖然としたけども）。トピック一つでこんなに多くのデータがあるものなのかなということ、こんなに深いものかと驚きました。たんなる事実ではなく他人の解釈を考える授業、興味深くて好きです。また受けたい。

多忙ななか“終戦日をめぐる授業”を参観してくださった附属高校の同僚教員からは、「終戦日の日付など考えたこともなかった」というコメント等をいただいた。今後は、終戦日に関するアンケートに保護者にも協力をしていただくなどして、“終戦日をめぐる授

業”の可能性を模索していきたい。<sup>(註5)</sup>多くの生徒たちとの「パブリック＝ヒストリー」の場を広げて行くためにも。

今回の実践は、アジア世界史学会（AAWH）の第3回シンガポール大会（2015年5月29～31日）の2日目のSessionD：How to Teach/Learn Asian History: New perspectives, approaches and “active learning” practices in High Schools in Japanで報告する機会に恵まれた。報告の準備に際しては、大阪大学大学院文学研究科教授の桃木至朗先生と秋田茂先生からは貴重なご助言を多数いただいた。また同じパネルを組んだ川島啓一先生（同志社高等学校）・皆川雅樹先生（専修大学附属高等学校）・後藤誠司先生（京都市立日吉ヶ丘高等学校）からも様ざまなご支援をいただいた。ここに謝意を表します。

#### 註

- 1：たとえば日本史の教科書での沖縄戦の記述において、沖縄住民の「集団自決」あるいは個人の「自決」の原因として「日本軍の強要」を認めないというのが、文部科学省の教科書検定の際の方針であり、これに対しては沖縄県議会および県内の全市町村議会が異議を申し立てている。新城俊昭『書き込み教科書 改訂版 高等学校 琉球・沖縄の歴史と文化』（2010年・編集工房東洋企画）pp. 127 - 129
- 2：たとえば9月3日を対日戦勝記念日としている中華人民共和国での、2015年の大々的な「抗日戦勝70周年記念日」の式典は記憶に新しい。
- 3：筆者は、10年ほど前に佐藤卓己氏の『八月十五日の神話—終戦記念日のメディア学』（ちくま新書・2005年）を読み、大きな感銘を受けた。今回の授業は『増補 八月十五日の神話—終戦記念日のメディア学』（ちくま学芸文庫・2014年）をベースにした。
- 4：いくつかの日本史と世界史の教科書の本文の記述を参考にあげておく。
  - ・実教出版『日本史B』（2015年）p. 321「これに対して、日本はボツダム宣言を「黙殺」することを声明した。7月に核実験を成功させていたアメリカは、8月6日、原子爆弾を広島に投下し、10数万人を殺戮した。原爆投下には、参戦を予定していたソ連の影響力をおさえ、アメリカが主導する形で対日戦を終結させるというねらいがあった。これをみたソ連は参戦を急ぎ、8日に日ソ中立条約の破棄と日本への宣戦を布告し、9日、満州・朝鮮・樺太に侵攻した。同日、アメリカは長崎にも原爆を投下し、7万人以上が犠牲になった。ここにいたって政府は14日、昭和天皇の裁断により、天皇の統治の大権を変更しないという解釈のもとでボツダム宣言を受諾した。15日正午、天皇はラジオで戦争終結を告げた。降伏文書の調印は、9月2日、東京湾上の戦艦ミズーリ号上でおこなわれ、アジア・太平洋戦争は終わつた。」
  - ・山川出版社『詳説日本史』（2015年）p. 368「ボツダム宣言に対して、「黙殺する」と評した日本政府の対応を拒絶と理解したアメリカは、人類史上はじめて製造した2発の原子爆弾を8月6日広島に、8月9日長崎に投下した。また8月8日には、ソ連が日ソ中立条約を無視して日本に宣戦布告し、満州・朝鮮に一挙に侵入した。陸軍はなおも本土決戦を主張したが、昭和天皇のいわゆる「聖断」によりボツダム宣言受諾が決定され、8月14日、政府はこれを連合国側に通告した。8月15日正午、天皇のラジオ放送で戦争終結が全国民に発表された。9月2日、東京湾内のアメリカ軍艦ミズーリ号上で日本政府および軍代表が降伏文書に署名して、4年にわたった太平洋戦争は終了した。」
  - ・実教出版『世界史B』（2015年）p. 371「この会談では、ドイツの戦後処理方針と日本の降伏条件・戦後処理方針が討議され、米英中の3国によって日本に無条件降伏を勧告するボツダム宣言が出された。しかし、日本は国体（天皇を中心とする体制）が変更されることを恐れて、すぐにはそれを受け入れず、アメリカによる広島（8月6日）・長崎（8月9日）への原子爆弾の投下、日ソ中立条約があるにもかかわらずヤルタ協定にもとづいて実行されたソ連の対日参戦（8月9日）を経てはじめて、ボツダム宣言の受諾にふみきった。」（側註で、受諾に関わる日付を詳しく記している）
  - ・帝国書院『新詳 世界史B』（2015年）p. 269「日本は、天皇を中心とする体制の存続が保証されていないことを問題視して、当初ボツダム宣言を黙殺した。戦禍は拡大し、アメリカが8月6日に広島、9

日には長崎に原子爆弾を投下、さらにソ連軍が満洲・朝鮮・樺太南部に侵入した。日本軍が敗走するなか、満洲を中心に多くの在留日本人がおきぎりにされた。日本は8月14日にポツダム宣言を受諾し、15日に昭和天皇がラジオで受諾を公表した。」

・東京書籍『世界史B』（2014年）p.370「連合国首脳のトルーマン、チャーチル（途中で労働党のアトリーと交代）、スターリンは7月、ベルリン郊外のポツダムで会談し、ヨーロッパの戦後処理について協定するとともに、米・英・中の首脳はポツダム宣言を出して日本に無条件降伏を求め、戦後の日本管理方針を明らかにした。8月、広島と長崎に原子爆弾が投下され、さらにソ連が日ソ中立条約を無視して参戦したので、日本はようやくポツダム宣言を受諾して降伏した。」

・山川出版社『詳説世界史』（2015年）p.369「4月にローズヴェルトが急死したため、合衆国大統領に昇格したトルーマンは、7月チャーチル（途中で労働党のアトリーと交替）・スターリンとポツダムで会談し、ドイツ管理問題を協議するとともに、日本の降伏を求めるポツダム宣言を発表した。アメリカは、8月6日広島に、さらに9日に長崎に新兵器の原子爆弾を投下して、両市を壊滅させた。同時に、ソ連はヤルタ協定に基づき、日ソ中立条約の規定を無視して、8月8日日本に宣戦し、中国東北地方をはじめ、朝鮮・樺太に軍をすすめた。日本の降伏直前のアメリカ合衆国とソ連の軍事行動は、戦後世界で主導権を握ろうとする意図があった。日本は8月14日ポツダム宣言を受諾して降伏し、15日国民にも明らかにした。」

・山川出版社『新世界史』（2014年）p.379～380「同年7月、トルーマン・チャーチル（途中で労働党のアトリーに交替）・スターリンはベルリン郊外のポツダムで会談し、ポツダム宣言を発表したて日本に無条件降伏を呼びかけたが、日本政府はこれにこたえなかった。アメリカは8月6日広島、9日長崎に原子爆弾を投下し、また8日、ソ連が日ソ中立条約を無視して参戦したため、ついに日本政府は14日に降伏し、15日に国民にも発表した。」

5：保護者にアンケート協力をお願いした授業実践としては、笹川裕史「『最後の授業』をもう一度」『研究集録』第43集（2001年・大阪教育大学附属天王寺中・高等学校）pp. 25～40をあげておく。

August 15, 1945

: The Date of the End of World War II

SASAGAWA Hiroshi

What's the date of the end of World War II (Asia-Pacific War)? Japanese government notified the Allies (USA, UK, USSR and China) of the acceptance of the Potsdam Declaration on August 14, 1945. On the following day (August 15<sup>th</sup>) the Emperor Hirohito conveyed the surrender of Japan with nation-wide radio broadcast (Gyokuon-hōsō). For USA September 2 has been the official V-J Day (Victory over Japan Day), since the official document for the surrender to the Allies was sealed by Japanese government in the formal ceremony on that day.

Under the Occupation of GHQ, September 2 is determined as the date of the end of WWII . However as soon as Japan restored the independence in 1952, August 15 became the most important date for Japanese. Now almost all of us Japanese think that it is natural to consider August 15 to be the anniversary of the end of WWII . Probably Japanese people unconsciously hoped that because August 15 is the traditional memorial service day (Bon Festival day) and also, such a special day as Gyokuon-hōsō was broadcasted.

However, if the date of the end of the war should be based on the relationships with other countries, August 14 may be more proper, on which day Japan notified the waging-war countries of the acceptance of the Potsdam Declaration, or September 2 when Japan signed the instrument about the surrender.

While in most of countries the anniversary of the end of WWII is September 2, it differs in some countries. In South Korea and North Korea, the date is the same as Japan (August 15). In China, Russia and Mongolia the date is September 3 (in Taiwan, October 25). Japanese army in some districts disarmed, in the Philippines on September 3, in Singapore and Malaysia on September 12, and in Thailand and Burma on September 13.

This report refers to the following two points.

- (1) How and why Japanese changed the date of the end of WWII from September 2 not to August 14 but to 15? And what high school students think about this change.
- (2) Why the date of end of WWII varies with countries? And what students think about the end of WWII .

Key Words : Potsdam Declaration, students-activity, the date of the end of World War II ,V-J Day (Victory over Japan Day), World History,

# 結び目の数学の中学生に対する導入

いわ せ けん いち よし むら のぼる  
岩瀬謙一 吉村昇

抄録：本論文は、結び目の数学を3次元の立体教材として、中学校に導入するための1つの授業の形態を提案するものである。この授業は、3人で手をつなぐというとても単純な作業の中に潜むちょっとした疑問を解決することをテーマとし、その手法を通して、子供達の頭の中に、立体のイメージを描くことができる力をつけることを目標としている。以下において、2015年に本校教育研究会で行った研究授業を紹介し、中学生に対する結び目の数学の導入の1つの方法を示したい。

キーワード：結び目の数学、数学教育、中学生、立体のイメージ、数学的活動

## I. はじめに

結び目の理論を、中学や高校へ導入する試みは、2004年より続けている。当初は、結び目の理論で扱われる内容のうち中学生、高校生に指導できる教材を探すこと、主として実践研究していたが、近年は、公立中学校への導入授業の形を1つ作り上げることや小学校、中学校、高校で扱う結び目の数学のカリキュラムなどについて実践研究を行っている。

特に、前者の研究については、今まで大阪の4つの公立中学校で、3人の現場の先生によって我々の指導案をもとに実践をお願いし、共同で研究をおこなった。これらの実践研究を通して、中学生に対する結び目の数学の1つの導入の形がはっきりと見えてきた。本論文は、これらの研究の現時点での成果を発表するものであり、数学的な活動を引き出す新しい教材として、結び目の数学を扱うことの意義を多くの現場の先生方に知っていただきたいと考える。

我々の実践研究の教材は、3次元の立体である。したがって、授業を行う上で最も重要なことは、必ず手でさわる作業を入れるということである。写真やコンピュータの画面上で立体を見ても、人間は簡単に騙されてしまう。人間は、3次元空間に生きていて、同じ世界に存在する立体の様子を見ただけではなかなか正しく判断できない。よくわからない立体の構造を知るときに、辺（直線または曲線）などの位置関係を正しく理解しなければならない。そして、その為の立体物としてその最もシンプルなものが結び目である。したがって、この結び目の様子を理解する活動を通して、子供たちに3次元における様々な立体のイメージをより明確にできるようにさせることを目指しているのである。

我々が、立体を正しくイメージしようとしたとき、立体上の線の位置関係の理解が重要なとなる。そして、それらの線は見る角度によって違って見える場合もある。したがって、見る角度によっては、同じ立体を違うものと勘違いしてしまう場合もあるのではないだろ

うか。では、2つの立体をみて、どうやって同じかどうか判断することができるであろうか。直線のフレームをもつ立体なら、模型をさわって色々な角度から見れば同じかどうか判断できるかもしれないが、曲線のフレームでは、実際にさわってみてもなかなか同じかどうか判断できないのではないだろうか。勿論、そもそもその構造、つまり辺の位置関係などが異なる場合は、全く同じ形にならない。

3次元空間において、立体をどのように区別することができるのだろう。立方体、球は、それをとっても同じ形であるが、直方体や円錐といつてもその形は無数に存在する。そして、曲面で囲まれたさらに複雑な立体も無数に存在する。位相幾何学の位相同型や結び目の理論における不变量は、图形をそれぞれの観点で分類している。

今、3次元の立体の分類を考えるとき、やはりその構造（骨組み）が最も根本的であると考えることが自然であろう。結び目などは、大きさや角度、長さや外見上の形などは異なっていても、変形しているうちに同じ形にすることができる場合がある。また、どのように変形しても同じ形にならない場合もある。つまり、線の位置関係によって様々な構造の違いをもつのである。このような意味において、結び目を教材として扱うことは、3次元の立体を扱う意味において本質的であると考える。特に、自明な輪になるかどうかということを知ることは、子供たちの知的好奇心を刺激する教材として考えられるのである。このように、結び目の数学は、3次元の立体のイメージ力を向上させる可能性を持った有力な教材である。

## II. 結び目理論の教材化について



結び目とは、紐のようなものを結んだものであり、身の回りのどこにでも見かけられるものである。紐の結び方は何通りもあり、その結び目は同じように見えても、全く違う場合がある。また逆に、違うように見えても同じ場合もある。この結び方を分類することが、結び目を研究する上で大きな目的の一つになっている。しかし、例えば、上記左側の結び目は、明らかに簡単にほどけてしまう。つまり、このような状況では、結び目の違いを調べることはできない。そこで、結び目を分類するために、上記右側のように紐の両端をつないだ閉曲線を結び目と呼ぶことにする。また、2つ以上の結び目をさらに絡ませた閉曲線の集まりを絡み目という。

純粹数学の研究において、近年、結び目の理論が注目され始めた1つの理由は、これらの研究が、数学の分野のみならず、様々な分野の研究と関わっていることが分かってきたことにある。例えば、最近の研究で、結び目の研究結果が、遺伝子のDNAの構造やたんぱく質の構造などの研究に多く役立つことが分かってきた。



DNA 結び目

また、結び目は、一般に3次元空間に存在するものであり、我々の世界に、日常的に存在するものである。そして、立体としては、1本の閉曲線でできた最も単純な図形といえる。つまり、結び目を作ることは、立体について考察する上で最も単純な作業なのである。我々が結び目を扱うときに、大切なことは、2つの結び目が同じものかどうかという点である。例えば、ある結び目が、ほどけるのか、ほどけないのかということが問題なのである。したがって、長さや角度や面積などを考える必要はない。

結び目を区別するときに、様々な数学的手法を用いるのであるが、不变量と呼ばれるものを対応させて区別するのが一般的である。我々が、よく知っている不变量の例として、合同条件や相似条件が挙げられる。これらは、三角形や四角形の形や大きさを区別するときに用いるものであり、平面図形を分類する不变量の1つである。我々は、結び目の分類をするときに不变量を扱ってみようというわけである。

結び目の不变量は、結び目理論の近年の研究により、さまざまなもののが考えられている。しかし、合同条件や相似条件のように、全ての結び目を完全に分類できる不变量は、まだ発見されていない。無数にある結び目を、どのような観点から分類するかということが、今後の課題であると同時に、一見、簡単そうであるが、まだまだ、未解決な部分が多く残つており、多く研究者によって、多方面からの様々な成果が寄せられている。

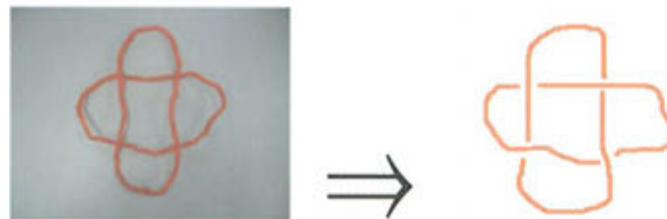
初めに述べたように、結び目は、我々の身近にあり、簡単に手に入るものである。これを用いて、学校現場において、教育的な取り組みができたら、おもしろいのではないだろうか。

結び目の理論は、位相幾何学の一分野であり、学校現場で専門的な話をしてほとんど理解できないと思われるが、この分野の中には、小学生、中学生に考えさせたり、知的好奇心を刺激できる教材が色々と存在する。

### III. 立体を平面に写して考察する

#### (1) 射影図

結び目は、3次元空間に存在するものであるが、我々にとって、3次元のものを3次元の中で考察することが難しい場合がある。このような場合に結び目を平面に写して考察する。射影図とは、結び目を交点の上下がわかるように平面に写した図である。結び目を射影図に描くことや射影図から実際に結び目を復元することは、結び目や空間を理解するために有効である。



### (2) ライデマイスター移動

結び目の変形は、平面上で示すと次の3つの移動に集約されるということをドイツのライデマイスターが証明した。これらの変形操作をライデマイスター移動という。

$$\text{I. } \text{7} \leftrightarrow \text{7} \quad \text{II. } \text{X} \leftrightarrow \text{)(} \quad \text{III. } \text{X} \leftrightarrow \text{X}$$

実際にひもを使って結び目を作り、変形してみると、確かに、必ずこれらのどれかの変形をしていることがわかる。結び目を変形するということは、結局これらのどれかの変形を繰り返しているのである。

### (3) 結び目の分類

様々な結び目を分類することやその方法を研究することが、結び目の理論の研究の大きな目的である。切り貼りせずに、同じものに変形できる結び目を同じ結び目と考え、どのように変形しても同じものにできないものが異なる結び目である。結び目の分類は、主として最小交点数によって分類する。2005年までに22交点までの結び目の分類がされている。しかし、現在に至るまですべての結び目を完全に分類する方法は見つかっていない。

## IV. 不変量

結び目を分類する方法として、不变量というものが考えられる。同じ結び目に対して、1つの数学的な量を対応させるのである。この量を不变量という。したがって、見た目は異なっていても、変形によって同じになる結び目に対しては、必ず同じ不变量が対応する。つまり、不变量は、ライデマイスター移動によって変わらないのである。しかし、現在までに、すべての結び目と一対一に対応する不变量は、まだ見つかっていない。したがって、現在使われている不变量について、同じ結び目には、同じ不变量が対応するが、不变量が同じだからといって、結び目も同じであるとは限らない。つまり、不变量は結び目の違いを確認するための道具であるが、すべての結び目を分類できる不变量は今のところまだ見つかっていないのである。

不变量は、三角形の合同条件や相似条件に対応するものであるが、一対一に対応するとは限らないという意味で、より一般的な概念であるといえる。

以下に、比較的平易な幾つかの不变量を紹介する。

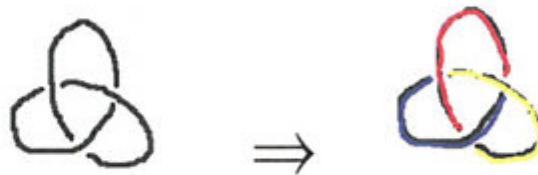
### (a) 3彩色可能性

結び目を平面に表した射影図は、幾つかの曲線分を用いて表される。このそれぞれの曲線分をアーケと呼ぶことにする。3色を用意して、結び目や絡み目のある射影図の各アーケに対して、次の条件を満たすように色を塗ることができるととき、その結び目や絡み目は3彩色可能であるという。

(i) 全体で少なくとも2色以上の色が使われている。

(ii) 2色以上が集まっているすべての交差点は、必ず3色が集まるようにできる。

(例) クローバー結び目は、3彩色可能である。

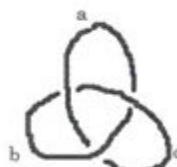


### (b) 階数

今、 $p$  という自然数を1つ固定する。そして、射影図の1つのアーケに $0 \sim p-1$ までの整数を対応させたものをそのアーケの重みといふ。また、重みのついた射影図において、1つの交差点で上を通るアーケの重みを  $a$ 、下を通るアーケの重みを  $b$ 、 $c$  とするとき、 $2a \equiv b + c \pmod{p}$  が成り立っているとき、交点条件を満たすといふ。さらに、1つの結び目に対して、すべての交差点において交点条件をみたす重みのつけ方を適切な重みといふことにする。

結び目の射影図に対して、適切な重みのつけ方の個数を  $p$  を法とした階数といふ。

(例) クローバー結び目 の階数（適切な重みのつけ方の個数）は9である。



### (c) 絡み数

2つ以上の結び目が絡んだものを絡み目といい、絡んでいる1つ1つの結び目を成分といふ。今、絡み目の各成分に矢印をつけて考えることにすると、次の2種類の交差点が考えられる。



右巻きの交差点

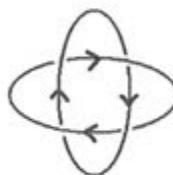


左巻きの交差点

ここで、2成分の矢印を付けた絡み目の絡み数を次のように定義する。

- (i) 異なる成分が交わる交差点において、右巻きの交差点には +1 を、左巻きの交差点には -1 をそれぞれ対応させる。
- (ii) 異なる成分が交わる交差点がある場合には、(i)で与えた +1 と -1 を足し合わせて 2 で割った数を、また、そのような交差点がなければ 0 を矢印のついた絡み目の絡み数という。

(例) 矢印を付けたソロモン王の絡み目 の絡み数は -2 である。



注意：絡み数の場合は矢印の付け方によって、+、-が変わる場合がありますので、不变量として扱う場合は、絶対値をつける必要がありますので、付記しておきたいと思います。

(d) X 多項式 (ジョーンズ多項式)

(i) ブラケット多項式

結び目 K のブラケット多項式といわれるものを次のように作成していく。これを  $\langle K \rangle$  と表すこととする。

まず、次の 3 つのルールに従って結び目を変形していく。

$$\text{ルール1} : \langle \textcircled{O} \rangle = 1$$

$$\text{ルール2} : \langle \texttimes \times \rangle = A \langle \times \rangle + B \langle \texttimes \texttimes \rangle$$

$$\text{ルール3} : \langle L \cup \textcircled{O} \rangle = C \langle L \rangle$$

この 3 つのルールに従って結び目 K に対して、 $\langle K \rangle$  を作っていくのであるが、これらが、不变量となるためには、1 つの結び目をどのように変形しても同じものが対応しなければならない。すなわち、ライデマイスター移動で変わらないようにしなければならない。

特に、 $B = A^{-1}$  、  $C = -A^2 - A^{-2}$

とおくと、ライデマイスター移動 II、III でも式が変わらないことがわかるので、以後このようにおくこととする。

## (ii) X 多項式

(i) で作ったブラケット多項式は、ライデマイスター移動 I を行うと異なる式になってしまう場合があるので、それを解消するために、新たにねじれ数（ひねり数）というものを導入する。

結び目や絡み目に矢印をつけて、右巻きの交差点に +1 、左巻きの交差点に -1 を対応させたときに、これらすべての和をねじれ数（ひねり数）という。

今、結び目 L のねじれ数を  $\omega(L)$  とおいて、

$$(-A^3)^{-\omega(L)} < L >$$

を計算すると、これはライデマイスター移動 II、IIIのみならず I も満たすことがわかる。

この式を  $X(L)$  とかき、結び目 L の X 多項式という。

(例) クローバー結び目（左手系）の X 多項式は、 $-A^{-1}6 + A^{-1}2 + A^{-4}$



## V. 結び目の数学教育の実践

### (1) 教材として結び目を扱う意義

1. 3次元を教える最も単純なモデルであり、3次元を平面上に描いたり、結び目の絵を見て実際に結び目を復元する作業を通して、3次元における様々な立体的理解を深めることができる。
2. 空間における図形の変化の様子を平面に復元して考察させることができる。
3. 手でさわりながら試行錯誤して、発見や予想をさせることができる。
4. 結論を出す過程において、論理的な考え方を養うことができる。
5. 長さ、角度や面積などの計算を主とせず、純粹に数学の幾何的な側面をみせることができる。

### (2) 今までの中学校・高等学校での実践授業

- ・2004年 「ほどける結び目とほどけない結び目一特に、3彩色可能性を引き出すことができるかー」

附属天王寺中学3年生 (4クラス×4時間)

- ・2005年 「ジョーンズ多項式までの不変量の研究」

附属高校天王寺校舎1年生 (プレーフ選択者×10時間)

- ・2006年 「ほどける絡み目とほどけない絡み目一特に、絡み数を引き出すことができるかー」

附属天王寺中学3年生 (4クラス×2時間)

- ・2007年 「鏡像関係の不思議一特に、X多項式の計算ー」

附属高校天王寺校舎2年生 (3クラス×1時間、 1クラス×2時間)

- 「中学生、高校生を対象とした結び目理論の中からの教材開発とその意義」  
日本学術振興会 2007年度科学研究費補助金（奨励研究）採択
- ・2008年 「ほどける絡み目とほどけない絡み目（II）—特に、絡み数を引き出すことを目指して—」  
附属天王寺中学2年生（4クラス×2時間）
  - ・2009年 「ほどける絡み目とほどけない絡み目（III）一矢印をつけて交点付近の様子に気づかせることができるか？」  
附属天王寺中学2年生（4クラス×2時間）
- ・2009年 「結び目の鏡像関係とブレケット多項式」  
附属高校天王寺校舎2年生（3クラス×1時間、1クラス×2時間）
- ・2009年 「パソコンを使って結び目をほどこう！」  
堺市立野田中学校 パソコンクラブ
  - ・2009年 「ほどける？ほどけない？結び目を紙の上で探そう！」  
貝塚市立第5中学校1年生
  - ・2009年 「色々な結び目を紙の上でほどいていこう！」  
堺市立登美丘中学校1年生
  - ・2010年 「結び目の数学」  
堺市立陵南中学校1年生（選択授業）
  - ・2011年 「結び目の数学について」  
(スーパーサイエンスハイスクール授業)  
附属高等学校天王寺校舎1年生（6名）
  - ・2011年 「結び目の理論と論文形式」  
(スーパーサイエンスハイスクール授業)  
附属高等学校天王寺校舎2年生（8名）
  - ・2011年 「3人で手をつなごう！」  
大阪市立瓜破西中学校2年生（選択授業 23名×4クラス）
  - ・2012年 「手をつなぐ数学」7月実施  
堺市立陵南中学校2年生（3クラス×3時間）
  - ・2013年 「結び目の数学」  
大阪市立我孫子東中学校1年生（4クラス×3時間）
  - ・2014年 「X多項式について」  
清風高等学校2年生（1クラス×4時間）
  - ・2015年 「知恵の輪を研究しよう！」  
(スーパーサイエンスハイスクール授業)  
大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎1年生（3名）
  - ・2015年 「3人で手をつなごう！」（本研究会にて実施）  
大阪教育大学附属天王寺中学校1年生（4クラス×2時間）
  - ・2015年 「3色で塗り分けよう！」（本研究会にて実施）  
大阪教育大学附属天王寺中学校3年生（4クラス×2時間）

## VII. 手をつなぐ授業の指導案（本校教育研究会での授業）

1. 日 時 平成 27 年 11 月 7 日（土曜日）第 1 時限（9:30 ~ 10:20）

2. 場 所 大阪教育大学附属天王寺中・高等学校 特別室（北館 4 階）

3. 学 級 中学第 1 学年 D 組 40 名（男子 20 名、女子 20 名）

4. 主 題 「結び目の数学」

5. 設定の理由 現在の指導要領において、「数学的な活動」がより強調され、生徒の主体的な取り組みに対する指導が求められている。数学的な活動の観点としては、色々な考え方があると思うが、この授業においては、幾何的な分野において、「ひも」などを教材とした空間図形の指導を通して、我々が考える数学的な活動を試みた。現行の教科書の幾何的分野の扱いをみても、とても十分とは言えず、特に、空間図形においては、より細かい研究が求められると考える。今回の「3人で手をつなぐ」という教材は、現行の教材にとらわれず、「結び目の理論」という純粋数学の内容の中から、空間図形を解析幾何的に捉える以前の立体に対するイメージや感覚を、子供たちに身につけさせることができるとする内容や手法を、できるだけ自然な形で獲得させることを目指して考えたものである。日常の楽しい活動の中にも数学的な内容が多くあり、その中に潜む不思議なことがらを、実際に手をつなぐ活動によって試行錯誤しながら、数学的に予想して解決していく流れを、生徒の主体的な活動を通して引き出していきたい。

### 6. 指導計画（計 2 時間）

(第 1 時) 「3 人で手をつなごう①」(本時)

(第 2 時) 「3 人で手をつなごう②」

### 7. 本時の指導

(1) 題 材 「3 人で手をつなごう」

(2) 目 標 • 3 人で手をつないでまるい輪になることができるかどうかというとを、実際に体験して予想させる。

• 3 次元空間で、現実に生じた問題を解決するために、平面上に図を描いて考察する手法を理解させたい。そして、この作業を通して、空間図形の理解をより一層深めさせたい。

• 生徒たちに 3 次元空間の不思議や面白さを感じさせたい。

(3) 準 備 物 プリント、ひも、モール、書画カメラ

(4) 指導過程

学習活動	指導上の留意点
<p><b>導入</b></p> <p>1班4人から5人の班を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人で手をつないでまるい輪になる</li> <li>・一度、手のつなぎ方を変えて、まるい輪になれるかどうかやってみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の作らせ方を指示する。3人で手をつなぎ、手のつなぎかえはダメであることや、後ろを向いた形でのまるい輪でもよいことを確認させる</li> <li>・各班で残りの1人か2人が手のつなぎ方を指示したり確認したりする。</li> </ul>
<p><b>展開1</b></p> <p>3人で手をつなぐときに、どんなつなぎ方をしても必ずまるい輪になることができるだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人でまるい輪になることができるかどうか色々と手をつないでみる。</li> <li>・まるい輪になることができない場合があるかどうか予想する。 → できる。 or できない。</li> <li>・3人で手をつないでいる様子を紙に書いて、ほどける場合があるかどうか調べる。</li> </ul> <p>《考察1》</p> <p>どのような図をかけば、その様子がわかりやすいだろうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ずほどけると思う人」「ほどけない場合があると思う人」「わからない人」それぞれ挙手させる。</li> <li>・「では、今から本当はどうなのかということを調べてもらいたいと思います。」</li> </ul>
 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各班でよいと思う図を発表する。</li> <li>・他の班の図を見て、どのようにかけばわかりやすいかということをもう一度考える。</li> <li>・手のつなぎ方を考えるために、どのような図を書いて考えればよいかということを各班で結論をまとめること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ図を作るように指示する。</li> <li>・各班で考え、書画カメラなどで発表させる。</li> </ul> <p>※二重の線でも構わない。この段階で強制的に1本にする必要はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの班の書き方が、どういう点でわかりやすかったかということを発表させる。</li> </ul>

学習活動	指導上の留意点
<p>《考察2》</p> <p>自分たちの図を使って、ほどけないつなぎ方があるかどうか調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひもを使って色々な手のつなぎ方を調べて、紙の上に色々なつなぎ方を出来るだけ多くかいてみる。</li> <li>・ほどけないつなぎ方があるかどうか図を見ながら調べる。</li> <li>・各班ごとに、自分たちの結び方の図と結果を発表する。</li> <li>・ほどけないつなぎ方の図をみんなでもう一度かいてみる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録考察プリントを配布する。</li> <li>・もっと抽象化して</li> </ul> <p>のように線だけで描いて説明できることを発見させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色々なつなぎ方をかいてみるとことによって、ほどけないつなぎ方がありそうだということを発見させる。</li> <li>・ほどけそうでないことを生徒に確認させる。</li> </ul>
<p>《考察3》</p> <p>そのつなぎ方の図  は本当にほどけないといえるのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その紙に描いた図を1本のひもで作ることができるかどうか考える。</li> </ul> <p><b>まとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほどけないつなぎ方の図をもとにして、もう一度手をつないでみて、本当にほどけないことを確認する。</li> <li>・このようなつなぎ方の図で表されるものを「結び目」ということを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1本のひもで作る作り方を発見させ、その作り方（片結びして作る）からほどけないことを確認させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のような現実の場面における問題を解決する場合に結び目の絵（射影図）を描いて考えることができることを確認させる。</li> <li>・3人でほどけない手のつなぎ方をする方法を文章にまとめさせる。</li> </ul>

## 第2時の指導過程

学習活動	指導上の留意点
<p><b>導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回同様4人～5人の班をつくり、もう一度ほどけないように手をつなぐ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要なら絵を描いて考えてもよい。</li> </ul>
<p><b>展開</b></p> <p>他にほどけない手のつなぎ方はないか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>射影図を使って、ほどけない別の手のつなぎ方を考える。</li> <li>人数を増やして、そのつなぎ方ができるかどうかやってみる。</li> <li>そのつなぎ方を1本のひもで再現してみる。</li> <li>その結び目が三葉結び目とは違うという理由を考え発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>描いた絵のように、実際に手をつなぐことができなくてもよいことを伝える。</li> <li>自分の描いた絵のようなつなぎ方をするためにはどうしたらよいかを考えさせる。</li> <li>人数を増やして手をつなぐことを生徒から引き出させたい。</li> <li>1本のひもを配るが、再現する方法は、自分たちで考えさせる。</li> <li>三葉結び目を提示して、自分たちの作った結び目が違う結び目であることをどのように説明するのか考えさせる。</li> </ul>
<p><b>まとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まるい輪に戻ることができないような結び目は、色々あることを確認する。</li> <li>2つの結び目が異なることを説明する方法について、自分たちが考えた方法について発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの結び目が異なることは、ある程度、確信が持てると思われる。うまく説明できるかどうかわからないが、自分たちなりの説明でよい。(不变量でなくてよい)</li> </ul>

## VII. 研究会授業後の中学1年生の生徒のふり返り

1. 3人で手をつなぐとき、どんなつなぎ方をしても必ずまるい輪になると予想しましたか？どんな予想をしましたか？

- 必ずまるい輪になると予想した生徒・・・32名
- ほとんど輪になると思っていたが、少しほどけないと予想した
- 輪にならないと予想した・・・2名
- 必ずならないのではないかと予想した
- 輪にならないと思ったけど、どんな形にすればならないかは分からなかった
- 1つくらい出来ない組み合わせがあるのでないかと予想した
- 必ずまるい輪になることはないと予想した
- ほとんど輪になると思っていたが、少しほどけないと予想した

2. あなたの予想が正しいかどうかを知る上で、あなたはどのような絵を描きましたか？そのとき特に心がけたことはありますか？

- ・3人をA、B、Cとおき、一本の線で描いた
- ・できるだけ分かりやすいようにしました（線で表すのが一番見やすいと思いました）
- ・輪ゴムをくぎにかけるような図をかいだ。上と下がわかりやすいのでその図にした。  
イメージしやすいと思った
- ・手が上か下かどちらに来るか分かりやすく描こうと思った（2名）
- ・シンプルに分かりやすく描くこと
- ・（○と線の図）特にありません
- ・線だけでかいだ。できるだけわかりやすく簡潔にかいだ。クロスの回数ごとに少ない回数の片っ端から描いた
- ・どの線を上にかくか
- ・丸い頭に点と線で簡単にかいだ
- ・大きく見やすい図を心がけた
- ・上下が分かりやすくかいだ（4名）
- ・複雑にならないようにした
- ・一本線で描く。線が上か下かがすぐにわかるように心がけた（2名）
- ・手をつないでいる図、目とか気にした
- ・どっちの手が上になるかわかりやすくした（3名）
- ・右手、左手が分かりやすいような絵を描きました
- ・重なっている部分をどう表すかというのがすごくなやみました（図あり）
- ・上の手と下の手がよく分かるよう意識した（図あり）
- ・どこが上と下になるかを心がけた
- ・すきまが多くなるように、細めの線で大きくかいだ
- ・まるくならないものを探した
- ・モールがかさなっているところを上と下の区別を分かりやすくした
- ・なるべく分かりやすくかこうとしましたが、あまり上手にできませんでした
- ・下にくるときはてんてんで表そうとしました
- ・手が上に来るとときに、赤色でかくなどを工夫した
- ・図あり このような絵 分かりやすく
- ・ねじれが1つから3つまでできるようにした絵を描いていました
- ・自分で分かるようにかきました。どちらの手が上になるかをきちんと表すことに心がけました
- ・とびきり難しいことをかいだ
- ・上から見た絵をかいて、後ろ向きの時は、目を点でかいだ。手を線でかいだ（図あり）
- ・手を上下どう交わっているか分かるように描きました
- ・線だけでかいだけど上下も関係しているから、書き直した



3. あなたは今日の授業でどのような活動をしましたか?

- ・班の5人で協力して実際にやってみた
- ・3人で手をつないでまるい輪になるか確認する(2名)
- ・紙に自分の考えた図をかく→となりの友達や前で発表した友達の図も参考に・・・
- ・どのようにしたら輪にならない組み合わせになるかを考え実践した
- ・輪がどうやってできないようにするのか話し合った
- ・どんなつなぎ方があるか考えた
- ・どうやったら輪にならないように考えて男子2人とやる
- ・丸くなる(手をつなぐ)
- ・手をつないだ。それから、考えながらずっと紙に図をかいていた
- ・班に意見を出したり、手で実際にやってみた(2名)
- ・実際に手をつないで、輪にならないかたしかめた(2名)
- ・手をつないだ
- ・ほどけない場合のつなぎ方をさがした
- ・同じ輪ができないように気をつけた
- ・手を試しにつなぎ何通りあるかを考えた
- ・手をつないで考えた
- ・手をつないで丸い輪になるかどうかやってみる
- ・まるい輪にならない輪
- ・線で図をかいたり、実際に手をつないでみたりしました
- ・友達と何通りあるかを考えていました
- ・男子3人に色々なつなぎ方を指示する
- ・図をかいて、モールを使った輪をつくった
- ・男子がつくった輪を絵に表した
- ・三人で手をつないで、ほどけない結び方をあみだした
- ・友達と協力した
- ・指示をした
- ・かたっぱしからほどけるか調べていった
- ・手の結び方をスケッチしました
- ・クロスにしたりした
- ・3人で協力して輪に戻した。5人でどうやって手をつなぐかを考えた
- ・絵をかいて実際に人間でやってみるというのをくり返した
- ・ぼくを入れた3人で手をつないで、色んなつなぎ方を実際にやりました
- ・手をつないで実験をしている人に指示を出し、まるい輪になるようにしようとした
- ・輪になった3人の親さつをしました
- ・みんなで手をつないでたくさん調べた
- ・三人で手をつなぎ、いろいろなつなぎ方をためしました
- ・指示、前に出て輪をつくった



4. あなたは今日の授業でどのようなことがわかりましたか？

- ・ほどけない輪もあることが分かった（2名）
- ・輪がほどけないことがあるように、絶対に決めつけてはいけないなと思った
- ・3人で手のつなぎ方にはまるい輪にならない手のつなぎ方があること
- ・出来ない組み合わせがあること
- ・輪ができないものがあった→人間の関節はずすといけるかも？と思ったけど無理そ�だった
- ・輪にならないつなぎ方もあるということ（4名）
- ・どんなつなぎ方をしても必ず丸くなるわけではない＊＊
- ・クロスの回数を自分で無意識に3回までと決めてしまったけれど、実際は4回以上のときがあって、その時には輪にならなかつたので、思いこみからぬけ出すことが大切だということがわかつた
- ・結んだりしたら、輪はできなくなる
- ・必ずまるい輪になるとは限らない（9名）
- ・実際に手をつなぐと、輪にならないつなぎ方があることが分かった
- ・ほどけない場合もある。紙にかくと分かりやすい
- ・まるい輪に必ずなるわけではない。紙にかいて考えるとわかりやすい
- ・3人で手を結ぶとまるい輪になるときとならないときがあるということ
- ・図をかいたり、実際にやってみたりすることで、わかりやすく説明できること。手をつないで、輪にするときぜったい輪になるとはかぎらないこと
- ・必ずまるい輪になると思っていたけれど、必ずではないということが分かりました
- ・輪によってはほどけないものもあるということ
- ・丸になると勝手に考えちゃいけないと思った
- ・必ず輪になるということはまちがっていた
- ・ほどけないむすび方があるということがわかつた
- ・輪は必ずまるい輪になる
- ・はじめはどんなつなぎ方でもほどけると思ったけど、あるつなぎ方では、輪にならなかつたという事がわかつた
- ・輪を複雑にしても、必ずほどけるわけではないこと
- ・つなぎ方によってはまるい輪にならないことがわかりました
- ・実際にやったことを紙にかくのが難しかつた。3人で手をつないだら必ず輪になると限らない
- ・3人で手をつなぐとき、必ずは丸い輪にならない事が分かりました

5. この授業の感想を述べてください

- ・新しい発見があつてよかったです
- ・とても面白く、身近なことを深く考えられたので良かった
- ・とても楽しかつたです。このような小さな疑問でも楽しい勉強になることに驚きました

た。（また、今度、このような授業があると良いです）

- ・おもしろくて、色々なことを考えることができてよかったです
- ・数学（考えること）がひさしぶりに楽しめた。先生おもしろかったです
- ・手のつなぎ方は今まで考えたことがなかったので、面白かったです。やり方もモールを使ったりして楽しかったです
- ・とても楽しかった（4名）
- ・楽しかった。自分の予想が外れたのが悔しかったけど、その理由が納得できたので、良かったと思う
- ・すごく楽しかった。数学がより好きになった
- ・とてもおもしろくて、時間がとても短く感じられた
- ・最初の方は、必ず輪になると思っていたが、実際に手をつないでみると、輪にならないつなぎ方があることが分かって、やっぱり実際にする事は大切だと思った
- ・すごく楽しかったです。もう1度受けたいと思いました
- ・色々なつなぎ方を確かめられて楽しかった
- ・パズルみたいで楽しかった
- ・モールを使つたいつもとはちがう授業で楽しかったです。ありがとうございました！
- ・気がついたら授業が終わってたぐらいあっという間だった
- ・手をつないだ時の図を紙に描くのが難しかった。でも、楽しかったです！
- ・とてもおもしろかったです。特に、数学の授業なのに体を使うので、それがとてもおもしろかったです。
- ・数学は、計算とかだけだとあまりたのしくないけれど、こうやってたのしく勉強できてよかったです
- ・自分でやることが多くて、すごく楽しかったです
- ・☆たのしかったです！ www ☆
- ・三人の手から始まって、とても面白いと思った
- ・遊び感覚で楽しかった
- ・土曜日に授業があるのは、いやだったけど授業を受けて、土曜日でも研究授業を受けてよかったです
- ・普通の時より楽しかった
- ・ほどけないむすび方があることを知った時、びっくりしたが、原理を考えてみると、意外と単純だった
- ・いつもの授業よりは楽しかったです。今日は来て良かったです
- ・輪にならなくてびっくりしました
- ・はじめはまるくなると思ったけど、輪にならなくてびっくりした
- ・モールで作るのが楽しかった
- ・中学に入ってから、こんな実演をする数学の授業は初めてだったので、楽しかったです
- ・いつもの授業と比べると、とても面白かったです
- ・輪にならないことがわかり、非常におもしろかったが、授業の実せんがとてもわかりやすく楽しかったです

- ・たくさん考えて、実験したのが楽しかった。モールで考えるのも紙の上にかくのも難しかった
- ・実際に体を使って授業ができた良かったです
- ・楽しかった。次もやってほしい

### VIII. 授業後の考察

この授業の中で大切なポイントの1つは、予想した結果が正しいかどうかを紙の上に描いて考察するということであった。そして、そのとき、本質的な部分は何かということを、どのような絵を描けばわかりやすいかということを考えながら、絵を抽象化していく作業を通して明らかにしていくということであった。その作業において、教材提示機を用いたことは効果的であったと思うが、そのときの活動を、もう少し丁寧に行うべきであった。もっと指導者と生徒とのキャッチボールが必要だったと思う。本授業は、研究授業であり、1つの目的にたどり着くまでの流れを1時間の中でつくりたかったので、少し先を急ぐ結果となったことは残念だった。結果として、生徒が十分に理解する前に、こちらが結論を話してしまうような場面もみられた。生徒に班で考えさせる時間中の生徒の活動をしっかりと明確にすることが、その間の活動を引き締まつものにすることにつながると考える。この授業の目的の1つは、生徒達の立体のイメージ力を向上させるために「結び目の理論」の中からの教材化を考え、今回は、その1つの導入の形を示すことであった。その意味において、中学1年生で、このような結び目の数学を扱うことは、空間や立体のイメージ力につける上で効果的であると考える。このことに関するでは、平面に描かれた立体を3次元の立体として正しくイメージできるかどうかということなどの調査を通して、さらに明らかにしていきたい。

### IX. 授業後の研究協議および教育研究会アンケート結果より

- ・自分も同じ内容の授業研究をしているので、大変勉強になりました。ありがとうございました。(中高一貫校男性 15年)
- ・教材化に向けて興味のある分野でしたので、色々勉強になりました。又、貴校生徒の授業への参加の姿勢に行き届いた姿勢を感じられました。(高校女性 24年)
- ・2時間使った授業を見てみたかったです。(学部5回生男性)
- ・新しい教材「結び目の数学」を取り組んで授業していただいたことに参観して非常に有意義な授業だと思いました。岩瀬先生、吉村先生に感謝しています。生徒の数学的活動に対して、数学的な意義と効果がある。本年の研究会に参加して、非常によかったです。(中学・高校男性 35年)
- ・三色のところの生徒の理解が異なっている印象を受けた。先生の指示が一貫性がないと感じた。(学部5回生男性)
- ・教科書にはない結び目という題材の授業が新鮮だった。ICTの活用も興味深かった。(中学女性 2年)
- ・大学時代、結び目の理論の研究をしていたこともあり、今日の授業のおもしろさを実感しました。今、中学校(2年生)で教えているので、機会があれば授業で活用したいと思いました。(中学女性 3年)

- ・授業でぜひやってみたい。とても興味深いものでした。ありがとうございました。(中学女性 4 年)
- ・中 1 の授業では、先生の話し方、進め方も上手で生徒はよく考え、取り組んでいたと思います。図で表す部分では、頭をかく生徒もいたりと、多様な図が出たり、授業の最後のまとめ方が難しい(技量が必要)と感じました。生徒集団によっては途中から遊び始めるかもしれませんと思いました。中 3 の授業では、生徒に作業させる際のベース配分と、何を目的とした作業なのかが生徒にはよくわからないのではと思った。(中高一貫校男性 10 年)
- ・何を目的としているか、全生徒に伝わっていなかった気がする。はじめの指示が肝心だと思います。(院生 1 回生男性)
- ・数学において報告された「結び目の数学」は今まで聞いたことのない内容で、とても勉強になりました。自分でも色々と調べてみたいと思います。(小学校男性 22 年)
- ・まず、自分自身が研究し、生徒達に実践してみたいと思います。ありがとうございました。(高校男性 30 年)
- ・結び目についての実践、大変勉強になりました。自分の授業でも挑戦してみたいです。(中学・高校女性 30 年)
- ・結び目に関して、初めてだったのでおもしろかったです。(中学男性 6 年)
- ・教科書にない内容で、自分自身の勉強にもなりました。(中学男性 4 年)
- ・勉強になりました。少し専門的な言葉や定義についての解説があればありがたいです。(院生 1 回生男性)
- ・今までみたことのない授業で楽しかったです。(院生 1 回生)
- ・新しい授業の提案という形で、普段の教科書の内容の授業とは違った授業であり、参考になりました。1 年生の生徒の感想からは、「もっとやりたい」「楽しかった」というものが多く見られ、楽しい中にも学びのある授業であったと思います。(中学女性 9 年)
- ・数学に対する新しいアプローチと思った。数学教材は、時代とともに変化すべきと思った。(中学男性 30 年)
- ・数学は高校生相手の授業が無かったので残念でした。でも、普段見ない中学生の活動が見れて楽しかったです。(高校男性 27 年)
- ・数学的活動として結び目の可能性を以前から感じておりました。結び目を勉強するきっかけ作りのために参加させていただきました。大変参考になりました。(高校男性)

## X. 今後の展望

結び目の理論のすばらしさは、最近、位相幾何学の研究者達によって、教育や社会に対する数学の啓蒙書等の中ではしばしば取り上げられている。教育の分野においても、教育学部の幾何教育研究グループを中心に、教材化の可能性について、色々な研究がなされている。

大阪教育大学、大阪市立大学においても、プロジェクトチームを作り、結び目の数学教育に関する研究を続けており、小学校、中学校、高等学校すべてにわたって、現場での授業実践を行いながら、教材化への様々な取り組みがなされている。特に、中学においては、公立中学校数学教育研究会や、教育委員会などのご協力を得て、大阪府内の公立中學

校で現場の先生による実践をおこない、今までの研究成果について、色々な場で発表が行われてきた。今後は、次の段階として、中学の現場で行うことができる結び目の数学を教材としたカリキュラムの研究が必要であろうと考えている。OECD や PISA の学力テストにおいて、日本の子供達の理数科離れが取り上げられたことが社会的に大きく取り上げられたことなどにより、小学校 6 年生、中学 3 年生に対して、学力調査を毎年行うようになった。また、新カリキュラムにおいては、特に、数学的活動という部分が、今までになく強調されている。ゆとり教育の見直しということであるが、勿論、以前の詰め込み教育へ戻るということではなく、各教科において、大切な部分の見直しが求められているのである。

結び目の数学の教育的研究は、生徒達に今までとは少し違った観点から数学に取り組ませようとするものであり、計算を主としない数学的な部分を生徒にわかりやすく伝えたり、考えさせたりすることをねらった教材の研究である。「そろばん」としての数学だけではなく、数学で教えるべき内容として、どのような教材が望ましいのかということを、この研究を通して我々も学んでいくことができるものと考える。

## XI. 参考文献

1. C. C. アダムス著「結び目の数学—結び目の理論への初等的入門」培風館 1998 年
2. S. C. カールソン著 「曲面・結び目・多様体のトポロジー」 培風館 2003 年
3. 河内明夫著 「結び目の数学」 シュプリンガー・フェアラーク東京 1990 年
4. 「結び目の数学教育」研究プロジェクト 河内明夫・柳本朋子編 「『結び目の数学教育』への導入—小学生・中学生・高校生を対象として—」 2005 年
5. 「結び目の数学教育」研究プロジェクト 河内明夫・柳本朋子編 「『結び目の数学教育』への導入—小学生・中学生・高校生を対象として—第 2 号」 2007 年
6. 岩瀬謙一著 「『絡み数』の教材化の試み—中学 2 年生を対象として—」 大阪教育大学附属天王寺中・高 研究集録 第 51 号 2009 年
7. Akio Kawauchi & Tomoko Yanagimoto 編 “Teaching and Learning of Knot Theory in School Mathematics” Osaka Municipal Universities Press, 2011
8. 村上 齊著 「結び目のはなし」 遊星社 2000 年
9. Akio Kawauchi & Tomoko Yanagimoto 編 “Teaching and Learning of Knot Theory in School Mathematics” Springer, 2012

# Introduction to Knot Theory for Junior High School Students

IWASE Kenichi YOSHIMURA Noboru

It is not so easy for us to image solid things in the paper. So we will propose Knot Theory as teaching materials for Junior High School students. There are many interesting things in Knot theory to increase spatial abilities for us. In this paper we will propose a lesson using Knot Theory for Junior High School Student. In this lesson 3 persons hold hands as a circle, and change their holding hands to another type. So we show a problem to Junior High School students whether they can deform their holding hands to a circle. This lesson is introduction to Knot Theory for Junior High School Students.

Key words : Mathematical Knot , Mathematical Education , Junior High School Students,  
Spatial ability , mathematical Activity

# 英語で地学の授業を行う試み Part2

## —ある火星年代記—

おか もと よし お  
岡 本 義 雄

抄録：本校に勤めた15年の間に様々な国際学会での研究発表を経験して、科学における英語の主幹言語としての重要性を痛感してきた。しかし、日本の理科教員や高校生にとって英語での科学の授業を経験したり、国際学会に参加することにはとても高い壁が存在する。これらの背景に鑑み、5年ほど前から地学の授業で高校生に英語で授業する試みを行ってきた。本年は、2年生の地学基礎の通常授業の1時間を英語で行うことを計画した。パワーポイントを用いた授業はすべて英語を用いて行った。授業を構成するのは次の3つのテーマである。1) 火星における「クレータ年代学」、2) 火星の生命の可能性、3) 本校の過去の地学部の活動。そして何よりもこの授業の目的の1つは筆者の地学教員としての英語授業スキルの向上である。この授業を通して、生徒は1) 太陽系のハビタブルゾーンに存在する地球の兄弟惑星としての火星、2) 単純で原始的な研究手法が外惑星の最先端の謎に挑めること、3) 自然科学における英語の主幹言語としての重要性、などを学ぶことができる。生徒による授業の評価は、授業直後のアンケートによって行った。授業の目的自体はほぼポジティブに評価された。当日のパワーポイントの概要、配布資料など関連資料は、本稿の最後に添付した。

キーワード：火星、クレータ、隕石、表面年代、ハートマンダイアグラム、高校生、英語

### 1. 研究の背景と目的

本校に勤めて15年の間に様々な国際学会での研究発表を経験して、英語の重要性を自分の目と耳と肌で痛感してきた。せっかく日本の教育現場では様々な優れた取り組みがなされているにもかかわらず、それらの実態が世界ではほとんど認識や考慮されていない現状を見て愕然とする思いがした。逆に教育関連の国際学会で発表される内容は、私の目から見れば、日本で数10年も前に話題になっていた陳腐な内容も多く、日本の優れた教育技術や分析がなぜ伝わっていないのかを考えると、すぐに英語の壁を思い知るに至った。さらにこれらの理科教育系の国際学会には国内で優れた教材開発や授業実践に携わっている日本人の姿が本当に少ない。もちろん現在の教育の場における忙しさを考えると、わざわざ大金を叩いて世界に打って出る必要性など二の次になるのはよくわかる。しかし教育研究が専門であるはずの大学や研究機関などの理科教育や筆者の専門である地学教育の関係者の少なさにも驚いた。おそらくかなりの予算がこの分野で教育関連として割かれてい

る現状を鑑みても、日本の理科教育関係者の英語発表の敷居の高さ、英語の壁の厚さを痛感する思いがした。

一方で、SSH (Super Science High-school) 指定以後の本校の生徒による研究発表では英語を用いた取り組みがどんどん進みつつある。中には英語の教員顔負けの見事な英語で研究発表の質疑に生徒が答える風景も散見されるようになってきた。ICT の導入時がそうであったように、手段としての英語の使用においても生徒の側の活用が教員の側の準備を乗り越えていく可能性ということが現実味を帯びてきている。

高校時代に英語はいつも定期テストで欠点を取り、理科系には英語など必要ないとずっと信じていた筆者がそもそも英語に打ち込んだきっかけは、もちろん、少し自分の専門の勉強の幅を広げようとすれば、英語の文献を当たらなければいけないというごく普通のことにして研究の途中で遅まきながら気づいたことが挙げられる。しかしそれよりも大きかったのは、清水の舞台から飛び思いで参加した初めての国際学会で、自分の英語力のなさに打ちひしがれたこと。そしてちょうどそのころ、たまたま上の娘が大学受験に差し掛かり、通っていた英会話学校の払い込み済みの授業を受ける権利が、家族であるの私に転がりこんできたことにある。早速週1回のペースで夜その英会話学校に通うなかで、それまでの英語に対する恐れやアレルギーがきれいに取れ、齢50歳にして英語を猛烈に勉強する熱意が湧いてきたのを鮮明に覚えている。願わくば、1) SSH 授業を選択した高校生には国際的な研究発表にも臆せず取り組める力量と自信を得ること、2) それ以外の一般の生徒にも、学校の授業科目としての地学を別の視点から見てもらう機会を設けること、3) さらに英語を勉強するモティベーションを別の科目の中で育てることができないか、などと考えて始めたが本稿の試みのオフィシャルな理由である。しかし、4) 実のところは自分の英語スキルを高めたいというのもいつわらざる本音でもある。そういう経緯で5年ほど前から年に一度くらいの頻度で様々な試みを行ってきたが、本稿では2015年11月末に高校2年生の「地学基礎」の授業で行った試行と事後のアンケートの分析を行い今後の展望を考える。

なお、今年度に英語をオーラル言語として用いた授業として、ほかに9月に選択「地学」の授業で高校3年生に筆者のインド国際学会参加+地学巡検の模様を紹介したもの、また12月に昨年に引き続きタイと日本の高校生交流イベントの一環としての神戸・淡路震災モニュメント野外巡検（昨年の研究集録の筆者の記事参照）がある。通常の地学の授業ではこのほか、様々な形で英語の文献や資料を日常的に授業補助教材として用いてきている。これらの目的も上記のとおりである。

## 2. 英語授業の概要

本年度の授業は、たまたま12月の期末考査の直前に1時間分だけ時間が残ったため、次の範囲に進むのも中途半端という理由で、飛び込みで1時間分の地学の内容の英語の授業を急遽組み立ててみた。内容は数年前に本校地学部が2011年のSSH研究発表全国大会で科学技術振興機構長賞をもらった研究発表の内容（中嶋ほか、2011）に沿って、その前後に筆者と地学部の共同作業で行った研究内容を追加して紹介する内容とした。この英語授業のひな形はすでに数年前にSSH対象生徒の前で30分程度の英語プレゼンとして発表した内容をベースにしている。授業の組み立てはパワーポイント（以下PPTと略

す）にまとめた、授業内容に沿って、主にPPTのスライドの英語を読んで、さらに幾つかの点を補完する説明をそのつど挟む形で行った。これらの説明はあらかじめ用意したものではなく、生徒の反応を見ながらのアドリブで構成されている。したがってこの部分は4クラスの授業では、展開や説明の仕方を授業ごとに色々と試行してみた。さらにPPTには要所で英文の簡単な質問を用意した（後述）。この質問には日本語で答えるよいことにした。また生徒用の机上資料として、火星隕石に関する英文資料（*Meteorites From Mars, NASA, 1999*）のプリント（火星隕石の質問に対する解答として途中配布）、後述するPSI（Planetary Science Institute、惑星科学研究所）ニュースレターに記された、本校地学部の火星表面年代測定の実習と受賞の英文記事のコピーのプリント、の2枚を配布した。さらに、専門用語として頻出する単語についてのみ、その日本語訳との対応をスクリーン横の黒板に拡大印刷したもの表示した。これらの資料を本文巻末に添付資料として示すので参考にされたい。

### 3. 授業の詳細

授業科目：「地学基礎」

授業日：2015年11月27日（金）

対象生徒：高校2年生全クラス

次に今回の授業の詳細を記す。

#### 0) 授業まで

この種の研究的な授業の実践においては、あらかじめ生徒のモティベーションや期待を十分に高めることが重要だと考えている。そこで次のような動機付けを行った。

- ① この授業は生徒のための勉強というよりも、授業する筆者の英語の勉強のためであることをまず告げる。
  - ② にもかかわらずそのような授業を行うのは、これが本校が理念とする先進的な授業実践や研究の一つの機会であり、本校生はこうした授業に協力を行うことを入学時に宣誓しているということ。
  - ③ あと20年もして、生徒たちの子供たちが高校に入学するころには、日本の先進的な高校での自然科学の授業の半分は英語で行われるようになっているだろうという私の予想を告げる。
  - ④ まったくインセンティブがなければ授業をまじめに受ける気がなくなるかも知れない。直後の試験に10点分ほど、この授業の内容を出題すると伝える。
- などからなる。もちろん半分はやや冗談交じりの話ではあるが、生徒にとっての動機付けには役立ったと実感している。次に授業の詳細に移る。

#### 1) 導入

導入は2冊の本を紹介する。1冊は本稿の副題ともなっている、SF作家レイブラッドベリの1950年代の作品「Martian Chronicles」。もう1冊は本稿の研究を通じて親しくなった米国の惑星科学者の草分け的存在のW.K.Hartmann博士による「Travelers' Guide to Mars」（2003）である。

## 2) 「クレータ年代学」の紹介と原理の説明

次に「クレータ年代学」を紹介し、その原理を説明する。説明には本校地学部が2011年の発表で用いたPPTのアニメーションを借用する。クレータの多くできた表面は古く、数が少ない場所は新しいことがすぐに理解できる。「クレータ年代学」はそれまで未知であった月の表面形成年代を明らかにし、さらに1960年代末に始まったアポロ計画で、持ち帰られた月の岩石の年代からこの手法の正しさが立証された過程にも触れる。

次に月面写真を示し、

### 「Q1. クレータの多少以外に何か特徴はないか？」

という問い合わせで、単にクレータの多少だけでなく、そのサイズと個数分布に注目させる。これは答えるのが意外と難しかったようだ。次に地震におけるサイズと個数分布を示し、サイズと個数分布が似た分布になることを確認。この月表面のクレータのサイズと個数の関係は、「べき乗則」と呼ばれる両対数グラフで直線になる有名な関係で、地震のサイズと個数の関係も同様の関係になること、さらに自然現象のみならず、経済社会現象にもこれらの「べき乗則」(Power Laws) が多く見つかり始めていることにも簡単に触れる。

## 3) Google Moon を用いた「クレータ年代学」の実習紹介

「クレータ年代学」の具体的な実習例として2009年度に、筆者が本校教育研究会の研究授業で行った月の表面の「クレータ年代学」の実習を紹介する。ここで生徒の実習によって、クレータが密集した月の高地は形成年代が古く、クレータが少ない月の海の部分は形成年代がやや新しいことを説明する。そして火星への応用へと話を進める。

## 4) 火星への「クレータ年代学」の応用

ここからは前掲のHartmann博士の論文の手法をたどる。そして2011年の地学部の研究発表に至る本校地学部の手による独自の「クレータ年代学」による火星表面年代の推定の成果を織り交ぜる。地学部は特に若い火星表面を捜したことを紹介。

まず火星表面の地図Google Marsの図を比較。

### 「Q2. どちらの写真的表面が古いか新しいか？」

これは誰でも簡単にわかる図で、火星でも月と同様の手法が使えそうなことを示す。次に火星表面の画像精度が荒いGoogle Marsではなく、最新の2006年末から観測を開始したNASAの観測衛星Mars Reconnaissance Orbiterの撮影画像を用いたことを紹介する。

### 「Q3. なぜ若い表面の年代を測定しようとしたのか？」

が次の質問。もちろん答えは若い火星表面の方がクレータが少なく数えやすいから。これは結構容易に答えられたクラスもあった。この結果測定した1000万年から1億年の表面形成年代のグラフを紹介する。

## 5) 火星の年代の妥当性：火星起源の隕石の話

これらの「クレータ年代学」が妥当な年代を出しているかどうかは、間接的な推定であって、実は確定的なことが言えない。なぜなら月とは異なり、我々は火星にまだ行っていないから。——しかし1つだけ可能性がある。

### 「Q4. 実はすでに我々は火星の岩石を地球上で手にしている！一体それはなぜか？」

これが next question.

「隕石」と正解を答えてくれたクラスもあった。実は火星の隕石がすでに主に南極で見つかっていることを紹介。どのようにして火星表面の岩石が地球まで届いたのかを漫画で説明。次にそれがなぜ火星起源と考えられるかの4つの理由を提示。さらにそれらの隕石の年代が若いことを紹介。つまり火星に応用された「クレータ年代学」はそれほど間違っていない可能性があることを示唆。ここで、

「Q5. このような大変稀有で幸運な出会いのことを英語で何と言うのか?」

と英語の知識に関する質問。これは少し難しかったようだ(答えは巻末添付資料)。

さらにこの手法の応用として、火星表面に多く残された河川地形の作られた年代を専門家が調べた論文の結果を紹介する。この部分のみ手法の詳細はややこしいので、日本語による説明を交えた。その結果、残念ながら火星表面に大量に水が存在したのは、火星の表面進化のかなり早い段階(約35~38億年前)に過ぎず、その後火星表面から大量の水が失われた可能性が高いことを告げる。

そこで、英語最後の質問を投げかける。

「Q6. この事実は火星の生命の進化にとって Positive か Negative か?」

もちろん答えはネガティブとなる。では状況は絶望的なのか? そこで本校地学部の2011年の研究の出番となる。

## 6) 本校地学部 2011 年 SSH 全国研究大会研究発表「火星のあばた×えくぼ」(於: 神戸国際会議場) の紹介

本校地学部の発表は、Hartmann ダイアグラムを用いた。火星の表面年代のうち、クレータの少ない若い地表を4か所選んだ年代測定(上記すでに紹介)結果を提示。さらに進めて、それらの地域とは別にランパークレータと呼ばれる特異な形状のクレータに着目した。このクレータは本来のクレータの周囲に目玉焼きの白身の部分のようなエンベロープ状の盛り上がりを持つ点が他のクレータとは異なり、さらにこのような形状のクレータは今のところ火星表面にしか見つかっていないという特徴がある。地学部はこのクレータのエンベロープ部分のクレータ分布を用いた年代測定を試みたが、ここで重要な発見をする。すなわちぼんやりとした輪郭を持つやや大きなクレータ群とシャープな輪郭を持つやや小さいクレータ群があり、それらのサイズ-頻度関係は、Hartmann ダイアグラム上で別々の年代を持つプロットに分かれることに着目した。これがランパートクレータのエンベロープが隕石衝突時の地下の氷の融解による水と岩石の融合体の吹き出し(イジェクタと呼ばれる)により形成されたとする、それまでのランパートクレータ形成の先行研究を発展させたモデルを考え、これを“お好み焼き仮説”と名付けた。すでに古いクレータが形成されている古い表面上に薄いイジェクタが重なったとする仮説で、これは鉄板にお好み焼きの小麦粉と水の融合体を撒いた様子とよく似ているのでこのネーミングを行った。これによりぼんやりとした輪郭のクレータ年代が古く、シャープなクレータによる表面形成年代が新しいということを説明できたとするモデルであった。

## 7) 最後に結論

地学部の研究によれば、火星の表面にあった大量の水の一部は今も火星表面の地下に氷

の形で残されている。すなわち火星生命は地下にまだ生きていることを暗示するところで彼らの研究は終わる。地学部の使った手法はクレータカウントという極めて原始的な方法であるが、それが最先端の惑星科学の発見につながるという新鮮性などを伝えたかった。

これら一連の地学部研究の紹介のあと、地学部メンバーの写真、クレータの読み取りの様子を紹介。最後にプロローグに移る。

#### 8) プロローグ

私と地学部の共作の「火星年代記」物語はこれで終わらなかった。地学部がSSH研究会でJST理事長賞をもらったということを、報告すべく筆者は2011年12月、AGU(American Geophysical Union)のFall Meetingでの自分の研究発表を終えたあと、学会会場のあるサンフランシスコから、飛行機で2時間のアリゾナ州ツーソンまで飛んだ。すでにメールで報告を終えていたが、私がサンフランシスコに行くことを知ったHartmann先生がわざわざ彼のオフィスである、PSI(Planetary Science Institute, Hartmann先生などが設立した惑星科学のためのNPO法人)に私を招待してくれたのだ。本物のカクタス(サボテン)を見せにわざわざ先生愛用の白のプリウスで私を砂漠に案内していただいたことやら、泊まっていたホテルのレストランで先生と朝食を取っていたときに、ホテルの若いウエイトレスから日本語を勉強しているので、私の日本語をチェックしてくださいなどと頼まれたツーソン滞在中のできごと、滞在最後の夜にHartmann先生に、ちょっと日本人の経営じゃないなど一目でわかる寿司屋につれて行ってもらったエピソードなどを最後に生徒に紹介した。

以上が、英語で行った授業の詳細である。これで大体40分。最初の導入の数分と、最後のアンケートの配布と回収のみ日本語で行った。

#### 4. 授業のアンケート結果と考察

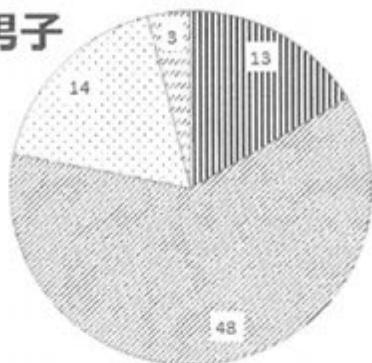
授業の評価を行うためと、生徒の受け止め方を知るため、授業開始時にアンケートを配布し、授業後に記述させた。アンケートの質問用紙と回答の総数の表を巻末に添付する。それぞれの質問への回答の結果は以下のとおりである。なお、今回はアンケート準備など時間の制限もあって、英語の授業全体への理解や関心にとどまり、授業内容そのものへの理解や関心の程度を調べる詳細な質問項目は用意できなかった。また、アンケート回答総数は159名である。

アンケート結果のうち、本授業の授業評価に関する部分のみのグラフを、男女別に次に載せる(円グラフのラベル数字は回答の総数、また凡例の回答番号は○数字ではなく、通常の数字となっていることに注意)。

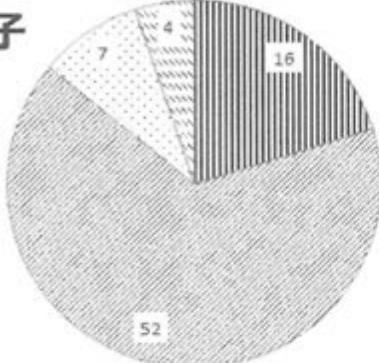
<今回、地学の授業を英語で行ったことについては、英語の勉強になりましたか？>

- ① とても勉強になった      ② どちらかというと勉強になった  
③ どちらかというとならなかった      ④ 全然勉強にならなかった

男子



女子

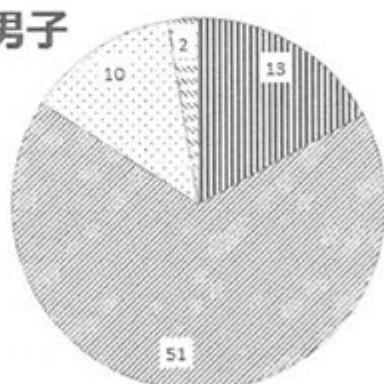


■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4

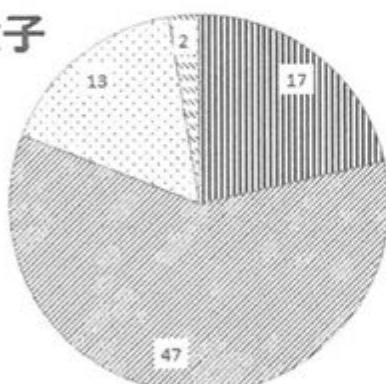
<今回、地学の授業を英語で行ったことについては、地学の勉強になりましたか？>

- ① とても勉強になった      ② どちらかというと勉強になった  
③ どちらかというとならなかった      ④ 全然勉強にならなかった

男子



女子

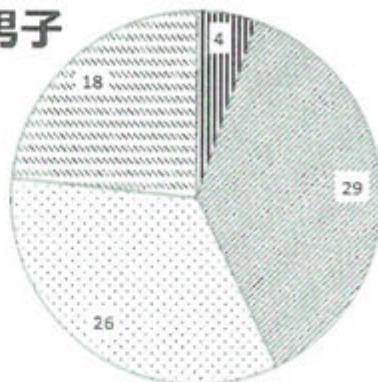


■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4

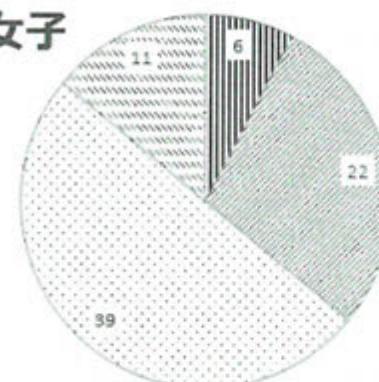
<これからも地学の内容を英語で授業することを希望しますか?>

- ① とても希望する
- ② どちらかというと希望する
- ③ どちらかという希望しない
- ④ 全然希望しない

男子



女子



■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4

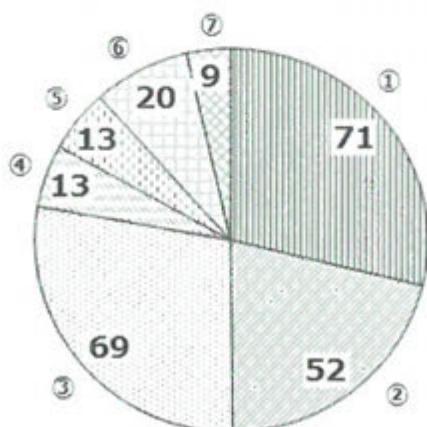
<もし今後も地学の授業を英語で行う機会があれば、次のどのような内容を期待しますか?> 複数回答可

- ① 教師が英語の資料を用いて英語で授業を行う.
- ② 教師が英語の資料を用いて日本語で授業を行う
- ③ 英語の地学の内容の講演や映画などを見る.
- ④ 生徒が自分たちで英語で授業の内容を発表する.
- ⑤ 授業の内容を巡って生徒同士で英語で議論を行う.
- ⑥ 地学の内容のテストの一部を英語で行う（長文和訳や英作文）.
- ⑦ 地学の内容に関する英語のリスニングテストを行う.

結果は右のとおり。円グラフの中の数字が回答数（このアンケートは1つ前の質問時に英語授業を希望しないと書いた生徒の結果も含まれている）。

これを見る限り①、②、③のニーズが高いように思える。特に①の希望が半数近くに上ることや、⑥の支持も若干あるのも興味深い。

授業直後のアンケートであり、授業者に対するexcuseが多分に入っていることは差し引いて考える必要があるが、英語あるいは地学の勉強になったと答えた生徒は、「大変」と「ど



ちらかというと」の両方のポジティブな評価が全体で3/4を越える良好な結果となった。しかし、これからも英語の授業を期待するかという問い合わせに対しては、1/3から半分弱程度の生徒しかポジティブな回答を出さなかった。この点の分析がこれからの課題である。

これに関して、グラフには載せなかつた細部を元のアンケート資料に遡って見てみると、これからも英語授業を続けてほしいという生徒は、英語あるいは地学が好き、あるいは成績が良いと答えた生徒が多数を占め、また全然希望しないと答えた生徒の大部分も英語あるいは地学が嫌い、あるいは成績が悪いと答えた生徒が多いこともわかった。両者には明らかな相関が存在することがわかった。ただ英語が好きあるいは成績が良いと答えた生徒の数人が、今後の英語授業を全然希望しないと答えているのはネガティブな意味で注目に値する。英語好きな生徒の一部は筆者の英語力の足りなさに満足できなかつたのではないかと想像している。ただ、同じように英語好きな生徒の大部分がポジティブな評価を寄せてくれたり、授業後にもとよかたと直接感想をもらった生徒もいることもあり、この部分の結果はやや複雑な感想の反映であると考えている。

上記結果より、この種の授業を定期的に行うには、他の問い合わせ（教科の好き嫌い）との関連から、全員必修ではなく3年の地学選択授業であれば、より生徒のニーズにも合致して効果的ではないかと考えている。その観点から来年度の3年の選択授業において、続きの授業とその効果を調べてみたい。

次に自由記述の部分から、授業に対するポジティブな反応とネガティブな反応の主な記述を抜き出す。（何らかの自由記述を書いた生徒は、総数159名中、122名であった）。

#### <ポジティブな記述>

まずポジティブな反応として、

##### A組

- ・地学を英語ですることが新鮮で楽しかった。
- ・もっと難しいと思ったが意外と理解できてよかったです。
- ・先生の実体験をまじえて授業しているので面白かったです。
- ・もっと面白くないのかなと思っていたけど、ちょいちょい訳が書いてあつたりして少しだけ理解できた。英語の勉強をしないといけないと思わされた。
- ・やはり自分には英語力はないが、何が言いたいかニュアンスでわかった。
- ・グラフや写真がたくさんあって分かりやすかったです。

##### B組

- ・思っていたより英語が聞き取れました。
- ・先生ほんとにすごいです、尊敬します。
- ・英語の方がなぜか日本語より集中して聞けました。
- ・途中で日本語を少しはさんでくれたのでなんとかついていくつよかったです。

##### C組

- ・時々わからなくて置いていかれたが、案外推測できた。
- ・専門用語さえわかっていてれば、ある程度内容が理解できるものなのだと思った。
- ・スライドが少しごちゃごちゃしていた気がします。でもちゃんと聞き取ることができ

ある程度理解できたので良かった。

- ・写真が多くて見やすく英語もほぼ聞けたのでよかったです。
- ・思っていたよりも分かりやすい英語で8割ほどは理解することができたと思う。
- ・情報量は日本語の授業より少ないかも知れないと思ったが、英語の勉強にとてもなった。
- ・発音はそんなにうまくないけど、ちゃんと英語で考えてる感じがしました。
- ・SSH ですごいことをしているなあと思いました。

D組

- ・知らない単語が多かったので勉強になった。
- ・クレータで年代測定できるのが面白かった。
- ・地学の内容も自分の知っている単語で話せるんだなって思いました。
- ・先生が楽しそうでよかったです。
- ・とても分かりやすく興味深い授業でした。続編を楽しみにしております。
- ・クレータ年代測定が正確なのが驚きだった。
- ・新鮮な授業だった。新しい発見があった。
- ・英語を理解してかつ地学も理解しないといけないのでとても大変だったが、力がついた気がする。

#### <ネガティブな記述>

一方ネガティブな記述内容を抜き出すと、

A組

- ・スクリーンに写した内容や、難しい単語の意味を配布プリントにしてほしかった。
- ・途中から難しくなってききとれなくなった。
- ・単語がときどきわからなかった。もっとイラストやアニメーションの説明がほしかった。

B組

- ・説明でよく出てくる単語は黒板に貼るだけでなく、プリントにして配布してほしい。
- ・最初は英語を理解しようと集中して聞くことができたが、だんだん知らない単語が出てくると英語が聞けなくなってしまった。
- ・地学的用語が多いので難しかった。

C組

- ・日本語と違って、一回意味を考えなければならぬので疲れた。
- ・資料を日本語にして英語で行う授業が一番わかりやすいと思った。単語のプリントもくばってほしかった。

D組

- ・英語がわからなかった。難しかった。
- ・英語難しいです。日本語の授業の方がうれしいです。
- ・英単語が難しかったです。

全体を通して、ポジティブな記述は比較的具体的な内容が多く、ネガティブな記述は漠然と難しいという内容や感想が目立ったように思える。

短期間で準備したにもかかわらず、全体としてはそれなりの評価が得られた理由として筆者は次の点を考えている。

- ① 生徒に关心のある火星の地形と生命にまつわる話題であったこと。
- ② 英語で授業を行う意味を事前にきちんと伝えておいたこと。
- ③ 生徒にとって身近な、同じ高校の先輩の研究を紹介したこと

などが挙げられると思う。いずれにしても、短時間の準備かつまた思いつきの授業であつたにも関わらず、生徒全般の評価はまずまず良かったと自負している。上記結果を次回の試みの参考にしたいと考えている。

#### <期末テストの問題による授業内容確認>

その他、評価のための追加として、期末テストにおいて、この授業内容の一部を以下の形で出題した。ただ、後述するように正答率など正確な量的検討ができていない。

V. 地学の2学期最後の授業で行った英語授業の内容について、次の問い合わせに答えよ（3点×3 = 9点）。

問い合わせ1. 本校地学部は火星の表面の年代を主にどのような方法で測定していたか？次から1つ選べ。（正解は④）

- ① 火星の様々な場所の反射光のスペクトルの変化のデータから年代を測定していた。
- ② 火星の様々な場所での探査機による地層の断面画像を調べて、表面の年代を測定していた。
- ③ 火星起源の隕石のかけらをNASAから入手して、放射性年代測定法で測定していた。
- ④ 火星の衛星画像からクレータのサイズと個数をカウントして、ハートマンダイヤグラムで推定した。

問い合わせ2. 火星から来たと思われる隕石はなぜ火星から来たと考えられるのか？次の事項のうち関係ないものを1つ選べ。（正解は②）

- ① 隕石の年代測定では、ほかの普通の隕石より、はるかに若い年代が出る。
- ② 隕石には火星表面にしか生えていないコケがくっついていた。
- ③ 隕石に含まれるガスが、昔、火星探査機が観測した火星の大気組成と似ている。
- ④ 隕石が火成岩でできていて、通常の隕石を構成する岩石であるコンドライトとは異なる。

問い合わせ3. 火星の隕石はどういうにして、地球に運ばれたと考えられているか。次からもっとも適当なものを1つ選べ。（正解は①）

- ① 火星の表面に隕石が衝突して、飛び出した岩石が脱出速度を越え宇宙空間に浮遊していくものが、地球の引力に引かれて地球に落ちてきた。
- ② 火星の表面で大きな火山爆発が起こり、それで吹きだした溶岩がそのまま宇宙空間を飛行して地球に到達した。
- ③ 火星が大昔、地球にぶつかったときに、その破片を地球上に残した。
- ④ 火星の隕石だと思われているものは、実は火星の岩石に組成の良く似た溶岩を噴出するアフリカのある火山の溶岩だった。

上記のような簡単な内容記述を選択肢から選ぶ問題とした。結果は正答数の検討を失念していて、量的評価ができていないが、おおむね授業の内容を理解していたことと示す結

果となったことを付記しておく。

## 6. さいごに（謝辞に代えて）

高校2年生は、地学は選択授業ではなく、全員必須の授業なので、授業者の都合で英語の授業を全員に行うことへの反発を当初は心配したが、授業を行う意味をきちんと事前に伝えることができたので、生徒の反発はほとんどなかった。筆者の勤務の関係で9月より本校で授業を担当始めたこの学年では初めての試みであるが、特に英語を好きで勉強している生徒のなかから、この試みがとてもよかったですと歓迎するコメントも終了時に聞けた。生徒諸君には拙い筆者の英語授業に付き合ってもらって感謝している。

また本研究のきっかけとなった研究を創始された Hartmann 博士には、突然の見知らぬ日本の地学教員からの問い合わせメールにもかかわらず、その日のうちに温かい励ましの返信をいただいただけでなく、何度も、地学部の研究への貴重なアドバイスをいただいた。くだんの筆者の訪問の際にはわざわざ深夜のツーソン空港まで出迎えていただき、滞在中の食事まで全部面倒を見ていただいた。宿泊費用はすべて PSI からの支出で賄われた。またアリゾナ州の地学的に興味深い各所に自ら運転する白の TOYOTA プリウスで案内していただいた。日本からはほんの気持ちばかりの手土産を持参した。日本風のれんに、多数の鶴と亀が描かれたものであった。もう80歳を越えてなお矍鑠とされる Hartmann 先生のさらなる長寿を祈念のためにと用意し、先生にもその絵柄の意味を説明して喜んでいただいた。この訪問のあとさらに Hartmann 先生は勤務する PSI のニュースレターに本校の授賞の話と、私の PSI 訪問の話を2度にわたって記事にしていただいた。この記事を巻末に添付する。生徒の活動と授賞を紹介した記事の方は印刷して当日の生徒配布資料 No.2 とした。

なお、本稿のような高校生を対象とした「クレータ年代学」を火星に適用する試みは、本校卒業生で現在神戸大学附属中等教育学校教諭山本拓弥氏（本校50期生）によって、高校生向け課題研究として再度試みられている。この成果も見守っていきたいと思っている。本授業実践および関連研究は、平成27年度「青松会」研究助成金の補助を受けています。感謝し記します。

## <引用・参考文献>

- 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎地学部（中嶋菜衣・小林修平・尾澤ちづる・石川尚子・亀田夏帆・伊須田遼）：「火星表面年代 = あばた×えくぼ」、平成23年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会発表 PPT、2011
- レイ・ブラッドベリ：火星年代記、小笠原訳、ハヤカワ SF 文庫、2010
- W.K.Hartmann : *Travelers' Guide to Mars*, Workman Publishing Company, pp450, 2003
- NASA : *Meteorites From Mars*, August 1999,
- URL : <http://ares.jsc.nasa.gov/education/FactSheets/metsfrommars.pdf>
- Hartmann, W.K., 2005. Martian cratering 8: Isochron refinement and the chronology of Mars. *Icarus* 174, 294-320.
- Caleb I. Fassett, James W. Head III, 2008 :The timing of martian valley network activity:

Constraints from buffered crater counting, *Icarus* 195, 61-89

William K. Hartmann : Japanese School Adapts PSI Crater Count Dating System, Wins Prize,  
*PSI NEWSLETTER* Vol.12, No.3, 6, Fall 2011

Alan Fischer and Bill Hartmann : Prize-Winning Japanese Teacher Visits PSI, *PSI NEWSLETTER* Vol.12, No.4, 2, Winter 2011

---

巻末追加資料 :

- ① 当日事後アンケート
- ② 当日の配布資料 + PSI ニュースレターで紹介された本校関連分
- ③ 当日の授業 PPT (引用の確認できなかった図ははずしてある)

<添付資料その1 (当日配布回収のアンケート) >

2015/11/27

2015年 地学 英語授業アンケート

地学科 岡本 義雄

今年度は、英語で地学の授業を行う試みをしました。以後の取り組みの参考と、この授業に関する研究報告を行うため、以下のアンケートに答えてください。なおアンケートだからと言って、よそ行きにいいことばかり答えなくて結構です。ありのままの意見をお願いします。

1. あなたのクラスと性別は       A     B     C     D      □男      □女  
    (       )
2. あなたは英語が好きですか  
    ① 大変好き    ② どちらかというと好き    ③ どちらかというと嫌い    ④ 大変嫌い  
    (       )
3. あなたの英語の成績は?  
    ① とてもよい    ② どちらかというとよい    ③ どちらかというと良くない    ④ 大変よくない  
    (       )
4. あなたは地学が好きですか  
    ① 大変好き    ② どちらかというと好き    ③ どちらかというと嫌い    ④ 大変嫌い  
    (       )
5. あなたの地学の成績は?  
    ① とてもよい    ② どちらかというとよい    ③ どちらかというと良くない    ④ 大変よくない  
    (       )
6. 今回の地学の授業を英語で行ったことについては、英語の勉強になりましたか? (       )  
    ① とても勉強になった    ② どちらかというと勉強になった  
    ③ どちらかというとならなかつた    ④ 全然勉強にならなかつた  
    ③, ④の人は理由があれば理由も  
    (       )
7. 今回の地学の授業を英語で行ったことについては、地学の勉強になりましたか? (       )  
    ① とても勉強になった    ② どちらかというと勉強になった  
    ③ どちらかというとならなかつた    ④ 全然勉強にならなかつた  
    ③, ④の人は理由があれば理由も  
    (       )

8. これからも地学の内容を英語で授業することを希望しますか? ( )

- ① とても希望する
- ② どちらかというと希望する
- ③ どちらかという希望しない
- ④ 全然希望しない

9. もし今後も地学の授業を英語で行う機会があれば、次のどののような内容を期待しますか?

(複数回答可) ( )

- ① 教師が英語の資料を用いて英語で授業を行う。
- ② 教師が英語の資料を用いて日本語で授業を行う
- ③ 英語の地学の内容の講演や映画などを見る。
- ④ 生徒が自分たちで英語で授業の内容を発表する。
- ⑤ 授業の内容を巡って生徒同士で英語で議論を行う。
- ⑥ 地学の内容のテストの一部を英語で行う（長文和訳や英作文）。
- ⑦ 地学の内容に関する英語のリスニングテストを行う。

(他に案があれば、以下へ)

(スペース省略)

10. 今回の授業で特に気付いた点や、感想などを自由に記述してください。

(スペース省略)

ありがとうございました。

<アンケート集計結果>

各クラスの回答総数を男女別に合計 (M: 男子 F: 女子)

縦が質問番号順、横は回答番号（○囲み数字）順

	M				F			
	1	2	3	4	1	2	3	4
2	13	27	25	11	9	37	32	2
3	3	25	24	25	1	37	31	13
4	8	45	23	1	10	47	22	3
5	1	28	38	10	1	29	40	9
6	13	48	14	3	16	52	7	4
7	13	51	10	2	17	47	13	2
8	4	29	26	18	6	22	39	11

質問 6. 7. 8. に関しては本文グラフを参照。

# Meteorites from Mars!

August 1999

Robotic exploration of Mars has provided much of our information about the geology and weather of the red planet. The Viking mission in the 1970s had two orbiters which mapped the surface and two landers which analyzed rocks and soils. The Mars Surveyor Program plans to send a series of orbiters and landers every two years. The first missions were the Pathfinder lander/rover in 1997 and its companion Global Surveyor orbiter which is now mapping Mars. The Polar Lander and Climate Orbiter are expected to arrive at Mars in the Fall of 1999. However, none of these missions has returned a Mars sample to Earth. Further crucial information about Mars comes from an unexpected source — meteorites that arrived on Earth unaided by technology.



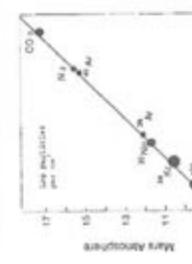
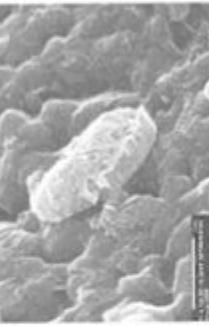
## Why Are They From Mars?

The fourteen martian meteorites are igneous rocks of five different varieties. They crystallized from molten lava near Mars' surface. The group is unusual compared to typical igneous meteorites from asteroids. All but one are younger (1.1 billions years old or less) and have higher contents of water and gases than meteorites from asteroids.

The conclusive evidence that these meteorites originated on Mars came from the measurement of gases trapped

in one meteorite's interior. These trapped gases, now confirmed in other meteorites, match those

that the Viking lander measured in the martian atmosphere.



## How Did They Get Here?

The only natural process capable of launching martian rocks to Earth is meteorite impact. Mars' surface has numerous impact craters of various sizes and ages. To be ejected from Mars, a rock must reach the escape velocity of 5.4 km/sec, which is more than five times the muzzle velocity of a hunting rifle. An impact capable of ejecting the martian meteorites would have left a crater 10-100 km across. The meteorites spent several million years in space before landing at various sites on Earth.



## What Do They Tell Us About Mars?

Martian meteorites tell us about processes occurring throughout Mars' history. The story begins 4.5 billion years ago with the formation of Mars' core, mantle and crust. The oldest martian meteorite crystallized from a magma soon thereafter. The youngest martian meteorites show that volcanism continued until about 180 million years ago. Impacts occurred on the surface throughout Mars' history.

The martian meteorites are gray rocks which show none of the red color of the oxidized Mars soil. However, many of the meteorites show some evidence of interaction with water. Some have igneous minerals containing water, while others have salts and clays caused by weathering. Studies of gases show that Mars' atmosphere evolved very differently from that of Earth, losing its lightest gases to space over time.

## What About Life on Mars?

Mars is the most likely of the other planets to be a home for life. Liquid water and volcanic heat were available to support life at least early in Mars' history. In the 1970s the Viking landers analyzed Mars rocks and soil but could find no evidence of life on Mars. In 1996 a team of JSC scientists reported finding possible fossil life in martian meteorite ALH84001. Their evidence included minerals formed at low temperatures which contained small amounts of organic compounds, and oxide minerals which could be biogenic, and tiny structures which look like miniature Earth bacteria. After three years of intense study and debate, with new data supporting both sides, the issue is still not resolved. The meteorite has had such a complex history that it may never provide a simple answer to the question of life on Mars.

## Why Do We Need Sample Returns?

Mars sample return may be the best way to evaluate life on Mars and study the geology and climate of the planet. Martian meteorites have several disadvantages as martian probes. Most have been on Earth a long time and are contaminated by its environment. Moreover, they are all igneous rocks and not as likely to contain evidence of life as sedimentary rocks or soils. Finally, we don't know the locations on Mars that the meteorites came from so it is difficult to tie them to local geology.

The Mars Surveyor Program is using its early missions to search for sites for sample return. These might be volcanic hot springs or sedimentary lake beds. The Mars Sample Return mission is planned to launch in 2003-2005 and return to Earth in 2008. Perhaps these samples will solve the question of life on Mars.



For more information write to: Antarctic Meteorite Mail Code SN2, NASA Johnson Space Center, Houston, Texas 77098.  
<http://www.usra.edu/jsc-tasc/astmet/marsreturn/mars.htm>

# PLANETARY SCIENCE INSTITUTE NEWSLETTER

FALL 2011 Vol. 12, No. 3



## Japanese School Adapts PSI Crater Count Dating System, Wins Prize by William K. Hartmann



*Japanese high school students in Osaka use a measuring scale to record diameters of craters on Mars.*

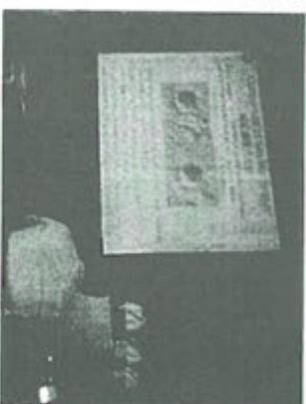
We calibrated our system by using dates from rocks collected at Apollo moon landing sites, then translated the whole system to Mars. Starting in 2006, a strong Surveyor and more recently Mars Reconnaissance Orbiter detected craters forming on Mars at a rate very close to our predicted rate.

Okamoto stayed in touch, sending sample data and questions from the Japanese students and, as he noted, the system is ideal for classroom use. Teachers anywhere in the world can download scaled photographs of Martian geologic formations from many websites and distribute them to students. Students can measure diameters of craters in millimeters and convert to meters or kilometers on Mars. By measuring the area of the photos, they can derive the number of craters per square km in various diameters. Using data from our PSI web site ([www.psi.edu/research/isochrons/chron04a.html](http://www.psi.edu/research/isochrons/chron04a.html)), teachers and students can plot

In August, 2010, I received an email from Yoshiro Okamoto, a geosciences teacher at Tonnoji High School, affiliated with Osaka Kyoiku University, in Osaka, Japan. He was interested in using the crater chronometry system developed and used at PSI since the 1970s to estimate ages of planetary surfaces. The idea is simple: the more impact craters, the older the surface. Like many simple ideas in science, the implementation has been complex.

We calibrated our system by using dates from rocks collected at Apollo moon landing sites, then translated the whole system to Mars. Starting in 2006, a strong Surveyor and more recently Mars Reconnaissance Orbiter detected craters forming on Mars at a rate very close to our predicted rate.

I received word in July that the students were off to present their data on our "isochron diagram" (bottom of page 2 on I webpage) of the number of craters per square km versus crater diameter. Their results can then be compared to our "isochron curves that show the predicted crater densities for various ages such as 1 million years (My) or 1 billion years (Gy) and the student can read off the approximate age. The project is ideal, not only for teaching simple geometric arithmetic, but also principles of statistics (the more craters that are counted, the less the scatter in the diagram), astronomy (the craters are caused by impacts of asteroids scattered through the solar system), and geology (younger geologic formations, such as new lava flows, are superimposed on older surfaces, such as ancient river beds).



*The Japanese students presenting their prize crater counting to a higher level than any other high school in competition, August 11-12, 2011, in Kofu, Japan.*

It's exciting to see our work move from esoteric scientific journals into distant classrooms, and we hope for additional interest from more teachers. We stand by to advise and assist.



PSI Scientists Visit France for 2011 DPS

PSI scientists attended the Division of Planetary Sciences' annual October meeting held this year in Nantes, France. Our scientists, from Tucson unless otherwise indicated, l-r: Nalin Samarasinha, Joe Michalski (UK), Candy Hansen (UT), Susan Conway (U. Nantes), Henry Throop (DC), Beatrice Mueller, Bill Hartmann, Julie Rathbun (CA), Tyler Nordgren (Julie's husband), Paul Abell (guest from NASA), Keith Holsapple (WA), Jeff Morgensthaler (ME), Pasquale Tricarico, Tommy Grav (MD), and Carol Raymond (guest from JPL). (Photograph by Harry Thorpe)

## Young Clay Layers on Mars Continued from front page

"We discovered locations at Noctis Labyrinthus that show many kinds of minerals that formed by water activity," said Weitz. "The clays we found, called iron/magnesium (Fe/Mg)-smectites, are much younger at Noctis Labyrinthus relative to those found in the ancient rocks on Mars, which indicates a different water environment in these depressions relative to what was happening elsewhere on Mars."

Smectites are a type of clay mineral that readily expands and contracts with adsorbed water. They contain silica, plus aluminum, iron or magnesium in their structures. They form via the alteration of other silicate minerals in the presence of non-acidic water.

"These troughs would be fantastic places to send a rover, but unfortunately the rugged terrain makes it unsafe both for landing and for driving," Weitz said. She and her co-authors identified the same sulfates and Fe/Mg-smectites in the Noctis Labyrinthus troughs found elsewhere on Mars, but the progression of minerals over time, from sulfates to Fe/Mg-smectites, indicates a reverse order relative to what happened globally across Mars. Consequently, these two troughs are unique and could have been more habitable regions on Mars at a time when drier conditions dominated the surface.

*The study was funded by grants to PSI from NASA, the Jet Propulsion Laboratory and the University of Arizona.*

## Prize-Winning Japanese Teacher Visits PSI

by Alan Fischer and Bill Hartmann

Yoshio Okamoto, a Japanese geophysicist and teacher, visited PSI on December 9, 2011. Okamoto adapted PSI's crater-counting technique for dating Mars to classroom use, and his class at Tennoji High School won a silver medal in an international competition (see PSI Newsletter, Fall 2011). The school is attached to Osaka Kyoiku University. Okamoto, with PSI's Sanlyn Buxner and Thea Cañizo, discussed PSI's Education/Public Outreach program and possible joint efforts.



*Yoshio Okamoto (at left and below) shows PSI researchers Thea Cañizo, Sanlyn Buxner, Beatrice Mueller, and Bill Hartmann his three-dimensional mapping of earthquake epicenter locations.* (Photographs by Alan Fischer)



Planetary Science Institute

NEWSLETTER

WINTER 2011 Vol. 12, No. 4 Published Quarterly

Chris Holmberg, Editor

Alan Fischer, Contributing Science Writer/Photographer

Amy Hartmann-Gordon, Friends of PSI Update

With special thanks to Emily Joseph, Carol Neese, and Elaine Owens

## Two themes of today's talk

- 1) How to estimate the surface age of Mars?
- 2) Is/was there life on Mars?  
with our geoscience club activity---

## Back ground

“Martian chronicles” is a famous science fiction novel in 1950's. Of course “Martian Aliens” become an illusion today. Instead aliens, many data from satellites allow us to compose “The New Martian Chronicles” using “Crater Chronology”. This is today's story-----.

### Earth vs. Mars

Distance	1	1.6
Eq.Radii	1	1/2
Mass	1	1/10
Atmos. Comps.	N <sub>2</sub>	CO <sub>2</sub>
Atmos. Density	1	1/150
Mean Temp.	15°C	-55°C
Day Length	24h	24h
Axis Tilt	23.4°	25°

[http://www.jpl.nasa.gov/publications/slidesets/replanet2/slides\\_1.htm](http://www.jpl.nasa.gov/publications/slidesets/replanet2/slides_1.htm)

### “The New Martian Chronicles”

*Yoshio Okamoto*

Tennōji high school attached to  
Osaka-Kyoiku University, JAPAN

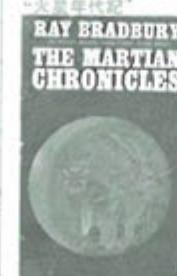
[yosai@cc.osaka-kyoiku.ac.jp](mailto:yosai@cc.osaka-kyoiku.ac.jp)

<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~yosai/>

Modified from the article at GeoSciEd.VI at Johannesburg 2010

### Motivation

“The Martian Chronicles” by Ray Bradbury, 1950. “A Traveller's Guide To Mars” by William K. Hartmann, 2003



### Crater Chronology: principle

- Basic idea by W. K. Hartmann in 1960's
- The principle is quite simple!

→ Heavy cratering surface is old.



Relative Age: something is younger or older than something else  
Description: something is older or younger  
Absolute Age: something is millions of years old (e.g., 2000 yrs)

[http://www.lpi.usra.edu/publications/slidesets/replanet2/slides\\_1.htm](http://www.lpi.usra.edu/publications/slidesets/replanet2/slides_1.htm)

[Bill Hartmann's Home Page](#)

from 2011 SSH summer meeting presentation

### What is Crater-Chronology?

William K. Hartmann (PSI) first developed isochrones diagram for the Moon.

➤ The Ar

result



→ Old

→ Young

### Confirmation of “Crater counts”

After some simplified assumptions, he completed an Isochrones chart for the Moon in 1960's. From it, he estimated the surface age of “Luna maria” as 3.6 Giga years. 月の海が36億年を示す

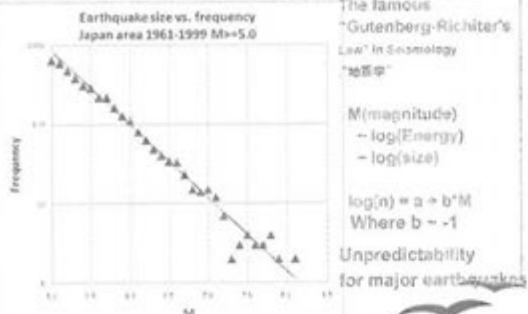
Five years after, the Apollo mission brought back many moon rock samples and confirmed the reliability of this method by measuring the radiometric ages of these rocks.

## Q1. Another feature of Craters?

- Crater size distribution?



## "Fractal behavior" in Nature



## Exercise 1: Crater counting; Moon

- Photos from "Google Moon".
- Calc sheets for crater counting
- "正" kanji character: a ballot counter in a Japanese class room.  
"正"=5 counts

A scissors ruler is used for measuring crater sizes.

正

## The demonstration class 2009 (11<sup>th</sup> grade)



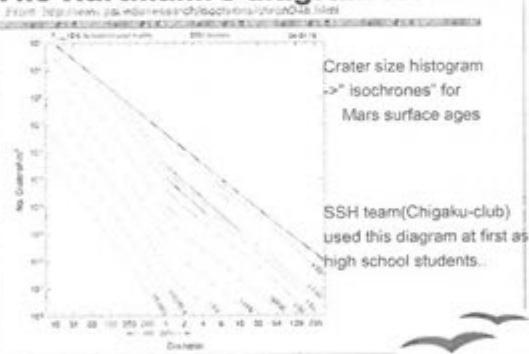
## Next step: Apply to Mars

### The difference between the Moon and Mars

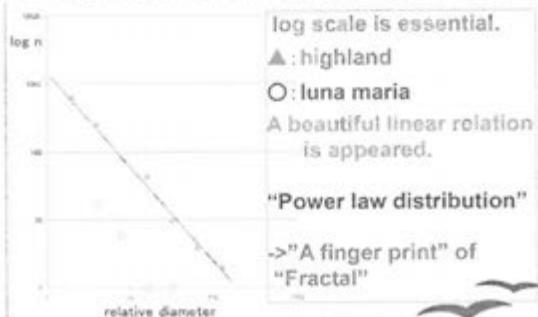
- The rate of asteroid impact flux:  
Mars is closer to the main asteroid belt.
- Impact velocity: Gravity and Atmosphere:  
Mars has strong gravity but thin air.
- Weathering or Erosion by water or wind  
Mars has air and once had water (ancient era).

Dr.Hartmann calculated those effects and finally completed his "Isochrones chart for Mars (Hartmann, 2005)".

## The Hartmann's diagram for Mars



## Frequency vs. size on log-log plot



## Crater Chronology (on Google Mars)

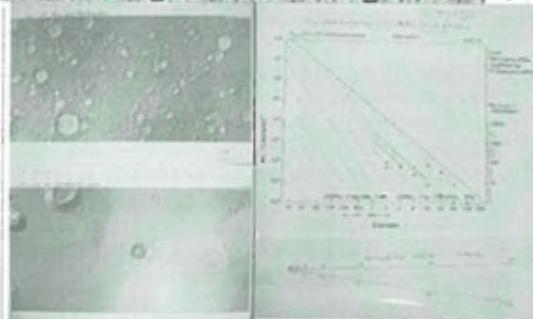
### 2nd. Question: Which surface is old?



## Mars counting; Part1(regular class)



### Mars exercise part1: Data: images from "Google Mars".



### High resolution images; part 2

By geoscience club members = SSH team

From Mars Reconnaissance Orbiter (MRO) Website



### Searching young surfaces (<1Gy )

#### 3rd. Qst.: Why they search young surfaces?



## Preparation for measuring

Printed Mars image

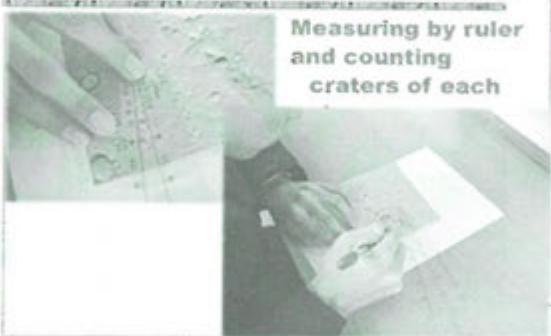
Handmade scissors ruler

Color pen

Excellsheet

### Exercise by geoscience club

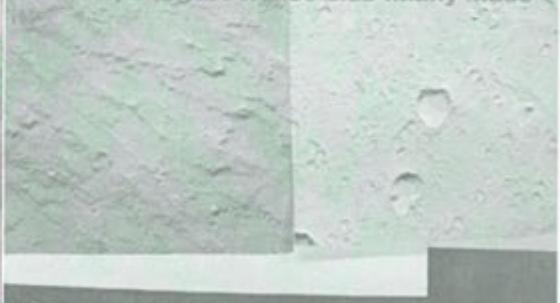
Measuring by ruler  
and counting  
craters of each



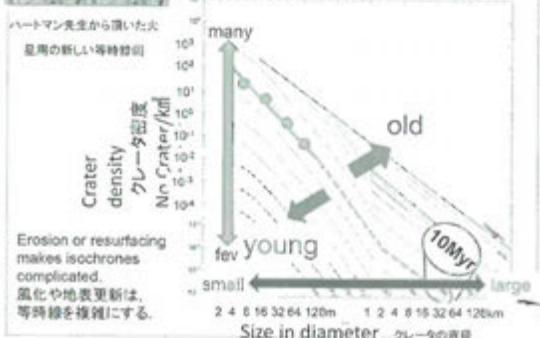
Max 350 craters are on 1km<sup>2</sup> image

It's a painful task!

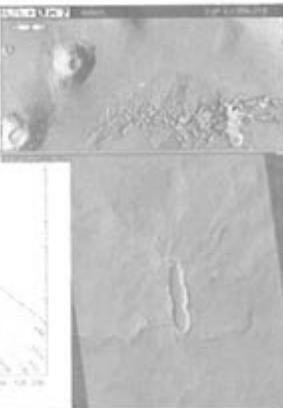
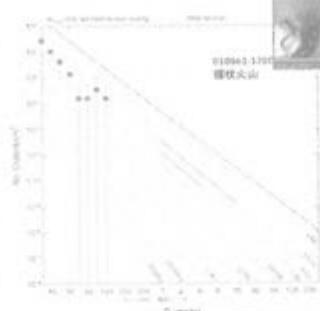
However, our geoscience club finally made it!



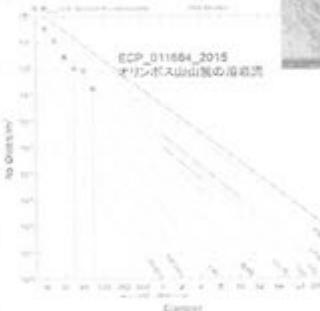
### The Hartmann's New Isochrones for Mars



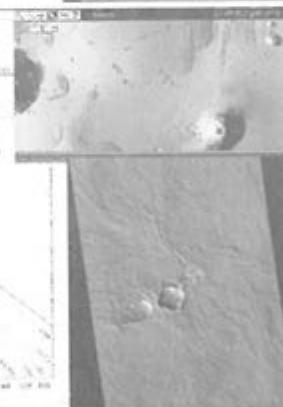
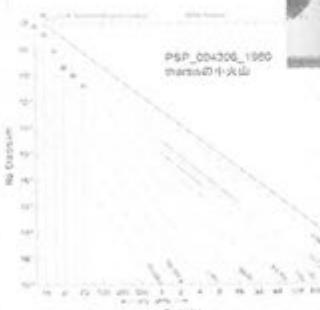
70 million years



100 million years



100 million years



### Results of our exercises

- \* The estimated ages of surfaces, young lava flows, volcano flanks are fairly consistent with the previous works.(eg. Hartmann,2005)
- \* The counting of these sites are easily carried out by high school students, without special trainings. And also our exercises may be the first attempt by high school students in the world.
- \* The process of plotting data strongly inspired our students recognizing a clear relation between sizes and frequencies.

Our SSH team won "The Silver Medal"

at the Kobe SSH summer meeting 2011



### Next theme:

### 2) Is/was there life on Mars?

Also, the "crater counting technique" is used for this theme;



### Discussion:

Q: Are the estimated ages true?

A: Human exploring operation for Mars has not done yet.....

Fortunately, we already have some Martian rocks!

#### 4<sup>th</sup>. Question:

Why? Do we have these rocks?

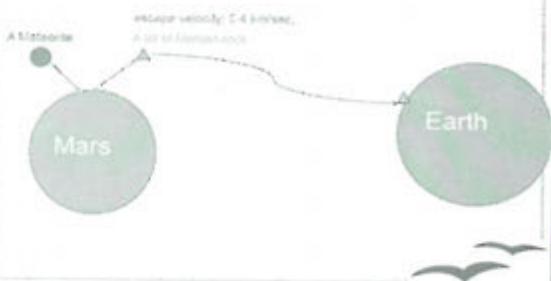


34 Martian meteorites



Ancient Martian Life?

## How Did They Get Here?



### 5<sup>th</sup> Question: What called in English?

Nevertheless, extremely low possibility,  
a lucky event occur!

## Serendipity!!

## Why Are They Mars Origin?

- 1) They are igneous rocks.  $\Rightarrow$  The group is unusual compared to typical meteorites from asteroids.
- 2) They are younger (1.3 Gy old or less); meteorites from asteroids: 4.6Gy
- 3) Higher contents of water and gases.
- 4) From the measurement of gases trapped in meteorite's interior;  $\Rightarrow$  these trapped gases match the composition of Martian atmosphere once observed by the Viking lander.

## What About Life on Mars?



- Their evidence:
- 1) Minerals contained small amounts of organic compounds,
  - 2) Oxide minerals which could be biogenic,
  - 3) Tiny structures which look like miniature of Earth bacteria.
- However, the controversy still continues....

## When did huge amount of water exist?



### Applying "Crater Chronology" (C.Fassett et al., 2008)

Caleb I. Fassett, James W. Head III : The timing of martian valley network activity: The role of crater density dating

Constraints from buffered crater counting, Icarus 199 (2008) 61–89



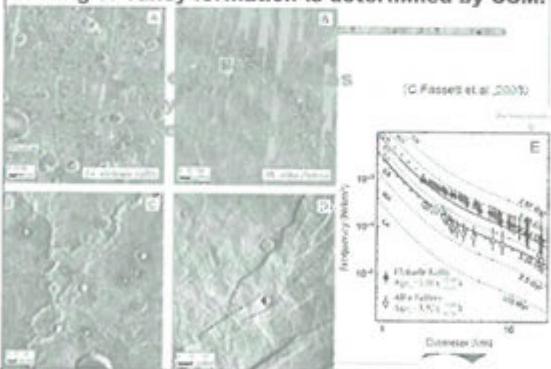
Fig. 4. A schematic diagram illustrating the crater cross-cutting relationships. (A) A buffer zone for the valley network is shown where craters are located which have their apices in the valley. (B) A crater that has cut across the valley floor. (C) A crater that has been cut by the valley. (D) A crater that has not been cut by the valley. (E) A schematic of crater chronology. A variety of crater counts (K) are included to show the range of values used in the crater chronology.

### Good example of cross-cutting relationship

Latitude 30°S. There are no major impact craters cross-cutting those produced by a fluvial flow.

The constraints for the craters are as follows: (1) A valley network valley is not being excavated and therefore no younger than (2). (2) No craters are older than the valley network of that valley. (3) Any craters that are older than the valley network of that valley are not cut by the valley network. (4) Any craters that are younger than the valley network of that valley are cut by the valley network.

### Timing of valley formation is determined by CCM.



**Crater chronology reveals: most of the river-network of Martian surface are relatively old rather than thought before!**

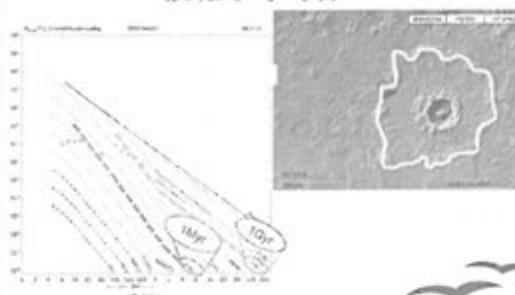
$\rightarrow$  This shows a possibility of early lost of huge amount of water from the Martian surface.

**6<sup>th</sup> Qst.: Which does it mean for the Martian life or its evolution; optimistic or pessimistic?**

**Modern research show a low possibility of existence of life on Mars!**

**However, our SSH team may change this pessimistic view for a good direction!**

### Appendix 1.compllicated Isochrones 複雑な等時線



### Members of Martian crater project



### Interesting results 興味深い結果



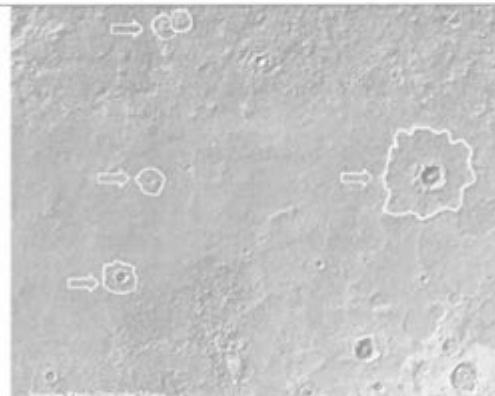
Okonomiyaki Hypothesis お好み焼き hypothesis  
Mysterious Isochrones

### Conclusions: by SSH crater team

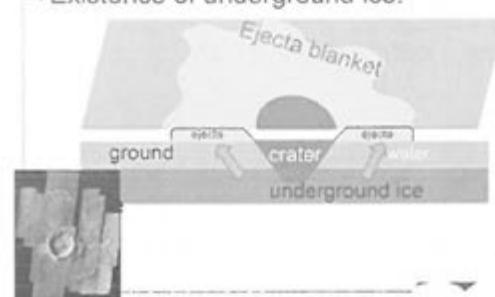
**Mars has not died out,  
but still Alive!! Active!!  
Martian water has not dried up,  
but remains as ground ice!!**

**Our results will be confirmed in 2030's  
by the future human space missions  
toward Mars!**

**We, "crater boys and girls", are looking  
forward to hearing "The Big News  
confirming our hypothesis!!"**



**Rampart Crater having ejecta blanket**  
→ イジェクタ・ブランケットを持つランパート・クレーター  
⇒ Existence of underground ice!



### Problems about crater counting:

1. Were the flux rates of asteroid impacts constant during the history of the solar system?  
→ No: The Late Heavy Bombardment Period (LHB)
2. Are there any weathering on Mars surface by sand storm etc. → Yes: the older craters are eroded or exhumated.
3. Apply to another planets or asteroids?

Mercury surface trial →



## Acknowledgements, References and resources

I thank to the students belonging to the earth science club at Tennoji High-school attached to Osaka-Kyoiku University. I fully appreciated to Mr. Shuhei Kobayashi for providing me some useful charts. I also grateful to all our students took our exercises.

Dr. William K. Hartmann provides me some useful suggestions, and Mr. Yukihisa Fujita helps me constructing a mathematical model. I also thank to Dr. Mohammed Rashed and Dr. Hiroo Nemoto for their helpful discussions. This study has been partly supported by G.J.A for scientific research No.22916002 from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Japan.

### «References»

- Hartmann, W.K., 2010. Martian cratering 8: Isochron refinement and the chronology of Mars. *Icarus* 214, 294–320.  
Calef, J., Faust, James W., Head III, 2009. The timing of martian valley network activity: Constraints from surface crater counting. *Icarus* 205, 61–69.

URL <http://www.psi.edu/about/staff/hartmann>  
<http://www.psi.edu/research/isochrons/isochron04a.html>

The details of this study will be soon available on my web site  
<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~yossi/>



PSI entrance and Dr. Donald R. Davis

## Epilogue-----

After the meeting, I reported the result of our SSH team to Dr. Hartmann who had advised our team of his approach. He invited me to his laboratory that December 2011.

Because I attended the AGU (American Geophysical Union) fall meeting at San Francisco in December.

San Francisco to Tucson, PSI (Planetary Science Institute) his office, is only 2-hours flight.

Therefore, after the AGU meeting, I visited his office and discuss the application of his approach to apply for high school education and outreach.

All payments for hotels and meals during 3 days of my stay were all taken care by PSI and Dr.Hartmann.



At the hotel breakfast  
Japanese School Adopts PSI Crater Count Dating System, Wins Prize! *Newsletter*, Vol. 12, No. 4

**Planetary Science Institute**  
A Nonprofit Corporation

Reaching Throughout the Solar System

ABOUT PSI STAFF PUBLICATIONS EDUCATION OUTREACH SUPPORT

William K. Hartmann

Bill Hartmann's Home Page

Bill Hartmann's Home Page

### Japanese School Adopts PSI Crater Count Dating System, Wins Prize! *Newsletter*, Vol. 12, No. 4

In August 2010, I received an email from Shunji Matsui, Director of the Japanese School of Tennoji, Osaka, Japan. Shunji is a middle school teacher, working to develop the crater count dating system developed at PSI and to teach it to Japanese students. The idea is simple: for most impact craters, the number of craters per unit area is roughly constant. By comparing the crater density of a sample to the density of a crater-free baseline rock, the crater count dating system can be used to determine the age of the sample. Matsui has adopted the crater count dating system in his classroom, and was recently able to demonstrate it before the Japanese Society for Earth Sciences and Geodesy at their annual meeting in Kyoto, Japan, June 2010. The results of his work have been published in the Japanese journal *Geoscientific Research*, 2010, 44, 1069–1078.

Crater count is a fairly simple concept and quite easy for students to learn. But the details in crater count are not so simple. Shunji worked on the model for crater count and the crater count dating system with a professor of his university, and he developed a very simple formula to estimate crater count density from crater size, crater density, crater age, and crater radius. Shunji has written a paper about the crater count dating system for the monthly of science pre-print series for Japanese Society for Earth Sciences and Geodesy, *Geoscientific Research*, 2010, 44, 1069–1078.

**Planetary Science Institute**  
Newsletter Vol. 12, No. 4

### Prize-Winning Japanese Teacher Visits PSI by Bill Hartmann, Vice President

Yoshio Okamoto, a Japanese geologist and volcanologist based at Chiba University, Japan, recently visited PSI's communicating institution, the Planetary Science Institute, and has done a short article about his visit, which appears in the latest issue of the *Newsletter*, Vol. 12, No. 4. The article is entitled "A Visit to Chiba University, Japan, with PSI's Visiting Professor Bill Hartmann". You can read the full article on the [PSI website](http://www.psi.edu/newsletter/vol12/no4.pdf).



Dr. Donald R. Davis and  
Yoshio Okamoto, a Japanese geologist and volcanologist based at Chiba University, Japan, with PSI's Visiting Professor Bill Hartmann.

**W.K.Hartmann (right) and Donald R. Davis(left)**  
as a founder of  
"Giant Impact Hypothesis"; the most plausible  
theory of the origin of the moon.

## Special thanks to Dr. Hartmann

and geoscience club member 2011  
Nae Nakajima  
Syuhei Kobayashi  
Chizuru Ozawa

Thank you for your attention!

"The true ages may be brought in the future.  
Also, Martian life will be confirmed!  
Until that day, I hope, will be still alive!"

## A Geoscience Class lectured in English Part2

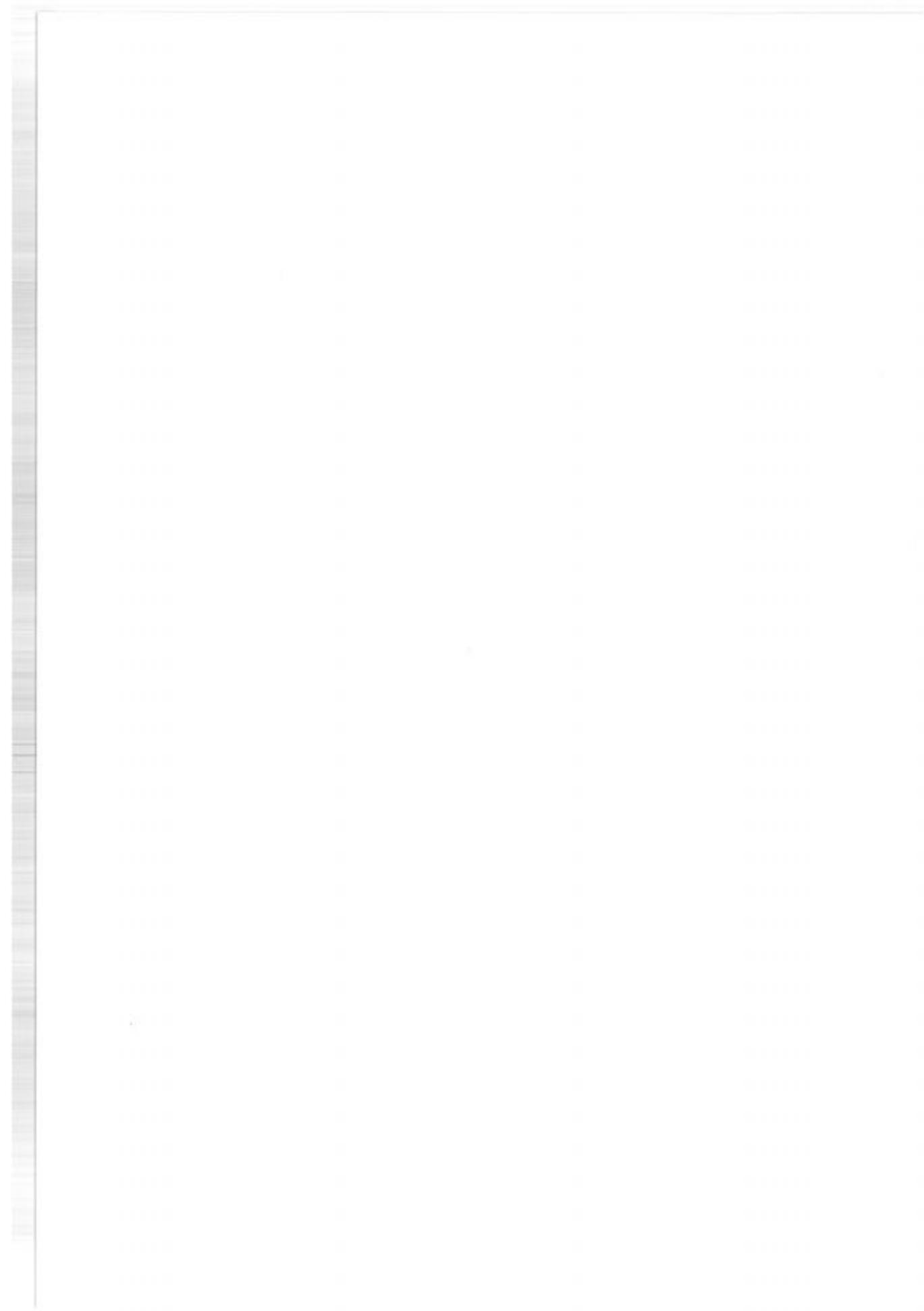
—A New Martian Chronicles—

OKAMOTO Yoshio

### Abstract:

Through 15 years career of our school, I have participated in many international conferences on geosciences, therefore I keenly realized the importance of English as an official language for the natural sciences world. However, for the most of Japanese science teachers and high-school students, there is a high wall using English on practical classes or going abroad to attend international conferences. In this regards, I have tried to use English as a lecture language in my geoscience class since five years ago. This year, I planned an English lecture for ordinary "Basic Geoscience" class of the 2-nd grade. The lecture using a Power Point Presentation was carried out with full use of English. This lecture consists of three themes; 1) Crater chronology on Mars 2) Possibility of Martian life 3) Our geoscience club activities. Through this class, our students learn that 1) Mars as a brother planet of the Earth in the habitable zone of our solar system 2) Primitive approach of science method can reveal the secret of the outer planet 3) The importance of English as an official language in natural science. The evaluation of this class was examined with a questionnaire just after the class. The purpose of this class was positively evaluated from the questionnaire. The outline of presentation, resumes and resources of above class are attached as an appendix of this manuscript.

**Key Words:** Mars, crater, meteorite, surface ages, Hartmann diagram, senior high-school, English



# Oral Sentence Building as a Chunk-based Learning:

In Comparison with Shadowing

SHINOZAKI Fumiya

## Abstract :

Studies reveal that learning with chunks impacts the process of mastering of English. Although Oral Sentence Building (OSB) is a kind of chunk-based exercises and it should have great potential, relatively little is known about it. The effects of OSB are hypothesized as follows: (1) it may promote effective use of working memory and (2) effective memorization or learning of chunks and structure. This research explores chunking with Shadowing in terms of automatization, level of processing, the phonological loop, and memory span.

**Key Words :**Oral Sentence Building, Chunk, Chunking, Working memory, Automatization

## I. Introduction

It has long been said that English classes at school should focus more on developing communication, particularly productive skills including speaking and writing. Since then, numerous studies have been administered and a variety of exercises or tasks, thought to enhance communication ability, were practiced. It is sometimes said that "there is no royal road to mastering English" and it may be true to a certain extent, but there are effective ways to learn and improve English.

One such method is the use of chunks. According to Miller (1956), chunks are units of information such as letters, words, and numbers, which a person is able to process at a time. Chunks are of vital to use to learning English; Erman & Warren (2000), who referred to a combination of at least two words as a prefab, discovered that 58.6% of discourse in spoken language and 52.3% of discourse in written language are each filled with prefabs. Chunks have been utilized in actual English lessons, and some of its positive influences on learning have been acknowledged by studies.

Oral Sentence Building (OSB) is a chunk-based exercise in which a learner makes a meaningful sentence by rearranging three learning chunks heard in a random order verbally, so there is a possibility that it also has some effects on learning. A few studies

have been conducted on OSB, but the overall effects of OSB still remains to be seen.

OSB is similar to Shadowing (SH) in that it is also an oral practice implemented while listening. SH in this paper is defined as prosody shadowing, in which learners try to pay attention, not to the structures or meanings of words, but to the sound that they hear. SH utilizes brain activities, particularly working memory. This paper will review prior studies regarding effects of chunks and compare OSB with SH in order to take a closer look at the potential effects of OSB, especially on learning chunks and structures through a discussion on working memory.

## II. Effects of learning with chunks

In this section, previous studies about effects of learning with chunks were reviewed to determine the possibility that OSB may also have some positive impact on learners. Studies report that chunk-related learning actually influences diverse aspects of language learning.

Hijikata (2005) implemented a study with university students for about a month. There were four types of reading conditions: whole passage, chunk-cued passage with no pause, chunk-cued passage with pauses at every chunk, and chunk-cued passage with pauses at the end of sentences. One of the results indicated that the chunk-cued passage with pauses at every chunk enhanced reading comprehension the most.

In addition, Uchibori & Chujo (2004) gave classes for a total of 16.5 hours to university students. They explained target grammatical elements and provided reading instruction during each class. At approximately every other class, five minutes were used for listening practice. They addressed phrase structure, which is related to chunks, as a part of teaching. As a result, significant improvements were seen both in the reading section and listening section on TOEIC, but the rates of increase in each section were also in the same range. Taken into consideration the total amount of time for listening instruction, they assumed that it was not the direct contributor to the improvement of the listening scores itself, but the thorough instruction of phrase structure led to the score increase with the recognition of chunks while listening.

Yubune (2012) had university students do chunk-based oral reading and shadowing using online teaching materials from April through July, reporting that speed oral reading in chunk units improved not only their reading comprehension speed but their entire reading comprehension accuracy, and that shadowing exercises in chunk units developed their listening ability.

Miyake (2002) conducted a research with university students about how English learners in Japan learned expressions like English expressions. Since Japanese expressions using inanimate subjects with transitive verbs are likely to be learned as chunks, Miyake compared these expressions with those that use animate subjects under the hypothesis that sentences containing the former would be expressed more correctly than those with the latter. As a result that the participants translated

Japanese into colloquial English on a paper basis, proving that her hypothesis was true. She suggests that it is better to memorize target words in a chunk unit or collocation than individually.

### III. Automatization and level of processing

When you speak, attention to the messages (what you want to say) and the language (vocabulary, grammar, etc) compete with each other in your brain. Generally speaking, native speakers can focus more on the messages than the structure, while second language (L2) learners, though the degree differs depending upon their proficiency levels, are less likely to do so. This can be illustrated by automatization of the use of the language. Automatization refers to ability of processing information with little effort. The Attention-Processing Model expounds upon lower-level processing concerning vocabulary and grammar which can be automatized with repetitive learning and allowing people to pay attention to upper-level processing (McLaughlin, 1987). A language comprises numerous elements, and it is a challenge for L2 learners to automatize phonetic perception, syntactic processing, etc.

What then, are the kinds of exercises required to complete the challenge? This can be approached by thinking in terms of the levels of processing model of memory. Craik & Lockhart (1972) state that semantic processing promotes elaboration of coding more than the other two kinds of processing: phonemic processing and structural processing. This is apparently because semantic coding has a stronger relationship with known information in long-term memory, resulting in better use of the semantic network in the long-term memory, leading to the assumption that the more information is semantically coded, the easier it is to retain in one's memory (Kadota, 2015). Compared with SH, OSB provides learners with more time to process input more semantically on account of some pauses between chunks. Additionally, since OSB can be regarded as a dual task, defined by Baddeley & Hitch (1974), more cognitive resources will be used (Shinozaki, 2014). It has been calculated that this also contributes to the deeper level of processing.

Thus, when it comes to what will automatize phonetic perception or syntactic processing, SH works for mainly the automatization of phonetic perception, and OSB is more suitable for the automatization of syntactic processing. Tamai (2005) conducted a study with high school students in which the experimental group was given shadowing-focused instructions and the control group was given dictation-focused instructions. As a result of the listening tests they took before and after those instructions, little difference between SH and dictation in effects toward high performers were discovered. However, SH improved the listening skills of middle and low performers more significantly than dictation. This reinforces the idea that SH helps the automatization of phonetic perception, for it can be perceived that high performers already have developed the ability sufficiently. On the other hand, OSB

involves rearrangement of chunks, which directly relates to syntax. The repetitive practice with OSB seems to internalize target chunks. Therefore, it is possible that OSB facilitates the automatization of syntactic processing.

This argument does not contradict the effects of SH or OSB. The effects of each exercise vary according to the purposes and the methods of utilization. In fact, Kadota (2012) suggests the possibility of contents shadowing, which focuses more on lexical chunks or grammar, can internalize vocabulary or grammatical rules. In the same way, OSB might also function in the automatization of phonetic perception and other aspects.

#### IV. The phonological loop and memory span

As discussed above, automatization is a key to a better English speaker. This section looks more closely at it in terms of working memory. The phonological loop, one of its four slave systems (Baddeley, 2003), seems to be the most relatable to language. It consists of two components, the phonological store and the subvocal (or articulatory) rehearsal system (Baddeley, 2002). What should be noted about the phonological store is that "traces within the store were assumed to decay over a period of about two seconds unless refreshed by rehearsal" (Baddeley, 2002, p. 86). In other words, speech information needs immediate repetition and rehearsal so it is not eliminated. Moreover, according to Baddeley, Thomson, and Buchanan (1975), the word-length effect explains that a longer word is harder to remember because it takes longer to pronounce and people can usually memorize as many words as they can say in approximately two seconds, a reasonably predictable memory span. That is to say, being able to pronounce words faster leads to the effective use of working memory. To attain this, the automatization of subvocal rehearsal is crucial.

Furthermore, it can be said that this is true when considering the number of chunks that people can instantly memorize. Miller (1956) proposes the magical number seven plus or minus two: if people remember many numbers, say 12 of them, it is quite challenging for them to reproduce them successfully. However, recoding or chunking, such as a play on words or putting words together, is a valid way to hold and process input. On the other hand, Cowan (2000) advocates that approximately four chunks are the maximum number of items that people are able to retain and process naturally. According to his theory, the information in the focus of attention can only be processed. To put it simply, the number of chunks that people can pay attention to simultaneously is about four. In any case, it is significant to note that chunking is a key factor for people to process many words in a short period of time.

While solving OSB questions, learners have to focus on chunks. Consequently, they are able to gradually pronounce those chunks faster, and the automatization of subvocal rehearsal will advance. There are three chunks in one OSB question, so it is within the range in Cowan's theory. Furthermore, it will not exceed two seconds to

pronounce three chunks as long as many long words are not included.

#### V. Hypothesis of the effects of Oral Sentence Building

Based on the discussion so far, a hypothesis of the effects of OSB will be shown below.

- (1) Effective use of working memory
  - a. By chunking words
  - b. By pronouncing chunks more quickly
- (2) Effective memorization or learning of chunks and structures
  - a. By repetitive input of target chunks
  - b. By rearranging chunks

These are the two main possible effects of OSB, which will be more valid for lower proficient learners, because skilled learners tend to already have gained the effects that can be given by OSB.

#### VI. Conclusion

Exercises, in which chunks are relevant, have positive effects on learning. OSB is also a chunk-based speaking exercise, which are lacking many studies as of now. Therefore, this paper offers the opportunity to explore possible effects of OSB as compared with SH. Some points of the discussion include automatization, level of processing, the phonological loop, and memory span. In the end, the research has demonstrated the validity of the effects of OSB, including OSB promoting effective use of working memory, and contributing to effective memorization or learning of chunks and structures.

#### References

- Baddeley, A. (2003). Working Memory: Looking back and looking forward. *Nature Reviews: Neuroscience*, 4, 829-839.
- Baddeley, A.D. (2002). Is Working Memory Still Working? *European Psychologist*, 7, 2, 85-97.
- Baddeley, A. D. & Hitch, G. J. (1974). Working Memory. In G.A. Bower (Ed.), *Recent advances in learning and motivation*, 8, 47-90. New York: Academic Press.
- Baddeley, A.D., Thomson, N. & Buchanan, M. (1975). Word Length and the Structure of Short-term Memory. *Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior*, 14, 575-589.
- Cowan, N. (2000). The Magical Number 4 in short-term memory: A reconsideration of mental storage capacity. *Behavioral and Brain Sciences*, 24, 87-185.
- Craik, M., & Lockhart, S. (1972). Levels of Processing: A framework for memory

- research. *Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior*, 11, 671-684.
- Erman, B. & Warren, B. (2000). The Idiom Principle and the Open Choice Principle. *Text*, 20 (1), 29-62.
- Hijikata, Y. (2005). The Chunking Process and Reading Comprehension of Japanese EFL Learners. *Annual Review of English Language Education in Japan*, 16, 61-70.
- 門田修平. (2012). 「シャドーイング・音読と英語習得の科学」 東京：コスモビア。
- 門田修平. (2015). 「シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学」 東京□コスマビア。
- McLaughlin, B. (1987). *Theories of Second-language Learning*. London: Edward Arnold.
- Miller, G.A. (1956). The Magical Number Seven, Plus or Minus Two: Some limits on our capacity for processing information. *Psychological Review*, 63, 81-97.
- 三宅美鈴. (2004). Chunk による記憶の有用性—無生物主語他動表現の場合を通して—. 大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要, 1, 55-72.
- 篠崎文哉. (2014). スピーキング練習法「OSB」の推定される効果—初学者の場合—. 大阪教育大学附属天王寺中学校□高等学校天王寺校舎研究集録, 56, 45-54.
- 玉井健. (2005). □リスニング指導法としてのシャドーイングの効果に関する研究□東京□風間書房.
- 内堀朝子, 中條清美. (2004). 文法指導による大学初級レベル学習者の英語コミュニケーション能力養成の効果, 『日本大学生産工学部研究報告 B』, 37, 75-83.
- 湯舟英一. (2012). チャンク音読とシャドーイングのための Web 教材の開発. 東洋大学人間科学総合研究所紀要, 14, 83-94.

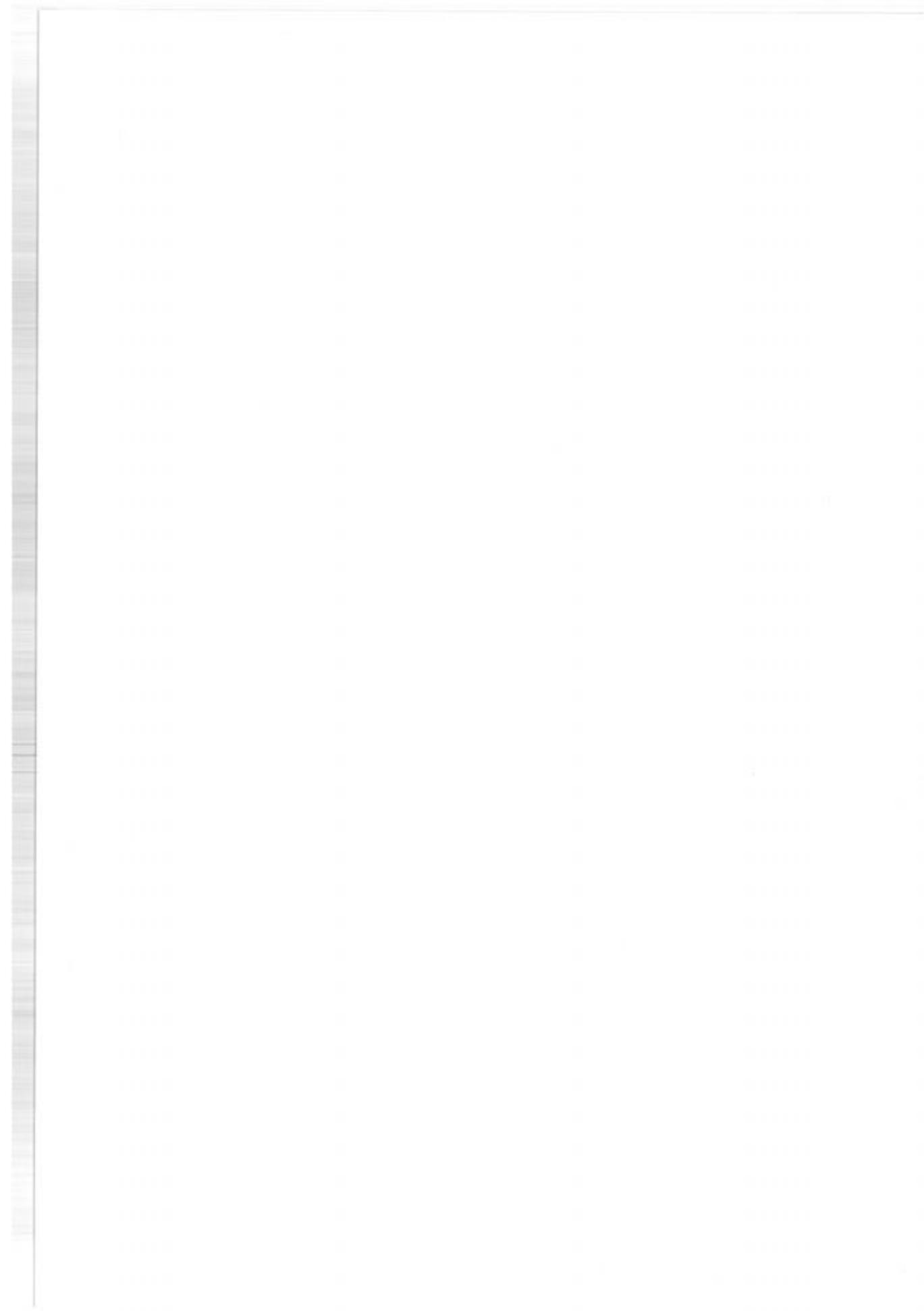
# チャンク型学習としての口頭並べ替え

—シャドーイングと比較して—

しの 篠 崎 ふみ や  
篠崎文哉

抄録：チャンクを活用した学習法は英語習得に効果があることが確かめられている。口頭並べ替え(OSB)はチャンク型の練習法であり、様々な学習効果が期待されるが、それに直接関連した研究は多くはない。OSBがどのようなものかを理解するために、シャドーイングと比較する。本論文では、チャンクに焦点を当て、自動化や処理水準、音韻ループやメモリースパンの観点からOSBを考察する。最終的に、OSBの効果について、(1)ワーキングメモリの効果的な使用を促す可能性や(2)チャンクと構文の効果的な記憶や学習を促す可能性があることを仮説として立てる。

キーワード：口頭並べ替え、チャンク、チャンキング、ワーキングメモリ、自動化



# 既成の指導案に「自己認識」発問を加味する効果

附属天王寺中学校 研究部

## 第1報：総論

### 1. はじめに

平成26年度、これまで本校で行ってきた道徳授業をさらに発展させるべく、研究テーマに「既成の指導案に『自己認識』発問を加味する効果」を掲げ、全校体制で取り組んだ。この第一報では、平成26年度初めに確認した「全職員に対し共通理解を図った道徳授業に対する考え方」「これまでの研究の歩み、平成26年に行った教育研究会における公開授業の指導案、及び発問の効果」を中心に纏めることとする。続く、第二報から第四報には、日頃の実践で用いた資料から一つを各授業者が選び、副読本の指導書にある展開にどのような発問を付け加え、実践したか、を学年ごとに纏めた。

### 2. 道徳授業の3場面の提起 ~「価値認識」「自己認識」「自己展望」~

道徳授業の特質の一つは、“昨日から今日、今日から明日へと、薄紙一枚でも伸びていこう”とする人間共通の願い・望みを基盤として、俱学俱進しながら道徳的価値を追求する点にある。そこで本校では、道徳的価値の自覚を深めるため、『指導要領解説 道徳編』や道徳資料の機能「砥石」「姿見」「展望台」も踏まえ、「価値認識」「自己認識」「自己展望」の3場面を意識した授業構想を練ることで授業の活性化を図ることにした。具体的には、以下のように考える。

「価値認識」：価値の新しい断面に直面させたり、価値の主観的相対的（個人的）な側面と普遍的妥当的（社会的）な側面を衝突させたりして、道徳的価値を広げ深める場面

「自己認識」：新しく広げ深められた価値の世界に対して、自分はどう考え、どう評価するのかを追求する場面

「自己展望」：個人的・社会的な阻害条件を念頭に、その克服条件を考察し、今後どのような方角へ舵を切っていくのかを展望しながら、“秘かなる決意”をする場面

### 3. 研究の歩み ~「価値認識」から「自己認識」へ~

平成23年度は、「価値認識」を深めるための斬新な試みとして、2資料比較対象授業「フィンガーボール＆運命の饗宴」の授業を公開した。舞台設定としては酷似している2資料を1時間の中で扱い、両者の類似点や相違点を整理して比較対照することで、眞実の愛や思いやりに必要な要素や条件を探究した。一つの価値に対する認識を深める際に、それとは似て非なる対象と突き合わせる手法は概念理解の基本であり、1時間に2資料を扱う難し

さを除けば、理に叶っていよう。

なお、このような視点は、適宜、普段の授業にも組み込みたい。例えば、「意氣・粹」と「気障」「野暮」の違いや、「勇気」と「臆病」「蛮勇」の違い、「親切」と「当然」「お節介」の違いを考えたり、「友愛」「恋愛」「親子愛」等はすべて愛情の一形態であるが、「友愛」にしか見られない特質は何かと考えさせたりすることで、個々人の価値に対する捉え方が深く明瞭になることが期待されるからである。

平成24年度は、「価値認識」から「自己認識」に関わる発問の効果を考えた。『私たちの道徳』にも掲載されている資料「二通の手紙」では、行為の原動力としての心の変容に焦点化することで「価値認識」を深めるとともに、「もし将来、元さんが同じ場面に出会ったら、今度はどうすると思いますか」という「自己認識」とも深く関連する発問を位置づけた。このことで、自己の立脚点や見方・考え方を反映した発言と、あくまでも元さんの立場に立ち切った発言とが混在する、大変興味深い授業場面となった。なお、「もし将来、あなたが同じ場面に出会ったら、どうしよう思いますか。」という問い合わせとの異同については、今後の課題とした。

また、資料「樹齢七千年の杉」では、2種類の「自己認識」発問を準備した。すなわち、資料を離れて「様々な自然体験を語り合う」展開Aと、資料に寄り添いつつ「観光客が縄文杉を“見に来た”ではなく、“会いに来た”と表現したのはなぜか」と発問する展開Bとを比較したのである。結果は、Aでは一つ一つの意見にやや深みを欠くものの、大台ヶ原、富士山・樹海からグランドキャニオンに至るまで、視野の広い交流ができるのに対し、Bでは大自然の神秘性・不思議さに意見が集中し、狭い範囲ながらも考え抜かれた意見が出やすいという特徴が認められた。

平成25年度は、1年間を通して「輪番制で全員が指導案作りに参加する」をテーマとし、学校全体で道徳授業に関わるスキルアップを目指すことにした。こうした研究活動の中で、資料「稻むらの火 余話」では、有田郡広川町の「濱口梧陵記念館」「津波防災教育センター」への社会見学とリンクさせて多角的に学習を展開することができた。また、資料「失われた一万年」は、今なお石器時代を生きるウルイウ族が、現代文明との接触によって甚大な影響を被る話であるが、「得たものと失ったもの」や「人生の豊かさ・幸福」について2時間連続で議論を行い、新しい価値や課題を発見していく授業も実現した。

このような具体的な実践と並行して、「自己認識」をねらう発問も追究し続けた。例えば、総合初等教育研究所の奥村怜氏は、資料中には登場人物が行為を選択する場面が幾つか描かれているが、それらの場面で、「自己の生き方の美学に照らしてどうすることをよしとするか」を考えせるのも一法だと述べており、また、本学の金光靖樹教授は、「資料に描かれていないその後の展開を考えることも有効」であり、推測した場面の中に自己投影した姿を読み取ることができるだろうと主張している。こうした見解の有効性は、一定の授業実践において確認することができた。

#### 4. 本年度の中心課題 ~効果的な「自己認識」発問の在り方~

今後、実践を意識した「自己展望」が脚光を浴びることが予想される中、ますます、その前段階の「自己認識」発問の質が問われることになろう。「自己展望」場面で鮮やかに花開くかどうかは、その前段階で如何に自己と厳しく対峙できるかに依存するからである。

そこで、平成26年度であるが、「既成の指導案に『自己認識』発問を加味する効果」を追求するため、「自己認識」を促す方途として「登場人物への同化・異化、道徳的価値の意義に対する探求、実現への促進条件や阻害要件の追求」等、多様に求めつつ、中学生が額に汗して考え込まざるを得ない状況へ誘おうと考える。

同時に、道徳の教科化を見据えるとき、既成の指導案に1つ2つの発問を付加するという簡単明瞭な工夫で効果が上がるようにならなければならないであろう。それには、これらの工夫は道徳資料の特性のみから一意に導き出されるのではなく、多分に、生徒の実態を反映した学級の特色や風土に依存するという事実にも留意しなければならない。

そして、こうして練り上げられた「自己認識」発問と、指導案には表記されない「各発問への時間配分」や「生徒発言のどこを板書するのか」、「切り返し発問をいつ・どのように行うか」、「指導案の行間をどう埋めるか」等との相乗効果についても探っていく必要がある。

さらには、多様な意見・価値観に触れられるような「自己認識」発問を工夫することに加え、多角的・批判的な発言に対して、指導者が受容する姿勢を示していくことも重要である。例えば、資料「バスと赤ちゃん」の場合、批判的な見方をする2割以上の生徒を無視することなど、到底できはしまい。むしろ、こうした意見を授業活性化の起爆剤とし、充実した表現活動の中で自己の考えが深まっていく過程を通して、道徳授業への満足度や関心・意欲を高めたいのである。

## 5. 自己展望を促す発問～道徳の教科化に向けて～

国研の西野真由美氏は、「資料について考える際に自分の体験や生活と結びつけて考えたり、自己を振り返る場面で学んだことを将来に活かそうとしたりする発言を引き出す指導では、押しつけになってしまい価値についてじっくり考えることができない」といった見えない縛りのよきものに教師は囚われている」と述べ、「『実践』について考えさせない授業で『実践力』を育てられるだろうか。価値を共感的に理解し、何が正しいかを判断した上で、どうすれば実践できるかを考え、『できる』ことを目指す授業づくりが必要だろう。」と指摘しており、本校では、これを「自己展望」発問に関わる貴重な示唆として受け止めている。

また、村上敏治氏の「道に迷って困っている人があれば親切に援助するという心情を深めるといつても、時処位に応じた判断の仕方をどこかで指導しておかなければ、却って危険な場合もあり、また、実践への手がかりを掴むことも期待できない。このような場面で、生徒の生活環境や実態に即して、『こんな場合、君たちは、どのような親切の仕方をすればよいか』と問い合わせ、生徒の判断を確かめながら授業展開することが必要だ。」との言も、今後、より意味のある「自己展望」発問の在り方を検討していく上で、重要な指標となるはずである。

折しも、平成26年秋には、「人生を幸せにより良く生きようとする意欲」を育むべく、道徳の教科化に関して、中央教育審議会答申が示された。この流れは、「教師の指導力が十分でなく、何を学んだかが不明瞭な授業が散見される」「指導方法に不安を抱える教師が多く、児童生徒の発達に即した道徳の時間（指導要領）の指導方法の開発・普及が十分でない」「具体的にどう行動すれば良いかという側面に関する教育が十分でなかった。」と

といった反省も踏まえており、今後は、現代的・近未来的課題も扱いながら、“知っている”のみならず“できる”も視野に入れ、自他の異なる意見・考えを止揚していく授業を保障する方向へと舵を切られたわけである。

いずれにせよ、これからも本校が進めてきた道徳授業に関する研究が、こうした社会的な要請にも応え得る道徳教育・道徳授業の創出の一助になれるよう努めていきたいものである。

## 6. 平成26年度教育研究会における授業

<1年>

指導者：吉田雅子

○指導案

1. 主題名 もう一人の自分との対話 [内容項目3-(3)]
2. 資料名 「いつわりのバイオリン」(「中学生の道徳1」あかつき より)
3. 主題観

心の弱さや醜さは常に表れているものではなく、自分の生き方を問われるような場面に出会ったとき、その大きさに関わらず、出てくるものではないだろうか。私たち人間は、日常生活において、常に自分の心に確立された法則性や義務感に照らし、自分の行為が善か悪かを直観的に判断する。言い換れば、心の中にいる「もう一人の自分」が「警告者」や「告発者」、さらには、「審判者」となり、私たちに問いかけるのである。しかし、そのいずれに対しても、自分自身が真摯に対峙できなかった時、その声は「共苦者」となり、後に、私たちは良心の悔恨を感じることになる。私たちは、そのような形で、日々、自分の心の深い部分にある「もう一人の自分」の声を様々な意識レベルで聞きながら生活しているのかもしれない。「もう一人の自分」の声を聞き流してしまうことは、どんな人間にも少なからずあるだろう。しかし、日頃から、自分に真摯に向かい、誠実に生きようとしているからこそ、そういった場面に直面した時、悩んだり、迷ったりする。いわば、理想と現実の間で、自分がとるべき方法・進むべき道が何であるか、あるいは、自分が選んだものがよかったのかどうか、悩むのである。

「もう1人の自分」の声は、日頃の自分の生き方が反映されており、この声を聞くことで、自分の心の弱さと同時に気高さにも気づくことができると考えられる。また、「もう一人の自分」の声は、他者から強制されるものではなく、最終的な自分であると言われる。この視点からも、その良心の声に従うことは、自己確信を基にした人生における決定であると言え、結果として、心は安寧を得、良心の呵責や後悔と決別することができるのである。良心の声としての「もう1人の自分」は、自分がより美しく、より気高く生きていくための大きな指針を与えてくれるものであり、人生行路を明るく照らす光源でもある。

## 4. 資料観

この話は、登場人物であるフランクが希望や目標を持って、自分の納得するバイオリンを作ることに心身ともに打ち込む、という誠実さと職人魂が前提となっている。しかし、「良心」という視点から見ると、たびたび自分の名誉や名声を得られるかもしれないという第2の自分の声を打ち消す一瞬の気の迷いと、それに伴って自分自身の生き方を根本から見直さなくてはならないほどの良心の悔恨も描かれている。ここで描かれている「一瞬の気

の迷い」は、言葉としては軽く取られがちであるが、実際のところ、フランクの選択した行動は取り返しがつかないほどの非常に重いものではないだろうか。ラベルを張り替えるときの手の震えはフランクの「良心の声」の表出と言えるだろうが、その「良心」が存在するフランクの心の深いところにある欲望が同時に働いて「良心の声」を打ち消してしまっている。結果として、これまで築いてきた楽器職人としてのプライドや信用、自分自身のキャリアを失ってしまう。人生には「決してやり直しのきかないことが確かにいる」という厳然たる真実を直視させられる資料と考える。

#### 5. 指導観

楽器職人という身近にはない職業が、主人公の職業として取り上げられているので、楽器職人という「こだわり」が「自分の仕事や生き方に対して真摯に向き合うこと」につながっていることを理解させたい。また、名高い楽器は、その楽器が存在する限り、作者の生死に関係なく、その音色とともに作者の名前も楽器と同じく生き続けることにも気付かせたい。だからこそ、フランクの一瞬の気の迷いは、ロビンのバイオリンに自分のラベルを張り替えたという単なる「魔がさした」出来事として片づけられない。どれほど良心の声が自分に続けて訴えかけていたとしても、それを聞かずして事を起こしてしまうと、もう取り返しのつかないことになってしまうということである。そのように、自分自身のこととしてだけでなく、ロビンに対しても同様に、「一瞬の気の迷い」としては済まされないことも考えながら、フランクの良心の声が訴え、強くなるに従って、どのようにフランクの行いが変わってくるのかについても気づかせた上で、美しい生き方とはどのような生き方なのかについて考えさせたい。

#### 6. 本時について

- (1) ねらい 主人公フランクの良心の呵責・葛藤を通して、自分自身の心との対話（良心）はどのような時に起こり、どのように自分に問いかけるものかを考え、これからの自分自身の生活にも映し出せるような道徳的判断力や実践意欲を育てる。

(2) 展開の大要

[○ 指導案の発問 ● 発問 ◎ 中心発問]

	学習活動(指導書の指導案例)	学習活動(当日の指導案)	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ずるいことをしました経験がありますか。</li> <li>○ その時、どんなふうに感じましたか。</li> </ul>	<p>2挺のバイオリン（ストラディバリウスと1万円程度のバイオリン）の音色（「G線上のアリア」）を開き比べる。その際、バイオリン職人ストラディバリの紹介をする。</p>	<p>☆バイオリンは、音色と職人が結びつくことを押さえたいい。</p>
展開	<p>資料を読む 1：悩み抜いた末に、フランクはどんな気持ちでバイオリン作りを引き受ける決断をしたのだろうか。</p>	<p>資料の範読 ◎ 1: ロビンからの手紙をもらったフランクの涙の中には、どんな思いや考えが詰まっていたか。 &lt;価値認識&gt;</p>	<p>☆最初に中心発問をし、その場面につながる部分を深めたい。</p>

	2: ロビンのバイオリンに手を伸ばしたフランクが、一瞬手を止めたのはなぜだろう。	● 2: 「一瞬、手を止めた」、すなわち、してはいけないと分かっていたのに、貼り替えてしまったが、そのことでフランクは誰を偽ったことになりましたか。 ＜価値認識＞	☆ワークシートに考え得るだけの組み合わせを書かせたい。
導入	3: ロビンから届いた手紙を読みおえたフランクはどうして涙がこぼれたのだろう。	● 3: どんな自分を偽ったのだろうか。 <自己認識>	☆2の答えを受けて、「良心」(正しい心の声)の存在とその作用、またそれがもたらす結果について気づかせたい。
入	4: 涙でフランクは何を取り戻したのだろう。	● 4: その後、フランクは生気をなくしていったが、フランクが手に入れたものと、反対に、失ったものは何だろう? <自己認識>	☆よりよい生き方のための必要条件について考えさせたい。
	5: フランクはロビンへの手紙に、どのようなことを書いたのだろう。想像してみよう。	● 5: あなたが自分の良心の声に耳を傾けるなら、どの場面で、フランクとは異なる行動をとりたいですか。それは何故ですか。また、その場面でフランクと異なる行為を選択するには、心の中には何が必要ですか。 <自己認識>	☆ワークシートに記入させる。時間があれば、お互いの意見についてどのように思うか、意見交流をさせたい。
終末		☆相田みつをの詩をいくつか紹介し、今日の授業を振りかえる。	

当日の授業の板書写真



### ○指導案の意図

まず導入において、名器と呼ばれるストラディバリウスと1万円程度で購入できるバイオリンの音色を聞かせ、その違いについて実感を持たせた。ストラディバリウスについては、所有し、演奏することは、すなわち、その人の人生を変えてしまうと言われるほど魅力的であり、かつ、それまでに学んできた演奏方法が通用しないため、より長時間の練習時間が必要となると言われていることについても触れた。実際のバイオリンの音色の違いを知ることで、資料の範読中に、主人公フランクが弟子であるロビンの作ったバイオリンを自分のものと偽ることがどのようなことを意味するかを、考えさせたかったのである。

また、当日の授業の指導案では、後に示す写真4の授業と同様、既成の指導案では中心発問に値する「ロビンからの手紙をもらったフランクの涙の中には、どんな思いや考えが詰まっていたか」という発問を発問1として用いた。これは、この授業が、「価値認識」や「自己認識」のレベルに留まらず、発問5「あなたが自分の良心の声に耳を傾けるなら、どの場面で、フランクとは異なる行動をとりたいですか。それは何故ですか。また、その場面でフランクと異なる行為を選択するには、心の中に何が必要ですか。」を通して、生徒個々が自分自身に「美しい生き方」をするためにはどのようなことを大切にしていくべきかを問いかける「自己展望」のレベルへ引き上げるためのスプリングボードとなると考えたからである。そのため、発問2から発問4までは、「もう一人の自分（良心）」の存在に気付き、どのように対峙していくべきかを考え、フランクの姿を通してよりよい生き方に必要な要素について考えさせるような発問を創り、生徒に問いかげることとした。

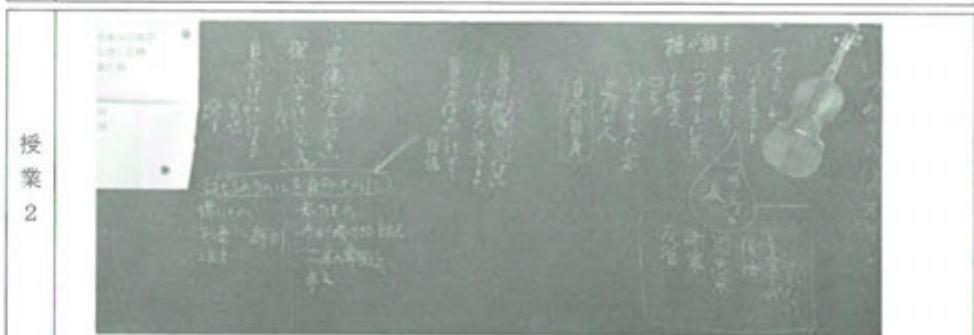
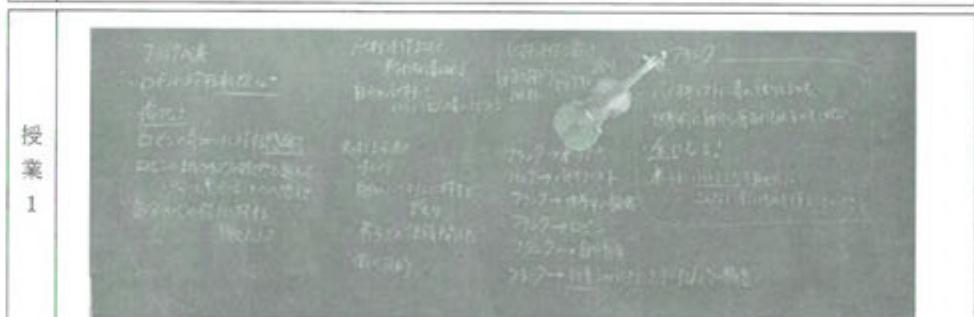
道徳の授業では、「もしもあなたが主人公だったら……」が含まれる発問はタブーとする考え方もあるようであるが、道徳の授業に生徒個々が額に汗して、自分の生き方に引き込みながら考えられるようにするには、敢えてこの発問を行うこと、授業だけではなく、授業後も引き続き考えていくきっかけが必要であると考えたわけである。

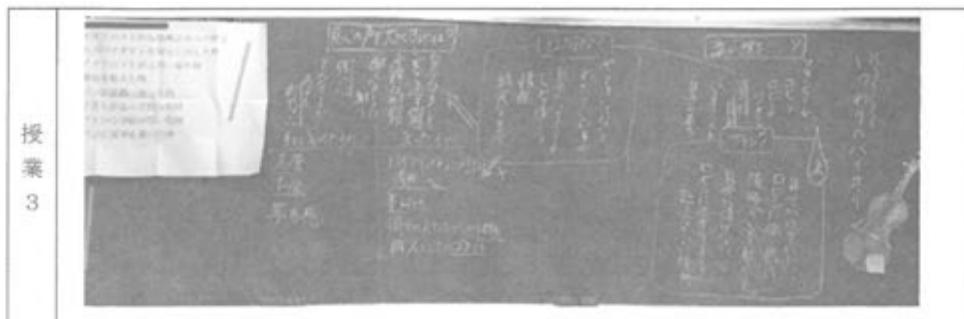
### ○発問の効果

下に示すのは、発表当日までに行った授業の指導案の推移と板書写真である。

	授業1・授業2	授業3	授業4
導入	①ストラディバリウスで奏でられたバイオリンの曲を流し、バイオリンの紹介をする。その際、バイオリンを原寸サイズにコピーしたもの提示し、説明する。		①2挺のバイオリン（ストラディバリウスと1万円程度のバイオリン）の音色を聞き比べ、その音色の違いの理由について考える。その際、バイオリン職人ストラディバリの紹介をする。
展開	②資料の範読 ○悩み抜いた末にフランクはどういう気持ちでバイオリン作りを引き受ける決断をしたのだろう。	②資料の範読 ○ロビンからの手紙をもらったフランクの涙の中には、どんな思いや考えが詰まっていたか。	②資料の範読 ○ロビンからの手紙をもらったフランクの涙の中には、どんな思いや考えが詰まっていたか。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「一瞬、手を止めた」すなわち、してはいけないと分かっていたのに、貼り替えてしまったが、そのことで誰に対して偽った(だました)ことになってしまったのか。</li> <li>●その後、フランクは生氣をなくしていったが、フランクが手に入れたものに対して、失ったものとは何だろう?</li> <li>◎ロビンからの手紙をもらったフランクの涙の中には、どんな思いや考えが詰まっているだろうか。</li> <li>●あなたなら、どの場面でフランクとはどのような違う行動をとるのをよしとするだろうか。何故か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「一瞬、手を止めた」すなわち、してはいけないと分かっていたのに、貼り替えてしまったが、そのことで誰に対して偽った(だました)ことになってしまったのか。</li> <li>●どんな自分を騙したのだろうか。</li> <li>●その後、フランクは生氣をなくしていったが、フランクが手に入れたものと、反対に、失ったものは何だろう?</li> <li>●あなたなら、どの場面でフランクとはどのような違う行動をとるのをよしとするだろうか。何故か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「一瞬、手を止めた」すなわち、してはいけないと分かっていたのに、貼り替えてしまったが、そのことで誰に対して偽った(だました)ことになってしまったのか。</li> <li>●どんな自分を騙したのだろうか。</li> <li>●その後、フランクは生氣をなくしていったが、フランクが手に入れたものと、反対に、失ったものは何だろう?</li> <li>●良心の声をもっと大きくするために、どんなことが必要だろうか。</li> <li>●あなたなら、どの場面でフランクとはどのような違う行動をとるのをよしとするだろうか。何故か。</li> </ul>
終末	③「人生、一回限り」(「君たちはどう生きるか」より)を読み、今日の授業を振りかえる。		





5つの授業に共通する発問を通して、発問の効果を考えたい。

発問 A：ロビンからの手紙をもらったフランクの涙の中には、どんな思いや考えが詰まっていたか。

発問 B：「一瞬、手を止めた」、すなわち、してはいけないと分かっていたのに、貼り替えてしまったが、そのことで誰に対して偽った（だました）ことになってしまったのか。

発問 C：その後、フランクは生氣をなくしていくが、フランクが手に入れたものと、反対に、失ったものは何だろう？

	発問A	発問B	発問C
授業1	申し訳なさ、情けなさ ロビンの気遣いに対する感謝 自分の心の弱さに対する腹立たしさ	弟子たち バイオリニスト 世界中の観客 ロビン 自分自身 将来バイオリンを演奏する人と観客	<得> (聞かず) <失> プライド、偽く目的 バイオリンへの誇り 弟子との信頼関係
授業2	反省 謝罪 罪悪感 後悔 やり直しが利かない	弟子たち バイオリニスト コンサートへ来た客 ロビン 注文してきた客 近所の人 自分自身	<得> お金 評判 注文 <失> 弟子 工房の雰囲気 今まで培った自信

授業3	恥ずかしさ 申し訳なさ 後悔 情けなさ ロビンに本当のことを話さなかつた後悔	ロビン ロビンのバイオリン 自分自身 バイオリニスト 自分の弟子	<得> 名誉 お金 罪悪感 <失> 情熱・心 弟子 周りの人との信頼 職人としてのプライド
	後悔 罪悪感 情けない 謝りたい気持ち ロビンが事実に気づいていない (感動)	バイオリニスト 演奏会の観客 弟子 その後注文してきた人 自分自身 バイオリンの音色	<得> 礼状 評判 巨額の謝礼金 バイオリンに対する名声 自分が有名になる <失> 本当の信頼 弟子たち 誇り工房の活気 よりよい音を求めていた自分・情熱
	申し訳なさ 後悔 罪悪感 ロビンの手紙で胸が一杯	弟子たち バイオリニスト 演奏会の観客 ロビン 自分自身	<得> 評判 謝礼金 自分のバイオリンへの人気 バイオリニストからの恩 <失> バイオリンづくりへの情熱 工房の活気 自分の元々の姿 (納得のいく作品しか作らない) ロビンからの信頼 バイオリンづくりとしてのプライド

#### [発問 A]

授業3～5では、「反省」「後悔」「罪悪感」といった言葉が多く見られるが、これは、資料範読後すぐに問われた発問であったので、主人公フランクの心情に深くまで寄り添えていない可能性がある。しかし、授業1・2においては、この発問を授業の最後半で行ったため、資料について理解し、主人公の葛藤など、深部まで考えた上で問われていることもあり、授業1では、主題にも関わる「心の弱さ」、授業2では、資料観で触れた「やりなおしがきかない」という言葉が出てきていると考えられる。

#### [発問 B]

授業3・4・5では、「自分自身」という言葉に焦点を当てるため、「自分自身」いう返答が出てきた時点で次の発問へ移ったこともあり、意見が少ない。しかし、「弟子たち」「バイオリニスト」「観客」「自分自身」の4つは、全授業で共通して出てきている。「観客」は、「バイオリニスト」にロビンのバイオリンを渡してしまったことから、すぐに想像できたのであろう。そのような中でも、授業1では「将来、このバイオリンを演奏する人と観客」、授業2では「演奏後に注文してきた客」、授業4では「その後注文してきた人」というフランクがバイオリニストにロビンのバイオリンを渡した直後の演奏会だけでなく、この後、長期間にまで考えを巡らせていることは興味深い。また、人ではないが、「バイオリンの

音色」という発想については、他生徒も頭になかったようであった。

#### [発問 C]

授業1では、時間の都合上、「失ったもの」のみ聞くこととなったが、その他の授業では、共通して「お金」「謝礼金」など資料を読めば挙げられる文言が目立った。また、「失ったもの」として挙げられた「弟子」「弟子からの信頼」「工房の雰囲気」の3つについても容易に挙げられると考えられる。しかし、「職人としての誇り」「プライド」「情熱」については、幾分、「生氣をなくした」という発問にある言葉に反応したこととも考えられるが、眞の職人気質に思いを巡らせ、「自分がフランクであれば……」との視点に立ち考えたのではないだろうか。

この資料は、本来、中学2年生で行うものである。それを、敢えて、今回、中学1年生で行ってみたが、試験的に行った授業4（中学2年生）と比較して、中学1年生で行った授業と大差は感じられない。

「正直に生きることを取るのか、名誉を取るのかは、僕も難しい選択だと思った」とは、ある生徒の感想の一部であるが、生徒個々が、自分のこととして、この資料や発問を受け入れ、考えていたことは、今年度の道徳授業のテーマにある「自己認識」の域にある程度達することができた、と考えてよいと思っている。

<2年>

指導者：井原武人

#### ○指導案

1. 主題名 礼儀の根底に流れる意義
2. 資料名 「『いき』な江戸しぐさ」（日本文教出版『あすを生きる2年』より）
3. 主題観

近頃「礼儀がなっていない」や「マナーが悪い」という言葉をよく耳にする。そして、礼儀を欠いたことが原因で起こるトラブルも少なくない。礼儀とは相手を敬愛する気持ちを具体的に表現することであり、円滑な人間関係を築くためには欠かせないものである。社会を生きていけば、ありとあらゆる場面で礼儀が必要とされる。礼儀を欠けば互いに気持ちのよい生活ができない、双方にとって不利益である。逆に、何気ない言動であっても、そこに互いを思いやる気持ちがあれば、平和で穏やかな時間が過ごせるものである。ここで大切なのは、相手を思いやる気持ちを伝えるためには相互に承認された共通の「形」が要求されるということである。「形」を欠く「心」は相手に承認されず、「心」を欠く「形」は意味を成さない。本時では「江戸しぐさ」を例に「形としての礼儀」の根底に流れる「心（意義）」について考えることで、礼儀の本質に迫りたい。

#### 4. 資料観

本資料には具体的なしぐさだけではなく、考え方や美意識など多岐にわたる記述がある。その中でもとりわけ重要視したいのは、様々な礼儀作法の根底に流れる意義について考え、理解することである。日本人に伝統的に流れる「和」の心。時代の変遷とともに、「あはれ」や「わびさび」、「幽玄」などと言葉は変わってはいるが、その根底は変わらない。何より

も人の輪を重んじ、自分も含めた社会全体が気持ちよく生活するための心がけである。この和の心は、江戸時代には「いき」という言葉で共有され、形と結びつくことによってより一般化されることとなる。その中で生まれたのが江戸しぐさである。時代による作法の違いはあると、互いを思いやり、ともに気持ちよく生活するための知恵としての礼儀は、いつの世においても欠かせないものである。個人化が進み、社会とのかかわりが希薄になっている現代において、もう一度礼儀について考え直すことは、これから社会を形成していく生徒たちにとって、大きな意味を持つことであろう。

#### 5. 指導観

本時では、現代において忘れられつつある江戸しぐさを例に、礼儀の本質について改めて考える機会としたい。導入では、江戸時代の寄り合いの際の履き物の脱ぎ方について扱う。男性は上がり框から少し離れたところに履き物を揃え、女性は上がり框のすぐ近くに自分の履き物を揃える。それは、女性の和服の裾の乱れを防ぐための気遣いから生まれた作法である。つまり、女性のための作法なのだが、これが出来ない男性は世間から野暮だとされ、信用も失うことになった。つまり、礼儀とは他人のためであり、一方で自分自身のためもあるのだ。本学級は、生徒が互いが感謝の気持ちを感じている場面でも、一言の勇気が出ず、より深い人間関係が築けていない現状である。本時では、資料を通して礼儀の意義について深く考え、また様々な表現方法を知ることで、誰もが「ありがとう」や「ごめんなさい」という思いを言動に表しやすい環境を作り、より心が通い合う集団を育成したい。終末では自分たちの学校生活で実践できる「2〇しぐさ」を考えることを通して、本当の礼儀とは何なのかを追求し、実践していく土壤を育てたい。

#### 6. 本時について

(1) ねらい 2 – (1) 「江戸しぐさ」を例に、礼儀の根底に流れる「思いやり、譲り合い、相手の尊重」などの意義を理解し、時処位に応じた適切な言動をとろうとする道徳的実践意欲を育む。

#### (2) 展開の大要

	学習内容(主な発問と反応予想) (ゴシック:既成の指導案による発問) (斜字:授業を行う中で変更した発問)	指導の意図・留意点
導入	○玄関先の履き物の写真を提示 ・なぜそのような脱ぎ方をしているのか ⇒自分ならどのように脱ぐか	本時のテーマである礼儀への关心を持たせるため、自分の考えに至った根拠も考えさせる(発表はしない)
展開	○資料を範読する ○発問1:「マナーや礼儀は、何のためにあるのだろうか。」 ・相手を嫌な気持ちにさせないため ・お互いが気持ちよく過ごすため  ○発問2:「履き物を資料のように脱ぐことは、誰のためだろうか。」 ・寄り合いに来る女性のため ・周りから信頼される自分のため	※「江戸しぐさ」が商人の間だけでなく、広く人間関係にまで影響するようになったことを理解させる ※ここでは深く追加質問を行わない  ※「江戸しぐさ」が身に付いていなければ、自分も損をするという点に気付かせる

	<ul style="list-style-type: none"> <li>それを見て気持ちよくなる社会のため ⇒「贋き物を資料のように脱ぐことがしぐさとされるのはなぜだろうか。」</li> </ul> <p>◎発問3:「礼儀を大切にするために、あなたは何を大切にして行動していますか」(主発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手のことを考えること</li> <li>誰に対しても平等に行動すること</li> <li>「心」を「形」にして表すこと</li> </ul> <p>○発問4:今日から出来る「○しぐさ」を考えてみよう(○には各学級名が入る)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝、自分からあいさつをする</li> <li>廊下では広がって歩かない</li> <li>トイレのスリッパを揃える</li> </ul>	※「しぐさ」と呼ばれるということは、多くの承認を得ている証である。なぜ多くの承認を得るのかについて深く追求していく
展開		※礼儀には、相手を思いやる「心」だけでなく、それを伝える「形」も必要であることに気付かせる
終末	<p>自分は「いき」な生活ができるかについて 考え、本時の感想を書く</p>	※自分が考えたしぐさの目的と理由も明らかにし、良いものはクラスで共有し、実行に移すよう にする ※粹(美意識)という観点にも注目させる ※思いやりや譲り合いができるか振り返らせる

### ○発問の効果

#### (1) 板書写真

##### A. 初回の授業



##### B. 修正後の授業



## (2) 発問の修正とその意図

- ・履き物を資料のように脱ぐことは、誰のためだろうか

→履き物を資料のように脱ぐことがしぐさとされるのはなぜだろうか。

意図：当初は図を見て考えさせる発問であったが、より自分に置き換えて考えることを促すため、数名の生徒に前で発表させる発間に修正した。また、個人的な考えではなく、社会に受け入れられたしぐさであるという点を強調することにより、このようなしぐさがなぜ広く社会に承認されているのかという本時のねらいに焦点を当てやすくなった。

## (3) 生徒の反応の変遷とその分析

当初は礼儀を大切にする「心」に重きを置いた発問が多かった為、生徒の発言も具体性を欠いたもののが多かった。当然、礼儀を大切にしたいという心は全ての生徒が少なからず本質的に持っている為、生徒にとってもわかっていることを発表しあうだけの作業になってしまっていた。

しかし、その心をどのように「形」にして表すかという発問を増やしていくことで、よりスマートに、自然な形で、恩着せがましくなく、自分の心を表現しなければならないことに気付き、より深く「心」について考えることに繋がった。中心発問に対する発言を見ても、Aの板書写真では「自分が～」という内容が多かったが、Bの板書写真では「相手のことを考える」という視点の変化が起きていることがわかる。

## (4) 生徒の感想から

・自分も相手のことを考えて行動するように心がけているが、このような経験を積んで、考えなくても自然と出てくる「しぐさ」にしていきたい。(男子)

・簡単に見えるしぐさの裏には、たくさんの思いやりがあることに気付いた。(男子)

・相手に対する思いやりを、当たり前に表現できる社会にしていきたい。(男子)

・少しの気遣いで、周りも自分も気持ちよくなれるのが「粹」だと感じた。(女子)

・現代にも多く習慣として残っていることが、江戸しぐさのよさを証明していると感じた。(女子)

・「心を形にする」という視点が新しく、魅力的だった。(男子)

## (5) 授業を終えて

11月に授業を行い、それから約半年の学校生活を見ていると、少しずつ思いやりの心を形として表現する生徒が増えてきた。学級毎に「いきな2〇しぐさ」をまとめた物を掲示しておくことで、周りが何を考え、何を望んでいるのかも互いに知ることが出来たようだ。具体的には、欠席していた生徒に配布物を渡す際に一言メモを添えたり、トイレのスリッパをきれいに整頓したり、日直の仕事を皆で分担したり・・・という当たり前のことではあるが、恥ずかしがらずに「手伝おうか」という声かけが出来るようになったことが大きな成長であった。

「礼儀は大切だ」という価値観は、授業を行う以前から皆が持っていたものである。しかし、それを実践するとなると話は別である。本授業において、自ら進んで実践しようという意欲を養うという点においては、少しばかりの成果が挙げられたのかもしれない。

<3年>

指導者：山根雅子 ※熊取町立熊取北中学校

○指導案

1. 主題名 よりよい人生の模索【内容項目 1-(5)】
2. 資料名「形」(『中学道徳③きみがいちばんひかるとき』光村図書 より)
3. 主題観

そもそも「実力」があつてこそ「形」は影響力をもつようになる。逆に言えば、「形」が力を持つには「実力」が必要である。しかし、一度力をもつた「形」は、たとえ内容が変わらうとも、その影響力を持続する。

他者は「形」で評価を下すことが往々にしてあり、その見方は簡単に変わるものではない。だからこそ、普段から、内面や技術を磨き己を鍛えて他者からの信頼を得るといった「自己を見つめ、自己の向上を図る」ことを行ないながら、「形」が力をもつこの世の中でどのように「充実した生き方を追求していく」のかが重要になってくる。

4. 指導観

小説の主人公、中村新兵衛は、優れた武士という評価を世間から受けている人物として設定されている。しかし、その評価は「槍中村」に対するものであり、「槍中村」の「形」を失って「黒皮おどしの武士」になってしまったとき、いつもとは勝手の違う状況に陥る。主人公は、「槍中村」の「形」である服折りとかぶとを貸してほしいと頼まれたとき、己の力を見誤り、後悔を招く判断をしてしまう。それは、「槍中村」として判断される上でどれほど「形」の影響力があるかや、「実力」を越えた「形」の力が存在することを知らなかつたからである。生徒たちにはこの授業で、何をもつて「自分」といえるのかを考えさせ、「形」が力をもつこの世の中で今後どのように生きていくかを考える契機にさせたい。

5. 本時について

(1) ねらい

「形」が影響力をもつことを知った上で、よりよく生きていくとする姿勢を養う。

(2) 展開の大要

	学習内容	○発問 ◎中心発問	指導上の注意点
導入	社会的な人の構成要素の中で、他者に影響を与えるものは何かを考える。	○「名前・見た目・肩書き・技能・性格」の中で、他人の行動に最も影響を及ぼすものはどれですか。	☆「名前・見た目・肩書き」を外的的な「形」として扱う。
展開	◆資料 第1場面を読む ①主人公の立場や性格を確認する。 ②「形」を貸したときの新兵衛の気持ちを考える。	○新兵衛はどんな武士ですか。 ○服折りとかぶとを貸してほしいと言われたときの新兵衛は、どんな気持ちになったでしょうか。	☆猩々緋の服折りと唐冠縁金のかぶと=中村新兵衛の「形」であることを確認する。

	③新兵衛の「形」に対する考え方を確認する。	○第1場面「だが申しておくへ」から、新兵衛が「形」の力をどのように考えていていたことがわかりますか。	
	◆資料 第2場面を読む	○第2場面「形だけすら～」から、新兵衛が「形」の力をどのように考えていていたことがわかりますか。	
展開	◆資料 第3場面をよむ	○第3場面「後悔の念」から、新兵衛が「形」の力をどのように考えていたことがわかりますか。	
④新兵衛が後悔の最期を迎えた理由を考える。	○新兵衛は強いはずなのになぜ死んだのですか。	☆結末は、ほのめかす表現になっていくが、死んだと考えていく。	
⑤「形」が力を持つにいたる経緯を考える。	○なぜ新兵衛の「形」は力を持つようになったのでしょうか。	☆④の発問を受けて、「形」だけが大切なのではないこと、「実力」も大切であることを確認する。	
⑥「形」の力をふまえて、自分が新兵衛ならどう行動するかを考える。 自己認識	○新兵衛は、「形」を貸してほしいと言われたとき、どう行動すべきでしたか。また、それはなぜですか。		
終末	「実力」の大切さと「形」の影響力を知った上で生きることの大切さを確認し、授業の感想を書く。 自己展望	○授業を通して考えたことを書きましょう。	☆「形」は「実力」がなければ影響力をもち得ず、「実力」を磨くことは大切だ。また、「形」だけでも影響力をもちえることを知りどう生きるかが大切だ。

### (3) 指導案の変更の経緯

今回の道徳授業をするにあたり、二つの試みをすることになっていた。

一つ目は、資料は、副読本に掲載されているもので、教科書会社から指導書が出ているものを使用すること。これによって、どの現場でも実践可能な授業を提案する。二つ目は、その指導書をもとに、「自己認識」の発問を入れた授業を組み立てることである。この二つを踏まえて授業を組み立てたが、最初に授業を行なったクラスと二回目のクラスでは、大幅な内容変更が必要となった。

『中学道徳 きみがいちばんひかるとき③』(光村図書)では、内容項目2-(5) 寛容・謙虚の資料として『形』が掲載されている。主人公、中村新兵衛が、己の力を過信し、う

ぬぼれや慢心によって失敗をするという点では、謙虚に生きることの大切さを読み取らせる資料である。しかし、学習指導要領での内容項目2-(5)は、「それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。」である。『形』の話の内容を使って、「いろいろなものの見方や考え方があることを理解して」「謙虚に他に学ぶ」ことの大切さを考えさせるのは難しい。

実際、最初に授業をしたクラスでは「新兵衛が後悔しないようにするには、どうしていたら良かったのだろうか。」という発問をしたが、生徒から「謙虚に他に学ぶ」のような答えは出てこなかった。これは、既存の学習指導案の流れにそって行なった授業であり、生徒の反応は想定内のものだった。生徒から出てきた意見は、「慎重に先のことを考える」「日頃から自身を鍛えておく」などといったものだった。

#### (4) 変更後の指導案

主人公、中村新兵衛の慢心について考えていくのではなく、若い士の気持ちを取り上げて授業を展開することにした。若い士は、初陣で手柄を立てたいという安易な気持ちから、中村新兵衛の「形」を貸してほしいと申し出る。この部分は、己を鍛えたり、己の力量を正面から受け入れて行動していくこうとしたりする「謙虚さ」が欠如しているように読める。この「謙虚さの欠如」を他者から教えてもらうというのは、若い士に取って必要だったはずである。そして、それを教えるのは、守り役であった新兵衛の務めであったはずだ。

しかし、またここで問題が発生する。学習指導案の内容項目2-(5)の「それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解」して他に学ぶという部分は、この展開でもおさえることができない。授業の展開と内容項目との間のずれは解消されないままである。

#### (5) 内容項目変更後の指導案

結局、道徳の担当者との指導案検討においても、『形』は内容項目2-(5)の資料として扱うのは困難であるため、内容項目の変更をして指導案を考えることになった。

副読本にある資料で、自己認識の発問がある授業を行なうことだけが条件になった。

既存の指導案はあるけれども、それにこだわらずに授業展開を考えていくことになったのである。そもそも、自己認識の発問をいれるということは、完成していた授業の展開の流れを変えずに行なうには困難なことである。自己認識の発問を入れるために、指導案全体の流れを変えてしまうのもやむを得ないと考え、一から考え直すことにした。

しかし、『形』を用いて「自分自身を形成しているもの」や「形」というものについて考えさせるのに適当な内容項目は見当たらない。そこで、新兵衛のうぬぼれや慢心を使って、自己を見つめ、自己の良さを発見し、自己を向上させていく内容項目1-(5)を扱う授業を考えていくことにした。

#### ○発問の効果

##### (1) 実際の発問とその意図

『若い士のためを思って行動する』『『形』の力を知った上で行動する』の二点を念頭に置きながら自分がよりよく生きるために行動を考えるために、『新兵衛は、『形』を貸してほしいと言われたとき、どう行動すべきでしたか。また、それはなぜですか。』という発問を行なった。貸すか貸さないかの二択の答えになった場合、『『よりよく生きるために』に上の二点は両立できなかったか』という、考えを深め

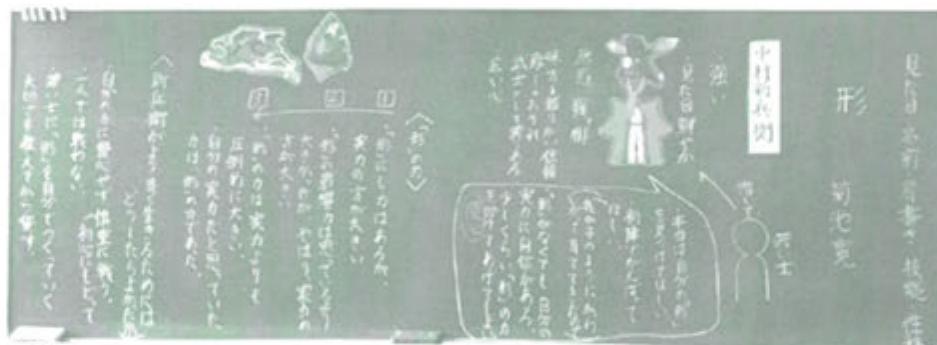
る発問を行なった。

### (2) 主な反応例（学級による反応例の異同）

同じ発問を行なった学級での反応に大差はなかった。主な反応は、「形」は貸すが、自分は戦に行くべきではない。」「慢心せずに慎重に戦うべきだ。」「若い士に、彼自身の「形」を作つてほしいので、貸すべきではない。または、「形」を自分で作っていくことの大切さを伝えてから貸すべきだ。」の三つであった。

### (3) 自己認識発問の効果

授業後の生徒の感想から、資料の話の内容についてはよく理解し、「形」とは何かという点については考えられていたことがうかがえる。しかし、自分に置き換えて考えることができたかとなると、「全く思わない」という生徒はいないが、「やや思う」や「あまり思う」が多数を占め、「かなり思う」という生徒は少数にとどまった。今回の自己認識発問については、内容項目について自分のこととして考えていくのに効果的であったと言い難い。



## 7. おわりに

本校が学校ぐるみで取り組んだ道徳の授業向上への取り組みには一定の成果があったと考える。この1年間、重点的に、教員個々のスキルアップを図るために、輪番制を取り入れたわけだが、平成26年度末に行った教師向けアンケートの結果から、輪番制の善し悪しを含め、教員それぞれが道徳の授業や生徒に対して、日々、どのように向き合っているかがわかる。

教員向けアンケートに書かれた意見を紹介したい。

①今年度の道徳教育のシステムは、全教員のスキルアップを目指すことに重点を置き、輪番制で各クラスに授業をしていましたが、1年やってみた上で、その取り組みについてどのように思われますか。

<肯定的な意見>

- ・1つの教材を反省しながら複数回できたのでよかったです。反面、自分のクラスの関わりが減ったのは残念な面もあった。
- ・4回ずつ授業ができるので、今後、別の機会に同じ項目を指導する際にその反省を生かしやすい。
- ・各クラスに行けることで生徒は多くの教員の考えに触れることができる。
- ・様々な項目をチャレンジできたということは、教師自身も学ぶことができ、良かったと思います。
- ・同じ授業を4回行い自分なりに修正が可能なのはよかったです。修正できない人にはいろいろな教材で授業する方が勉強になるのではないかと思う。(その点を考えると、担任が年4時間程度しか自分の学級で授業を行えないことについては、どちらがいいかわからない。学年ごとで組み合わせて行うかどうか検討してもよいだろう。1日4時間方と横1時間で自分のクラスという人の両方を実施するなど)
- ・一つの教材で、様々なやり方を試すことができ、良かった。
- ・同じ内容でもクラスによる反応の違いがみられたので、その癖を担任の先生方と話したりすることができました。いろんな考え方を知れてよかったです。
- ・輪番制を導入してよかったです。ただ、時期と期間を工夫する必要があると思います。
- ・全員が授業を行うことができた点は評価できる。
- ・同じ教材を4回するので、スキルが上がった。
- ・教員にとっても、生徒にとっても、様々な価値観に触れることができるので良い取り組みだと思います。
- ・1つの教材を複数回できることは、より多様な意見を得られるという点でよかったです。また、教材研究の負担も少なく、その点でもよかったです。

<否定的な意見>

- ・輪番制になると、生徒の実態に応じた内容や、順序でなかつたり、システム化しすぎて、ライブ感が得られなかったです。
- ・資料によっては自分の感覚にしつくりこないものもあり、それを何とかしつくりくるようにしようとする意欲もなかつたので、そういった場合は、4回の授業を適当に流している。
- ・輪番がすべて終わるのに、1~2ヶ月かかるので、教材の時期が生徒にとってタイマーでなくなることがある。

<その他>

- ・クラス担任の先生からは、指導案を輪番で書いて、担任で授業を行う方が良いのではというご意見をいただきました。
- ・本来なら担任が全体の8割程度は自分の学級で実践すべきだと思われますが、全教員の底上げをねらいとしているので、ある程度は仕方ないと考えます。また、副読本から資料を選ぶと言うことも、授業の腕を磨き始めた「守」の段階としてはやむを得ないことでした。次年度は、他の資料・教材も導入したいものです。但し、副読本の資料が使いづらいという声が聞かれる現状は、まだまだ本物の授業力が身についていない証左ですから、基本は副読本に据える必要があるでしょう。

これらのコメントから、多くの先生は「輪番制」で取り組んだことをスキルアップという点でも肯定的に受け止めていることがわかる。ただし、従来であれば学級経営に大きく関わることから、輪番制ではなく、担任が原則として担当学級で道徳の授業を行うこととなっている。そこで、輪番制では年に4時間程度しか担当学級で授業を行えないことについて、どの程度、担当学級で行いたいかを問うことにした。

- ②担任の学級経営上、もう少し自分のクラスで行う授業数を増やしたらどうか、という声も聞かれますが、現在の年4時間程度、自分の学級で行うという状態についてどう思われますか。

<問題はない>

- ・今年度（H26）の回数で適当であると思いました。
- ・日々の終礼やHR、行事などで話す機会はあるので大きな問題ではないと思います。
- ・他の場面で関わる機会があるので、私的には問題ありません。他の先生方と話したりもするので。
- ・授業の中以外でも、道徳的な話をする事は多々あると思うので、少ないとは思わない。むしろ、教師側の多様な考え方や意見、思いを聞いて生徒にとってもプラスになることが多いのではないか。
- ・こだわらなくて良いと思う。
- ・自分のクラスを作るという意味では、輪番制でない方がよいかもしないが、学年全体を見て育てるという観点から、学年団で授業をし、よりよい学年を目指すことで各学級に良い影響ができるのでは、と思います。

<修正が必要>

- ・1学期は指導案を担当ごとに作成し、担任が一齊にその案で授業をする形（今年度の1年生の一回目のように）はどうでしょうか。
- ・1学期、特に1年生の最初は自分のクラスを見たい。
- ・附中自体が、朝活がないので、道徳や総合でクラスの生徒と過ごす時間を増やすことも良いと思われます。
- ・やはり担任がクラスの状況に応じて道徳を行なう方がいいと思います。
- ・24時間のうち4時間しか自分の学級で指導していないという状況は、自分の道徳授業が自分の学級にどのようにプラスの影響を及ぼすのかを担任が心底体感することができないという点で、多少の疑問を感じます。輪番制の良さとの折り合いをつけて、落としどころを探つてほしいと思います。

<その他>

- ・どちらも利点があつてよかったです。

これらの意見により、輪番制の是非は、普段から担任がクラスの生徒にどれだけ関わるべきだと考えているかにかかることが明確となった。ただし、①でも見られたように、輪番制にも良さがあり、輪番制を取り入れつつも、いかに学級での指導の継続がクラスの雰囲気に繋がっていくかを考え、段階的な輪番制の導入も考えて行く必要性があると思われる。

③「既成の指導案に」というテーマのもとに研究を行いましたが、日々の授業実践において良かった点と悪かった点を挙げて下さい。

<長所>

- ・自身で指導案を作る際のヒントとなるので良い。
- ・少ない時間で、効果的な教材準備ができる点。
- ・授業をつくる際の軸になることがあつたため参考になった。
- ・学校全体として、1つの共通テーマを掲げて進めていくことは、互いが意見交流する際にも、議論する視点が明確となり、授業力の底上げに繋がったと思います。また、「型」から入るという道筋も、2年計画の初年度としては良かったと思います。
- ・自分の間いたい（考えさせたい）ところを比較することができました。
- ・教材研究・準備をする手間を省けた。
- ・授業作り、及び指導案検討がしやすい。
- ・自分自身も、新しい視点に気づくことができた。
- ・方針がわかりやすく、また前例の研究もしやすかったです。
- ・既成の指導案があるときはよかったです。

- ・教材理解がしやすかった。
- ・加える発問を中心発問になるように検討するようにしたので、考えやすいと思った。(授業を組み立てやすい)

<短所・その他>

- ・独自の展開ができない。
- ・自作の教材を用いた授業も行ってみたい。
- ・別の発問の方が、自然、スムーズになると思われる際に相容れないことがあったように感じられる。
- ・教材が副読本に限られてしまっている感があった。例えば、指導案が提示されているNHKの放送教材も活用してはどうでしょうか。
- ・既成の指導案の認識の違い(文面のとらえ方)があり、人それぞれなので、何とも言えません。既成の指導案がない場合はどうするのかということで困りました。
- ・こだわりが多い人にとっては窮屈だったのでは。
- ・全面的に添ってやるところに問題が生じことがある。
- ・「既成の指導案」で授業ができるなどを前提としてテーマを掲げていると思いますが、その前提自体がどの程度保証されているのか、やや怪しい気がします。また、実力十分な先生には、最初から自分の指導案を作つて実践したかったのではないかと想像します。
- ・限られた内容から、項目にあったものを選択することは困難だった。
- ・自己認識を促すのが中心発問にならないものもあり、苦労することがあった。
- ・「既成のもの」というしばりから、教材研究に制限がかかった気がして、意欲が湧かなかつた。
- ・何をしてよいか、理論がわからず、発問を考えられませんでした。
- ・よくわかりません。

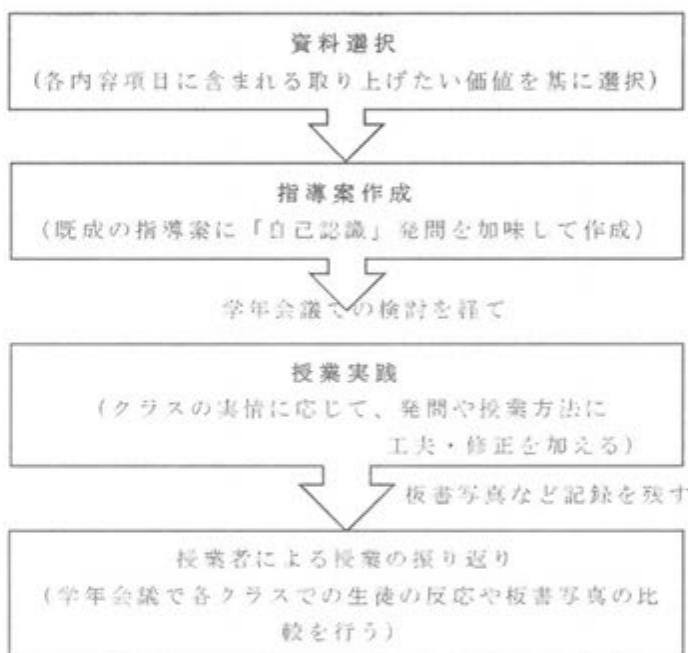
平成26年度の取り組みのテーマにある、既成の指導案に『自己認識』の発問を加味することについては、教材研究にかける時間の短縮が図れるなどといった利点があるが、短所にあるように、既成の指導案の中には、独善的で、指導案の参考としては不向きなものが見られることも事実である。「既成の指導案」が指導案作成において「しばり」として受け取られかねないということも事実であろうが、実際、公立校では、既成の指導案を基に指導案を練り直すことが多いと考えられる。「守・破・離」の「守」とは、ひたすら基礎を学ぶことである。そして、ここでは基礎とは「型」である。スキルアップという観点を考慮しても、このような指導案作成から多くを学ぶことはできるのではないだろうか。

## 第2報：第1学年における実践事例

### 1. はじめに

平成26年度第1学年（68期生）は、「既成の指導案に『自己認識』発問を加味する効果」のテーマの下、この24資料を用いて授業を行った。ただし、1学年ということもあり、担任と担当学級の生徒との関係を重視し、初回の資料「目標は小刻みに」については担任が行い、以後、学年所属の教員が輪番で授業を行うこととした。

資料選択から授業までの流れは、下の図にあるように、教員が、各自に割り当てられた内容項目に基づき授業で用いる資料を選択し、指導案を作成する。授業については、指導案が学年会議で検討された後、行われた。この方法で、資料と指導案検討を行い、年間24時間（内容項目の数）の授業を持ったわけである。



### 2. 年間実施授業の一覧

1	「目標は小刻みに」
2	「半分おとな 半分こども」
3	「私もいじめた一人なのに…」
4	「僕と家族と反抗期」
5	「古都の雅 葉子の心」
6	「夜のくだもの屋」
7	「ある朝の出来事」
8	「壁を越えるのはだれ」

9	「空の勇者リンドバーグ」
10	「名前 - 耳をすませば」
11	「いつわりのバイオリン」
12	「ディズニーそうじの神様が教えてくれたこと」
13	「アキラの選択」
14	「ぼくの性格をつくった友人」
15	「言葉の向こうに」
16	「心のつながり」
17	「出船の位置に」
18	「あつ、トロの森だ」
19	「人に迷惑をかけなければいいのか」
20	「二枚の写真」
21	「人のフリみて」
22	「娘のふるさと」
23	「自分の番 いのちのバトン」
24	「リヤカーは海を越えて」

### 3. 各教員の実践及び自己評価

指導者：廣瀬明浩

#### ①指導案

1. 主題名 愛校心 内容項目：4－(7)
2. ねらい 学校に愛着や誇りさらには帰属意識を持ち、その一員としてよりよい学校づくりに意欲的に取り組もうとする実践意欲を培う。
3. 資 料 二枚の写真（中学生の道徳1 自分を見つめる 廣済堂あかつき）
4. 主題観

愛校心とは、学校の良さを積極的に見つめ、学校に愛情と誇りを持とうとする気持ちである。愛校心を育むものは、共同生活の中で共通の目標に向かって共に努力する過程で、生徒同士や生徒と教師の間で培われる尊敬や感謝の気持ちあるいは価値観の共有とそれらを基礎とした信頼関係であろう。本時の指導では、学校の伝統や建学の歴史あるいは校風と言ったすでにつくられた概念をもとに愛校心について考えさせるのではなく、学校に生きる人々相互の人間関係を深めることによって、「結果として」愛校心が生まれ深まるということに気づかせたい。またその気づきを望ましいものとしたとき、理想的な学校を築くために、どのような心がけが必要であるかを考えさせたい。

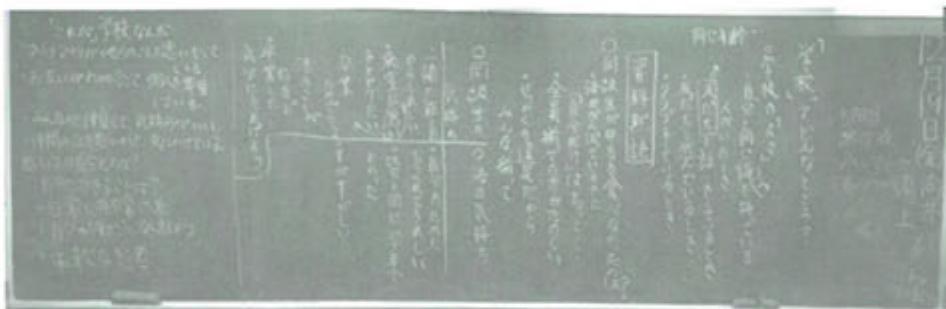
## 5. 本時の展開

発問と予想される生徒の反応		指導上の留意点
<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校っていいなと感じるのはどんなときか。           <p style="text-align: center;"><b>自己認識</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒にいるとき</li> <li>・みんなで一つのことを達成させたとき</li> <li>・いい成績を取ったとき</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自由に発言できる雰囲気をつくる。</li> </ul>
<p>展開</p> <p>○浩が到着するまで同級生が弁当を食べなかつたのはなぜか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浩に申し訳ない</li> <li>・みんなで弁当を食べたい</li> </ul> <p>○屋上で手を振っているとき、同級生たちはどんな気持ちだったろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浩と一緒に卒業したい</li> <li>・浩を励ましたい</li> <li>・みんな同じ学校の仲間だ</li> </ul> <p>○病室の浩は、屋上の同級生たちに対してどんなことを思っただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなありがとう</li> <li>・みんなと心が通じ合った</li> <li>・自分も学校の一員だ</li> </ul> <p>○「ああ、これが学校だ。」の「これが」についてどのように考えるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとりひとりの心がひとつになれる <b>自己認識</b></li> <li>・仲間はずれをつくらない</li> <li>・人と人が強く結びついている</li> </ul> <p>○附属天王寺中学校の良さは何だろうか。</p> <p style="text-align: center;"><b>自己認識</b></p> <p>○理想の学校にしていくために、あなたにできることは何だろうか</p> <p style="text-align: center;"><b>自己展望</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間はずれをつくらない</li> <li>・いけないことはしっかりと指摘する</li> <li>・行事に積極的に参加する</li> <li>・先輩のいいところを見習う。</li> </ul> <p>○附属天王寺の良さを保ちつつ、新たな良さを創り出すために、あなたにできることは何だろうか。</p> <p style="text-align: center;"><b>自己展望</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○浩に対する同情の気持ちに偏らないよう注意する。</li> <li>○仲間意識の表れであり、相手を尊重しつつ対等に扱う基礎であることに気づかせたい。</li> <li>○長く欠席していても、心が通じ合っていることに気づかせる。</li> <li>○客観的に読み取る部分と、自己認識としての自分の理想像の表象とが混在する。</li> <li>○行事など特別な場合だけでなく、日常に見いだすことができることに気づかせたい。</li> </ul>	

## ②自己認識発問の修正の意図と効果

本資料は学校の日常生活を題材にしており、生徒にとって共感しやすい資料となっている。「愛校心」ということばを大上段に振りかざさなくても、登場人物の心情を想像したり分析したりすることから、理想の学校像を考え、それを実現するための「自分たちのありべきすがた」を考えやすい資料である。

しかしながら、本校生徒の読解力を通せば、資料が生徒に何を求めているかがすぐに理解されてしまい、登場人物の心情理解や設定場面の分析を基盤として「理想の学校像」を発言させたとき、その内容が抽象的、一般的になってしまい、自分たちの問題として考えているかどうかを評価しづらい状況であった。そこで2回目の授業以降では自己認識発問を「附属天王寺中学校の良さは何か。」とし、さらに「附属天王寺の良さを保ちつつ、新たな良さを創り出すために、自分にできることは何か。」を自己展望発問とすることで、資料の世界から自分たちの学校生活に視点を戻し、より具体的な思考がしやすい状況の導入を試みた。結果として、「人とのつながりで精神的に安心する」という一般的な理想像だけでなく、「相互に厳しいことを求め切磋琢磨する」という附属天王寺の質実剛健の校風に深く関わる発言を引き出すことができた。



自己認識発問を修正した後の板書例



自己認識発問を修正した後の板書例

指導者：三輪 誠

#### ①指導案

1. 主題名 真の国際貢献
2. 資料名 「リヤカーは海を越えて」（「自分を見つめる1年」あかつき）
3. 主題観

最近では、英語の授業で外国人教師と接したり、海外の学校との交流で外国人生徒と接する機会が学校で増えている。また日本への外国人居住者の増加などから、国際社会を身近に感じられる機会はいろいろな場面で増加している。しかし、生徒の関わり方を見ると受容的ではあるが受動的な部分が多く、自ら進んで異文化を理解し働きかけようという姿勢に多くの生徒は至っていないように思われる。生徒には自国を愛する心と同じように他の伝統や文化を尊重する心を持ち、国際的な広い視野に立って世界の平和と人類の幸福に尽くそうとする態度を育てたいと思う。

#### 4. 資料観

リヤカーをアフリカで生産しタンザニアの人々の生活をよりよくするために尽力する日本人技術者村松さんと、日本にやってきたタンザニアの研究生アベベさんとの交流を通してねらいに迫る資料である。物資だけでなく、技術を伝えることで実りある援助をしたいと願う村松さん的情熱には、心を打たれ学ぶところが大きい。援助といえば、物を送ったり、お金を出すことを真っ先に思い浮かべてしまう生徒たちも、村松さんとアベベさんの二人の思いに共感しながら、いろいろな国際貢献の在り方を深く考えることができる資料である。

#### 5. 指導観

本時では、技術援助を例に、国際貢献の在り方について改めて考える機会にしたい。導入では、タンザニアの経済状況を知り、自分の技術でタンザニアに住む人がより豊かな生活を営むことができるよう努める村松さんの姿勢に共感させたい。また国際貢献の在り方についても、技術援助、教育支援などの国に長く根付く援助の重要性を強調しつつ、物資援助の必要性も肯定していきたい。そういういろいろな視点から国際貢献について自ら考え、将来積極的に関わっていこうとする意欲を養っていきたい。

#### 6. ねらい

真の国際貢献について理解を深め、国際的な視野に立って人類の幸福に貢献しようとする態度を育成する。

#### 7. 展開の大要

	学習内容(主な発問と反応予想) (ゴシック:既成の指導案による発問) (斜字:授業を行う中で変更した発問)	指導上の留意点
導入	○タンザニアの人々の生活について考えてみよう。 100円=1600シリング	平均年収約7万5千円 物価 コーラ700シリング バナナ1本10円

展開	<p>資料を読む</p> <p>○村松さんが「アベベのほうがよっぽど大変だ」と言ったのはどういう意味か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人異国で学ぶ孤独感</li> <li>・言葉が通じない厳しさ</li> <li>・祖国のためだという使命の重さ</li> </ul> <p>○アベベさんはどんな思いでがんばったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・祖国のために尽くしたい</li> <li>・技術を学び、国の人々の生活を楽にしたい</li> <li>・</li> </ul> <p>○「実りある眞の援助」とはどのような援助だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物を送るだけでなく、技術指導もする援助</li> <li>・長く根付き、残っていくような援助</li> </ul> <p>■タンザニアにリヤカー工場をつくろうという村松さんの情熱を支えているものは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の技術で他の国の人々の生活を少しでも楽にしたい。</li> <li>・自分の技術で多くのひとを幸せにしたい。</li> </ul> <p>○今、日本(自分)は国際社会のなかでどのような役割を果たしているのか。また今後どのような関わりができるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の技術をもっと世界に広げる</li> <li>・教育を広める</li> <li>⇒今あなたができる国際貢献はなにか。</li> <li>・物資、募金などの援助</li> <li>・将来のために勉強する</li> </ul>	<p>自分がどれだけ大変であっても国の発展のためにきていることに気づかせたい。</p> <p>前の質問の続きを考えてさせる。</p> <p>物資を援助するのも大事であることも抑える。</p> <p>技術援助、教育援助など国家の自立、発展などを促す援助も大事である。</p> <p>自分だけにとどまらず、国としても考え方させたい。</p> <p>今自分たちに出来ることは限られているが、将来何ができるのかを考えることによって今できることもしっかりと考え方させたい。</p>
終末	国際貢献について考え、本時の感想をかく。	

### 板書写真



指導者：山根史孝

#### ①指導案

1. 主題名：公徳を尊ぶ心【内容項目 4—(2)】

#### 2. 題材

「島 耕作 ある朝の出来事」(出典 中学の道徳1 自分を見つめる 県教育図書),  
弘兼憲史『課長 島耕作』講談社より

#### 3. 主題観

「公徳心」とは社会の一員として、自覚をもって、進んで公共のために尽くすことである。その基本として「人に迷惑をかけない」ということがある。ここから発展して、「社会の一員」と自覚し、広がっていくものである。これと区別して考えなければならないのがいわゆる「思いやり」である。「思いやり」は1対1の関係で發揮される自己犠牲の精神であるが、「公徳心」は公共、つまり、自信の所属する社会の見ず知らずのために尽くすものである。そのため、誰も見ていない場所で行ったり、その行為によって感謝されたり、賞賛されたりするために行うものではない。加えて、その行為をおこなうことがその場面で非難されないために行うもの、単なるマナー・礼儀とも違うということを意識する必要がある。

#### 4. 指導観

気持ちよく社会生活を送るために、マナー・礼儀という考え方を超えて、社会の一人一人がもっと高い水準でそれを意識する公徳心をもって行動することが必要である。ところが、公徳心をいざ実践しようとすると、發揮すべき場面にあっても、恥ずかしさで人の目を気にしたり、面倒くさがったり、自己中心的な考え方などから行動は難しく、なかなか実践できない。

よりよく生きるために、道徳的心情を実践する勇気をもち、他人の立場について考えることが必要である。ここでは公徳心の意義と役割といった道徳的知識の側面と、その適切な表現の方法についての道徳的実践力の両面を考えさせたい。

また、この項目については小学校の道徳項目ではなく、中学校から内容項目に加わっていることから、公徳心の入門と位置づけ、次年度での学習につながるよう身近な場面を想起

できる資料設定とし、公徳心とは何かということ少しでも理解し、行動しようとする意識をもてることを目標とした。

### 5. ねらい

満員電車で立ったまま苦しんでいるおばあさんの前で座席に座り新聞を読んでいるサラリーマンに、島耕作は席を譲るよう声をかけるが、拒否されて口論となるが、最終的にはそばにいたおじさんが強引におばあさんを自分の席に座らせて一件落着となる。サラリーマン、島それぞれの態度や言い分をどう考えるか、また登場人物それぞれに欠けていたものは何か。このような視点から考えをめぐらすことによって、公徳心を考えるきっかけとしたい。

また、生徒になじみやすい漫画を利用することによって資料に関心を持ちやすいようにした。加えて、場面ごとに資料を配ることで次の展開を期待しながら考えることができるようとした。

### 6. 展開の大要（○既成の指導案の発問、◎既成の指導案に加えた発問、

太字：当初の指導案から修正した発問）

	学習活動(当初の指導案)	学習活動(実際の指導)	指導上の留意点
導入 (10分)	<p>【○基本発問1】:朝の満員電車で自分の座った席の前に老人が立ちました。さあどうする?</p> <p>【予想発言】:席をゆずる、気づかれない振りをしたなど</p> <p>【追加発問】:実際に席をゆずったことがある人はいますか?</p>	<p>【○基本発問1】:朝の満員電車で自分の座った席の前に老人が立ちました。さあどうする?</p> <p>【予想発言】:席をゆずる、気づかれない振りをしたなど</p> <p>【追加発問】:実際に席をゆずったことがある人はいますか?</p>	・自分の行動について考えさせたい。
展開 (35分)	<p>【○基本発問2】:島の意見についてどう思いますか?</p> <p>【予想発言】:正しい。間違っていない。自分もそうする。</p> <p>資料②を読む</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・サラリーマンの意見について考える。</li></ul> <p>【○基本発問3】:サラリーマンの意見をどう思いますか。</p>	<p>【○基本発問2】:「あなたの気持ちのことを言っている」という島の言いたかったことはなんだろう?</p> <p>【予想発言】:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分のことだけでなく、他人の気持ちを考えるべきだ。</li><li>・困っている人を助けようとする気持ちをもつべきだ。</li><li>・せめて申し訳なさそうな態度をとるべきだ。</li></ul>	資料を読ませ、島の行動を中心に考えさせる。 ○ 島の言っている「気持ち」は特にルールには決まってないけど、「周り(社会)のことを考えて、迷惑をかけずに、みんなが気持ちよく生活できるように心がける気持ち」であって、難しい言葉では「公徳心」ということを話す。

	<p>【予想発言】：間違っている。自分勝手だ。</p> <p>この人も疲れているし、ちゃんと並んで座ったのだから、別にいいんじゃないかな。</p> <p>【切返発問】：本当にサラリーマンの意見って間違っているのだろうか？自分もそういう思いにならることはないだろうか？</p> <p>資料③を読む</p> <p>【○基本質問4】：「あなたの気持ちのことを言っている」という島の言いたかったことはなんだろう？</p> <p>【予想発言】：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことだけでなく、他人の気持ちを考えるべきだ。</li> <li>・困っている人を助けようとする気持ちをもつべきだ。</li> <li>・せめて申し訳なさそうな態度をとるべきだ。</li> </ul> <p>【補助発問】：この島の発言や行動はだれの迷惑にもなっていないのだろうか？</p> <p>【予想発言】：周りの人がいやな顔をしている。</p> <p>【◎自己認識発問】：島かサラリーマンにアドバイスするとしたらどんなことを言いますか？</p> <p>【◎自己展望発問】：もし自分がこの場面に居合わせたら、どんなことをしたいですか？</p>	
終 末 (5分)	公徳心について知る	結果を読ませ、今日の授業を振りかえる

## ②自己認識発問

### ○実際の発問とその意図

当初、価値認識の発問として、「あなたの気持ちのことを言っているという島の言いたかったことはなんだろう?」と問い合わせ、「公徳心」という概念を確認し、そのうえで、「島かサラリーマンにアドバイスするとしたらどんなことを言いますか?」と発問して、自信の考えるベスト、つまり、「公徳心」を実践するためにはどうするべきかを問う予定だった。しかし、資料を見返したとき、「公徳心」を考えなければならないのは本当にこの2人だけなのだろうかと考えた。そのため、登場人物すべてに対象をひろげ、登場人物それぞれの立場で考えていく方が広い意味で社会の中でどういうふうに行動するべきか考えられると思い、発問を変更している。また、公徳心の面から登場人物のいいところ、わるいところを指摘させることで自分の中で公徳心について整理できるようした。この発問を学級内で整理した後、「自分がこの場面にいたら、どうしたいか」を発問し、実践の場面を想起して、現在の気持ちを意識、確認させて授業を終えている。

### ○主な反応例（学級による反応例の異同）

自己認識発問の学級の反応としては最終的に場を治める「おじさん」について、「空気をよんでいる」「大人」という肯定的な意見がほとんどの学級で出た。しかし、主人公である「島」については親切心は認められつつも、「自分勝手」「まわりの迷惑を考えていない」と否定的な意見が出て、単純な親切だけではいけないという認識ができていたように思う。また、板書写真Cのように、「おじさん」に対しても、「周りの目を気にしている」と行為が自信の利己的な感情からきているものではないかという意見が出ている。また、多くのクラスで席をゆずられるおばあさんに

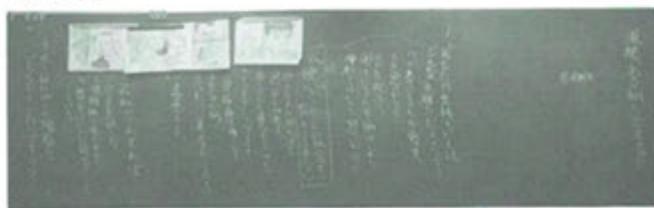
板書写真A



板書写真B



板書写真C



関しても「遠慮しすぎている」という意見が出て、場面においては自身の立場を主張しないことも全体の面でみるとよくないと認識していたことがわかる。

#### ○自己認識発問の効果

本校の生徒のほとんどが登校時に朝の通勤ラッシュを経験していることもあり、場面の想起はよくできていた。そのため、登場人物の行為について、さまざまな面から考えることでき、自分の言葉で、このようなことをしているからよい・悪いを判断していたようだ。しかし、その一方で登場人物の行為に注目させたために、その行動を起こすもととなった「親切心」や「正義感」についてはふれることができず、表面的な活動に終始してしまい、公徳心の原点にふれることはできなかった。

指導者：鰐 聰子

#### ① 指導案

1. 主題名 伝統の継承と文化の創造
2. 資料名 「古都の雅、菓子の心」〈東京書籍『明日をひらく1年』より〉
3. 主題観

思春期の中学生と向き合う中で、様々なことに興味や関心を抱く姿が見られる。その中で自国の優れた伝統や文化などについて理解を深めるようになるが、日々の生活の中で伝統や文化を意識しなければなかなか気付くことができない状況でもある。ここで大切なことは、伝統や文化に対する関心をさらに深め、自國への誇りを持ちながら継承することの意味を深める場にしたい。

#### 4. 資料観

本資料は菓子司山口富蔵さんが、老舗の京菓子店を受け継ぐ中でさまざまな苦悩を通して、伝統や文化を守ることの意味、発展させることの意味について考えられる内容である。また、菓子にはかかせないお茶「茶道」の伝統文化について、授業者から道具とお点前と共に紹介し、伝統文化の素晴らしさを知る機会とする。

#### 5. 指導観

本時では、菓子司とお茶を例に、日本の伝統文化の素晴らしさについて改めて考える機会としたい。導入では、伝統を受け継ぐことの重さに苦悩しながらも懸命に努力し、工夫し、老舗を受け継ぐ山口さんの生き方に共感させたい。また、菓子にはかかせないお茶「茶道」について、授業者から道具やお点前を生徒の目の前で見せ、伝えることで伝統や文化に対する関心をさらに深めていきたい。

#### 6. ねらい

4-(9)「和菓子とお茶」を例に、自国の伝統や文化に目を向け、よさを知り、継承することの意味を考え、関心を深める姿勢を育む。

## 7. 展開の大要

	学習内容(主な発問と反応予想) (ゴシック:既成の指導案による発問) (斜字:授業を行う中で変更した発問)	指導の意図・留意点
導入	○あなたが知っている、素晴らしいと感じている日本の伝統や文化は何がありますか。	・知っているものを自由に発表し合い、知っている伝統、文化についての発表にとどめる。
展開	○資料を範読する。 ○発問1「どんな思いを持って、菓子司山口さんは京菓子を作っているか。」 ・京菓子を通して、楽しいひとときを過ごしてもらいたい。 ・京菓子から季節や文化を感じてほしい。  ○山口さんがつくる菓子が父と比較されなくなつたのは、なぜか。 ・「一期一会」の意味が理解できたから。 ・お客様の要求に応えたいと思うようになったから。  ○日本のすぐれた伝統や文化を受け継ぐことの大切さについて、長い間、伝統や文化が守られてきたのはなぜだと思うか。 ・美しい心や日本人としての感性や魅力を次に繋げるため。	「心の架け橋」の意味について理解を深め、京菓子一個一個に込められた菓子司の思いを理解するようとする。  時代が変わっても、伝統や文化には、相手の心を考える思いやりの心があることを知る。  「一期一会」や「もてなす」ということの意味について気づくことができたか。
終末	■授業者:海外経験を通して、日本文化の大切さを知った理由について話・実演をする。  ○日本に住む人間として、自分の国の伝統や文化を知るにはどのような手段があるか。	現在の自分の生活を振り返って考えさせ、自己のよさを理解し、文化や伝統を学ぼうという意欲が湧くようにする。

板書写真



#### 4. 生徒の反応 生徒の道徳授業アンケートより

年度末には、3学年共通の生徒向けアンケートを行った。

印象に残っている（あるいは良かったと思う）資料を3つ選び、その理由を教えてください。

この質問に対しては、以下のような結果となった。

資料番号	資料名	合計
12	「ディズニー～そうじの神様が教えてくれたこと～」	59
11	「いつわりのバイオリン」	44
6	「夜のくだもの屋」	36
1	「目標は小刻みに」	33
5	「古都の雅 葉子の心」	33
4	「僕と家族と反抗期」	27
23	「自分の番 いのちのバトン」	24
9	「空の勇者リンドバーグ」	23
3	「私もいじめた一人なのに…」	22
24	「リヤカーは海を越えて」	21
13	「アキラの選択」	19
10	「名前-耳をすませば」	18
17	「出船の位置に」	16
19	「人に迷惑をかけなければいいのか」	12
20	「二枚の写真」	12
8	「壁を越えるのはだれ」	11
7	「ある朝の出来事」	10
15	「言葉の向こうに」	9
16	「心のつながり」	7
22	「娘のふるさと」	7
2	「半分おとな 半分こども」	5
18	「あつ，トロの森だ」	4
21	「人のフリみて」	4
14	「ぼくの性格をつくった友人」	1

結果の中から、生徒が書いたコメントを一部紹介する。

一番印象に残ったという意見が多かった「ディズニー～そうじの神様が教えてくれたこと」では、生徒が記入した理由に、「ディズニーが好きなので、すごく話の内容に感動したり、とても気持ちを入れて読めたから」「話は本当に感動して、シリーズの本を読んだりして、印象に残っているから」というようなディズニーやディズニーランドに対する興味から印象に残っていると答えた生徒もいるが、その一方で、「ディズニーランドにもそ

ういう人がいるのだとわかった」「表舞台で活躍する人もいるが、裏でそうじなどを一生懸命してくれている人がいることを忘れていたから」「物事に取り組む態度を教えてもらったから」などの理由を挙げた生徒も多かった。これらの解答をした生徒たちの多くは、ディズニーランドのキャスト（スタッフの総称）となったにもかかわらず、表舞台には立てずにそうじという裏方の仕事を不本意ながら任されつつも、少しづつ自分の仕事に誇りを持って精一杯取り組むとはどういうことかを学んでいく主人公の姿を通して、自分なりに「仕事に対する心構え」や「小さなことでもしっかりとやり遂げていくことの大切さ」について素直に感じたことを、授業後半年以上経っても心の隅に残していることがわかる。

このことは、生徒と資料との距離、すなわち、資料選択の重要性、それに伴う資料の生かし方が重要であることを示していると言えるだろう。また、「夜のくだもの屋」については、「先生の読み方が印象的だった」といった授業者自身について触れているものもあったが、「心温まる話がよかったです。心に残っている」「話がよく思い浮かんでくるから」のように、資料そのものからも与えられる力があることを窺わせている。

## 5. おわりに

授業の組み立て方を含め、生徒への興味付けなどで試行錯誤しつつ授業を行ったわけであるが、24種類の授業に対して、生徒はどのようなことを感じ、考え、学ぶことができたのであろうか。

年度末に行ったアンケートで自由記述で「道徳の時間であなたはどんなことを感じたり、考えたり、学んだと思いますか。」と言う質問を行った。

この質問に対しては、多岐に亘る返答があり、「当たり前のことだけど、行動に移るのが難しいことを学べたと思う。だから、学んだことをしっかりと実行していきたいと思った。」と、将来への希望を語る生徒や、「人と人の大切なつながりについてよく考えたり感じることができた。」「他の人との接し方や物事に対する態度を改めて考えさせられ、学びました。」といった、人との繋がりや接し方についていろいろと考えるきっかけになったという意見、「価値観が様々で、新しい考え方などを知ることができて、楽しかったり、感心した。」と自分でなく、クラスからの様々な意見を知り、それを肯定的に受け止めた生徒、「自分の過去の出来事を思い出して、その時の自分の行動は本当に正しかったのかということを考えた」のように、道徳の時間を自分自身の生き方を振り返るきっかけにしている生徒も多く見られ、道徳の授業を肯定的に捉えていることがわかった。しかし、その一方で、「道徳の時間が多いのではないか」という、小学校での道徳の授業が決められた時間数で行われていなかったことを窺わせる意見もあった。

教科化を見据え、「多様な価値観」を引き出し、生徒が自分の生活と結びつけ、実践に生かせるような授業を目指すに当り、平成26年度は、「自己認識」を加味する発問を取り入れ実践してきたわけであるが、生徒たちからの反応を見る限り、この1年に関しては、とりあえず「合格点」をいただけたのではないかと想っている。

### 第3報：第2学年における実践事例

#### 1. はじめに

本校の第2学年（67期生）は、各クラス40人（男子20人、女子20人）、全160名が所属している。

第2学年時は、共に学びあい、育ちあう「ともばえ精神」を学年指導方針の主軸とし、日々の教科授業や、行事など全ての教育活動で、学習者の道徳的発達が促されるよう意識した指導を行ったが、日々の指導の横糸が、道徳授業の縦糸で織りなされるような指導を意図していた。

今年度、第2学年で実施した道徳授業は全25回で、道徳的価値項目の全24項目に加えて、道徳的ジレンマを考えさせる「尊厳死をみつめて」を加えた形で実施した。

実施方法としては、クラス担任4人に、担外の学年担当教師2名を加えて、全6人がそれぞれに価値項目を担当し、担当項目を全4クラスで実施する輪番制を主軸としたが、「尊厳死をみつめて」のみ、担任が各クラスの授業を実施した。

授業の実施は、各項目を学年教師に配当した上で、各担当教師がよみもの資料を決定し、指導案を事前の学年会議で検討して、実践するという流れで行った。

#### 2. 年間実施授業一覧

67期_道徳アンケート 集計結果	A	B	C	D	合計	
					男	女
1 山に憑かれた男	2	2	2	0	0	0
2 小さなこと	0	0	0	0	0	0
3 魔見の薄い壁を破りたい～ガンディ	2	2	0	2	0	0
4 二通りの手紙	0	2	1	3	0	0
5 IPS病院で難病を治したい	1	0	3	2	0	0
6 営業の向こうに	0	0	0	0	0	0
7 天使の声	1	7	3	1	12	0
8 カーテンの向こう	23	21	17	12	73	0
9 何を目標にするか	0	0	1	4	5	0
10 弘樹の判断	3	1	2	10	16	0
11 美しい鳥取砂丘	4	2	4	3	13	0
12 街並七千年の松	1	0	0	0	1	0
13 「いき」な江戸しきさ	14	13	4	15	46	0
14 ものの音を大切に～西岡常一さん	2	1	0	0	3	0
15 ディズニーそうじの神様が教えてくれたこと	5	7	5	10	27	0
16 虎	2	3	4	10	19	0
17 足袋の季節	0	0	0	0	0	0
18 痘を見つけて	3	0	3	4	10	0
19 ふるさとに縁をもう一度	5	7	3	3	18	0
20 彼のくだもの屋	11	9	17	8	45	0
21 日本語を教えて世界を知る	3	0	1	2	6	0
22 告白「耳をすませば」より	16	15	8	15	54	0
23 枚門を越る子	2	5	16	1	24	0
24 美しい母の顔	6	12	10	3	31	0
25 尊厳死を見つめて	5	11	6	5	27	0

### 3. 各教員の実践および自己評価

指導者：莉木 聰

#### ①指導案

1. 主題名 基礎研究から夢の実現へ

2. 資料名 「i P S 細胞で難病を治したい－山中伸弥」(秀学社)

「森深くして、鳥高く飛ぶ」(自作資料)

※補助資料として、山中氏のインタビューVTR、中学時代の自由研究等

#### 3. 主題観

夢や希望には、責任感と計画性を基盤に未来を創造しようとする確固たる意志が必要であり、空想でない理想と、卑下しない現実との緊張関係の中に点る一つの灯火と言えよう。特に、卑下しない現実の一要素として、自己の特徴を知り、個性へと昇華させることが重要であり、そのための並々ならぬ決意と努力が「森深くして鳥高く飛ぶ」ためには必要なのである。

なお、個性伸長の促進条件については、第一に、自他を冷静謙虚に見つめ、自己の長短を把握することが肝要である。第二は、短所を通減し長所を活かすための努力である。第三には、短所を短所として自認することには意味あるが、しかし徒に劣等感を抱かないことも必要である。第四に、周囲からの素心に基づいた助力・激励・忠告を得られるように、常に心化粧と他人に学ぶ謙虚さが要請される。そして、第五に、上述の条件を克服することで自己の確信を得、長所を醸成するための長くて厳しい道程を基盤とした静かな自尊心を育むことである。

#### 4. 資料観と指導観

ノーベル医学・生理学賞を受賞した山中伸弥教授が胸に刻んでいる「ビジョン&ワークハード」の根底には、日々、患者の顔を思い浮かべたり、自分達の時間と患者やその家族にとっての時間の意味の違いを感じたりする姿勢がある。そこで生徒には、この想いを原動力にして「細胞を初期化する道」を切り拓いた事実と直面させ、さらには、今後は自分の人生を賭けて「実用化」という理想を追い求める先輩に憧憬するとともに、こうした基礎研究活動が山中教授の人生にとっての生き甲斐や潤い等にも通ずることを認識させたい。

#### 5. ねらい

一人一人の患者の顔を思い浮かべながら、夢の実現に向けて努力している本校の先輩・山中伸弥教授の姿を通して、真理を追求し、理想の実現を目指して懸命に生きていこうとする道徳的態度を育む。

6. 展開の大要 (※出版社の指導書にない前田独自の発問をゴシックで表記)

	学習活動・主な発問	予想される子どもの反応	指導上の留意点
導入	★ノーベル賞受賞式の映像を流す。		※ES細胞の生命倫理上の問題点に触れる
展開	★「…iPS細胞作りを成功させました。」まで範読する。 ①座右の銘「ビジョン&ワークハード」における山中教授の目標とは何か。 【価値認識I】 ★続きの部分を範読する。 ②患者の顔を思い浮かべたり、一日一か月の意味の違いを心したりすることは、山中教授にとってなぜ大切なのか。 【価値認識II】	・iPS細胞を作ること ・患者を教うこと ・山中教授の真の目標(夢) 「患者の思いに応えること、幸せな生活を提供すること、患者の家族の笑顔等」を胸に刻み込むため。	※表面的な短期目標について確認する ※できれば、「ワークハード」に耐える原動力なども押さえたい。
展開	★山中教授の中2時の自由研究を紹介し「成功≠完成」に着目させる。 ★記者会見「ノーベル賞は過去形」「今、折り返し地点にいる」の部分を視聴する。 ③これらの事から、君たちは山中教授の素晴らしいところをどう考えるか。 【自己認識】 ④あなたの将来像を想い描き、その実現のために、これからどんな力・姿勢・態度が必要となるだろうか。【自己展望】		※将来花開く個性の芽が、すでに自由研究に見られたり、山中少年の自由研究の要約に、研究に対する謙虚な姿勢と飽くなき挑戦心が認められる点に、意識を向けさせたい。
終末	★“ジャマナカ”などとも言われた山中教授の「まさに日本という国が受賞した賞」との言葉を紹介する。		※周囲に対する「感謝の念・謙虚さ」なども、理想の実現に大きな意味を持っていたことを伝え、「秘かなる決意」への一つの橋頭堡したい。また、“待て、しかして希望せよ”という言葉も伝えたい。

②自己認識発問の修正の意図と効果

○指導案の意図

まず、全体構想としては、展開の前段で山中教授の座右の銘「ビジョン&ワークハード(ハードワーク)」(グラッドストーン研究所長のロバート・メイリーから贈られた言葉)を基に、夢や理想の実現過程について考察し、氏の素晴らしいところを協働的に見出したい。さ

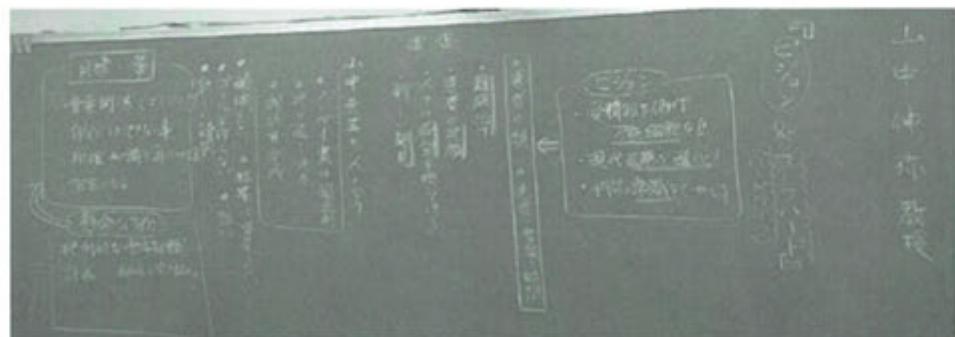
らに、展開後段では、氏の人生の歩みに照らしつつ、今度は自分自身の「ビジョン」と「ワークハード」を具体的に想い描き、「秘かなる決意」を持たせようとした。特に、氏は本校の先輩であり、中学時代の自由研究の要約なども残っているという環境にあるため、その要約をはじめ、「V&W」の直筆色紙や懸垂幕（右の写真）等の補助資料も準備しながら、授業を開拓したいと構想したわけである。

次に、「価値認識」「自己認識」「自己展望」に関する場面であるが、山中教授の目標やその背景にある考え方や姿勢を追求することで「価値認識」が深まっていくと想定した。そこで、指導書にある発問群を多少統合する形で、上掲の指導案における発問①②を位置づけた。

続いて、発問③では、山中教授の素晴らしい「自分は」どう評価するのかという「自己認識」発問と直面させることにした。そして、発問④で、自分の将来像とそこへの道筋を描いて「自己展望」を促すことにしたのである。

次頁の2枚の写真は、最初の2クラスで行った板書である。【写真1】は、「価値認識」「自己認識」場面での応接を軽快に行い、「自己展望」場面で十分な時間を取り取ったことが見て取れる。授業の後段では、「書く活動」も設けることができ、発表する時間もある程度余裕を持って行うことができた。しかし、授業最終盤の「懸命な努力」に関する発言は、努力していく際の観点・切り口や、努力の結果としての状態や成果を発表する生徒が多く、時間的な継続性に関わっての発言が極めて少なかった。これは、「価値認識」「自己認識」発問に関して余り時間を割かなかつたためではないか。逆に言えば、自己を展望する際の簡潔明瞭な視座を手にしておれば、上述の傾向を多少なりとも解消することができ、自己実現への地道な歩みを意識した発言が期待できるのではないか、と考えたわけである。そこで、指導案にある4つの発問への時間的配分を変えて実践してみることにした。それが、【写真2】である。

【写真1】



【写真2】



○実践上の修正とその効果

【写真2】では、発問①②に十分な時間を注ぎ込み、山中教授の目標・夢について「現代医学の常識にとらわれず、その限界を超えて難病患者に希望を抱いてもらう」という生徒発言を得ることができた。

また、氏の経験した「ワークハード」を追求することに関しては、発問③に委ねることにした。実際、発問③の「自己認識」発問を通じて、山中教授の変わらぬひたむきさや研究開発に終わりはないという心構えを捉え、それを発問④「自己展望」への“通行手形”とすることができた。

ただ、この板書に見られる通り、発問①②に時間を掛けすぎた嫌いがあり、授業終盤の“自分自身のワークハード”について、発表させる時間がほとんど確保できなかった。5分程度、手許のワークシートに記述させたので、事後指導としてそれに対する評価を行うことはできたものの、やはり「書く活動」を行った限りは、それを基に交流し合う場を授業時間内に設けたいものである。

この【写真2】の実践を踏まえ、次時では、さらに微修正して授業に臨んだ。その勘所は、【写真2】の黒板右半分、すなわち発問①②に関する応答をもう少し簡潔に整理し、そこで浮いた3~4分の時間を発問④に対する発表時間に充てる、というものである。その授業では、【写真3】を黒板の右3分の1に示した。「ビジョン」に関しても、直接的・具体的・短期的な目標と、より長期的で遠大な目標・夢・理想とに分けて板書している。

以上の通り、部分的修正によって一定の成果を得たが、夢や理想の実現に不可欠な「個性の芽→個性伸長→個性の開花」という視点が浮き彫りになっていないという欠点が、なお残った。

○補足事項 ～さらなる修正と効果～

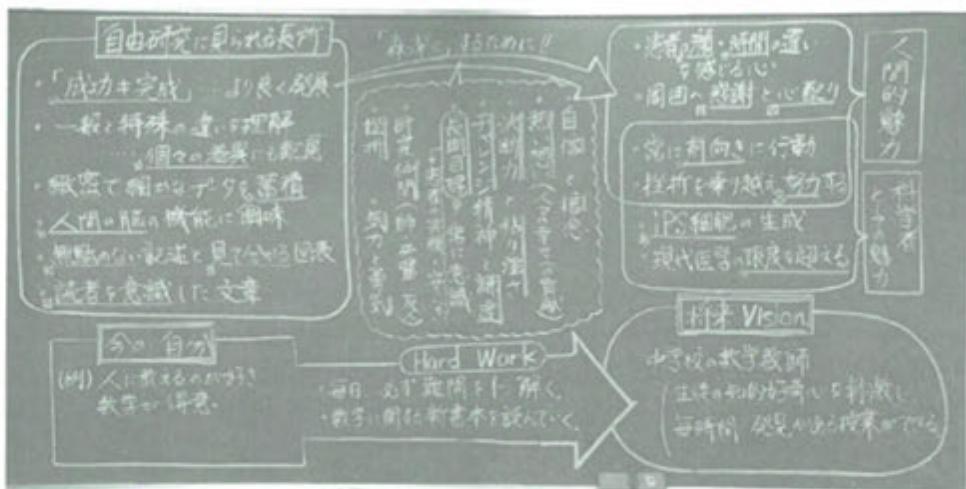
そこで、最後の授業に臨むに当たって、私のイメージする授業を実現するには既成の道徳資料では困難であるとの立場から、自作資料「森深くして鳥高く飛ぶ」(荒木・松尾・莉木・

【写真3】



棚澤 編著『考える道徳を創る「私たちの道徳」教材別ワークシート集』明治図書 2015 所収) を用いることにした。この自作資料では、山中少年の長所を個性へ繋ぐために、氏はどんな体験と挫折を味わい、そこからどのような「Hard Work」を源泉に雄大な「Vision」を持ち得たのかが詳述されている。

【写真4】



この授業では、①山中先生の人間的魅力&科学者としての魅力、②中2の時の自由研究からキラリと光る箇所の発表、③資料名にある「森深くして」に相当する山中教授の体験、及びそこで学んだ知見、④生徒個々の将来像、及びその実現に必要な姿勢・態度等について、の4つの発問で構成してみた。上の【写真4】が、その板書である。

「書く活動」は、時間的に難しいと考え、一切入れなかった。また、本校では、現在も自由研究を進めており、その学習とでユニットを構成して、本授業を構想した。具体的には、山中少年の自由研究の要約を総合の時間に事前提示しておき、自由研究に見られる氏の長所を予め整理してから本授業に臨んだことも、イメージ通りの充実した授業として結実した一因である。

#### ○授業成果 ~まとめに代えて~

下表は、各授業場面における生徒の主な反応の異同に関して整理したものである。それぞれに長短(○と▲)があり、授業者の重視する観点に応じて授業展開を使い分ける必要があろう。

	「価値認識」の場面	「自己認識」の場面	「自己展望」の場面
第1回授業 【写真①】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現代医療の進化</li> <li>○患者の笑顔と希望</li> <li>▲想いの原動力が不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○満足せず、新しい疑問へ</li> <li>○ゴールを設定しない</li> <li>▲多面的・多角的ではない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の夢へ延長線を引く活動が保証された</li> <li>▲やや表層的意見に傾斜</li> </ul>

第2回 授業 【写真②】	○現代医学の限度を超える ○苦しみからの解放 ▲長期的Visionが不明瞭	○感謝と心配り ○常に前進し続ける ○成功=スタートライン	○授業全体を踏まえた記述が見られた ▲発表交流の場がなかった
第3回 授業 【写真③】	○根本治療 ○未然に防止する ▲写真①②の中間的位置	○人々の救済目的 ○後は、ほぼ上の「第2回授業」の欄と同じ	○発表交流の場を設定した ▲個性が、夢や理想の実現に果す役割が不明瞭である
第4回 授業 【写真④】	○現代医学の限度を超える ○患者の笑顔と時間 ○前向き、努力	○感謝、心配り、仲間 ○挫折と目標、熱意、自信 ○決断力、粘り、「気」	○記述し発表できた。 ▲総合とのタイアップで、辛うじて時間の確保が実現

指導者：松尾澄英

#### ① 指導案

1. 主題名 人のぬくもりへの感謝 [内容項目 2-(6)・2-(2)]
2. 資料名 「夜のくだもの屋」(杉みき子『小さな町の風景』1982 偕成社)
3. 主題観

人の「思いやり」に気づく心とそれに対する「感謝」に授業の主題を設定した。人生は他者との関わりを抜きにしては成り立たないが、必ずしも日常生活の中で、周りの存在を鋭敏に感じ取れる訳ではない。時として、他者の思いやりを当たり前のように見過ごしてしまったり、発達段階によっては、たとえ気づいたとしても素直にそれに応えられずに反発したり、やり過ごしたりしてしまうこともある。

しかし、とりわけ自分自身の中に不安や焦り、悲しみがある時ほど、周囲の人のさりげない支えや励ましの気持ちが、自分は一人ではないのだという安心感や癒しをもたらすものである。すぐには何か出来なくとも、ただひたすらに周りに「感謝」する気持ちを持つこと自体に価値を見いだす心をはぐくむことが大切だと考える。

#### 4. 資料の概要とねらい

資料は、少女が果物屋の夫婦から受けた思いやりに気づき、感謝の気持ちを強く抱くという内容である。合唱の練習で遅く帰宅する少女の不安を取り除くために、毎晩営業時間を延長して店頭に明かりをつけていてくれた果物屋の夫婦の温かい心づかいを知った少女の変化が描かれている。

この資料の少女のように、ふだんなにげなく見過ごしていることの中に、思いがけない他者の温かい心づかいが込められていることがある。そんな心づかいに気づく鋭敏な感性を磨き、気づいた時に素直に感謝の言葉を口に出すだけでなく、自らの生き方は、自分のものだけではなく、人の思いやりや支えに対して応えていくことでもあることを考えさせる。

5. 展開の大要 ○既成の指導案の発問 ◎授業者の実際の発問

	学習活動	生徒の反応と留意点
導入	<p>○暗い夜道を、たった1人で帰る時の気持ちはどんなだろう      ○身近な「あかり」を探してみよう。      それらの「あかり」は、私たちをどんな気持ちにしてくれるだろうか。      ※資料の範読 あらすじの確認</p>	「家の電気」…安心する/ホッとする 人の気配を感じる 「イルミネーション」「灯籠」「ろうそく」…にぎやかな感じ/あたたかな感じ/祈り
展開	<p>○くだもの屋のオレンジ色の光が温かく思えた少女の気持ちを想像してみよう      ○発問1      夜道を一人で帰る少女は、くだもの屋の「あかり」をどんな気持ちでみていたのだろうか。</p> <p>○発問2      くだもの屋の「あかり」には、どのような心がこもっていたのだろうか。</p> <p>○追求発問2-1      なぜこの少女のためだけに「あかり」をつけたのか。</p> <p>○追求発問2-2      少女のためにくだもの屋が犠牲にしたものは何だろう。</p> <p>※合唱が終わってから、少女にとってくだもの屋のあかりはどうでもよいものになっていたことを確認する</p> <p>○少女の父親は、どんな気持ちからりんごを買おうと言ったのだろう。      ○少女がとっさに「ありがとうございました」と言ったのはなぜだろう。</p> <p>○発問3      「もっともっと買いたいんだけどごめんなさい。」という言葉には、少女のどんな想いが込められているのだろうか。</p> <p>○追求発問3-1      少女の「ごめんなさい」を聞いたくだもの屋はどう思つたのだろう。</p> <p>○少女が「店のあかりがあんなにあたたかく見えたのは当然だった」と思ったのはなぜだろう。</p> <p>○発問4【ワークシート記入】      この少女は、くだもの屋の「あかり」をどんなあかりだと、友達に説明するだろうか。</p> <p>○追求発問4-1      「そっと見守る」と、「毎日、守ったる」と主張するのとの違いはなんだろう。</p>	暗い夜道を照らしてくれるから安心/心細いなか人の気配を感じられるあかり/元気づけられる/りがたいなあ 安全に帰って欲しい/合唱を頑張って欲しい/ 少女が一生懸命だったから 睡眠時間/準備時間/家で休む時間/光熱費/自分のための時間 ありがとう以上の感謝を伝えた い/ 今度は自分がくだもの屋さんの役に立ちたい。でも、今の自分には、役に立つだけの力がない。 あったかい人、応援してくれている人、さりげなく見守ってくれる人ってたくさんいる。私たち、もっともっと頑張らなきゃ 合唱がんばろう。 •そっと見守る •ホッと安心する •支えてくれる •とっても優しい

終末	<p>○これまでにこういう「あかり」に出会ったことがありますか。</p> <p>◎自己認識・自己展望発問【ワークシート記入】</p> <p>あなたのまわりにはどんな「あかり」があるだろうか。あなたはその「あかり」にどのように感謝を示し、その気持ちに応えられるだろうか。</p>	<p>学校の警備員さん 用務員さん 一生懸命がんばる 元気な姿を見せる</p>

## ② 自己認識発問の修正の意図と効果

### ○実際の発問とその意図

今回の授業では、資料から離れて、生徒自身の身の周りにある、温かくさりげない「あかり」の存在に気づくことを自己認識とした。その上で、今の自分が、その「あかり」に応えるために何ができるか考えるという自己展望を加えた。この自己展望の発問は、自分を支え励ましてくれる周囲の人の存在に気づくことに加えて、今現在、周囲の「あかり」に対して必ずしも、「大きな感謝や見返りを返す必要はない（見返りは求められていない）／今の自分には感謝や見返りを返すだけの十分な力がない」ということにも気づくという意図がある。自身の力不足に気づいた上で、だからこそ、その人たちが大事に思い支えたいと思っている「自分自身」を大切にすることの必要性と、見返りを求める「あかり」の存在になおさら感謝の念を抱いて欲しいと考えた。

### ○主な反応例

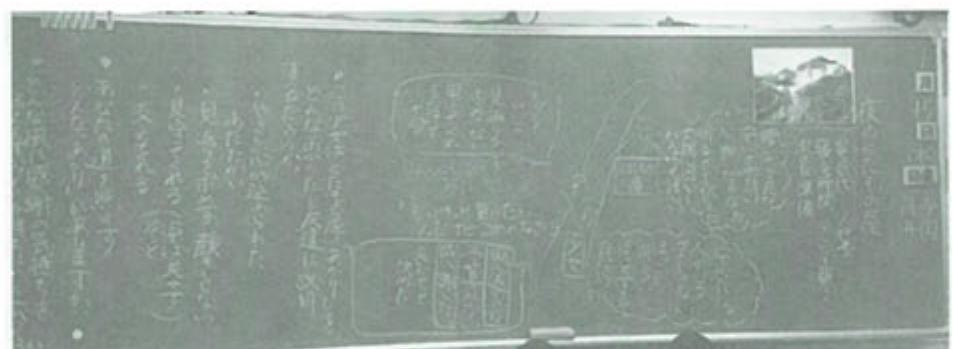
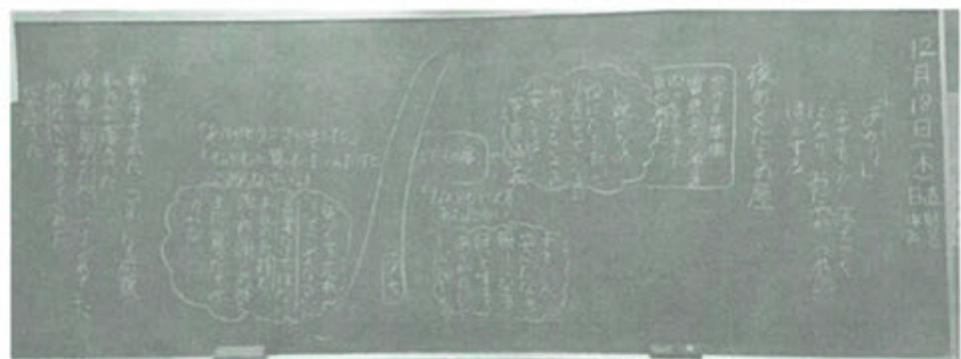
学習者が自らの身の回りに探した「あかり」の例として最も多かったのは、家族や友達といった身近な存在であった。

しかし、中には、毎日会うバスの運転手や、習い事の先生、あるいは、近所の人などが、そっと自分を応援してくれているという事実に改めて気付いたという生徒もいた。

### ○自己認識・自己展望発問の効果

この資料には、普段気付かないほどに「さりげない支え」や「思いやり」への気付きが描かれている。しかし、中学生という発達段階においては、ただ単にその支えに気付くだけではなく、今、自分には他者の思いに応えるだけの十分な力がないという「未熟さ」への自己認識をさせたい。そして、「見返りを求めていない支えや思いやりに応えるということ」は、そのような支えや応援を受けている「自己を伸ばすこと」であることに気付かせたい。人の思いを受けて自らを大切にする感謝のあり方を知り、それを実践していく気持ちの醸成が自己展望であると言える。

この資料のような、「他者の思いやり」と「自己の感謝」が即時的・直接的に結びつかない資料こそ、中学生という発達段階にふさわしいと考えられ、授業を通じて、学習者の「思いやり」や「感謝」のあり方の認識の大きな広がりを生むことが可能となると言える。



指導者：篠崎文哉

① 指導案

1. 主題名 民間大使になるには [内容項目 4 – (10)]
2. 「日本語を教えて世界を知る」(光村図書 pp.50~53)
3. 主題観

近年、世界では急速に国際化が進んでおり、その中でいかに相互理解し、協力して生きていくのかが課題となっている。日本においても、外国人の流入に伴い、特にいわゆる内なる国際化を目指すことが必要である。多文化共生社会の実現のためには、自文化と異文化の双方を理解しようとする態度を身につけ、国際的視野に立ち、実際に行動できるようにならなければならない。「国際理解」は文化だけを取り扱うわけではないが、世界中の人々を寛容的に理解するには自文化・異文化理解は欠かせない。平和教育や人権教育、開発教育、環境教育などを同列的に取り組むには、自身や他人のことを受け入れようとする姿勢の育成が不可欠である。国や地域単位では国際化に対応するべく様々な政策を実施しているかもしれないが、最重要なのはそこに住む個々人の心の国際化である。つまり、政策や施設の充実化は必要条件であろうが、それだけでは眞の国際化とは言えず、形骸化が懸念される。そのために心の教育という意味での内なる国際化が求められる。

4. 指導観

居住者、観光客問わず、大阪府内では非常に多くの外国人を見かける。生徒の中には外国人に話しかけられたり、道を尋ねられたりした経験を持つ者もおり、国際化が身近なものであることがわかる。教材本文では日本への留学生が数人登場するが、彼らがどのよう

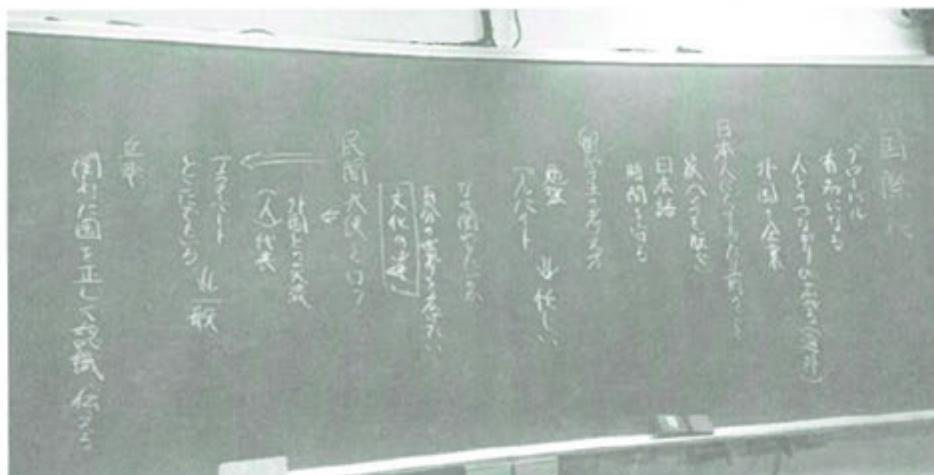
な目標・目的を持って日本で生活しているのかに注目させたい。加えて、「民間大使」という言葉に込められた意味について考えさせ、実社会で外国人と共に存していくための機会としたい。実際には、世界中の文化をすべて知識として取り入れることは不可能であるため、できる限りこのような考える機会を多く設け、文化的背景が異なる人と接するときに知識を応用し行動に移せるようにしていく。ひいては、外国人と接するときだけではなく、相手が同じ日本人であっても、また友人であってもどのように関わっていくべきなのかを考えられるようにしたい。

### 5. ねらい

留学生の日本に対する気持ちを理解させ、今後ますます国際化する社会の中でどのように生きていくのかについて考えさせる。

### 6. 展開の大要 [○ 既成指導案からの発問 ● 独自の発問]

	学習活動 (当初の指導案)	学習活動 (実際に行った指導案)	指導上の留意点
導入	「国際化」と聞いてイメージするのはどんなことか。	「国際化」と聞いてイメージするのはどんなことか。	
展開	資料を配付し、範読する。  ●発問1 日本人として当たり前のこととはどのようなことか。  ○発問2 「にじの教室」の留学生たちの生活や考え方について、どのように思うか。また、なぜ苦労しながら日本人との触れ合いを求めているのだろうか。	資料を配付し、範読する。  ●発問1 日本人として当たり前のこととはどのようなことか。  ○発問2 「にじの教室」の留学生たちの生活や考え方について、どのように思うか。また、なぜ苦労しながら日本人との触れ合いを求めているのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 他国の人たちとの違いにも留意させる。</li> <li>■ この教室に通う者は、どのような気持ちを持っているのかに注目させ、自分と照らし合わせさせる。</li> </ul>
開拓	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発問3(中心発問)            筆者は、なぜ留学生たちを立派な「民間大使」だと言っているのだろうか。</li> <li>○発問4(自己認識)            今まで、国によってものの感じ方や考え方、生活習慣が違うことを理解しようとしていたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発問3(中心発問)            筆者は、なぜ留学生たちを立派な「民間大使」だと言っているのだろうか。</li> <li>●発問4(自己認識)            外国人と共存していくためにはどういったことに気をつけ、行動していく必要があるだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ なぜ民間なのかという点や、自国に対して誇りを持っている点に注目させ、考えさせる。</li> <li>■ 日本では、外国人の流入により、彼らと接する機会が年々増加している。とても身近なことになっていることに気づかせる。</li> </ul>
終末	他の国の人とどのような交流をしたいと思うか考え、書かせる。	授業全体を通して、「国際化」について感じたことや今後自分が目指していくことについて書かせる。	



板書写真（指導案修正後）

## ②自己認識発問の修正の意図と効果

### ○実際の発問とその意図

#### 修正前の発問

「今まで、国によってものの感じ方や考え方、生活習慣が違うことを理解しようとしていたか。」

#### 修正後の発問

「外国人と共に存していくためにはどういったことに気をつけ、行動していく必要があるだろうか。」

指導書に掲載されている指導案の発問（修正前）は、これまでの経験を元にその是非を尋ねるものであり、またやや個人的である一方、修正後の発問は、自己認識をさせるだけではなく共通理解の要素も含まれており、出身地や国籍、人種に関わらず同じ集団として生きていくことに注意を向けさせている。つまり、修正の意図は、自身の過去を振り返りながら今後実際の世界でどのように人と接していくのかを考えさせることにある。

### ○主な反応例

- ・関わった国を正しく認識する
- ・まず自分自身が相手に対して優しくなる必要がある
- ・受け入れようしなければならない
- ・偏見を持たずに接する

### ○自己認識発問の効果

自省することにより自己理解が進み、それが他者理解、さらに相互理解に役に立つと思われる。これから行動に影響を与える可能性のある発問であろう。

指導者：河野 成伸

### ①指導案

1. 主題名 生命の尊重 [内容項目 3- (1)]

## 2. 「命を見つめて」－猿渡瞳さんの六百四十六日－（「道徳の学習」秀学社より）

### 3. 主題観

生徒の生活様式の多様化や家族のあり方も変化し、人との関わりの希薄さを感じる社会の中で、自らの生命の尊さを考える機会も少ないのでないのではないかと考える。

今を生きる子どもたちに「生命とは何か」について考えさせることは大変意味のあることだと感じる。生きていることが当たり前で命がなくなることについて深く考えずとも健康に過ごせる日々の中で、「今自分がここに生きていることの偶然性。」「誰もがいつか必ず死を迎えるという有限性。」そして、「先祖から受け継ぎ、子孫へ受け渡していく連続性。」さらに、「自分は他の誰でもない、唯一無二の存在であること。」（私たちの道徳より）について考え、これから自分はどの様に生きるのか実践意欲を育みたい。

### 4. 指導観

本資料は、右大腿骨骨肉腫（がん）と診断された猿渡瞳さんの闘病の記録である。苦しい闘病生活の中でも自分の夢や希望を失わず前向きに生きた瞳さん。弁論大会で発表した「命を見つめて」という作文は、瞳さんが闘病生活の中で気づいた命の尊さについて、瞳さんの強い思いが伝わってくる。瞳さんの生きることへの強い思いが描かれた資料である。

この資料を通して、苦しい状況下におかれても常に前向きに生きる瞳さんの生き方から、生命について考え、生きていることの偉大さや一生懸命生きることの大切さを改めて感じ、自分の生き方を見つめさせたい。また、生命の尊厳に気づかせ、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもち、生命にいつかは終わりがあること、生命はずっとつながっていることなどを手掛かりに、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、自他の生命を尊重する態度を身に付けさせたい。

### 5. わらい

猿渡瞳さんの生き方を通して、命の有限性について考え、命を輝かせる生き方とはどの様な生き方なのか。また、自分自身が生きていることの有り難さに思いをよせ、自分のこれから生き方を見つめさせたい。

### 6. 展開の大要

[○ 既成指導案の発問 ● 独自の発問 ◎ 中心発問]

	学習活動(当初の指導案)	学習活動(実際に行った指導案)	指導上の留意点
導入	<p>○自分にとっての幸せとは何だろうか。 私たちの道徳を読む。(P98～P101)</p>	<p>○自分にとっての幸せとは何だろうか。 私たちの道徳を読む。(P98～P101)</p>	・命とはどういうものか 考える。

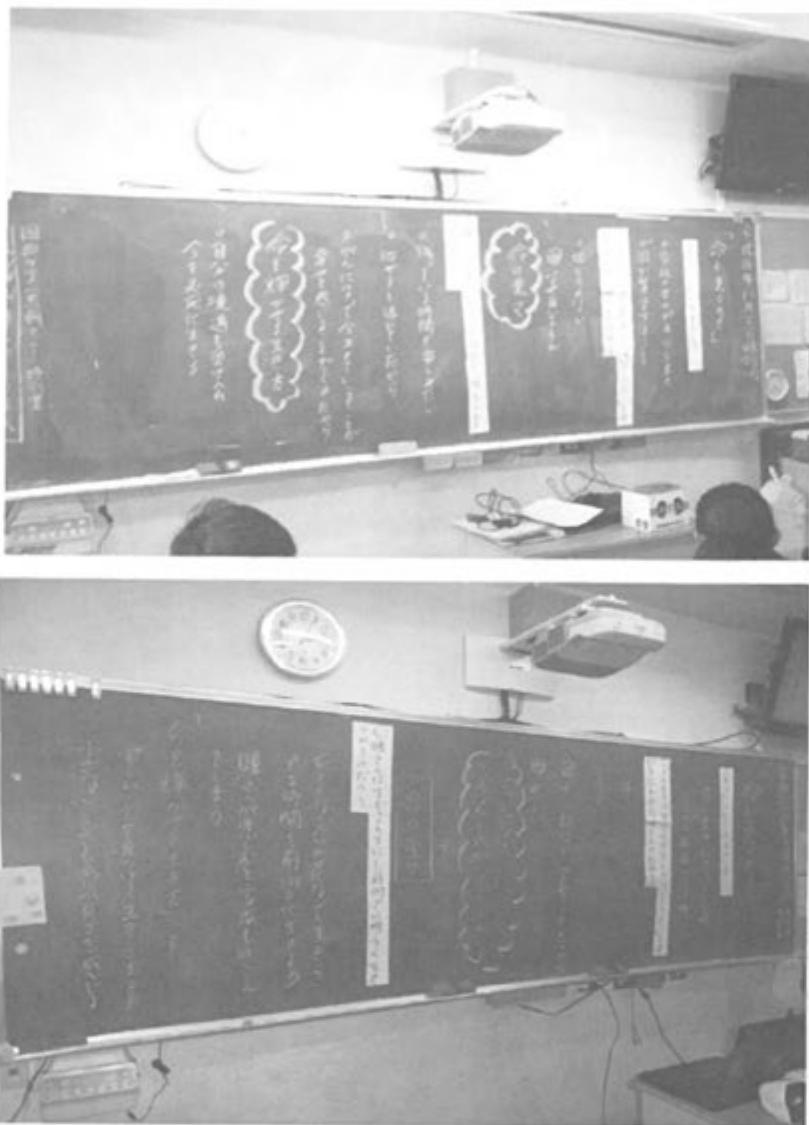
	資料を範読する。 (P133 2行目まで)	資料を範読する。 (P133 2行目まで)	
展 開	○発問① 「今いまでは命は半年しかないそうよ…。」と母から言わされた瞳さんの気持ちを考える。	○発問① 「今いまでは命は半年しかないそうよ…。」と母から言わされた瞳さんの気持ちを考える。	・自分ならどう感じるのか、瞳さんと対比して考える。
	●発問② 瞳さんは、なぜこんなにも前向きに明るく生きられたのだろうか。	●発問② 瞳さんは、なぜこんなにも前向きに明るく生きられたのだろうか。	・がん告知後の瞳さんの生き方に気づかせる。 ・生きたくても生きられなかつた仲間の死について。
	○「命を輝かせる生き方」とはどのような生き方だろう。自分の考えを書く。	○「命を輝かせる生き方」とはどのような生き方だろう。自分の考えを書く。	・命の尊さ、有限性に気づく。自分の命について考える。
終 末	資料を範読する。 (最後まで)	資料を範読する。(最後まで)	
	○発問③ 「本当の幸せとは、『今、生きている』ということなんです。」という言葉を聞いてどう感じたか。	○発問③ 「本当の幸せとは、『今、生きている』ということなんです。」という言葉を聞いてどう感じたか。	・瞳さんが伝えたかった「本当の幸せ」とはどんなことか考える。
弁論大会での猿渡さんの映像を見る。	弁論大会での猿渡さんの映像を見る。		
○瞳さんの弁論を聞いて感じたことを書く。	●瞳さんの弁論を聞いて、これからの自分の生き方を考える。		

## ②自己認識発問の修正の意図と効果

当初、発問においては、瞳さんの気持ちに寄り添う発問が多かった。その為、瞳さんの置かれている過酷な状況について、自分自身の感想を記入するに留まる生徒が多く、命を大切にする生き方とはどの様な生き方なのか、また、命とはどういうものかといったことについて考えを深めるには至らなかったと思われる。

しかし、自己認識発問を変えることにより、自分に置きかえて考えを記入する生徒が増え、命の大切さ、自分のこれから生き方について考えることができた。

【板書写真】



#### 4. 生徒の反応

学年最後に行った今年度の「道徳授業アンケート」の結果から、今年度の授業を振り返ってみたい。

全体として、生徒は、普段深く考えることのない人生や世界に関する事柄を学ぶこと、そして、それをクラスの仲間と共有したり、議論したりすることに道徳授業の実践価値を認識していると考えられる。

「道徳がなければ知り得なかった世界の色々な人の思いや考えを知って、自分のことを考えることが出来た。」「自分ではきっと体験できない辛さとか痛みを、1時間だけだけれど考えられているのかなと思う。」「当たり前であることを、いつも自分が出来ているわけ

ではないから、改めて考えていかないといけないと思った。自分の人間関係などにも関わることが多かったから、学んだことを当たり前に出来ないといけない」「友達の視点を聞いたりすることで新たな考えを持つことができた」

また、道徳のよみもの資料の中でも、特に、強い感動を与えたり、既存の価値観の変容を促したりした資料が、生徒の「印象に残っている（良かったと思う）」資料となった。生徒の反応が強く出た資料5点は次の通りである。

- 1 「カーテンの向こう」
- 2 「告白「耳をすませば」より」
- 3 「「いき」な江戸しぐさ」
- 4 「夜のくだもの屋」
- 5 「美しい母の顔」

クラスによって、反応にばらつきのある資料も多いが、その理由としては、個々のクラスの雰囲気、授業の中での議論の充実度、さらに輪番制のために資料を読む時期に若干のずれが生じているために実施日の生徒の状態も影響していると考えられる。

生徒が感動した資料としてあげているのは「カーテンの向こう」「美しい母の顔」など、やや、生徒の日常とはやや離れているが、人間本来の美しさに気づかされた資料である。

これに対して「告白「耳をすませば」」や「夜のくだもの屋」などの資料は、生徒に身近な男女関係や、行事などが資料に読み浸るきっかけとして働き、そこに新たな気づきや認識の深まりを促すことができた資料だと考えられる。

そして、「「いき」な江戸しぐさ」などは、一見、感動を与えたり、身近な問題ではなくとも、視覚資料や授業展開の工夫を行ったりすることで、しっかりと生徒の認識の広がりや深まりを与えることが出来た好例であると言える。

## 5. おわりに

今回、学校単位での道徳教育のあり方の改善が行われ、それを受けて学年の教師の工夫の元に、1年間の道徳授業の実践を行ってきた。その成果は上記の生徒の言葉に表されていると考えられる。

しかしながら、実際に、道徳的価値との多様な出会いを通して、生徒の中にどのような自己認識、自己展望が生まれたのか、そして、そのことがどのように生徒の生き方に影響を与えたのかを、今の段階で正確に計ることは難しいのかもしれない。それでも、様々な人の生き方や考え方には出会い、教師と生徒が共に語り、考えた時間の積み上げは、双方に、経験や記憶として残っている。これらの経験が、教科や行事の学びと共に、子ども達がこれから世界を創っていく際に活かされるのは間違いないと考える。

## 第4報：第3学年における実践事例

### 1. はじめに

文部科学省の中央教育審議会が2014年10月21日に道徳を「特別の教科」として正規の教科に格上げをする答申を行った。これは、早ければ2018年度からの導入を目指すものである。「昨今大きな社会問題となっているいじめの防止の観点からも、人間の在り方に関する根源的な理解を深めながら、社会性や規範意識、善悪を判断する力、思いやりや弱者のいたわりなどの豊かな心を育む心が求められている」(2013年、文部科学省)の観点から、新たな枠組によって提言されたものである。

これに伴い、大阪教育大学附属天王寺中学校における平成26年度の道徳教育の研究テーマも、「既成の指導案に『自己認識』発問を加味する効果」に設定された。

現在、道徳の位置づけは、国語や数学などのような教科ではない。現在の道徳は学習指導要領において「道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものである」とされている。つまり、「道徳」の時間にのみ囚われることなく、学校生活全てにおいて道徳を行っているといつても過言ではない。それに伴い、教材も「読み物教材」のみならず「ワークショップ型」が存在しても、何ら不思議ではないと思われる。そのような中、本校の道徳教育においては「読み物教材」を扱っている。では、なぜ「読み物教材」なのか。これは、道徳教育における「体験」、つまり、直接的あるいは間接的経験資料によって、「自分だったらどうだろうか…」と生徒自身が問いかけをし、また自他理解も深まりやすいからだと考えられる。そこで、年間指導計画を立て、平成26年度の道徳教育の研究はスタートした。

対象は中学3年生である。しかし、年間指導計画通りにはできなかったのが現状である。1週間にわたり修学旅行、実力テストを含む定期考査、体育大会・学芸会や音楽会などの学校行事などにより、道徳の時間を確保すること自体が困難となった。道徳の授業で実施されなければならないとされる24項目を全て実施したかと言われば、「NO」である。しかし、先述した「道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものである」に鑑みた時、24項目は実践できたと考えられる。例えば、本校の修学旅行である。修学旅行では、1週間、乗鞍高原において生活をする。乗鞍高原という大自然の中で、非日常的な自然体験活動を行う。これにより、「自然体験活動などの豊かな体験を通して」と『学習指導要領』にもあるように、道徳教育における「体験」において、子どもたちの内面に目指した道徳性の育成が図られたのではないだろうか。

本実践集で用いている教材は、子どもたちに「生き方を考えさせる力のある読み物教材」である。本校3学年担当のそれぞれの教員が、既成の指導案に『自己認識』発問を加味することにより、子どもたちが自分の変容に気付くことのできるものである。本実践が、教育現場において、今後の道徳教育の一助となれば幸いである。

## 2. 年間実施授業一覧

1	土曜日の朝に	10	学ぶということ
2	巣立ちの歌や声が聞こえる	11	ライバル
3	アイツの進路選択	12	二人の弟子
4	やさしいうそ	13	山寺のびわの実
5	おはようございます	14	ウサギ
6	莊川桜	15	形
7	一冊のノート	16	漆と和紙
8	天職に生きる	17	監督がくれたメダル
9	もっとも悲しむべきことは、病めることでも貧しいことでもなく	18	自由の意味

## 3. 各教員の実践及び自己評価

授業者：吉村 昇

### ①指導案

#### 1. 主題：試練が育てる友情

人は誰でも自分を理解し、受け入れてくれる存在を求めている。たいていの場合、それは家族であろう。家族の愛や支えは人生に欠かせないものである。しかし、家族では理解できない、むしろ家族だからこそ理解し得ないこともある。ゆえに私たちには家族以外の理解者、すなわち友の存在が不可欠なのである。人生において、真の友の存在は生涯の宝物ともいべき、かけがえのないものである。指導にあたっては、友情の尊さを理解し、信頼と敬愛の念に支えられた互いを高め合える友情を育もうとする態度を培うことが大切である。

#### 2. 資料名 ライバル

3. ねらい 真の友情や友の尊さを理解し、信頼と敬愛の念に支えられた友人関係を築こうとする態度を育てる。

4. 内容項目 2-(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち、互いに励まし合い、高め合う。

#### 5. 展開

生徒の活動	授業者の活動・評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちという存在について考える。</li> <li>・友だちのかけがえのなさを知り、本時の学習課題を意識する。</li> <li>○資料を読む。</li> <li>○啓介と康夫の関係について確認する。</li> </ul>	<p>あなたにとって友だちはどういう存在ですか。</p> <p>・「一緒にいて楽しませてくれる存在」「励みになる存在」「悩みの相談にのってくれる存在」など</p> <p>啓介から見た康夫、康夫から見た啓介はどんな友だちなのだろう。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・よき友人でありながら、ライバルでもある二人の、互いへの複雑な心情を押さえる。</li> </ul>	<p><b>【啓介→康夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「苦手意識がある」「目標」「いつか勝ちたい」など</li> </ul> <p><b>【康夫→啓介】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いいライバル」「啓介がいるから頑張れる」「ずっと負けたくない」など</li> </ul>
<p>○病に倒れた康夫の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人の友情を崩しかねない試練が訪れたことを理解する。</li> </ul>	<p>入院してから水泳ができなくなった康夫は、啓介に対してどんな気持ちをもったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「これでは啓介に抜かれてしまう」「病気で負けるなんて悔しい。なぜ啓介は泳げて自分は泳げないのか」「啓介がうらやましい」「啓介は自分の病気を喜んでいるのではないか」など</li> </ul>
<p>○康夫の見舞いに行けない啓介の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・啓介、康夫ともに、まず自分のことを優先して考えてしまう弱い心を持っていることに気づく。</li> </ul>	<p>啓介は康夫の見舞いに行こうと思いながらも足が向かなかったのは何故だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「心のどこかで康夫の病気をほっとしている自分がいたから」「康夫に会っても何と言って励ませばいいのか分からなかから」「康夫に自分のやましい心を見透かされそうな気がしてこわかったから」など</li> </ul>
<p>○見舞う啓介の手紙を書く康夫の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・眞の友情は相手に対する敬愛の念がなければならないことを理解する。</li> </ul>	<p>どんな思いが啓介を見舞いに行かせたのか、またどんな思いが康夫に手紙を書かせたのだろう。</p> <p><b>【啓介】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の心の汚さを詫びたいような気持ち」「康夫との友情を大切にしたいと願う気持ち」「一瞬でもほっとしたしまった自分を恥じる気持ち」「康夫に元気になって欲しいと思う気持ち」など</li> </ul> <p><b>【康夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「啓介の真心を受け止められなかった自分を恥じ、詫びたい気持ち」「啓介との友情を大切にしたいと願う気持ち」「自分の分まで啓介に頑張って欲しいと思う気持ち」など</li> </ul>
<p>○友情について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いを励まし合い、高め合い、協力を惜しまない関係を築くことの大切さに気付く。</li> </ul>	<p>眞の友情とは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「互いに励まし、高め合うこと」「心を許しあえる信頼関係を築くこと」など</li> </ul>
<p>○文章化をする。</p>	<p>この時間に学んだことや考えたことをまとめてみよう。</p>

## ②自己認識発問の修正の意図

自己認識発問とは、登場人物として「具体化」されることと考える。「抽象化」とは、「具体化」を「統合」した姿であると捉えてみた。つまり、今まで別のものと思っていたことが、実は関連していたり、同一のものであったりすることに気付く。「抽象化」するからこそ繋がる一本の線が見えてくる。人は自分の価値観や道徳律を、ものごとを抽象化することで形成すると考えた。そこで、自己認識発問を「抽象化」する発問として捉え、「真

の友情とは何だろう」としてみた。

指導者：印南 航

①指導案

1. 主題名：内容項目 2-(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。

2. 資料名：『おはようございます』(自分を考える 3 廣済堂あかつき株式会社)

3. 主題観：

中学生の時期は、礼儀の大切さについてある程度理解し、言葉使いや行動の仕方もある程度身につきつつあるものの。まだ、十分習慣化しているとはいえない。また、この時期は、一時的な傾向として、従来からのしきたりや形に反発する傾向が強くなったり、照れる気持ちやその場の状況に左右されたりすることによって、望ましい行動ができなくなることも見受けられる。そこで、日常生活において、時と場合に応じた適切な言動を体験的に学習するとともに、形の根底に流れるその意義を深く理解できるようにすることが大切である。

4. ねらい：

主題のねらい

礼儀の意義を理解し、人間尊重の精神をもって時と場にふさわしい言動がとれる判断力を高める。

本授業のねらい

あいさつにこめられた相手へ対する敬意より、礼儀の意義を理解し、あいさつを通して、時と場に応じた言動がとれるようになる。

5. 展開

	学習内容	学習活動 発問(○) 修正した発問(◎) 予想される反応(□)	指導上の留意点
導入	・普段のあいさつについて考える。	○朝、「おはようございます」とあいさつをされるとどんな気持ちになるだろう。 □ すがすがしい気持ち。 □ 元気が出る。	・実体験より、あいさつから受ける印象を振り返らせる。
	・筆者の心情を通してあいさつの力を考える。	○ 筆者は、女子生徒のあいさつがどうして「気持ちよかったです」と感じたのか。 □ 見知らぬ人にでもあいさつする態度に感心したから。 □ あいさつは人を気持ちよくさせるから。	・女子生徒の礼儀正しさに対する筆者の感心に加え、あいさつそのもののすがすがしさにも気づかせたい。

	<p>・あいさつの根底にある礼儀の精神について考える。</p> <p>・あいさつには必ず相手がいることを知る。</p> <p>・時と場に応じた適切なあいさつができるか考えさせる。</p> <p>・自分のあいさつをされた経験を振り返る。</p>	<p><input type="radio"/> 私たちは何のために「あいさつ」をするのだろうか。</p> <p><input type="checkbox"/> 互いに気持ちを通じ合わせることができるから。</p> <p><input type="checkbox"/> 礼儀として当然だから。</p> <p><input type="checkbox"/> お互いの敬意を伝えるため。</p> <p><input type="radio"/> あいさつをする上で、必ず必要なものは何だろう。</p> <p><input type="checkbox"/> 相手がいないとあいさつできない。</p> <p>&lt;自己認識発問&gt;</p> <p><input type="radio"/> 自分の生活を振り返り、どんな場面で、どんな「あいさつ」をすればよいか。</p> <p><input type="radio"/> 今までに気持ちよかったと思えるあいさつをされたことがあるか。</p>	<p>・筆者の経験を踏まえて考え、あいさつにこめられた相手への敬意に気づかせたい。</p> <p>・社会の中で生きていく上で、あいさつは必要なものであることを気づかせる。</p> <p>・自分ができていないところ、もっと意識しないといけないところを捉えさせる。</p> <p>・どういうあいさつが気持ちよかったのか、再認識させる。</p>
終末	・教師の話を聞く。	感じたことをまとめ、感想を書く。	

## ② 自己認識発問の修正の意図と効果

今回の指導案において、自己認識発問として、最終発問で『自分の生活を振り返り、どんな場面で、どんな「あいさつ」をすればよいか。』という発問を入れた。この発問では、あいさつをする上で、自分自身が意識していないこと、また時と場にふさわしいあいさつができていないことを再認識させ、礼儀の意味を理解し、今後の自分自身のあいさつに活かすことをねらいとした。しかし、生徒の反応を見ると、授業の流れとはあまり関係なく「毎朝おはようございますと言う。」「物を取ってもらったらありがとうと言う。」といった単純な返答が多く、自分自身のあいさつについて、十分に振り返っているかわからない状況が多く見られた。

このような単純な返答が多く見られた要因について考えると、一つは自己の否定的な部分の振り返りというものが先行にきたことが要因ではないかと考えられる。そのため、中学生には反省だけに終わり、その結果『形』だけの返答になったのではないかと感じた。また、もう一つの要因として、中学生にもなれば、ある程度自分自身のできていないことも理解しており、特に感動もなければ、気持ちのない単純な言葉だけの振り返りになるということも考えられた。最終発問に至るまでの間に、予想外の感動があり、その時点で自己の振り返りができていれば、単純に自分のできていないことの振り返りをさせてても意味があったかもしれないが、今回の授業においては、残念ながら最終発問に至るまでの過程の中で、生徒に十分な感動を与えることができなかった。その結果として、発問の意図とは違う単純な返答が多く見られる結果になってしまった。

そこで、指導案の修正として、最終発問を『今までに気持ちよかったですと思えるあいさつをされたことがあるか。』という発間に修正した。修正前の発問では、自分自身のできていないことの振り返りから、今後の自分自身のあり方について考えさせたが、この発問では、他者から得られた感動の振り返りに重点を置いた。このように発問を修正した意図は、他者の肯定的な部分の振り返りを重点に置くことにより、単純な自分自身の反省だけに終わらせないこと、また、他者の行いを振り返らせる中で、資料を通した学習では得ることのできなかった感動を得ることをねらいとした。

修正後の反応としては、「朝会ったらおはようございますと言われた。」、「物を取ったときにありがとうございますと言われた。」といったように、修正前と同じような反応が見られたが、ただ異なる点としては、全てにおいて、細かい場面・状況・そのときの様子・しぐさが書き記されていたことである。このことは、振り返りという点で、自己を否定するときよりも、よりじっくり自分の経験を振り返られているのではないかと感じた。また、一つ一つの返答に対して、「なぜそう感じたのだろう。」と追加の発問をしていくことにより、単に言葉だけでなく、その時の立ち居振る舞いも大切であるということ再認識させることができ、『言』だけでなく『動』も大切であるということに気づかせることができた。

感想として、教師の授業レベルにもよると思うが、「できないことを正していく。」よりも「良い行いを真似る。」ことの方が生徒には受け入れられやすいのではないかと感じた。

最後に本授業での板書写真（修正前のみ）を以下に掲載する。

<板書写真（指導案修正前）>



指導者：奥田裕香

①指導案

1. 主題名：家族愛 4- (6)
2. 資料名：「一冊のノート」（「中学生の道徳3」あかつぎ より）
3. 主題観

自分がこの世に在るのは父母や祖父母、そして先祖がいるからであり、また家族から沢山の愛情を注がれて育てられたからであることに気づかせることが重要である。そのことを通して、自分の世話をし、愛情をもって育ってくれた父母や祖父母に対し感謝することが必要である。今日、家族によって置かれている状況は様々であるが、その家族の一人一

人が互いに愛情と信頼、そして深い絆で結ばれていることが大切であると再認識することが、家庭生活をより円滑にすることになる。

#### 4. ねらい

最初、日ごとに老いやく祖母の態度・様子・言葉を、腹立たしく感じていたが、そのうちに祖母を心配するようになっていく主人公。ある日、祖母の一冊のノートをきっかけに自分や弟・家族に対する祖母の愛情に気づく。この話を通して、老いた祖父母も考え方を持って生活していること、そして、家族は愛情で結ばれ、一人一人が家族の一員として互いに支え合って生活すべきだということに気づかせたい。

#### 5. 指導過程 [○発問 ●修正発問 ◎中心発問]

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	留意点
導入	本時のねらいへの関心を持つ。	○あなたにとって祖父母はどんな存在ですか? ↓ ●祖父母と一緒に住んでる人?(挙手) あなたの祖父母ってどんな人? 今日は祖父母について考えてみよう。	簡単に本時の課題への意識づけをする。
展開	【資料を読む】 祖母に対する「ぼく」の気持ちを考える  外で祖母をみかけた「ぼく」の思いを考える。  変化しつつある「ぼく」の心境を考える。	発問1○問題集をなくされた「ぼく」は、おばあちゃんに対してどんな思いを抱いただろう?  ↓ 発問2●学校帰り、薬局の前で奇妙な格好をした祖母を見たとき、「ぼく」はどう思っただろう?  ↓ 発問3●晩に、父に相談した「ぼく」の気持ちはどんなだろう?	片付けでもらっておきながら、腹を立てる「ぼく」をおさえる。  友だちに笑われたことで祖母への不満がつのる「ぼく」の気持ちをおさえる。  祖母の深刻さを父に相談し、家族として事の重大性を考える「ぼく」の気持ちの変化をおさえる。
	祖母のノートを読んだ「ぼく」の心境を考える。	発問4◎最後のページに、ぽつんとにじんだインクのあとを見たとき、「ぼく」はどう感じただろうか?	ノートとにじんだインクの関係を押さえ、「ぼく」の祖母への思いの変化(感謝・反省)を考えさせる。
	祖母に対する「ぼく」の これからの思いを考える。	発問5○だまって祖母と並んで草をとる「ぼく」は、心の中でどんなことを考えていたのだろう?	「ぼく」の反省及び、これからのお母に対する思いについて考えさせる。
まとめ	文章化	○この時間に感じたこと、考えたことをまとめてみよう。(自分の経験を含む)	祖父母に感謝・世話をなった経験を振り返り、これからのお母に対する接し方を書かせる。

## ②自己認識発問の修正の意図と効果

導入●：祖父母が「どんな存在か」よりは「どんな人ですか？」の方が、生徒の反応がよかったです。また、祖父母と同居している生徒に聞く方が、祖父母の性格やそれに伴う具体的な活動や生徒との関わりが答えとして返ってきたので他の生徒にも理解しやすく、本文に入りやすかった。

発問2●：祖母の帰りを待っている気持ちを考えさせるよりは、祖母の姿を直接見たときの「ぼく」の気持ちを考える方が、祖母に対する不満な気持ちを直接的に考えやすかったので修正した。

発問3●：「もうやめろよ」と弟を制することで祖母のことを客観的に見るぼくの気持ちを考えることと、祖母の事態の深刻性を父へ相談するぼくの気持ちを考えると2つのことを考えさせることになるので、ポイントを1つに絞る（時間配分考慮含む）ため修正した。

### 【自己評価】

この『一冊のノート』は、登場人物の心情を押さえる上では、登場人物の気持ちや心の変化が比較的よく書かれている資料であると思われる。資料によっては意見が出にくかったり、限られた数の生徒の意見しか聞けなかったと悩むことがあるが、この『一冊のノート』は、生徒からの意見は比較的出やすく、反応は普段より得られた。しかし、生徒によつては、祖母のノートにあった「にじんだインクのあと」がどんなことをとつさに理解できなかつたため、それを他の生徒を通して確認するということもあつた。また、クラスによつては、祖母と並んで草とりをしている「ぼく」の祖母に対する感謝・反省の気持ちが出てくるが、祖母へのこれから決意が意見として出にくかったということもあつた。

授業の最初にクラスで何人が祖父母と同居しているかを確認したが、40人中およそ4人前後であった。家族生活の中で日々祖父母と関わりを持たないで生活する生徒の率が高いのも祖母へのこれから決意を考えた意見が少なかつた理由ではないかと思われる。今日、生徒をとりまく様々な家族環境が考えられるが、今回の授業を通して、生徒の祖父母との関わり方や祖父母に対する感じ方にかなりのばらつきがあることは間違いないと言える。また、最後のまとめの生徒が書いた祖父母との経験も多い・少ないというばらつきもあつた。授業終了後、ワークシートを回収し、それに目を通した後、生徒同士が互いに考え方を共有できるような機会を設けた方が良いと強く感じた。

指導者：射手矢 明 ※岸和田市立常盤小学校

### ①指導案

1. 主題名「アイツの進路選択」 出典「中学生の道徳3年あかつき」
2. ねらい

本教材は内容2の（4）をうけて教材化されたものである。

(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。

学芸会では恋愛のあるシナリオを演じるクラスもあり、生徒達は異性に対する知識や考え方を独自に展開していくようになっている。しかしながら、興味本位のゆがんだ情報や間違った知識をそのまま無批判に受け入れ、間違った考えを持ち、行動に走りやすい時もある。

そこで、改めてクラス全体で恋愛についての様々な考えを出し合い、異性の特性や違いをきちんと受け止め、相手の人格を尊重する姿勢を育成したい。また、男女がお互いの信頼と敬愛の念を育み、互いに向上していく関係をこの教材の学習を通して共創させてていきたい。

### 3. 主題観

生徒には人気のある「アツ」シリーズの第3弾である。今まで夏樹に押され気味な真一であるが、志望校と同じ北西高校に行こうとしていた。しかし、中学3年生の進路選択においては今までとは違った主体的に自分の進路を考えようとする真一である。真一は、自分のやりたいことを探すために水明高校に志望校を変える。このような真一の変化に戸惑う夏樹が、進路を真一に合わせようとする話しの展開になっている。

実際に授業を受ける生徒達も進路選択の時期と重なっていて、この話と自分が重なりやすいため、自分の事として考えやすい教材である。

### 4. 自己認識発問の修正の意図と効果

既成の指導案では真一と夏樹の思いを考えながら話の内容を整理し、主発問は「二人が互いに相手を思っているなら、これから二人はそれぞれどうすべきだろう。」となる。生徒達は、話しの流れに沿いながら二人の関係が良くなる方向に考えようとするため自分たちにとっては少し切実感に欠ける形で自己展望につながるっていくようになっている。そこで、この主発問を「二人の交際は（同じ進路先の）水明高校でも続くでしょうか。」と二人にとっては否定的な視点を与える発問し、二人の関係が破綻する状況を考えさせ、その考えをもとにして具体的に二人の関係が良くなる方法へ思考を導きたいと考えた。

### 5. 学習展開（※既成の指導案に加味した事）

	学習活動	生徒の反応	指導上の留意点 資料
導入	<ul style="list-style-type: none"><li>理想の異性像を考える。</li></ul>	<p>理想の異性はどんな人ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>一緒に居て楽しい人。</li><li>言葉で人を温かくする人。</li><li>優しくて自分を持っている人。</li><li>明るい人。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>学習課題への意識づけとする。</li><li>内面的な要素について考えられるように助言する。</li></ul> <p>※男子は理想の女子を考えさせた。</p>

	<p>・資料を読む</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>真一が志望校を告げると夏樹はショックを受け、走り去った。それぞれどんなことを考えていたのだろう。</p> </div>	<p>・進路について二人の考え方方が異なっている点を理解する。</p>
導入	<p>・志望校で悩む二人の気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>夏樹の進路変更を知らされた真一はどう思ったのだろう。</p> </div> <p>・夏樹と真一の進路に対する考え方の違いを捉える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>二人が互いに相手を大切に思っているなら、これから二人はそれぞれどうするべきだろう。 ※実際の自己認識を加味した発問 二人の交際は水明高校でも続くでしょうか。</p> </div> <p>・二人にとってのよりよい道を検討する。</p>	<p>【真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやりたいことを確認したいのに。</li> </ul> <p>【夏樹】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ高校に行くと言ったのに。</li> </ul> <p>※さらにこのように考える二人をどう思うかも考えさせた。</p> <p>・冷静さを失っている夏樹と真一の驚きをおさえながら、真一の進路に対する考え方を明らかにする。 ※さらにこのように考える二人をどう思うかも考えさせた。</p> <p>・よりよい異性関係の在り方について考えさせる。</p>
終末	<p>男女の交際において、本当に相手のことを大切にするというのはどういうことだと思うか。考えをまとめてみよう。 ※実際の発問 男女の交際において、一番大切にしなくてはならないのは何だと思いますか。</p>	<p>・相手を理解し、信頼と尊敬の念を深め、互いに向上することの大切さに気づかせたい。</p>
	<p>・ワークシートに自分の考えを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの思い</li> <li>・相手のことを理解すること</li> <li>・相手を尊重すること</li> <li>・自分を見失わないこと</li> <li>・お互いを思い合うこと</li> <li>・相手の考えをくみ取ること</li> </ul>

(板書写真)



指導者：古川ルミ

①指導案

1. 主題名 寛容の心（2—（5））
2. 資料名 「山寺のびわの実」（廣済堂あかつき株式会社『中学生の道徳 自分をのばす3年』より）
3. 主題観

私たちはそれぞれに異なる立場があり、異なるものの見方、考え方をもっている。同じような経験をした人であっても、その人の立場に立つことはできない。その人の立場に立て物事を考えたり、その人の心に寄り添うことが精一杯であろう。中学3年生ともなると、自分なりのものの見方や考え方をもつ。相手の立場や考えを尊重することで、多くのことが学べるということを考えるきっかけ作りに適した資料を通し、広い心の意味を知る。

4. 資料観

本資料は、「甚太」の心の揺れと、ある出来事を介してからの「甚太」の心の変化などを描寫した民話調の作品である。人はそれぞれに、個性がある。また、その個性は、人によって様々である。そして、その個性や相手の立場を尊重することは、子どもたちが今後、社会生活を送るうえで重要なものである。しかし、相手の存在や考え方などを尊重し、相手の人格までをも認めるということを「個性や立場を尊重し」（文科省・『中学校学習指導要領解説道徳編』）とするならば、人にはそれぞれ異なる価値観があり、それが「個性や立場を尊重し…」における価値認識の基準となることに、気づかせなければならない。

この資料では、甚太を通して、人は、自分自身が判断基準となり、それに伴う心の動きがあることを示す一方、人の内面や生き方に触れることにより、心の変容や行動の変化ということを示している。じっくり読み聞かせながら、授業者や子どもたち自身の生活に鑑みつつ、授業を展開していくとよいと思われる。

## 5. 指導観

人はそれぞれに異なるものの見方や考え方をもっている。その見方や考え方、あるいは育ってきた環境の違いなどから、苦手意識をもち、疎遠になることもあるかもしれない。いや、人であれば、きっとあるに違いない。では、もし、あなたが文中の甚太なら、私が甚太なら、どうするだろうか…。人の心は移ろいやすいものである。その移ろいの奥底に、何が宿っているのか、またどういう変化が起きたのかを考えたとき、甚太の行動は手に取るように理解できるはずである。人は変わることができる。しかし、人に変われというのには困難である。では、どうするか。自らが変わればよいのである。ここでいう、甚太のように…。中学3年生という時期の、揺れる心を持ち合わせる子どもたちに、自らも認めつつ他者をも尊重する、寛容の心を持ち謙虚に学ぶ姿勢を捉えさせたい。

## 6. ねらい

相手の立場に立って物事を考え、それを全て受容する寛容な心と、それに気付く謙虚な心を、甚太と山寺の和尚さんを通じて子どもたちに気付かせる。また、それらの心を、この資料から感じ取ることで、寛容な心と謙虚な心を育成することを、ねらいとした。

## 7. 展開の大要

### 【○ … 生徒の反応予想 太字斜体 … 指導案とは異なる追加した発問】

	学習内容(主な発問と反応予想)太字は追加した	指導の意図・留意点
導入	<p>【導入設問1】この曲を聴いて感じたことは何ですか。 この曲のタイトルは何だと思いますか。 ○ ワルツの曲 など</p> <p>【導入設問2】ほかの人の立場や考え方を理解していない自分に気づいたことはありますか。 ○ ある ○ ない</p>	CD「ギロチン」を聞くことにより、人それぞれに異なる見方や考え方があることを理解させる。
	<p>【資料を読む】</p> <p>【設問1】甚太はどのような気持ちで、和尚に対し「性分に合わねえ」といっていると思いますか。 ○ お経をあげるだけでろくに仕事をしない など</p> <p>【設問2】荷馬車で和尚を倒した甚太は、家に帰ってどんな気持ちだったでしょうか。 ○ 少しやりすぎた。でも、和尚が邪魔だったから、仕方がない など</p>	気が合わない人がいるのは誰でも同じで、甚太のような気持ちは、自分の中にあるとして促す。
展開	<p>【設問3】甚太の心が変化したのは、なぜですか。</p>	和尚が気に入らない甚太は、自分が悪いにも関わらず、正当化しようとしている。
	<p>【設問4】それは甚太が、何に気づいたり触れたりしたからですか。</p>	さえと竹庵の話の中から、甚太に足りなかつたものを知らせる。

終 末	【設問5】ほかの人の立場や考え方を理解していない 自分に気づいたことはありますか。	自分自身の生活と照らし合わせて考え させる。
	【設問6】もし自分自身と違う立場や考え方の人と接す ることがあったとしたら、あなたならどうしま すか。	

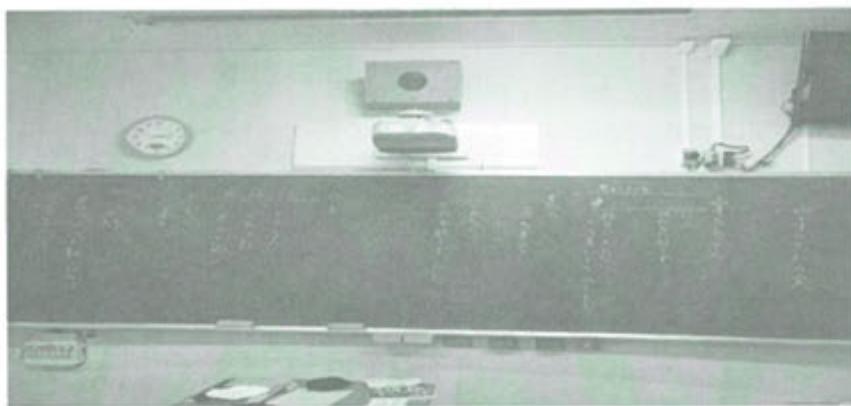
## ②自己認識発問の修正の意図と効果

今回の資料である「山寺のびわの実は民話調の読みもの教材である。しかも、長文である。では、なぜこの資料を扱ったのか。それは、「偉人」を描いたものではないからである。授業者としての意図は、そこにある。つまり、物語的な読みものの教材を通して、子どもたちに、心における疑似体験をさせたかったからである。

本文の登場人物である「甚太」は粗暴で嫌われ者として描かれている。それとは対照的に、「山寺の和尚さん」は人望があり誰からも好かれる人柄として描かれている。この2人の人物の背景に見え隠れするものとは一体何であろうか。2人の職業が、さらにこの人格を際立たせるキーワードとなっていると言っても過言ではないだろう。甚太は荷馬車引きである。山寺の和尚さんは僧侶である。この描写からも、肉体的な力の差などを伺いしることができる。しかし、甚太は本当に何の理由もなく、粗暴だったのか。文中には、「娘のとめの死」が原因と記されている。人はいずれ亡くなる。それが早いか遅いかだけである。天寿を全うしたと言われば、とめもそうなのであろう。しかし、親よりも早く亡くなってしまった娘に対して、甚太はその悲しみのもって行き場がなかったと文中から推察できる。それが、この甚太の言動の根底にあると考えられる。誰にでも、認めたくない事実がある。ましてやそれが「娘の突然の死」、しかも「不慮の死」だとしたら、計り知れない悲しみの淵に追いやられても無理はないであろう。その悲しみを、山寺の和尚さんは知っていたのかもしれない。そこで授業者は、設問3「甚太の心が変化したのは、なぜですか」、設問4の「それは甚太が何に気づいたり触れたりしたからですか」という「自己認識」発問を加味した。それは、山寺の和尚さんが甚太の気付かないところで、甚太の心に寄り添ってくれている、そして甚太の悲しみも含めた全てを寛大な心で包み込んでいることを、子どもたちに気付いてほしいと考えたからである。そして、その和尚さんの寛大な心に気付く謙虚さを、甚太もまた、もっていたことに気付いてほしかったためである。この2つの設問に対し、子どもたちの多くは、「甚太は和尚さんの優しさに触れたから」と捉える傾向があった。また、甚太が改心したために、その後の甚太の言動が穏やかになったと捉えたようである。子どもたちがこのような反応を示したのは、資料に対し、文面通りに受け止めているからだと考えられる。つまり、「文章の裏を読む」という作業が伴っていないからである。それはなぜか。子どもたちによる「日常生活による体験の不足」が挙げられる。核家族化社会において、祖父母などとの別居が増加している。それに伴い、古くから続く人間の営み自体を、子どもたちが目の当たりにする機会が減少したためだと思われる。

今後の展望として、子どもたちの日常生活や学校生活における体験と結びつけながら、子どもたちの心を揺さぶる道徳授業の在り方を追究していきたい。

写真：「山寺のびわの実」 板書例



#### 4. 生徒の反応

2018年の道徳の特別の教科化に伴い、「評価」問題が有識者会議などにおいて、活発に議論されている。教科ともなれば評価されるのは当然のことであるが、子どもたちの道徳性の育成をいかに図るのかが問われる。今回、本校においては、全学年共通のアンケート調査を実施することにより、発達段階別による子どもたちの道徳性の育成について計測することとした。

アンケート項目は2項目である。まず、「1年間の道徳の授業の中で、印象に残っている（あるいは良かったと思う）資料を3つ選び、その理由を答える」、もう一つは「道徳の時間でどのようなことを感じたり、考えたり、学んだのか」を答えるものである。いずれも、記述式であり複数回答とした。アンケート調査は1年間の道徳の授業を終えた2015年3月に実施した。アンケート調査の分析結果を表1に示す。

表1：印象に残っている資料の分析結果（445件中）

★複数回答可（1人3件まで）

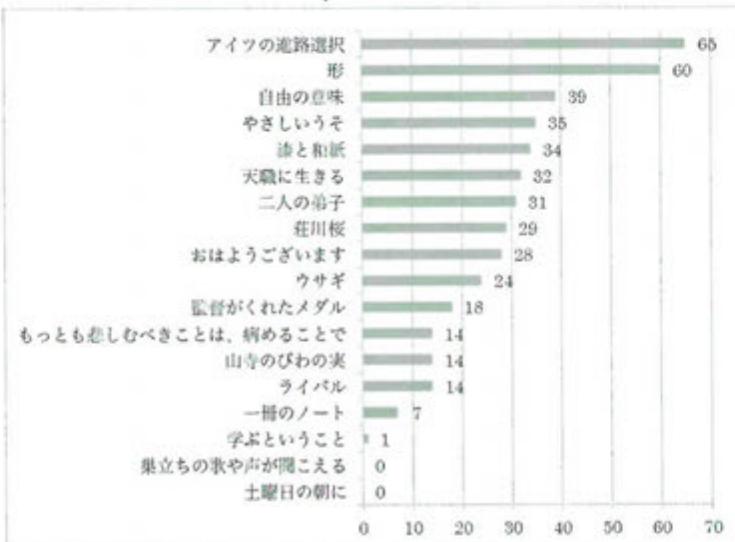


表1から、「アイツの進路選択」と「形」が、群を抜いて子どもたちの印象に残っていることが明らかとなった。これには、次の理由が挙げられる。まず、「アイツの進路選択」に関してである。子どもたちが記述した理由には、「自分と同じ年の人気が主人公だから」、「進路選択は、自分にも関係があるから」という回答が大半を占めていた。また、「形」に関しては、「形は3年の国語の授業でも習ったから。」や「教育研究会で授業をしたから。」という回答が大半であった。このことから、道徳の授業における資料選びの重要性が浮き彫りとなった。つまり、子どもたちの日常に近い読み物の資料を用いたり、設定された環境下における授業においては、子どもたちが「考えながら読み」「読みながら考える」(村上, 1973), いわゆる認知的作業を行うことができると考えられる。しかし、表1の分析結果が信頼性のあるものかというと、疑問が残る。なぜなら、子どもたちの理由記述において、「一番最後に行った道徳の資料だったから、印象に残っている」というものが多くあつたためである。これは、このアンケート調査の実施時期が影響するものと思われる。また、読み物の教材ではあるが、視聴覚教材を併用することにより、子どもたちの心に深く残った資料も多くあることが分かった。次に、「道徳の時間でどのようなことを感じたり、考えたり、学んだのか」を答えるものである。これは自由記述形式である。「人生の色々な生き方が分かった」「クラスメートの意見を聞いて、自分の考えを深められた」「人としてどうありたいかという自分の気持ちを少し見ることができた」「周りの人を思いやる心や大切に思う気持ちを学んだ」など、子どもたちは自らの生き方に対して前向きに考えていると思われる。

子どもたちへのアンケート調査から、本年度の本校の研究テーマである「既成の指導案に「自己認識」発問を加味する効果」は、一定以上の成果がみられたと思われる。今後も、子どもたちが授業で活躍ができ、自らの生き方を考えられる授業を追究したい。

## 5. おわりに

本校の平成26年度道徳授業の研究テーマは、「既成の指導案に「自己認識」発問を加味する効果」であった。換言すれば、「もし、自分自身が○○の立場だったらどうであろうか。」ということを考えさせる発問を、いかに子どもたちに投げかけるかである。筆者の個人的な考え方の一つに、「道徳教育とは、人がいかにして生きるのかを学ぶものである」がある。また、発達段階に応じた道徳教育の重要性も無視はできないと考えている。なぜなら、道徳は、子どもたちの日常生活における体験や、それに伴う心の成長と切り離すことができないからである。それは、アンケート調査における生徒の反応の分析からも明らかである。子どもたち自らが体験したことや自らの置かれている立場が、道徳で行われる読み物の資料と重なり合ったとき、子どもたちは自ら思考し判断し、感受性豊かにいかに生きるのかを、自らの心に問うであろう。しかし、「道徳」にも基準はある。例えば、24項目に示されているような内容は、いかに生きるのかを学ぶための基準として設定されていると考えられる。だが、それらを子どもたちが日常生活において実践するとき、自分なりに具体的に考えて行動することが求められる。つまり、授業者が子どもたち自身に道徳的価値観を押しつけるものではない。そのための、「既成の指導案に「自己認識」発問を加味する」である。

第4報は、本校における中学3年生に向けて実施した、道徳授業の実践の報告集である。

義務教育課程の最終学年として生活する子どもたちに対して、「人がいかにして生きるのか」を道徳という枠組みの中で問うチャンスも、これが最後である。だからこそ、「もし自分自身が○○だったらどうであろうか。」と問うことにより、子どもたち自身に考えさせたいのである。その答えは、今すぐ見つかるものではないであろう。子どもたちの歩む将来において、困難に遭遇してしまったときに、その答えが見つかるかもしれない。また、一生、答えが見つからないものがあるかもしれない。しかし、今回の道徳の授業での出来事が、子どもたちの脳裏の片隅に覚えられていることを期待してやまない。

また、道徳の授業は教員が1人で創り上げるものではない。学年団はもちろんのこと、その授業において子どもたちとともに創造するものであると、筆者は考えている。だから、道徳の授業に関して教員が1人で悩む必要はないのである。

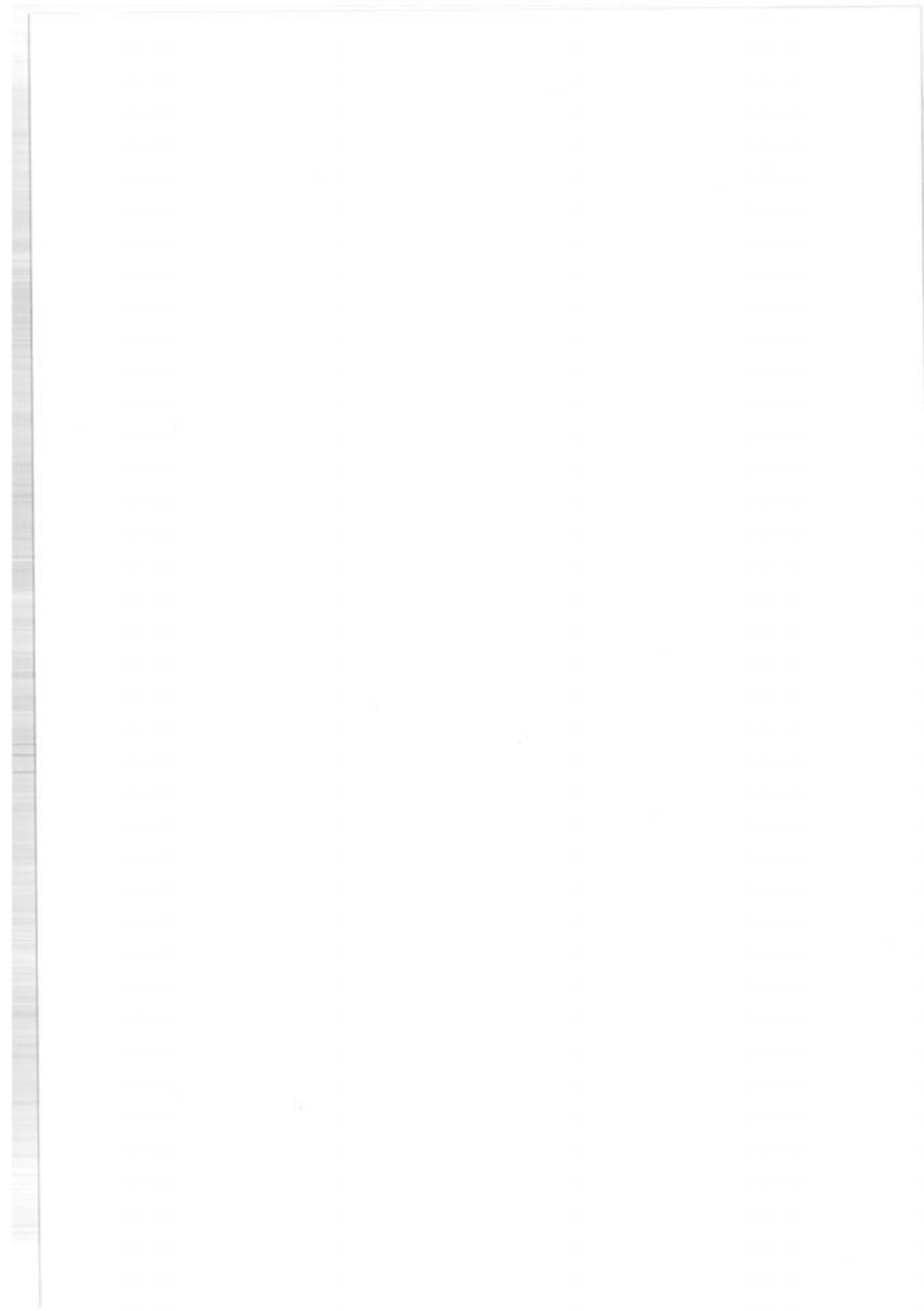
最後に、この『実践集第4報』を刊行するにあたり、平成26年度・大阪教育大学附属天王寺中学校の第66期生3年学年団として所属しておられた筆者を除く5名の先生方の多大なるご協力に、この場をお借りして厚く御礼申しあげる。

## The Effect of Adding "Self-recognition" Questions to the accomplished Procedures

### Research Section

These are the categorized materials by grades all the teachers at our school worked on developing our moral education which has been conducted at our school.

**Key Words :** Recognition for the value, Self-recognition, self-prospect



## 課題研究におけるループリック作成（2）

### S S H 推進委員会

河田良子 森中敏行 宮川康 甲山和美  
岩瀬謙一 糸野順一 岡本義雄

抄録：S S H 推進委員会では、課題研究のよりよい指導法および評価法として、ループリックに着目している。今年度は、S S H 校約60名の教員によるポスター評価の観点をもとに作成したループリックで、本校「生徒研究発表会」のポスターを評価し、生徒に結果をフィードバックした。

キーワード：教育評価、ループリック、パフォーマンス評価、課題研究、教員研修

#### 1. はじめに

本校では昨年度より、生徒が自主的・意欲的に研究をすすめながら自己評価・自己改善したり、指導者が自身の教育内容および教育方法を振り返るとともに、他の教員と課題研究の目的や目標についての共通認識をもったりすることをめざし、「ループリック」を用いた課題研究の評価に着目している。

昨年度は本校科学教育センターの仲矢史雄特任准教授のご助言を受け、校内研修で作成したループリックを生徒研究会のポスター評価に用いた実践を本誌で報告した。その際、成果と課題を受け、「今後の展望」として挙げたのが、次の5点である。

- ① 課題研究全般についてのループリック作成
- ② 生徒の自己改善・自己評価のしくみづくり
- ③ 「生徒」「高校教員」「研究者」の視点の比較
- ④ 効果の測定
- ⑤ 他校への普及

これらを受け、本年度はループリックについて大きく二つの試みを行った。

まず、主に①②にかかわる内容として、生徒がループリックを活用する場面を設定した。具体的には、年度当初にS S H 研究活動のループリックを提示し、毎回の活動の振り返りができるようにしたこと、および8月のS S H 全国大会のポスターを本校作成のループリックで評価させたこと、がこれにあたる。

また、主に③④⑤にかかわる内容として、全国のS S H 校教員を招いて「課題研究評価研究会」を行った。

それぞれの詳細については別の機会に述べるとして、本稿では、「課題研究評価研究会」において、全国のS S H 校の教員から出たポスター評価の観点を生かしたループリックの作成およびその本校における運用について報告する。

## 2. 課題研究評価研究会

平成 27 年 11 月 26 日、本校で全国SSH校の教員約 60 名を招き、「第一回課題研究評価研究会」を開催した。土曜の午後のみという短い時間であったが、前半に京都大学大学院教育学研究科博士課程・日本学術振興会特別研究員 大貫 守 氏による講義「パフォーマンス評価の考え方と進め方」、後半に本学科学教育センター特任教授 仲矢 史雄 先生によるワークショップ「ループリックのつくり方」を行った。

ワークショップは、本校生徒が過去に作成したポスター発表用のポスターを用いて、以下のような手順で進行した。

- ① 5~6 人でグループをつくり、各自がそれぞれのポスターを「優(3点)」「良(2点)」「可(1点)」として分類する。
- ② 黄色の付箋に「作品番号+優れている点」、ピンク色の付箋に「作品番号+改善すべき点」のコメントを記入し、それぞれの作品に貼り付ける。
- ③ グループで各作品の点数を集計して、得点順に作品を並べる。
- ④ グループで、高評価基準・低評価基準の評価要素を抽出する。黄色・ピンク色に分けて付箋を集め、関連する内容ごとに上位 3 つのグループをつくる。分類できない付箋も、別にまとめておく。
- ⑤ 各グループから抽出された評価要素を共有する。



(当日の様子)



(各グループの分類)

ダ	よい1 レイアウト	よい2 結果・実際	よい3 研究のバックグラウンド	改善1 方法	改善2 目的	改善3 レイアウト
A	目的→結果 の論理性	実験	見やすさ	論理性	実験	見やすさ
B	レイアウト アート	内容	レイアウト	内容 (実験・方法)	目的	実験の まとめ方
C	見やすさ	方法	内容	目的・論理性 (実験・方法)	見やすさ	データの強制 性・低い
D	内容	外見・見た目	そもそも意図 が不明確 (実験)方法 の不明確	考察	データの強制 性・低い	結果・考察が 不適切
E	レイアウトが 直角	ポスター表現	テーマ設定	ポスターの 構成	テーマ設定	レイアウト
F	実験・考察	テーマ設定	実験・考察	テーマ設定	実験・考察	レイアウト
G	方法・結果・ 考察	目的的 明確さ	レイアウト	目的が不明 確	考察が 不明確	レイアウト
H	ロジック	内容	見た目・レイ アウト	論理性・目的が 不明確	内容	見た目
I	わかりやすさ	テーマと実験 の関連	考察	表現(レポート (実験報告書))	方法	論理性

(評価の観点全グループまとめ)

### 3. 付箋データを活用したループリックの作成

「課題研究評価研究会」後、仲矢先生のご協力のもと、ワークショップで使用した529枚の付箋は全て、以下のようにデータ化された。

	A	B	C	D	E
1	班	ポスター番号	色	ペンの色	内容
2	A	1	赤	青	実験方法がわかりづらい
3	A	1	赤	黒	説明がわからない
4	A	1	赤	黒	考察をもっと深くできるのではないか
5	A	1	赤	黒	実験の再現性は? (不明)
6	A	2	赤	青	各々の位置によって結果に影響を及ぼしているのかどうかがあやしい
7	A	2	赤	青	標本数が少ない
8	A	2	赤	黒	実験回数、方法も工夫を
9	A	2	赤	黒	方法がわかりづらい
10	A	3	赤	青	研究目的、動機が不明
11	A	3	赤	青	レイアウトが工夫未
12	A	3	赤	黒	結果グラフの説明がほしい
13	A	3	赤	黒	自力たちか行った部分がわかりづらい
14	A	4	赤	黒	目的に対する結論が得られていない
15	A	5	赤	青	研究目的、動機が不明
16	A	5	赤	青	何をやいたいのかさっぱりわからない
17	A	5	赤	黒	"ものづくり"にならば現物の写真がほしい
18	A	5	赤	黒	研究内容がポスターからわかりづらい
19	A	5	赤	黒	考察がない、説明不足
20	A	6	赤	青	説明不足

このデータを用い、テキストマイニングソフト「KH-coder<sup>1</sup>」を用いて、以下のよ  
うな手順でループリックを作成した。

#### ① ふせんの全データを対象に、頻出 150 語を抽出して確認する。

出現回数	頻出語	出現回数	頻出語	出現回数	頻出語	出現回数	頻出語
39	研究	29	研究	28	研究	27	研究
28	研究	24	研究	23	研究	22	研究
22	研究	21	研究	21	研究	20	研究
20	研究	19	研究	19	研究	19	研究
19	研究	18	研究	18	研究	18	研究
18	研究	17	研究	17	研究	17	研究
17	研究	16	研究	16	研究	16	研究
16	研究	15	研究	15	研究	15	研究
15	研究	14	研究	14	研究	14	研究
14	研究	13	研究	13	研究	13	研究
13	研究	12	研究	12	研究	12	研究
12	研究	11	研究	11	研究	11	研究
11	研究	10	研究	10	研究	10	研究
9	研究	8	研究	8	研究	8	研究
8	研究	7	研究	7	研究	7	研究
7	研究	6	研究	6	研究	6	研究
6	研究	5	研究	5	研究	5	研究
5	研究	4	研究	4	研究	4	研究
4	研究	3	研究	3	研究	3	研究
3	研究	2	研究	2	研究	2	研究
2	研究	1	研究	1	研究	1	研究

<sup>1</sup> Copyright © 2001-2016 横口耕一 <http://khc.sourceforge.net/>

- ② 「抽出語×文脈ベクトル」で、関連する語句(似たような使われ方をしている語句)どうしを確認し、以下のA～Jのように項目化する。

	A 抽出語	B 目的	C 方法	D グラフ	E 写真	F データ	G ポスター	H 内容	I 仮説	J レイアウト	K タイトル
1	目的(90)	2	0.3666667	0	0	0	0	0	0	0	0
2	動機(13)	1.3076923	0.0769231	0	0	0	0	0	0	0	0
3	明確(25)	1.12	0.48	0.06	0	0.08	0.04	0	0	0	0
5	不明(35)	0.7831933	0.1739496	0	0.1453782	0.11596639	0	0	0	0	0
6	結果(37)	0.7567568	0.0810811	0	0	0.02702703	0	0	0	0	0
7	流れ(12)	0.6666667	0.3333333	0	0	0	0	0.333333333	0	0	0
8	導く(6)	0.6666667	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	方法(57)	0.5892857	2.0357143	0.03571429	0	0.03571429	0	0	0	0	0
10	仮説(11)	0.5454545	0.1818182	0	0	0	0	0	0	0	0
11	不十分(5)	0.5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
12	書く(8)	0.5	0.75	0	0	0	0	0	0	0	0
13	不明瞭(8)	0.5	0.25	0.25	0	0	0	0	0	0	0
14	研究(32)	0.5	0.125	0	0	0.0625	0.0625	0	0	0	0
15	分かる(37)	0.4864865	0.0540541	0.10810811	0.1621622	0.05405405	0	0	0	0	0
16	項目(9)	0.4444444	0.2222222	0	0	0	0	0	0	0	0

※「目的」は、「動機」「明確」「不明」等の語句と同じ文脈で多く使われていることを示す。

A 目的・動機・テーマ  
B 考察  
C 方法・実験  
E グラフ・写真・図・表  
F データ・数値

G 結果・結論  
H 内容  
I 仮説  
J レイアウト・タイトル

- ③ 「文書×抽出語」機能を用い、付箋の文言にA～Gそれぞれの語句がどのように出てくるか実際に見てループリックの記述語として表現する。

	E	F	G	K	N
	目的	方法	テーマ	動機	
1	内容				
5	目的に応じた方法をとっている	1	1	0	0
9	目的と方法の間違が明確	1	1	0	0
10	目的・方法がわからやすい	1	1	0	0
11	目的・方法・結果が不明	1	1	0	0
12	目的・方法→結果などの手順で作成すべき	1	1	0	0
17	目的→結果 一目でわかる、明確な方法、流れがひどくわからやすい	1	1	0	0
18	目的・方法・結果が明確に示されている	1	1	0	0
19	目的・検証方法とも不明	1	1	0	0
20	説明がなく、結果・方法・目的が分からぬ	1	1	0	0
21	構成がいい、目的・方法・結果が明確	1	1	0	0
22	複数の目的・方法などの項目分けできていない	1	1	0	0
19	動機・目的が不明	1	0	0	1
20	動機と目的と結果をリンクしていない気がする	1	0	0	1
21	動機があり研究の目的が分かりやすい	1	0	0	1
22	動機・目的がないので入れる	1	0	0	1
23	動機・目的など分かりらない	1	0	0	1
24	研究目的・動機が不明	1	0	0	1
25	研究目的・動機が不明	1	0	0	1
26	研究目的・動機	1	0	0	1
27	目的の設定→この研究をして何に立てるのか?結果はうちがその先が見	1	0	0	0

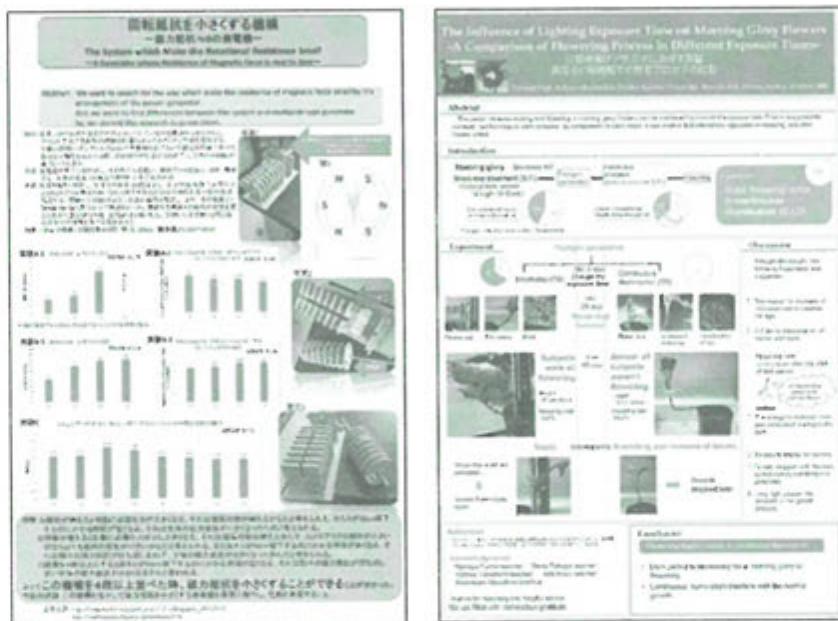
〈作成したループリック〉

	A	B	C
テーマ・目的・動機	身近な事物や自分自身の疑問から、独創的で興味深いテーマを設定している。「なぜ」「何がしたい」「何が知りたい」のかが明確である。	テーマ設定理由への言及はあるが、自身の強い動機に基づいているわけではない。「なぜ」「何がしたい」「何が知りたい」かが曖昧ではあるが書かれている。	目的や動機への言及がない。
(実験・観察)	目的に合わせた実験や観察を工夫して行い、流れや手順も明確にされている。実験の再現性が保障されている。	それなりに目的に合った実験や観察を行っているが、工夫の余地がある。流れや手順について不明確な部分がある。	必要だと思われる実験、観察が行われていない。
(データ)	十分な回数の観察や実験を行い、豊富で信頼できるデータが得られている。データは客観的に数値化されている。	複数回の実験や観察に基づくデータが得られている。	必要だと思われるデータがない。
(グラフ・表)	数値化されたデータが伝わるよう、グラフや表を載せている。項目や軸、単位などは明確にされ、誤解のないよう表現されている。	グラフや表でデータを表現しているが、項目や軸、単位など、わかりづらい部分や、誤解を生む部分がある。	データを表す際、必要だと思われるグラフや表がない。
考察	実験や観察の結果を科学的に掘り下げ、発展的で深い考察をしている。考察は、あいまいなところがなく、明確かつ詳細である。	考察らしきものはある、結論にもつながってはいるが、形式的なものにとどまっている。	考察がない。
説明	必要に応じて図や写真等を用いたり、内容ごとに区切って説明したりというように、手順や考察などをわかりやすく伝える工夫をしている。図や写真を使っている場合、何を表す図・写真なのかコメントが添えられている。	説明が足りない部分やわかりにくい部分はあるが、必要に応じて図や写真等を用いて、実験の手順や考察した内容などを説明している。	説明の工夫が感じられない。
結論	明確で簡潔な結論が書かれており、この結論がどのように役立つのか、この先何をしたいかという次のビジョンにつながっている。	研究の結論が書かれている。	結論がない。
一貫性	目的と方法、考察、結論が、互いに関連しつつ一貫性をもっている。	目的と結論にある程度の整合性はみられるが、全体として一貫性は弱い。	目的や方法、結論がすべてバラバラで、支離滅裂である。
レイアウト・表現	研究の流れや項目が明確で、短時間で研究の概要をつかめる。字や図表などの大きさが適切で、見る人の興味や疑問を触発する。	「目的」「結論」などの項目ごとに内容が書かれており、字の大きさや配置などに改善の余地はあるが、ある程度自然に読める。	字が細かい、項目がないなどで、見る気が起こらない。
タイトル	研究内容や着眼点が具体的に伝わり、見る人の興味をひくタイトルがつけられている。	研究内容や着眼点がある程度伝わるタイトルがつけられている。	単語や「～について」というもので、内容がつかめない。

※ カッコのついている項目は、研究分野によっては、必要でない場合もあるもの

#### 4. ループリックによる評価と分析

このループリックを用い、本年度の本校SSH生徒研究発表会において、SSH非担当者を中心とした14名の教員が、一人あたり8~9作品の生徒のポスターを評価した。次ページ(資料1、2)は、生徒のポスター30点それぞれの評価結果をまとめたものである。以下に考察を述べる。



全体の評価が高かったポスター



全体の評価が低かったポスター

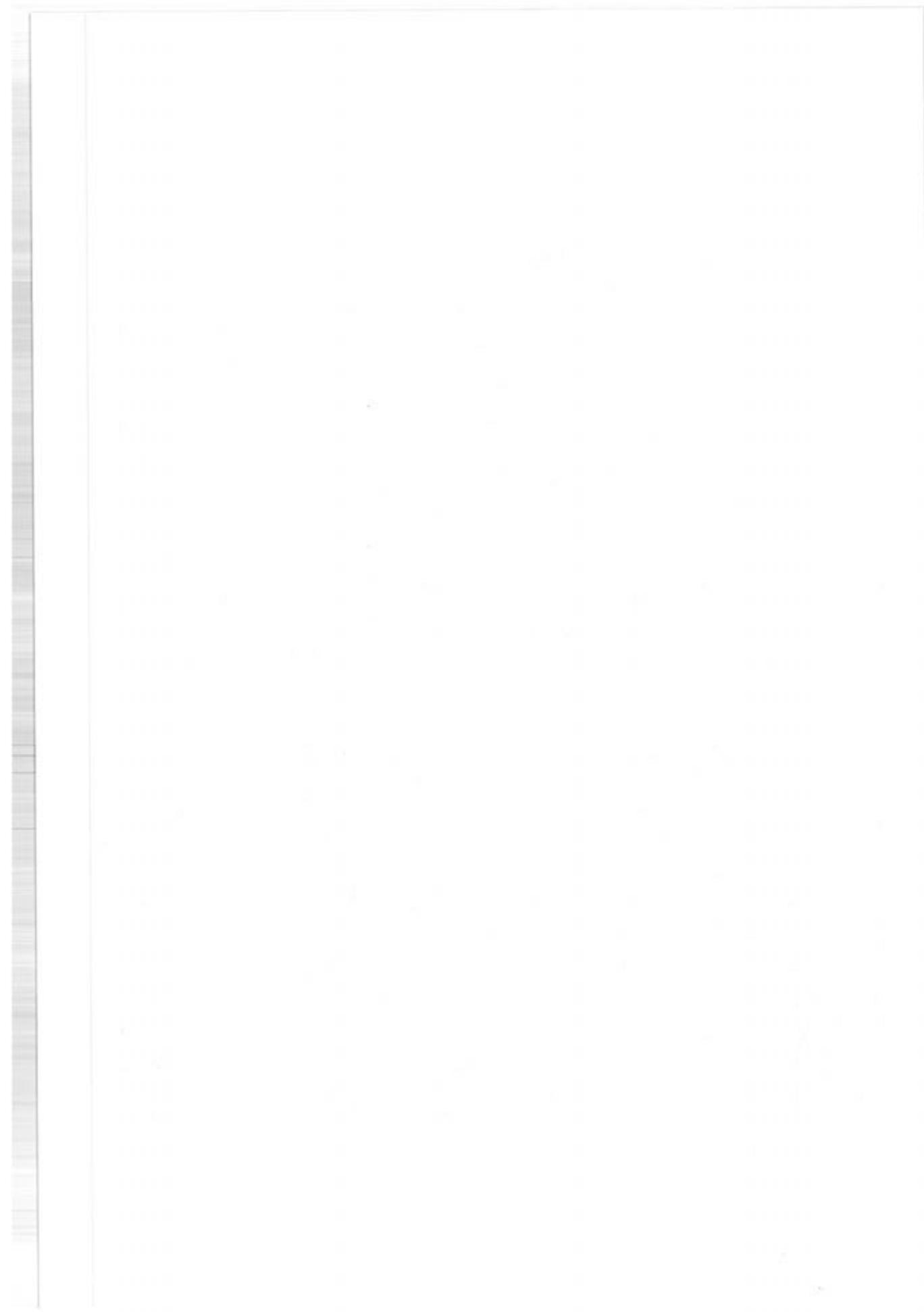


〈資料1〉

分野 ボスター 番号	数学					物理				地学			平均	
	1	2	3	4	5		25	26	27	28		29	30	
テーマ	2.50	2.50	2.00	2.00	1.33	2.07	2.00	3.00	2.00	3.00	2.54	2.00	2.00	2.00 2.21
実験	2.50	3.00	2.00	2.00	2.00	2.30	2.25	2.75	2.33	2.75	2.46	1.67	2.50	2.08 2.41
データ	2.50		2.00		2.00	2.17	2.50	2.00	2.33	2.50	2.19	2.00	2.50	2.25 2.15
グラフ			2.00		2.00	2.00	2.33	1.67	2.33	2.25	2.20	1.00	2.00	1.50 2.15
考察	2.50	2.00	2.00	2.00	1.67	2.03	2.25	2.25	2.33	2.50	2.31	2.33	2.00	2.17 2.17
説明	2.50	2.50	2.00	1.00	1.67	1.93	2.25	2.75	2.33	2.33	2.44	2.33	3.00	2.67 2.31
結論	2.00	1.50	2.00	2.50	1.67	1.93	1.75	2.50	2.33	2.25	2.24	2.00	2.00	2.00 2.09
一貫性	2.50	2.00	2.00	2.50	1.67	2.13	2.25	2.75	2.33	2.75	2.40	2.00	2.50	2.25 2.33
レイアウト	2.50	2.50	2.00	2.00	1.33	2.07	2.25	2.75	2.33	2.25	2.42	2.00	3.00	2.50 2.35
タイトル	2.00	2.00	2.50	1.50	2.00	2.00	2.25	2.75	2.33	2.75	2.40	2.67	1.50	2.08 2.28
平均	2.39	2.25	2.05	1.94	1.73	2.07	2.21	2.52	2.30	2.53	2.36	2.00	2.30	2.15 2.24

〈資料2〉

	1	7	8	9	10	13	22	23	24	25	26	30	1年のみ(B)	A-B
テーマ	2.50	2.50	2.00	2.25	2.25	2.00	2.40	2.75	2.75	2.00	3.00	2.00	2.165	0.117
実験	2.50	2.25	2.25	2.50	2.75	2.75	2.60	2.25	2.75	2.25	2.75	2.50	2.425	-0.048
データ	2.50	2.00	1.75	2.00	2.75	2.50	2.20	1.75	2.25	2.50	2.00	2.50	2.085	0.163
グラフ		2.67	2.00	2.67	2.75	2.50	2.75	1.75	3.00	2.33	1.67	2.00	2.114	0.093
考察	2.50	2.00	2.00	2.50	2.50	2.50	2.20	2.25	2.50	2.25	2.25	2.00	2.094	0.212
説明	2.50	2.25	2.00	2.50	2.25	2.25	2.40	2.50	2.75	2.25	2.75	3.00	2.312	-0.008
結論	2.00	1.75	2.00	2.00	2.75	2.25	2.60	2.00	2.50	1.75	2.50	2.00	2.073	0.048
一貫性	2.50	2.25	2.50	2.50	2.50	2.25	2.40	2.25	2.25	2.25	2.75	2.50	2.297	0.083
レイアウト	2.50	2.25	2.25	2.50	2.75	2.25	2.60	2.50	2.50	2.25	2.75	3.00	2.356	-0.021
タイトル	2.00	2.75	2.00	2.00	2.75	2.50	2.60	2.25	2.25	2.25	2.75	1.50	2.214	0.181
項目平均	2.39	2.27	2.08	2.34	2.60	2.38	2.48	2.23	2.55	2.21	2.52	2.30	2.213	0.084



#### ・評価の結果から

まず、〈資料1〉からは、全体の傾向がわかる。本校の生徒が比較的達成できているのは「実験」「一貫性」「レイアウト」の項目である。「実験」は前年度の評価で低かった項目だが、今年度のオリエンテーションで毎回の活動の自己評価項目として挙げるなど、前年度の結果を受けた指導により向上した部分もあると考えられる。また、「レイアウト」はここ数年で安定的に力がついてきた項目である。今後は、レイアウトを意識しながらより内容を深めていく指導が必要である。

一方、比較的達成できていない項目として、「データ」「グラフ」「結論」が挙げられる。これは、研究班の中で、2年生が所属し主導している班(以下「2年生を含む班」と1年生のみで研究を進めている班(以下「1年生の班」)があり、特に今年度は後者が多くなっていることがその原因だと考えられる。つまり、研究に費やした時間が少ないと加え、例えば仮説に基づいてデータを集めなどの研究手法が未修得であるからだろう。実際、〈資料2〉で2年生を含む班と1年生の班の比較をしてみると、「データ」「グラフ」の二者の評価に大きな違いがあることがわかる。

さらに、〈資料2〉に基づいて、2年生を含む班と1年生の班を比較する。全体的に2年生を含む班が高い評価となっており、全ての項目の平均をみると、1年生の班をおよそ0.084点上回っている。また、「テーマ」「データ」「考察」「タイトル」については0.1点を超える差が出ており、これも2年生を含む班の評価がやや高い。一方、「実験」「説明」「レイアウト」については1年生の班が2年生を含む班を上回っている項目である。いずれも小さな差だが、1年生の班において教員が直接指導を行っていることと関係がある可能性がある。

次に、〈資料1〉に戻り、分野別の特徴を簡単に確認したい。数学に関しては「データ」「グラフ」など、他の分野の研究と同じ観点で評価できない部分があることに加え、「説明」「結論」「タイトル」の評価が低めである。今回の評価はSSH非担当者を中心として行ったため、専門的な視点で評価できなかったことが関係しているのだろう。また、物理・化学・生物に関してはいずれも「実験」、地学では「説明」の評価が高い。同じ「理科系の研究」だとしても、それぞれの分野で必要な観点が異なる場合、共通のループリックで何を評価すべきなのかということは、次年度以降への課題である。

#### ・生徒の反応

今回の評価について、生徒には〈作成したループリック〉で示した表と、それぞれの数値(点数)をフィードバックした。以下に、生徒によるループリック評価の感想をいくつか挙げる。

- ① 「グラフ・表」「結論」が少し他に比べ低い。「グラフ・表」は見なおしてみるとグラフが重なっており、注釈などが多く誤解を生む点が多かった。「結論」は今後の展望がなかったのがいけなかったように思える。
- ② 全体的によい評価をもらえたような気がする。ただ研究動機の項目の表記がうすかつたような気がするので、来年はしっかりと、テーマと目的、研究動機にまとまりがあるようにしたい。
- ③ 「より良いカイロ」というテーマ・目標が曖昧だと思っていたのに、高評価で

よかったです。ただし、再現性を確保するほど実験回数（同実験において）を行えなかつたので、データに正確さがなかつた。

- ④ 研究の一貫性については高評価だったが、目的やテーマがはっきりしていないとのこと。確かに途中から当初のテーマを忘れてやみくもに研究している節があつたので、次からはテーマに沿つた研究をするようにしたい。
- ⑤ データの信頼性について、まだ豊富な量であるとはいせず、客観的な数値にできていないという評価を受けた。発芽率を改善してさらに多くのデータ取得につなげたり、品種を統一したりするといった方法で信頼度の向上につなげたい。

いずれの感想においても、生徒がループリックの文言を強く意識して研究活動の振り返りをしていることがわかる。たとえば学校全体など、おおぜいの生徒を課題研究に取り組ませるとき、ひとつひとつのグループにじゅうぶん時間がかけられない現状は、本校のみならずどの現場でも共通していることだろうが、その中で最低限の観点を示し、どこを改善すればよりよくなるのかを示せるループリックの有用性を実感した。

#### ・ 評価者の反応

次に、今回評価に参加した教員の反応を述べる。まず、「非常に評価しやすかった」を4、「非常に評価しにくかった」を1として、ループリックでの「評価のしやすさ」を答えてもらったところ、14名の教員の平均が3.2という結果になった。ループリックによる評価には、ある程度の「やりやすさ」があるといえる。

また、ポスターを評価した感想として、以下のようなものがあった。

- ① 評価基準が言葉で書いてあるので、評価はしやすかったが、評価基準の言葉が何を示しているのかを理解するまでに時間がかかった。
- ② 三段階だと、迷ったときに真ん中の評価にしてしまう。
- ③ 一人あたりが評価するポスターが8～9枚というのは多い。もう少し減らしたほうがじっくりと評価できる。
- ④ ポスターそのものだけでなく、生徒との質疑の内容が、評価に入ってしまう気がする。
- ⑤ 数学や物理などはわからない。専門の教員が評価したほうがよいのではないか。
- ⑥ (評価者として参加したため) ふだんとは違う生徒の面が見られて有意義だった。
- ⑦ 担当外の内容については、全く分からず、評価しにくかった (SSHの活動を担当している教員のコメント)。

次の課題となりそうな内容として、①から、記述語が何を示すのかがわかりにくい(つかみづらい)こと、④から、「ポスター」と「ポスター発表」では見とることのできる力が異なるということ、そして、⑤⑦から、専門外の教員が評価できる範囲には限界があるということが挙げられる。

## 5. 成果と課題・展望

まず、成果を挙げる。

生徒研究発表会でのポスター評価として、昨年度と大きく異なるのは、①SSH校の教員60名のコメント、529件を記述語に反映させたループリックを用いたこと、②評価の結果を生徒にフィードバックしたこと が挙げられる。このうち①については、多くの教員の評価の観点をふまえた、より偏りのない、妥当だと思われるループリックで生徒のポスターを評価できたことが成果だろう。また、②については、コメントからもわかるように、生徒が、次の活動がよりよくなるように評価を生かそうとしていることが伺える。評価によって次の学びを支援する「形成的評価」として、ループリックが有用であることがわかる。

一方で、「とにかく実践してみよう」という昨年度とは異なり、課題も見つかった。

まず、上記①について、「SSH校60名の評価=本校の評価」としてよいのか、という問題がある。当然ながら、60名の教員がポスターを評価する際の観点は異なる。たとえば大きく「教科型の目標」と「特活型の目標」がある<sup>2</sup>ように、漠然と「よりよくする」ための評価ではなく、育てたい生徒の姿に応じた評価をさらに追求する必要がある。

また、教員のコメントにもあった「記述語が何を示すのかわかりにくい」ことについて、今回的方法では、評価者に対して、使用するループリックはどのようなものか、それぞれの記述語がどのような姿を指すのかというようなことについて十分な説明ができないまま、生徒研究発表会当日を迎ってしまったことが大きな反省点である。また、ループリックだけを見て評価を行うことの難しさもわかった。

これらの課題をふまえた今後の展望として、まず、①本校の課題研究全体の（ひいては本校の教育全体の）目的やビジョンについて、全教員で共有する機会となるべく早くもつこと、そして、②他校教員や研究者、SSH非担当者を含む多くの評価参加者の意見を取り入れながら、最終的には本校の課題研究の目的やビジョンに応じて、実際に評価する者が何らかの形でループリックの作成に関与すること、さらに、③専門の教員と、専門外の教員が評価する部分を分けること、が挙げられる。

## 6. おわりに

今回の実践は、「とにかく実践」した昨年度に比べ、多少ではあるが計画的・組織的に行うことができた。また、二回にわたる「課題研究評価研究会」と関連し、評価についての専門的知見や課題研究の意義についての議論などをふまえ、課題研究やその評価について、俯瞰的な視点からみることができた。そして、だからこそ5.で挙げたような、昨年度よりも具体的な課題が発見でき、展望を描くことができたのだと考えている。

このような教育実践においては、おそらく実践して振り返る、ところまでは多くの組織が行っているだろう。しかし、本当に難しいのは、実践して振り返った内容を受けて自身や組織を変化させ、次の実践がよりよいものになるようにすることだ。特に今回の展望である、

<sup>2</sup> 平成28年1月30日 「第二回課題研究評価研究会」における、大貫守氏のご発言より。

- ① 本校の課題研究（教育）全体の目的やビジョンの共有
  - ② 多くの評価参加者の意見を取り入れながら、実際に評価する者が何らかの形で関与したループリックの作成
  - ③ 専門の教員と、専門外の教員が評価する部分の区別
- の、①②については、一朝一夕でできることではないし、教員の入れ替わりや時間のなさなど、実現に向けて多くの制約がある。SSH推進委員会を中心に次年度必ず、とは断言しきれないが、何らかの形で前に進み、次年度、よりよいSSHの実践や評価ができればと考えている。

さらに、昨年度挙げた「展望」、

- ① 課題研究全般についてのループリック作成
- ② 生徒の自己改善・自己評価のしくみづくり
- ③ 「生徒」「高校教員」「研究者」の視点の比較
- ④ 効果の測定
- ⑤ 他校への普及

についても、継続した実践を行っていきたい。

本年度の実践についても、本学科学教育センター特任准教授、仲矢 史雄 先生には多大なご支援とご助言をいただきました。深く感謝いたします。

#### 参考文献

- ・田中耕治「新しい『評価のあり方』を拓く——『目標に準拠した評価』のこれまでとこれから」第二版 2013年 日本標準
- ・G. ウィギンズ／J. マクタイ著 西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』p.138 2012年 日本標準
- ・西岡加名恵・石井英真・田中耕治編『新しい教育評価入門——人を育てる評価のために』p. 146 2015年 有斐閣

## Making the rubric of the task-orientated research [ 2 ]

SSH Promotion Committee

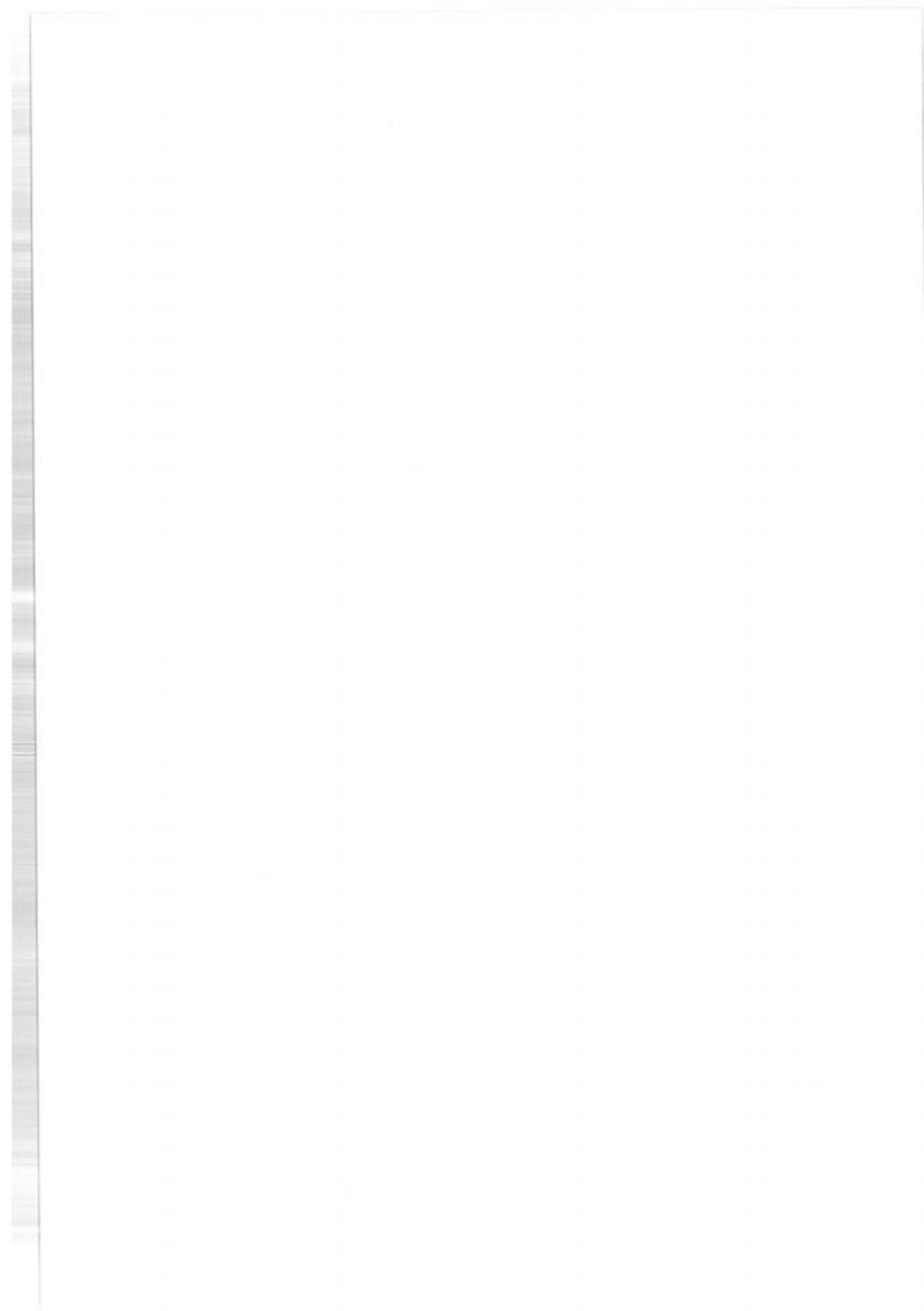
KAWATA Ryoko MORINAKA Toshiyuki MIYAGAWA Yasushi

KOHYAMA Kazumi IWASE Ken-ichi NUKANO Jun-ichi

OKAMOTO Yoshio

In the SSH Promotion Committee, we focus on the rubric of the task-orientated research that our school has always viewed as important as a superior method of teaching and assessing. This year, we evaluated students' posters using the rubric, which make by 60 teachers' assessing view and feedback for students.

**Key Words:** teaching and assessing, rubric, performance measurement, task-orientated research, teachers' training



平成27年度 教科・個人研究テーマ一覧表

国語科	「読み」の力を育てる授業		
藤田 勝如	国語科でのPBL型授業について	糠野 順一 西田 哲也 森中 敏行 山中智香子 保健体育科 河野 成伸 武井 浩平 奥野鮎太郎 鎌田 剛史 山本 茜	自然現象の理解と表現からの科学的思考力育成 新しい化学実験教材の開発 (実施における評価基準の工夫も含む) 生物分野での科学的思考力の育成とその検証 4観点別評価を意識した授業展開の工夫
松尾 澄英	グループを活かした文学の授業		
山田 章子	ICTを使った教材作成		
浅野 緑子	中世和歌の理解と鑑賞		
河田 良子	ループリック評価を取り入れた表現指導		思考力・判断力・表現力を育む体育活動
田中 寛子	古典歌謡の表現とその世界への誘い		各種目における段階的な指導の工夫 体育授業におけるインクルーシブ教育の試み
宮川 康	大阪近代文学の教材化		ゲームパフォーマンスにおける評価方法の研究
社会科	社会科におけるリテラシー教育の探求		
井原 武人	互いの表現力を高めあう授業実践	音楽科 今出 望 美術科 鰐 晴子 英語科	ネット型スポーツの授業について
西本 周平	ICTを用いた授業形式の効率と課題		体育授業におけるグループ学習の有用性
山根 史孝	資料をもとに思考する授業実践—ICTを活用して—		発達段階をふまえた表現教育
生川 年雄	近現代史における歴史認識と資料の活用		感性を高め、豊かな表現力に繋げる授業
浦崎 裕太	歴史的背景を意識した地理の授業		主体的な表現・鑑賞活動をめざす
甲山 和美	「公正」「正義」に迫る公民科の授業		小中連携を取り入れた授業実践
笹川 裕史	日本を視野に入れた世界史の展開		音声を核にして四領域を統合した活動をめざす授業
数学科	活用力を育てる授業		
前木 聰	ポリキューブによる直感力の育成	奥田 裕香 篠崎 文哉 浅田 英美 飯尾 力 後藤 久也 日根野敬也 山岡 直貴	英語パフォーマンステスト、時間を意識した活動を効果的に組み入れた授業
三輪 誠	日常生活における数学の教材化		中学3年生で場面シラバスを用いることの効果と意義
吉村 昇	結び目の教材化		読解を深め、同時に表現力を涵養する発問の研究
岩瀬 謙一	結び目の数学教育について		構文を中心とした表現力の育成
大石 明徳	生徒たちは“無限”をどう捉えているか		英文法の確かな理解・定着と、その運用との統合
河野 太	線形代数へのアプローチ		内容理解(インプット)から表現(アウトプット)へ
武本 誠也	定義と理論を意識した解法の研究		Retelling活動を通じたモチベーションUPの工夫
徳永 卓朗	演習の授業の作り方	技術・家庭科	新・学習指導要領に即した授業開発2年次
理科	授業等に対する評価の工夫		
印南 航	校外学習を利用した授業の考察	浅田 儀博 古川 ルミ	環境問題を意識した「エネルギー変換に関する技術」内容授業モデルの検証
廣瀬 明浩	自己修復のできる言語活動の模索		家庭科における言語活動の充実を図った授業モデルの開発
井村 有里	課題研究成果発表ポスターに対する評価基準の検討	養護科	中高一貫における生徒の健康意識
岡本 義雄	英語で地学の授業を行う試み(その2)	尾崎可奈子 中西 真美	生徒の自己実現を支援する健康相談活動

## 第6回教育研究会について

開催日：平成27年11月7日（土）

参会者：237名

全体テーマ：学びの自立を目指す評価の工夫と改善

発表教科の概要：

### ・国語科「教室で読む文学」

授業Ⅰ 中1 読み手としての「私」をつくる——〈深く読む〉に向かって——

松尾 澄英

授業Ⅱ 高1 「本質的な問い」にせまる——〈深く読む〉のメタ化——

河田 良子

指導講師 大阪教育大学教授

住田 勝 先生

司 会 大阪府立今宮高等学校教諭

小山 秀樹 先生

### ・社会科「評価の可視化を目指した授業」

授業Ⅰ 中3 日本の司法制度における課題を考える

井原 武人

授業Ⅱ 高1 政治的リテラシーを育む授業——争点を知る——

甲山 和美

指導講師 大阪教育大学教授

手取 義弘 先生

司 会 本校教諭

笹川 裕史

### ・数学科「数学的な活動を引き出す新しい教材の研究」

授業Ⅰ 中1 結び目の数学の教材化～手をつなぐことからの導入～

岩瀬 謙一

授業Ⅱ 中3 結び目の数学の教材化～3彩色可能性を題材に～

吉村 昇

指導講師 大阪教育大学教授

瀬尾 祐貴 先生

前神戸親和女子大学教授

本間 俊宏 先生

司 会 本校教諭

三輪 誠

・理科「自立的な科学的思考力の育成とその評価」

授業 I 高III選択 脱水素酵素実験を教材に科学的思考力を育成する

森中 敏行

授業 II ワークショップ 制限酵素による DNA 切断と電気泳動実験およびその分析

森中 敏行

指導講師 大阪教育大学教授

川村三志夫 先生

司 会 本校教諭

岡本 義雄

全体講演：「パフォーマンス評価の考え方と進め方——学びの自立を目指して——」

京都大学大学院教育学研究科・准教授

西岡加名恵 先生

## 研究集録 第58集

平成28年3月 18 日印刷

平成28年3月 20 日発行

大阪市天王寺区南河堀町4-88

編集発行者 大阪教育大学附属天王寺中学校

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

代表者 赤 松 喜 久

印刷・製本 株式会社 ヤシキ